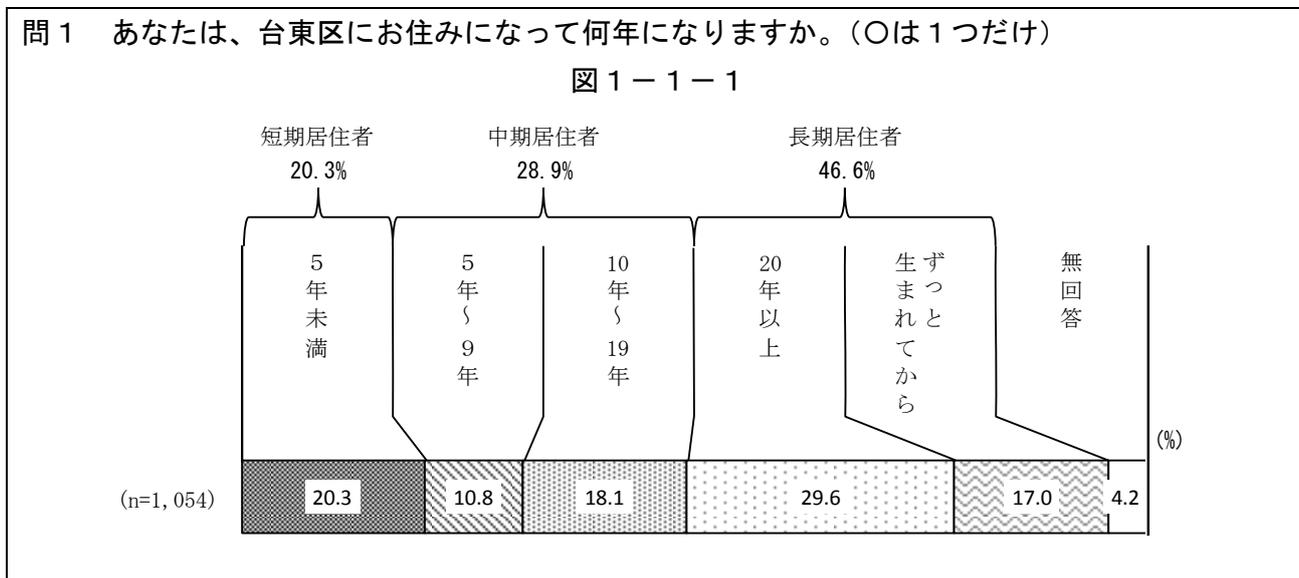


Ⅲ 調査結果の分析

1. 定住性

1-1 居住年数

『長期居住者』が5割近く

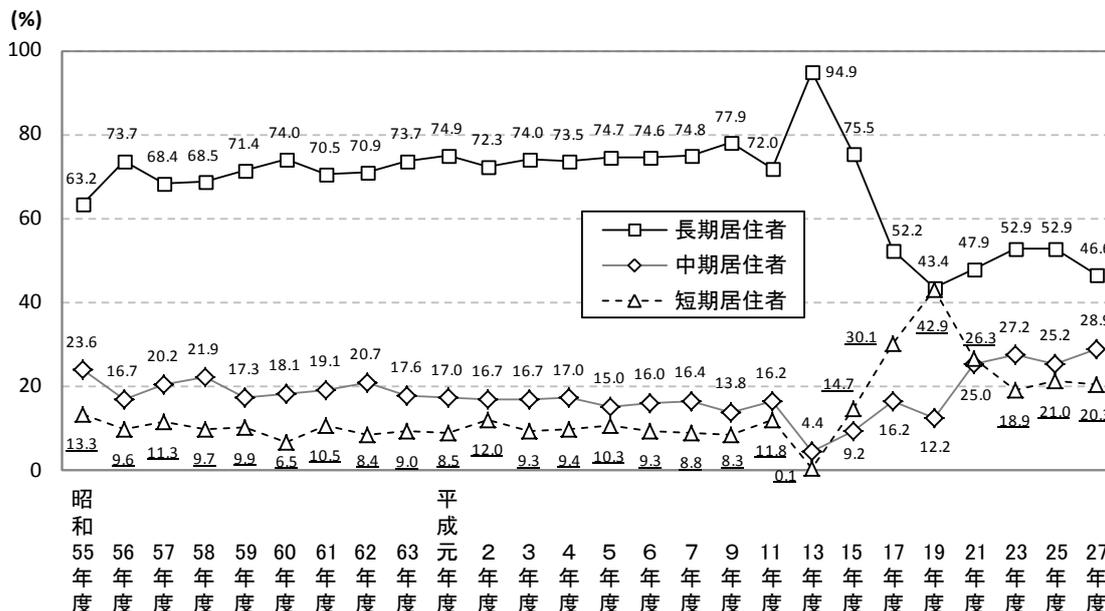


居住年数は、「20年以上」(29.6%)が3割で最も多く、「生まれてからずっと」(17.0%)を合わせた『長期居住者』(46.6%)が5割近くとなっている。また、「5年～9年」(10.8%)と「10年～19年」(18.1%)を合わせた『中期居住者』(28.9%)が3割近く、「5年未満」の『短期居住者』(20.3%)が2割となっている。(図1-1-1)

居住年数の推移をみると、『長期居住者』は平成13年度から平成19年度にかけて大きく減少していたが、平成21年度以降、5割前後で推移している。また、『中期居住者』は平成21年度以降、2割半ばから3割近く、『短期居住者』は平成23年度以降、2割前後で推移している。

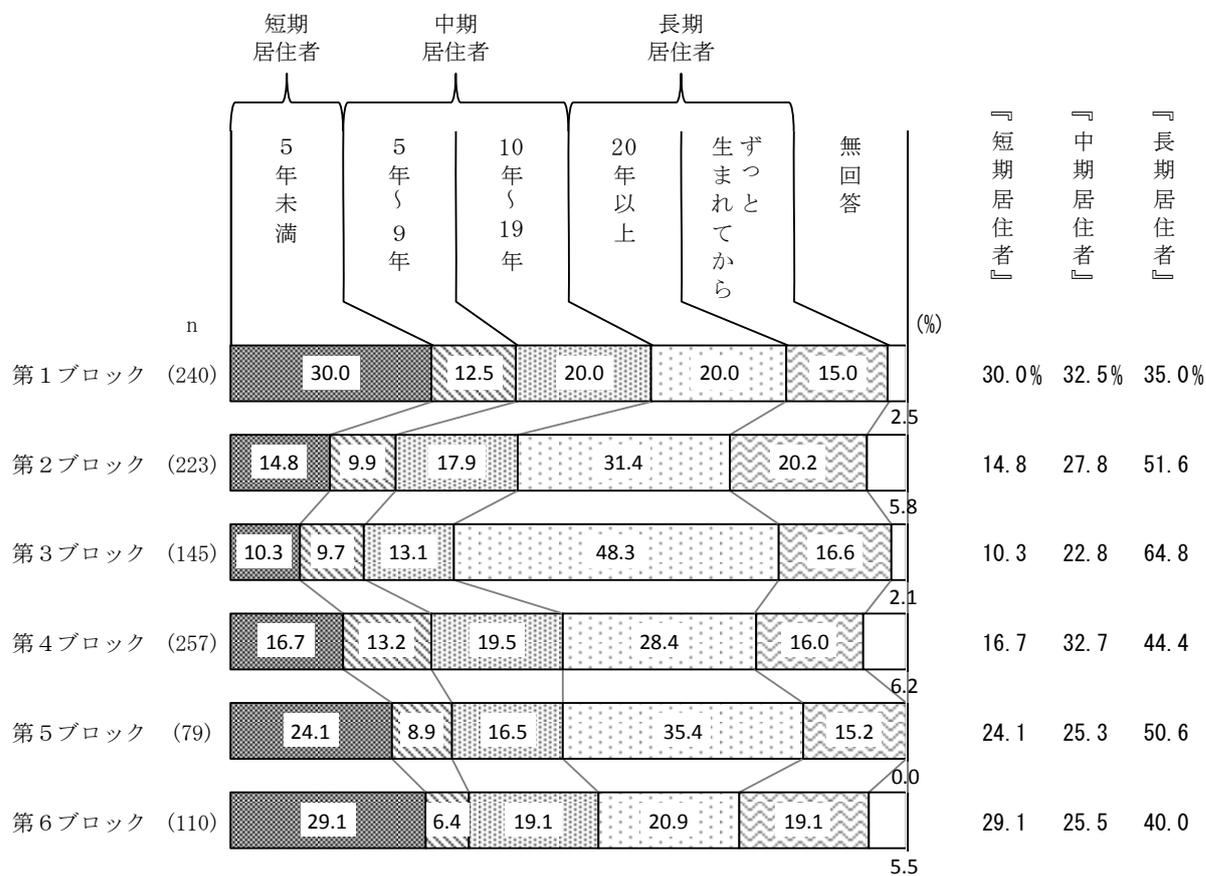
(図1-1-2)

図1-1-2 居住年数-推移



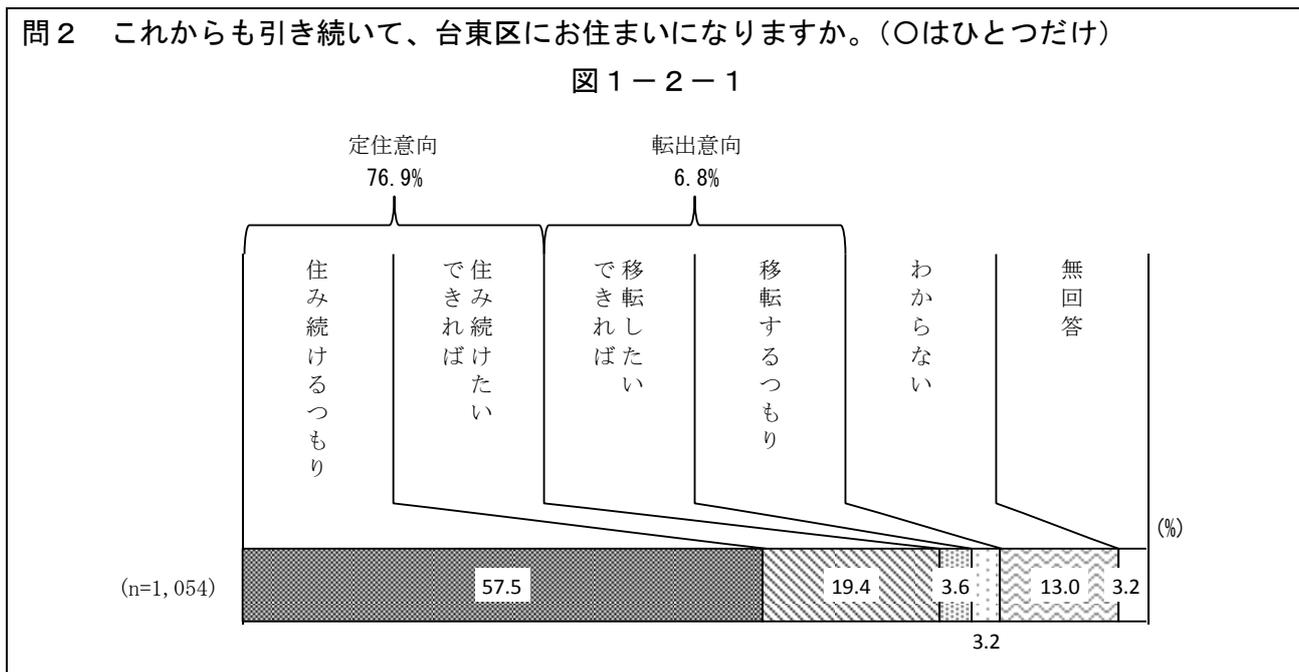
地区別でみると、『長期居住者』は第3ブロック（64.8%）で6割半ばと最も多く、第2ブロック（51.6%）、第5ブロック（50.6%）でも5割を超えている。『中期居住者』は第1ブロック（32.5%）、第4ブロック（32.7%）で3割を超えている。『短期居住者』は第1ブロック（30.0%）で3割、第6ブロック（29.1%）でほぼ3割となっている。（図1-1-3）

図1-1-3 居住年数一地区別



1-2 定住・転出意向

『定住意向』が8割近く

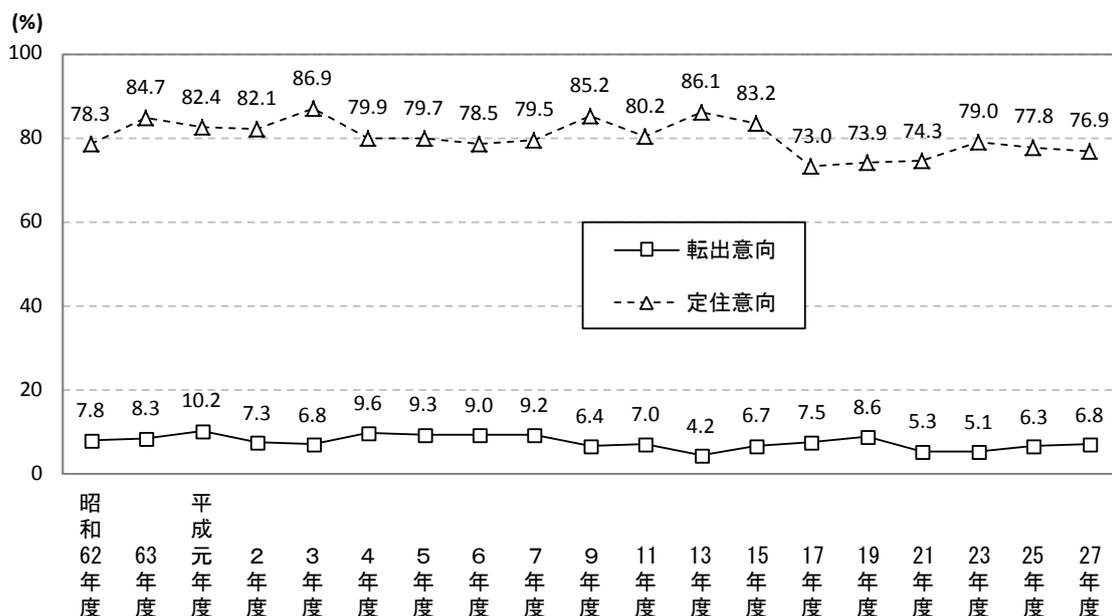


定住・転出意向は、「住み続けるつもり」(57.5%)が6割近くで最も多く、次いで「できれば住み続けたい」(19.4%)がほぼ2割で、両者を合わせた『定住意向』(76.9%)は8割近くとなっている。一方、「できれば移転したい」(3.6%)と「移転するつもり」(3.2%)を合わせた『転出意向』は6.8%である。(図1-2-1)

定住・転出意向の推移をみると、『定住意向』は平成23年度以降わずかに減少傾向にあり、今回調査では平成25年度より0.9ポイント低くなっている。一方、『転出意向』は平成23年度以降わずかに増加傾向となり、今回調査では平成25年度から0.5ポイント高くなっている。

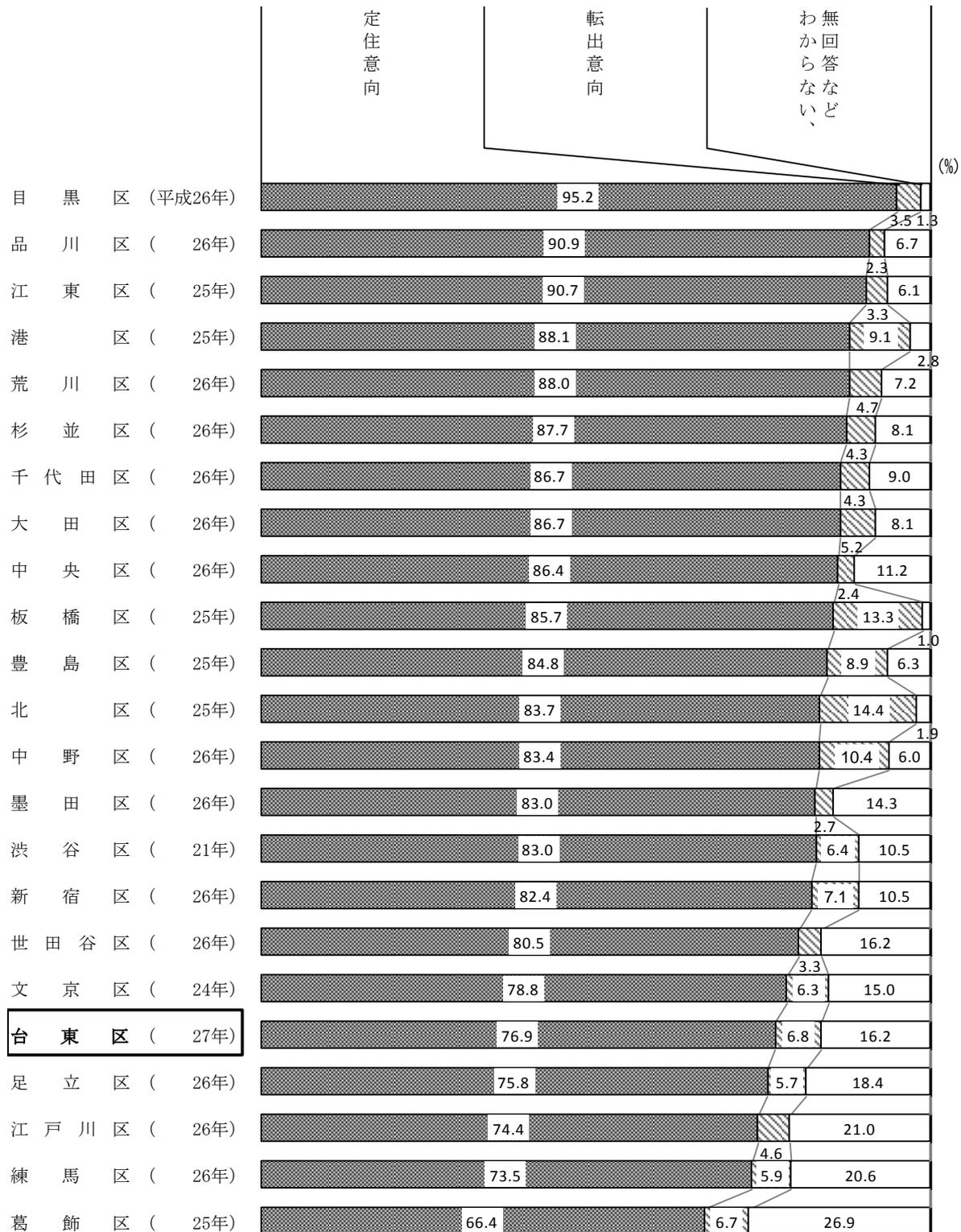
(図1-2-2)

図1-2-2 定住・転出意向—推移



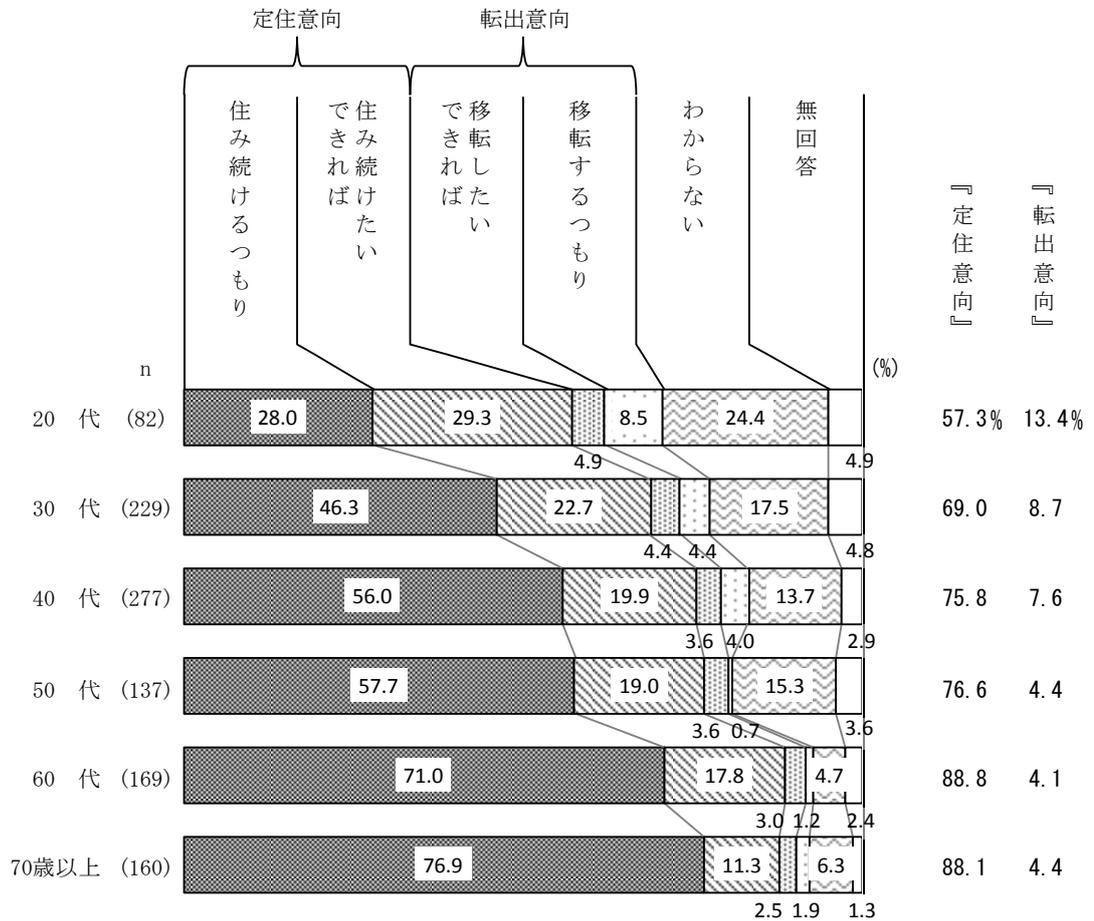
定住・転出意向を他区と比較すると、各区の選択肢が異なっているため単純に比較はできないが、台東区の『定住意向』(76.9%)は東京都の23区の中で第19位となっている。一方、『転出意向』(6.8%)の低さでは東京都の23区の中で第17位となっている。(図1-2-3)

図1-2-3 定住・転出意向—他区との比較



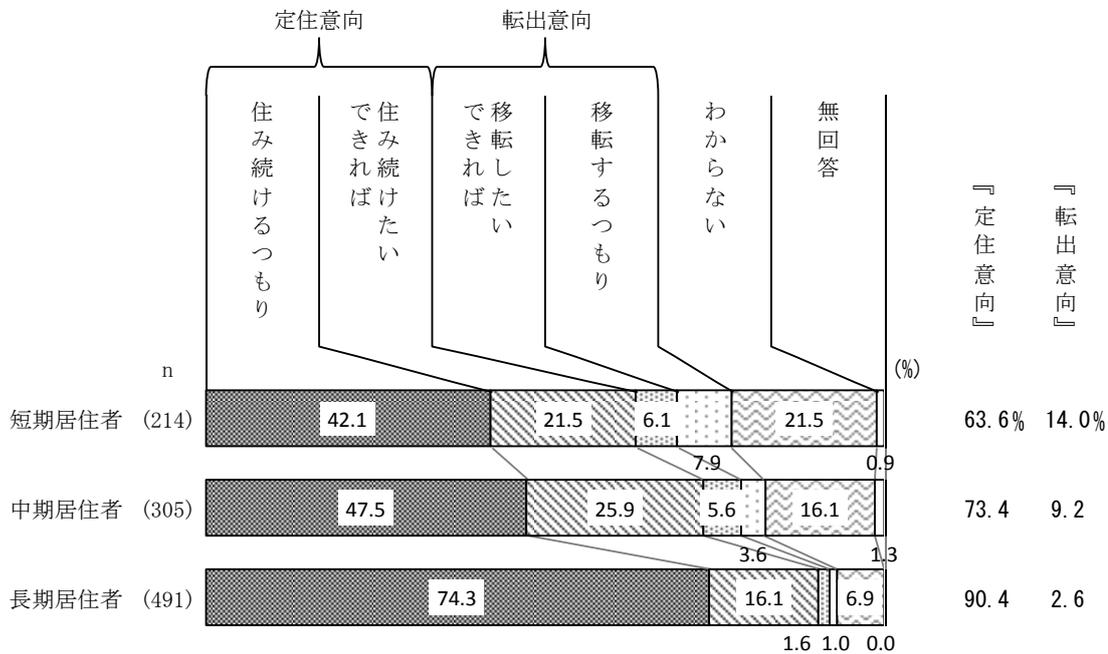
年代別で見ると、『定住意向』は高い年代になるにつれて多くなる傾向があり、20代（57.3%）では6割近くであるが、60代以上では9割近くとなっている。また、この傾向は「住み続けるつもり」ではさらに顕著であり、20代（28.0%）と70歳以上（76.9%）では約50ポイントの差となっている。（図1-2-4）

図1-2-4 定住・転出意向一年代別



居住年数別でみると、『定住意向』は居住年数が長くなるにつれて多くなる傾向があり、短期居住者（63.6%）では6割を超える程度であるが、長期居住者（90.4%）では9割となっており、両者の差は約27ポイントとなっている。（図1-2-5）

図1-2-5 定住・転出意向—居住年数別

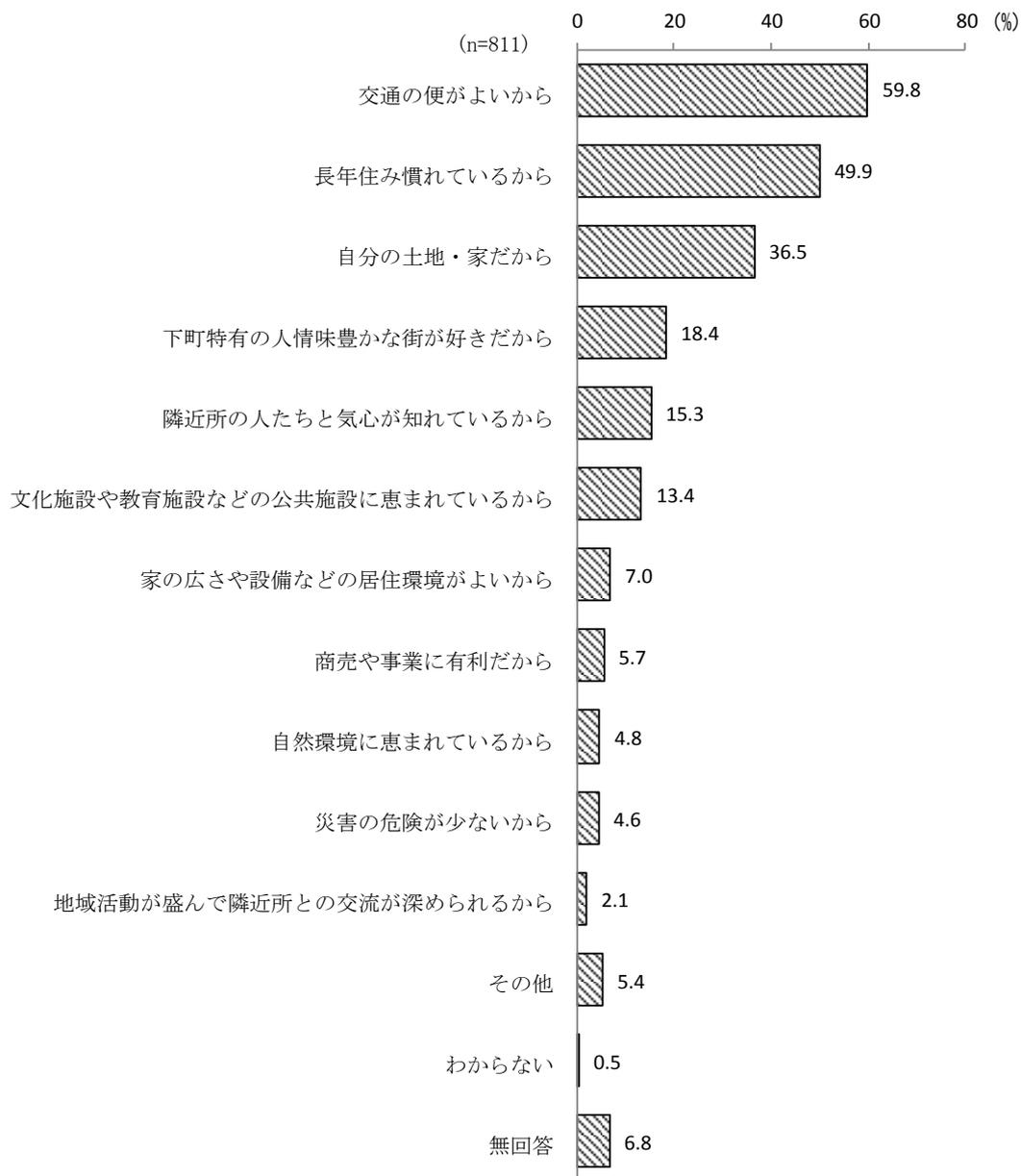


1-3 定住意向理由

「交通の便がよいから」が6割

(問2で「1. 住み続けるつもり」または「2. できれば住み続けたい」とお答えの方に)
問2-1 住み続けたい主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

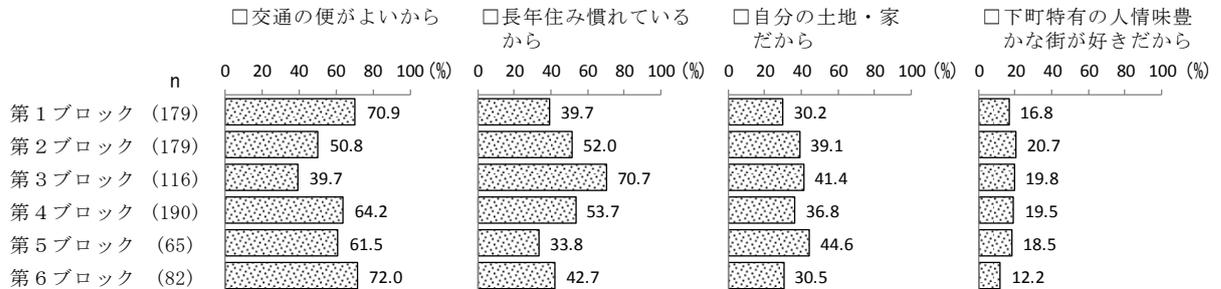
図1-3-1



定住意向のある人に、その理由を聞いたところ、「交通の便がよいから」(59.8%)が6割と最も多く、次いで「長年住み慣れているから」(49.9%)、「自分の土地・家だから」(36.5%)、「下町特有の人情味豊かな街が好きだから」(18.4%)、「隣近所の人たちと気心が知れているから」(15.3%)となっている。(図1-3-1)

地区別でみると、「交通の便がよいから」は第6ブロック（72.0%）で7割を超え、第1ブロック（70.9%）ではほぼ7割と他の地区と比べて多くなっている。また、「長年住み慣れているから」は第3ブロック（70.7%）ではほぼ7割と他の地区と比べて多くなっている。「自分の土地・家だから」は第5ブロック（44.6%）が4割半ばと他の地区と比べて多くなっている。（図1-3-2）

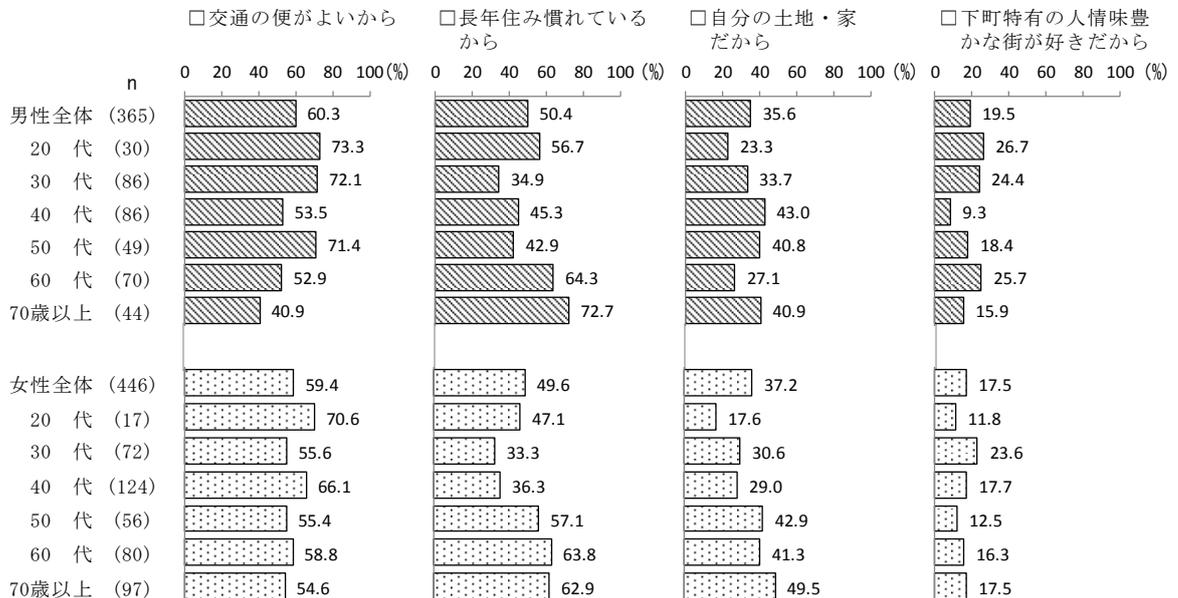
図1-3-2 定住意向理由—地区別（上位4位）



性別でみると、上位4位まででは特に男女差は見られない。

性・年代別でみると、「交通の便がよいから」は男性20代（73.3%）、男性30代（72.1%）、男性50代（71.4%）と女性20代（70.6%）が7割以上と多くなっている。「長年住み慣れているから」は男性70歳以上（72.7%）で7割を超え多くなっている。（図1-3-3）

図1-3-3 定住意向理由—性別、性・年代別（上位4位）



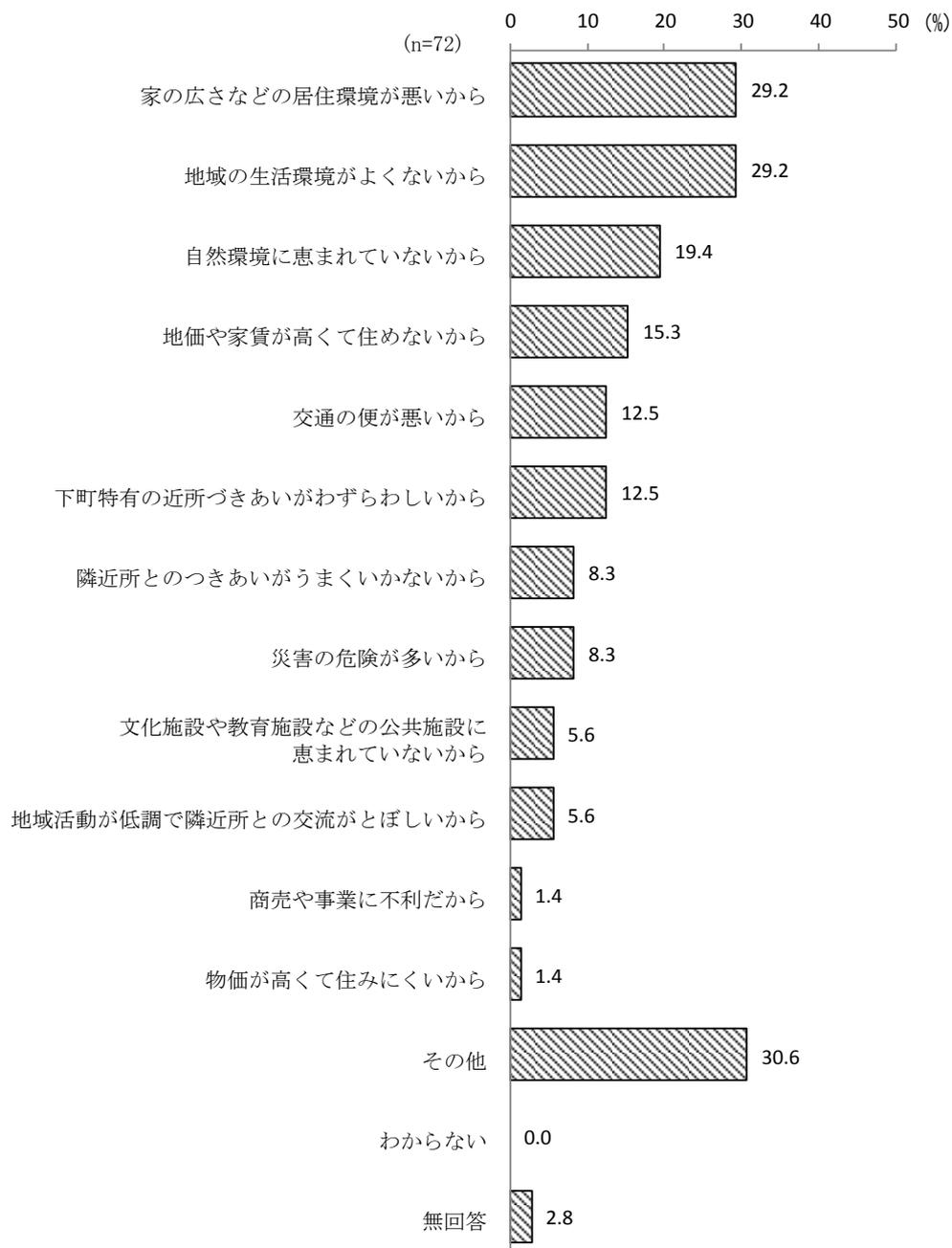
1-4 転出意向理由

「家の広さなどの居住環境が悪いから」、「地域の生活環境がよくないから」がほぼ3割

(問2で「3. できれば移転したい」または「4. 移転するつもり」とお答えの方に)

問2-2 移転したい主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図1-4-1



転出意向のある人に、その理由を聞いたところ、「家の広さなどの居住環境が悪いから」(29.2%)、「地域の生活環境がよくないから」(29.2%)がほぼ3割で最も多く、次いで「自然環境に恵まれていないから」(19.4%)、「地価や家賃が高くて住めないから」(15.3%)となっている。

(図1-4-1)

1-5 住み続ける上での改善点

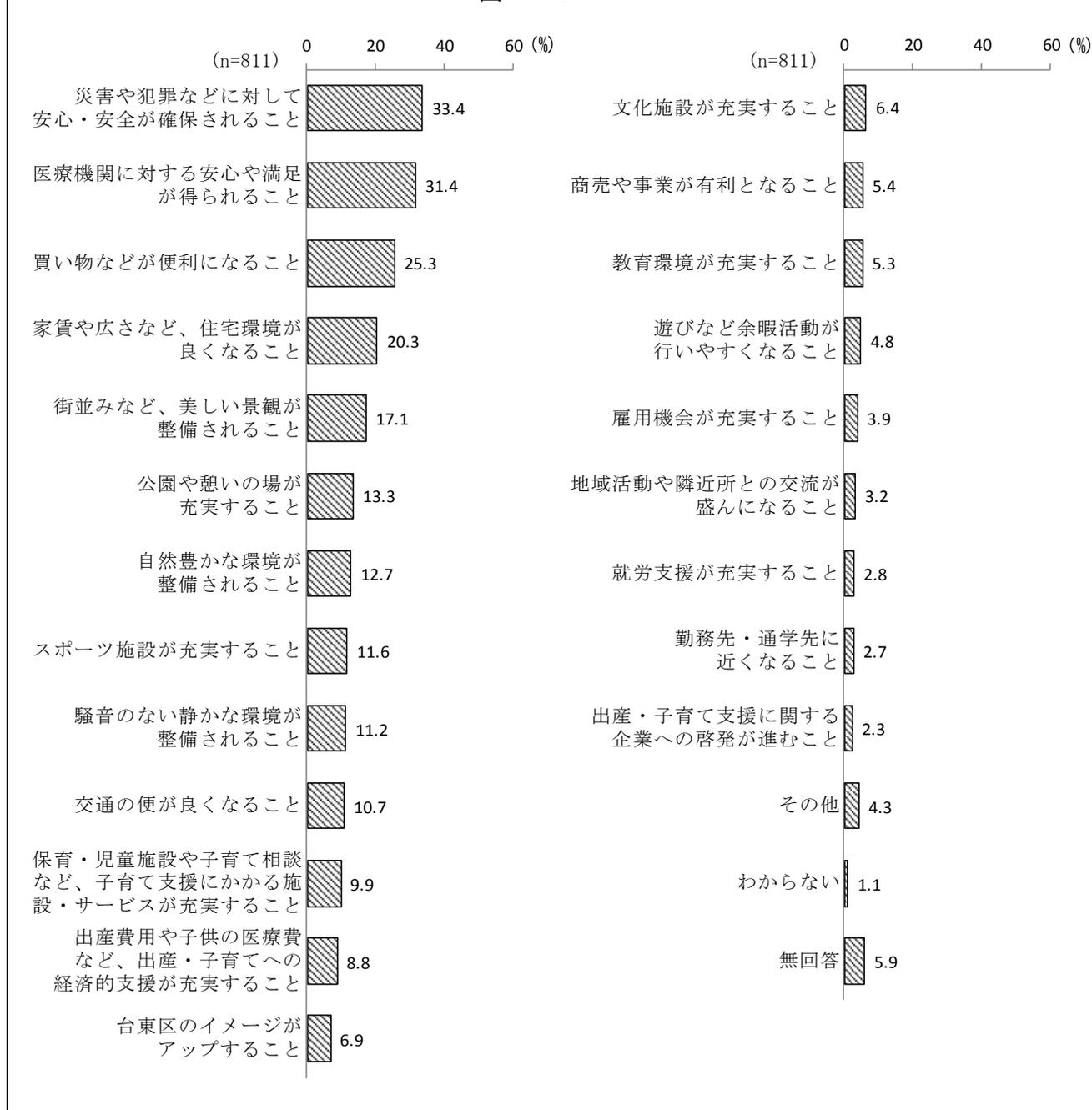
「災害や犯罪などに対して安心・安全が確保されること」が3割を超える

(問2で「1. 住み続けるつもり」または「2. できれば住み続けたい」とお答えの方に)

問2-3 区内に住み続ける上で、「こうなれば、より良い」と考えることは何ですか。

(○は3つまで)

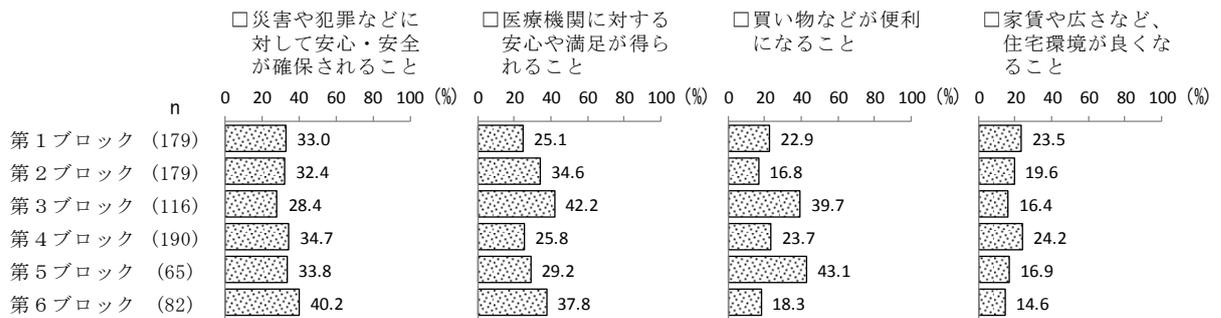
図1-5-1



定住意向のある人に、住み続ける上での改善点を聞いたところ、「災害や犯罪などに対して安心・安全が確保されること」(33.4%)が3割を超え最も多く、次いで「医療機関に対する安心や満足が得られること」(31.4%)、「買い物などが便利になること」(25.3%)、「家賃や広さなど、住宅環境が良くなること」(20.3%)となっている。(図1-5-1)

地区別でみると、「災害や犯罪などに対して安心・安全が確保されること」は第6ブロック(40.2%)で4割と他の地区と比べて多くなっている。「医療機関に対する安心や満足が得られること」は第3ブロック(42.2%)で4割を超え他の地区と比べて多くなっている。「買い物などが便利になること」は第5ブロック(43.1%)で4割を超え、第3ブロック(39.7%)で4割と他の地区と比べて多くなっている。(図1-5-2)

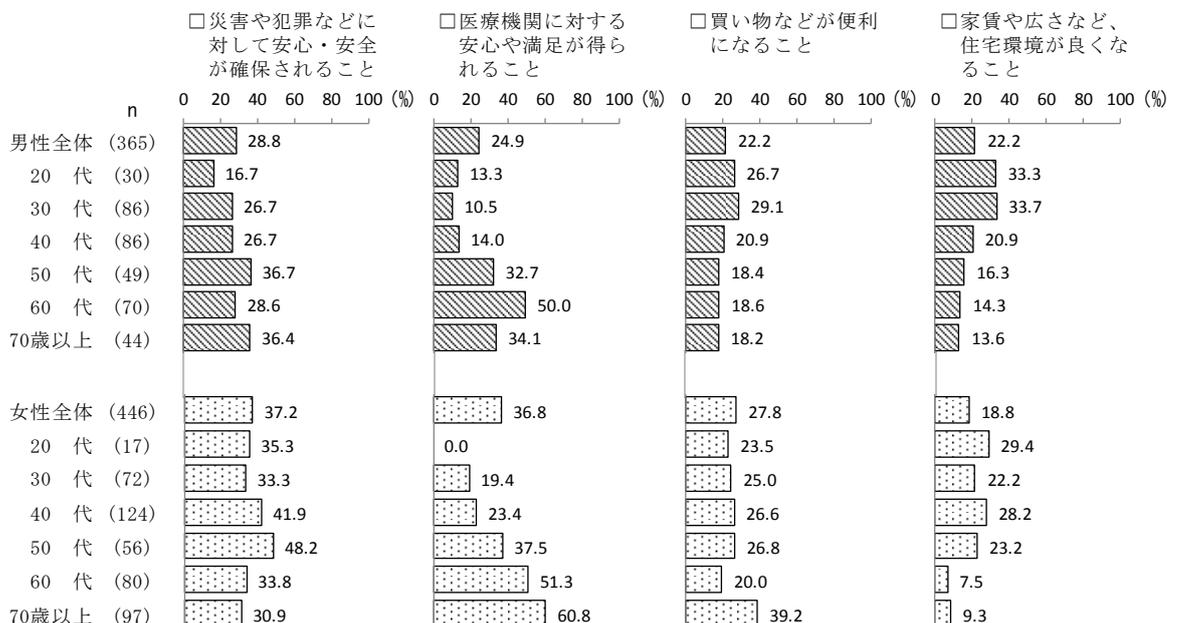
図1-5-2 住み続ける上での改善点—地区別(上位4位)



性別でみると、「災害や犯罪などに対して安心・安全が確保されること」は女性(37.2%)が男性(28.8%)より8.4ポイント高くなっている。「医療機関に対する安心や満足が得られること」は女性(36.8%)が男性(24.9%)より11.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「災害や犯罪などに対して安心・安全が確保されること」は女性50代(48.2%)で5割近くと多くなっている。「医療機関に対する安心や満足が得られること」は女性で年代が高くなるにつれて多くなっている。「買い物などが便利になること」は女性70歳以上(39.2%)でほぼ4割と多くなっている。「家賃や広さなど、住宅環境がよくなること」は男性20代(33.3%)、男性30代(33.7%)で3割を超え多くなっている。(図1-5-3)

図1-5-3 住み続ける上での改善点—性別、性・年代別(上位4位)



2. 出産・子育て

現在、国全体の人口は減少傾向にあり、少子高齢化も今後一段と進むことが想定される中、台東区の人口は社会増を要因とする緩やかな増加が続いており、少子高齢化も緩やかに進行すると見込まれています。区では、人口に関する課題に的確に対応し、将来にわたり活力ある地域社会を維持していくため、人口の動向を分析し、将来展望を示す「台東区人口ビジョン」及び、人口ビジョンを踏まえて具体的な取り組みを定める「台東区総合戦略」の策定を予定しています。

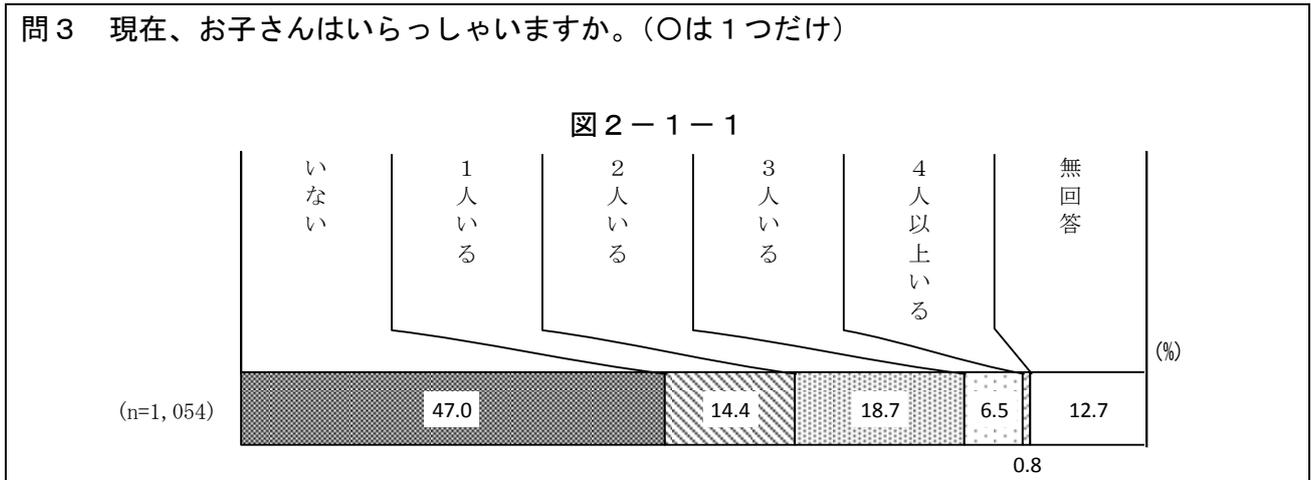
今回の調査では、各ご家庭のお子さんについて、現在の人数や今後予定する人数、さらに、理想とする人数や、予定人数と差が生じてしまう理由などについてお伺いしました。回答からは、理想とする人数を2人と回答した方が3割を超える一方で、予定する合計人数は0人と答えた方が2割を超え、2人と答えた方をわずかながら上回る結果となりました。また、理想とする人数と予定人数の差が生じてしまう理由では、出産・子育て・教育にかかる経済的負担を理由とする方が4割近くいる状況がわかりました。

この調査結果は、策定を予定している人口ビジョン、総合戦略の基礎資料として、また、区政運営の長期的指針である長期総合計画を推進していく上での貴重な資料として活用してまいります。

(企画財政部 企画課)

2-1 子供の人数

「2人いる」が2割近く

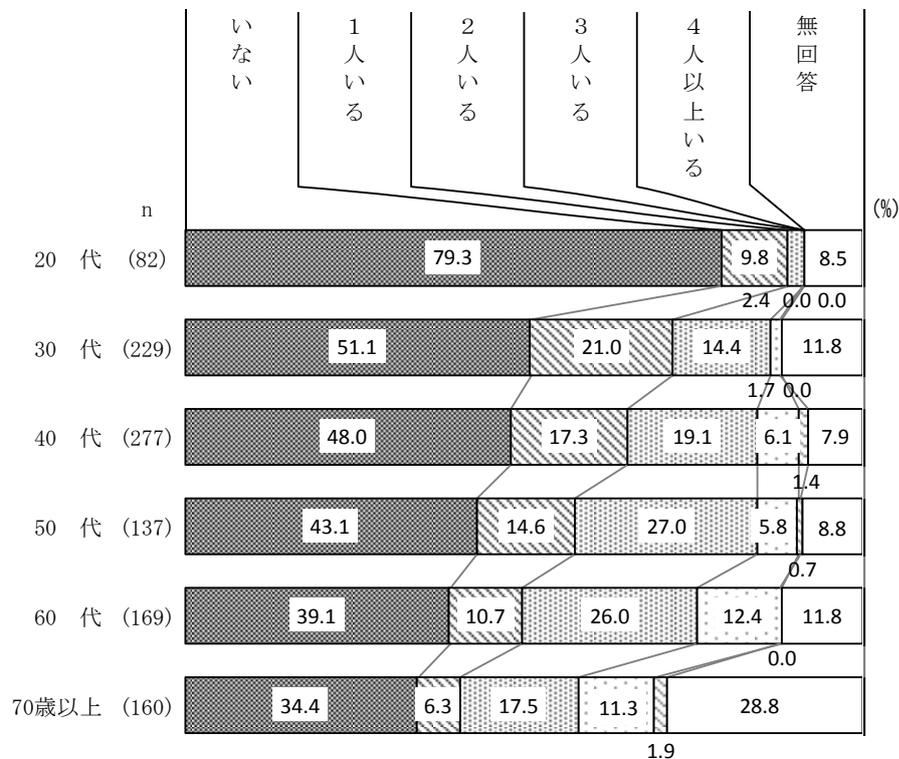


子供の人数は、「2人いる」(18.7%)が2割近くと最も多く、次いで「1人いる」(14.4%)、「3人いる」(6.5%)となっている。一方、「いない」(47.0%)が5割近くとなっている。

(図2-1-1)

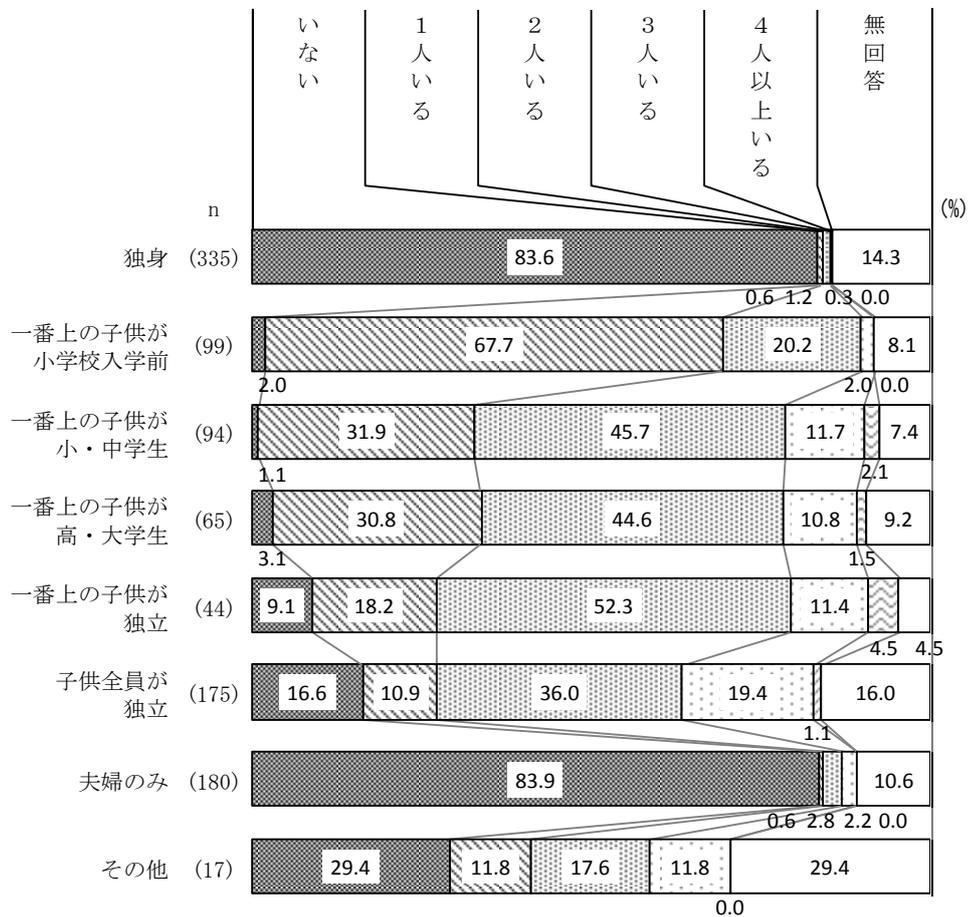
年代別でみると、40代以上では「2人いる」が最も多く、20代、30代では「1人いる」が最も多くなっている。「いない」は年代が若いほど多くなっており、20代(79.3%)では、ほぼ8割となっている。(図2-1-2)

図2-1-2 子供の人数—年代別



家族構成別でみると、「1人いる」が一番上の子供が小学校入学前（67.7%）で7割近くと多く、「2人いる」が一番上の子供が独立（52.3%）で5割を超え多く、「3人いる」は子供全員が独立（19.4%）でほぼ2割と多くなっている。（図2-1-3）

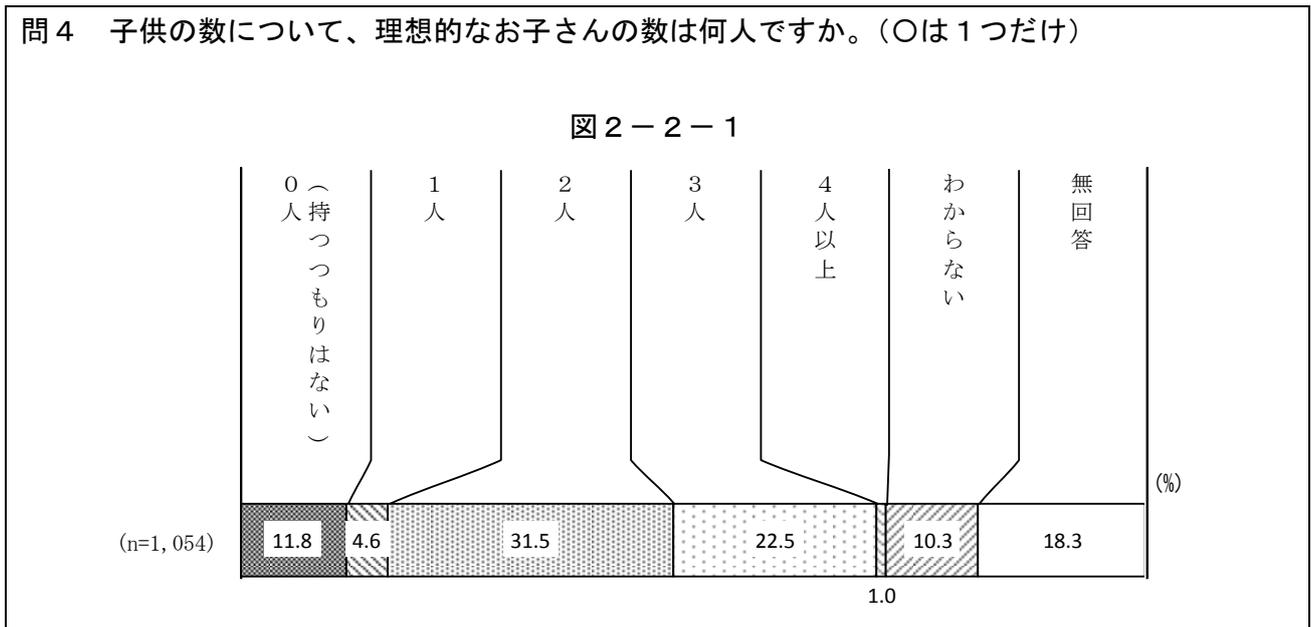
図2-1-3 子供の人数—家族構成別



2-2 理想的な子供の人数

「2人」が3割を超える

問4 子供の数について、理想的なお子さんの数は何人ですか。(○は1つだけ)

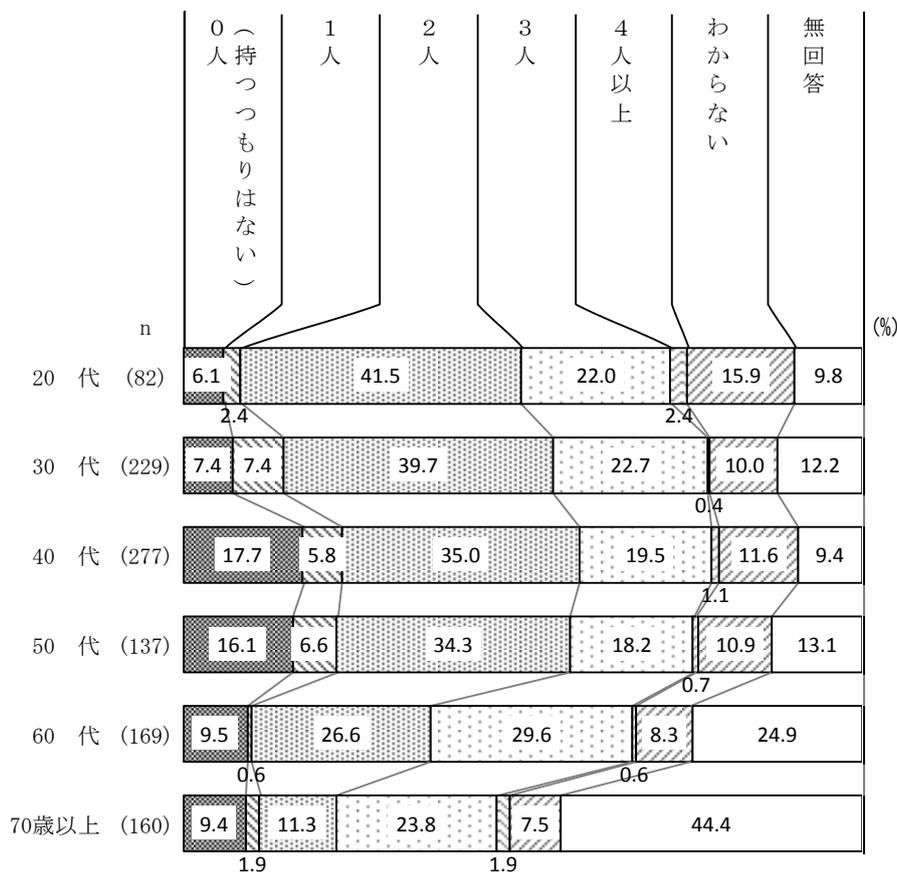


理想的な子供の人数は、「2人」(31.5%)が3割を超え最も多く、次いで「3人」(22.5%)が2割を超えている。一方、「0人(持つつもりはない)」(11.8%)は1割を超えている。

(図 2-2-1)

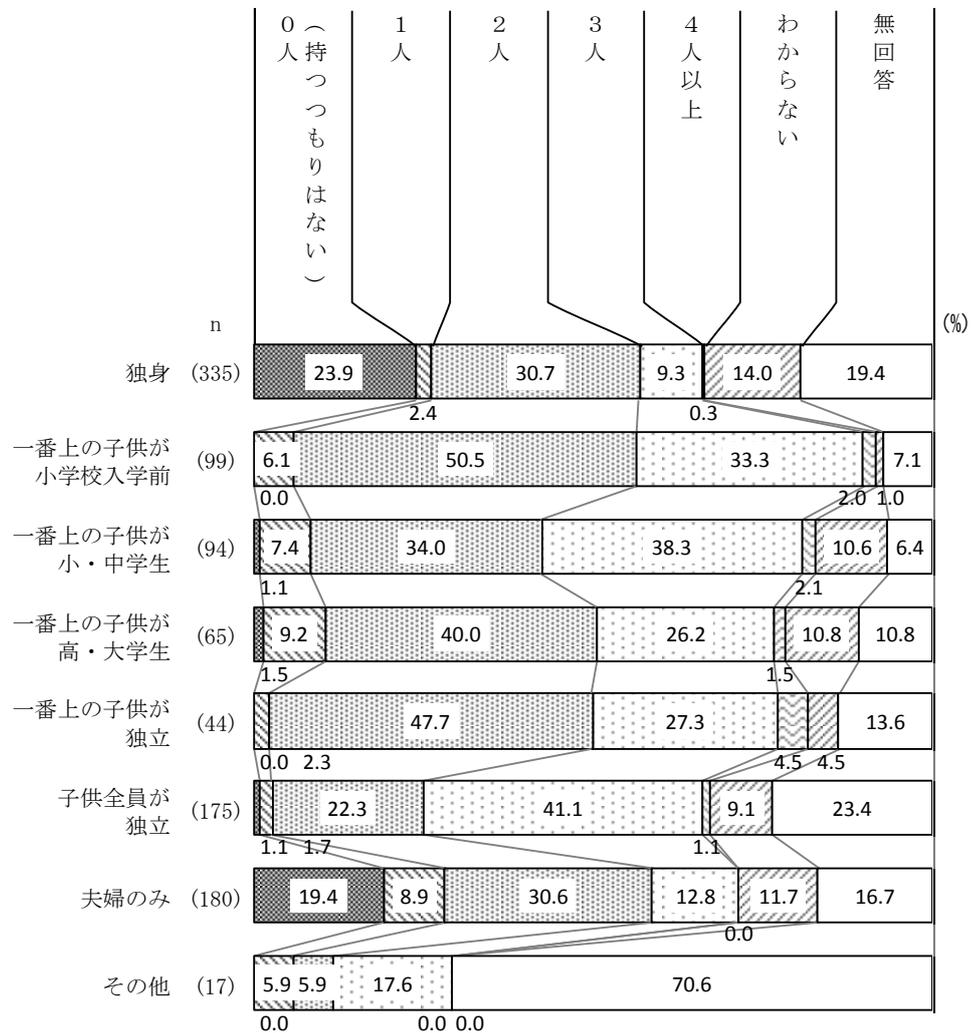
年代別でみると、「2人」は20代(41.5%)で4割を超え多く、「3人」は60代(29.6%)で3割と多くなっている。(図 2-2-2)

図 2-2-2 理想的な子供の人数一年代別



家族構成別でみると、「3人」は子供全員が独立（41.1%）で4割を超え多く、「2人」が一番上の子供が小学校入学前（50.5%）でほぼ5割と多くなっている。（図2-2-3）

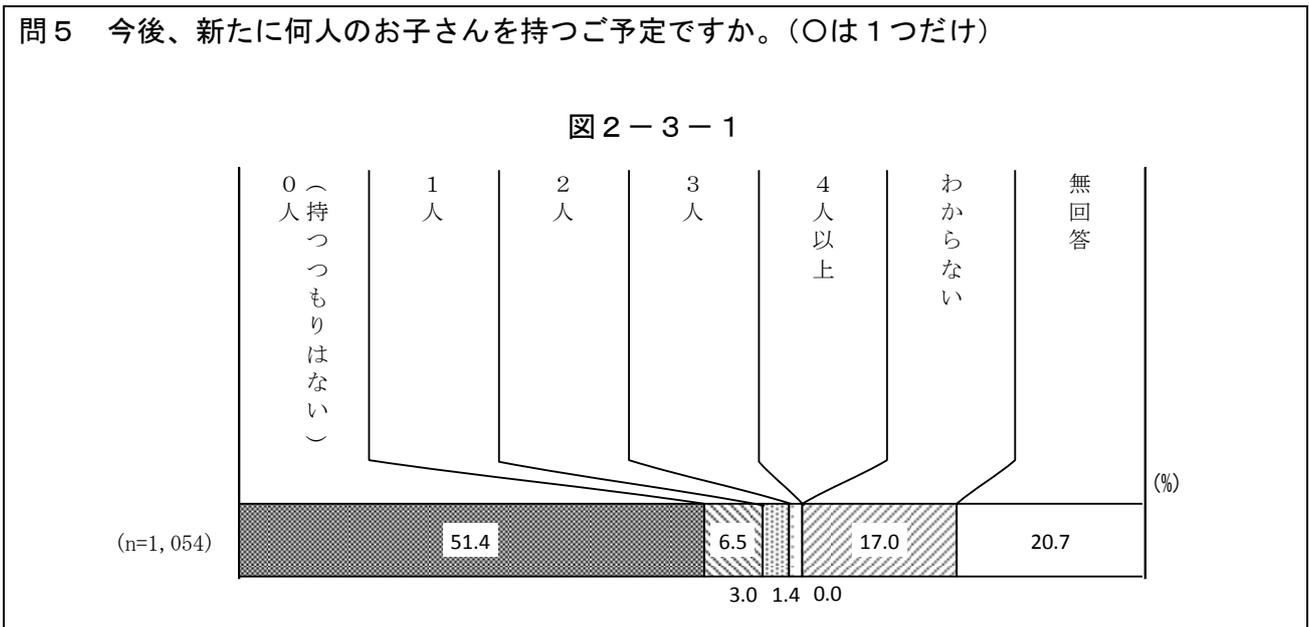
図2-2-3 理想的な子供の人数—家族構成別



2-3 今後の子供の予定人数

「0人（持つつもりはない）」が5割を超える

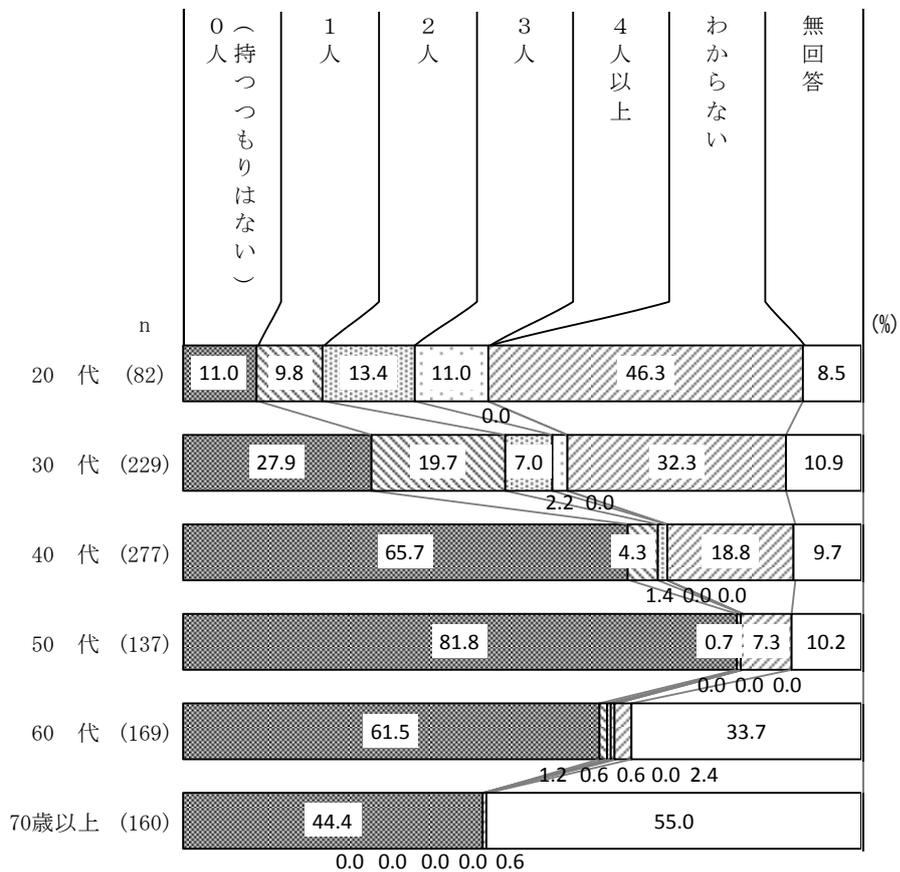
問5 今後、新たに何人のお子さんを持つご予定ですか。（○は1つだけ）



今後の子供の予定人数は、「0人（持つつもりはない）」（51.4%）が5割を超え最も多く、次いで「1人」（6.5%）、「2人」（3.0%）となっている。（図2-3-1）

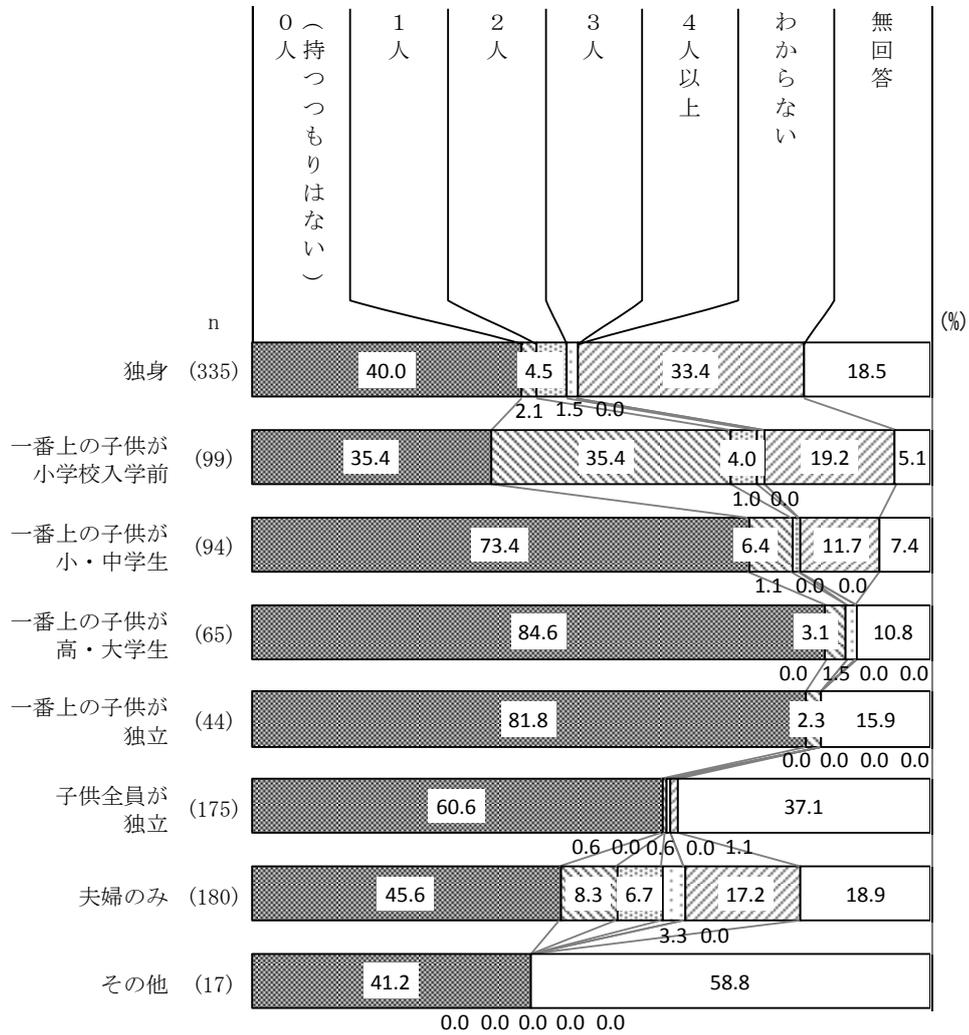
年代別でみると、「1人」は30代（19.7%）で2割と多く、「2人」は20代（13.4%）で1割を超え多くなっている。（図2-3-2）

図 2-3-2 今後の子供の予定人数—年代別



家族構成別でみると、「1人」が一番上の子供が小学校入学前（35.4%）で3割半ばと多くなっている。（図2-3-3）

図2-3-3 今後の子供の予定人数—家族構成別

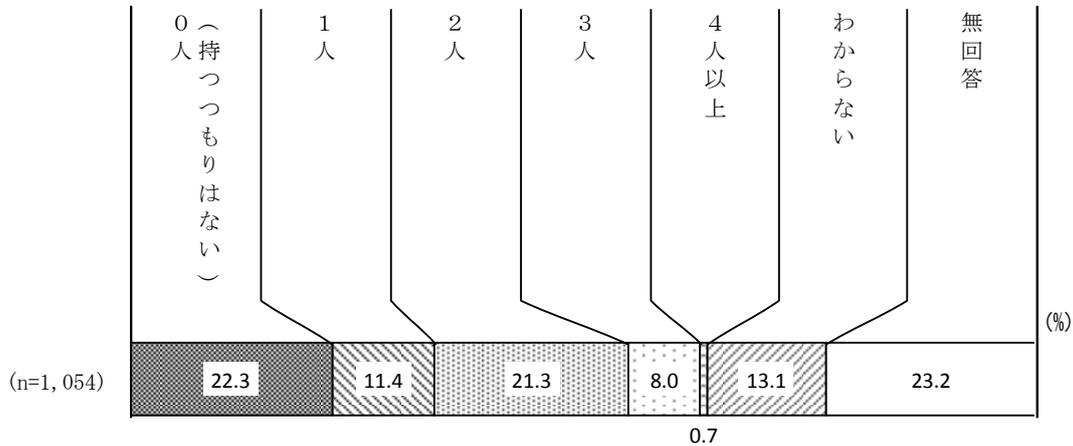


2-4 子供の人数の合計

「0人（持つつもりはない）」が2割を超える

問6 問5でお答えいただいた、新たに持つご予定のお子さんも含めると、合計で何人のお子さんを持つことになりますか。（○は1つだけ）

図2-4-1

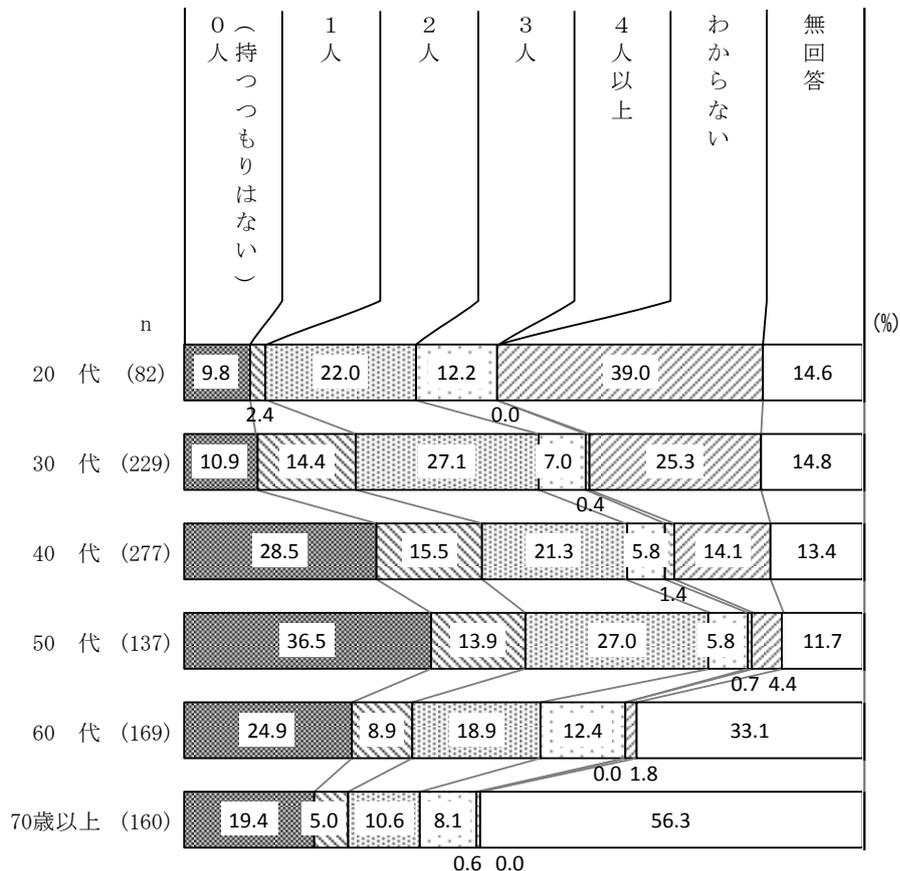


今後の子供の人数の合計は、「0人（持つつもりはない）」（22.3%）が2割を超え最も多い、次いで「2人」（21.3%）、「1人」（11.4%）となっている。（図2-4-1）

年代別で見ると、「2人」は20代（22.0%）、30代（27.1%）で2割を超えているのに対して、「0人（持つつもりはない）」が40代（28.5%）、50代（36.5%）と多くなっている。

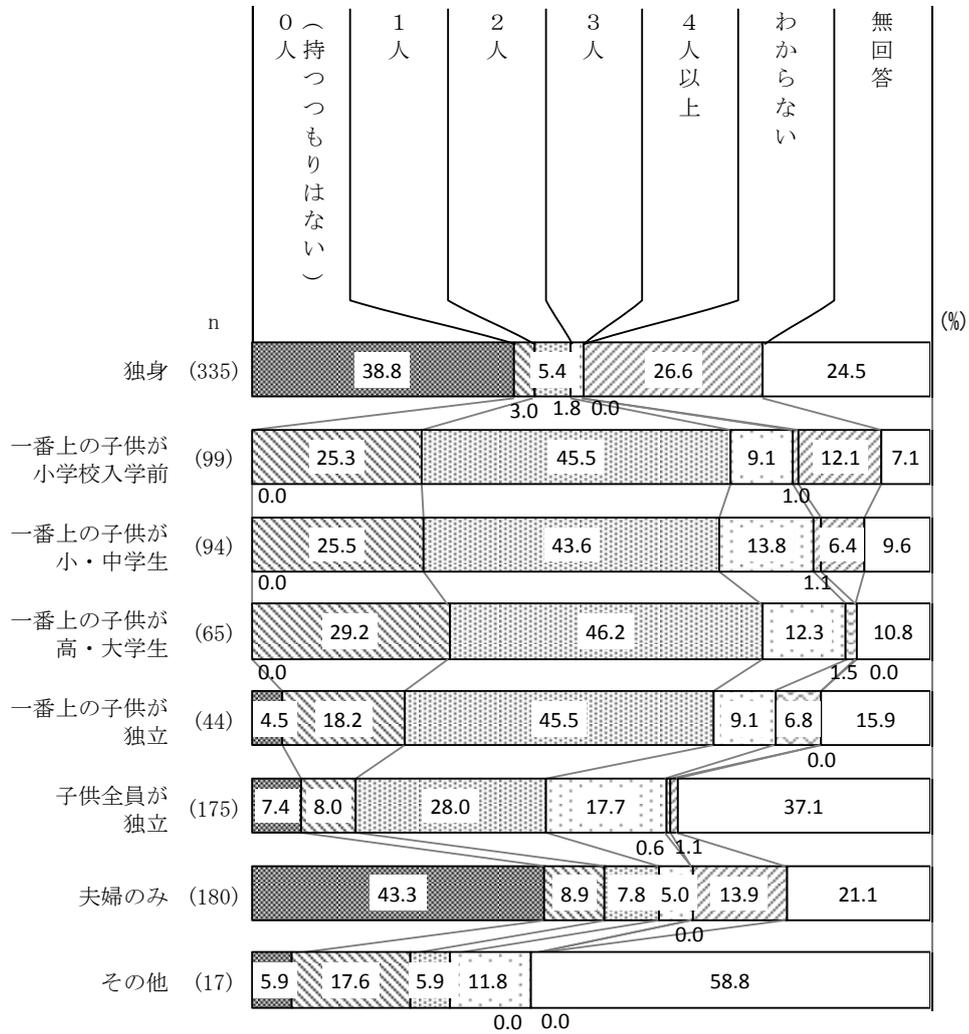
（図2-4-2）

図2-4-2 子供の人数の合計—年代別



家族構成別でみると、「2人」は「一番上の子供が小学校入学前」(45.5%)、「一番上の子供が小・中学生」(43.6%)、「一番上の子供が高・大学生」(46.2%)、「一番上の子供が独立」(45.5%)で4割以上と多くなっている。(図2-4-3)

図2-4-3 子供の人数の合計—家族構成別



2-5 理想とする人数よりも少なくなってしまう理由

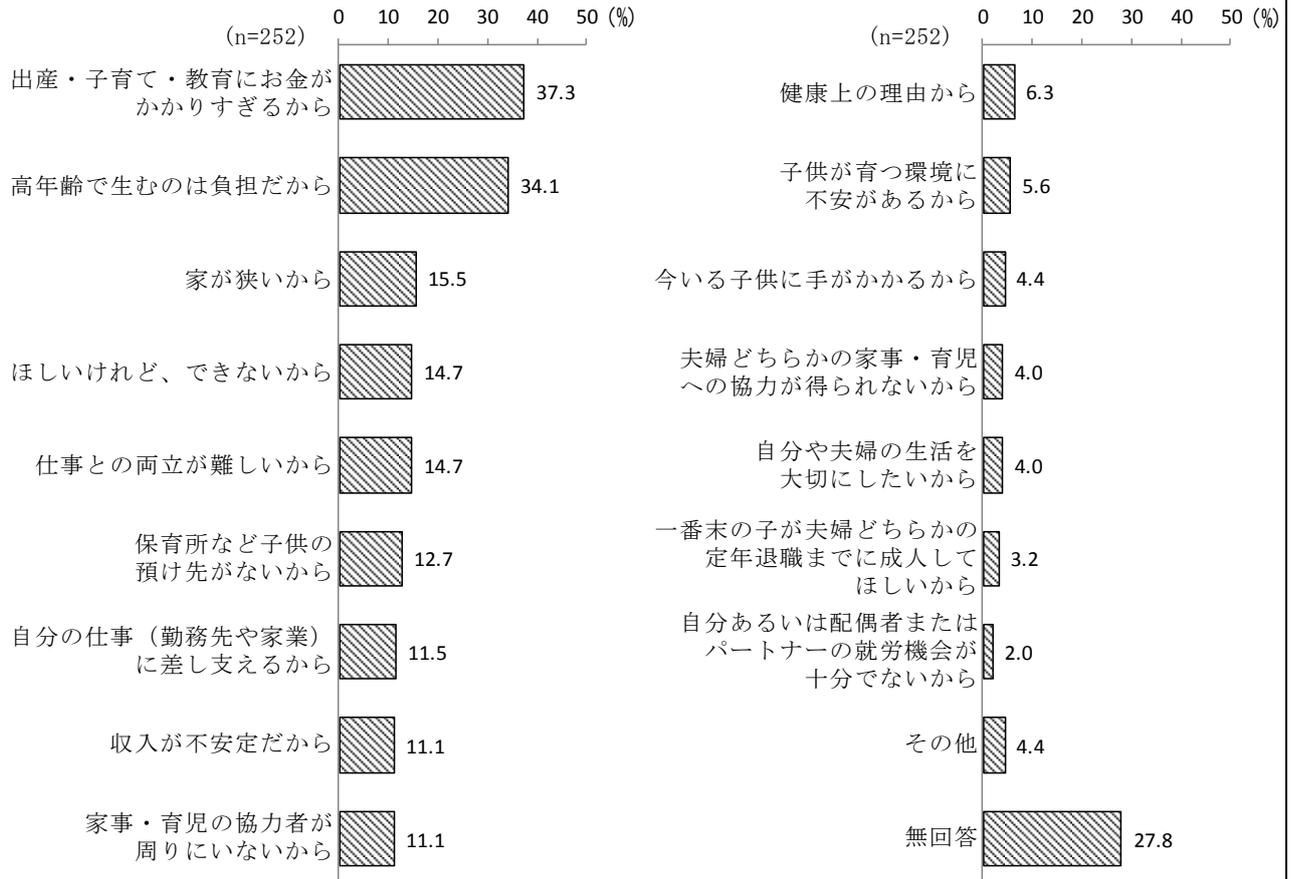
「出産・子育て・教育にお金がかかりすぎるから」が4割近く

(問4の「理想的な人数」よりも、問6の「予定人数の合計」が少ない方への質問)

問6-1 理想とする人数よりも少なくなってしまう理由は何ですか。

(あてはまるものには、すべて○をつけてください。また、その中で最も重要なものは◎をつけてください。) ※この設問における「夫婦」には、事実婚の方も含みます。

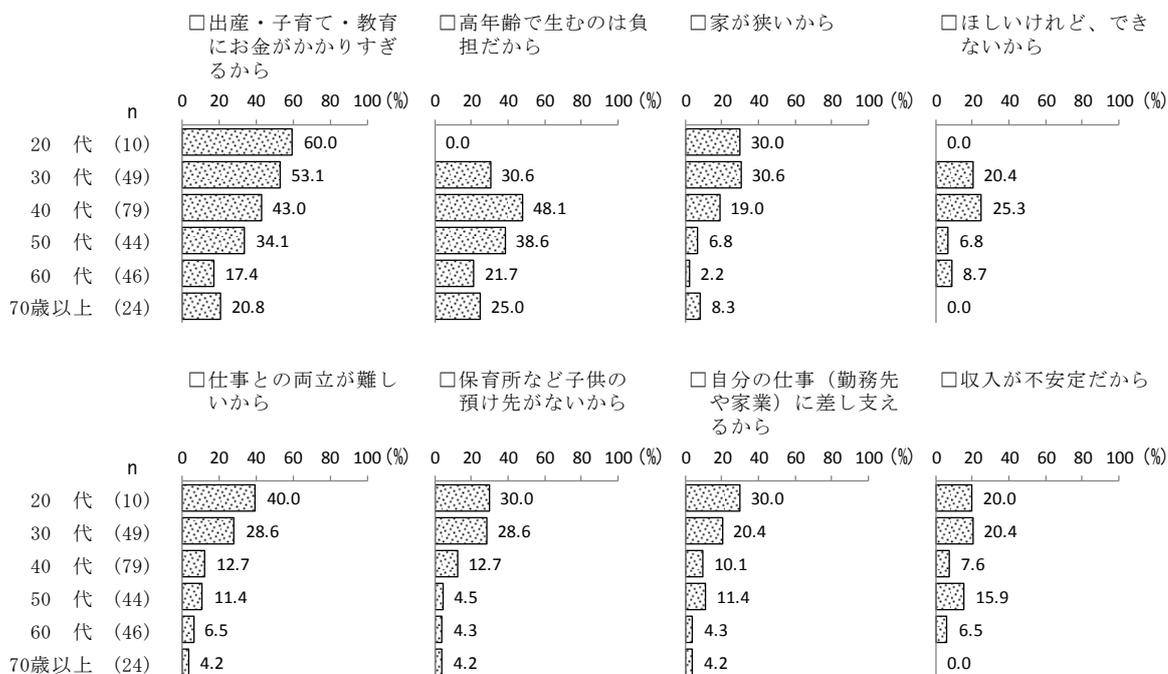
図2-5-1



理想とする人数よりも少なくなってしまう理由は、「出産・子育て・教育にお金がかかりすぎるから」(37.3%)が4割近くと最も多く、次いで「高年齢で生むのは負担だから」(34.1%)、「家が狭いから」(15.5%)、「ほしいけれど、できないから」(14.7%)、「仕事との両立が難しいから」(14.7%)となっている。(図2-5-1)

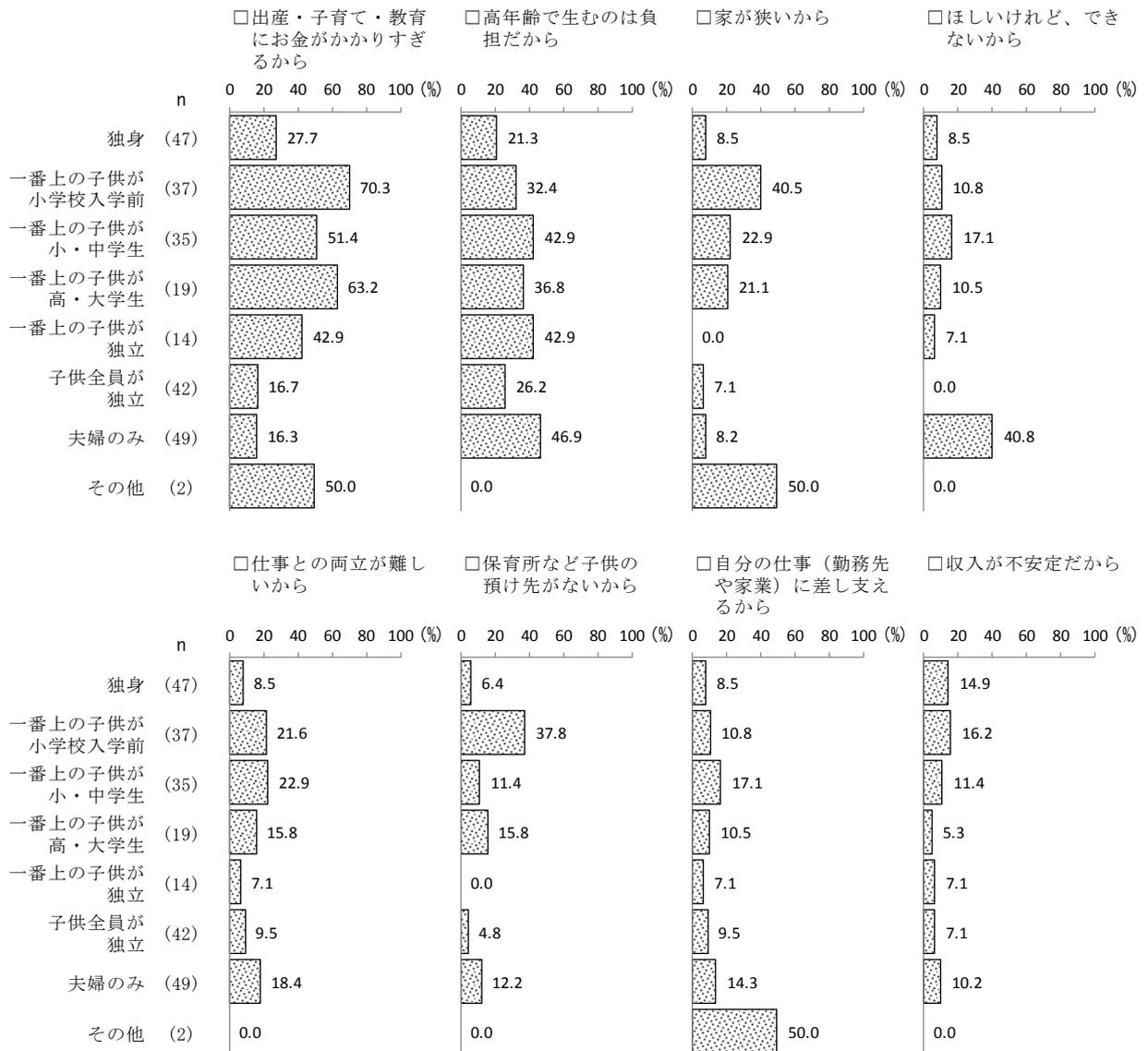
年代別でみると、「出産・子育て・教育にお金がかかりすぎるから」は20代（60.0%）が6割で最も多く、70歳以上を除き年齢が高くなるほど少なくなっている。「高年齢で生むのは負担だから」は40代（48.1%）で5割近くとなっている。「仕事との両立が難しいから」は20代（40.0%）で4割と最も多く、年齢が高くなるほど少なくなっている。「保育所など子供の預け先がないから」は20代（30.0%）で3割と最も多く、年齢が高くなるほど少なくなっている。（図2-5-2）

図2-5-2 理想とする人数よりも少なくなってしまう理由一年代別（上位8位）



家族構成別でみると、「出産・子育て・教育にお金がかかりすぎるから」が一番上の子供が小学校入学前（70.3%）で7割と多くなっている。「家が狭いから」が一番上の子供が小学校入学前（40.5%）でほぼ4割と多くなっている。「保育所など子供の預け先がないから」が一番上の子供が小学校入学前（37.8%）で4割近くと高くなっている。（図2-5-3）

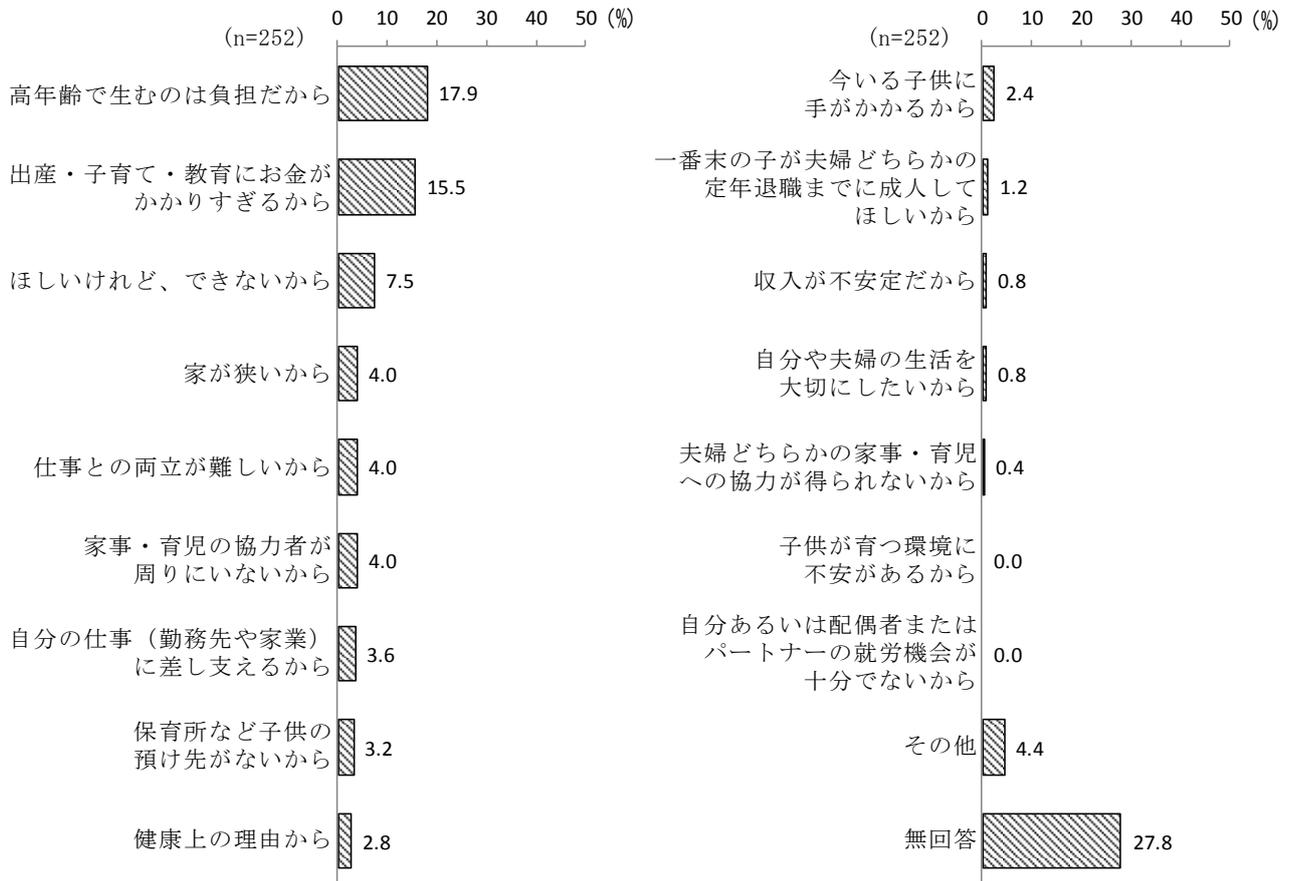
図2-5-3 理想とする人数よりも少なくなってしまう理由—家族構成別（上位8位）



問6-1の回答のうち最も重要なものとして「◎」の選択肢について集計した。

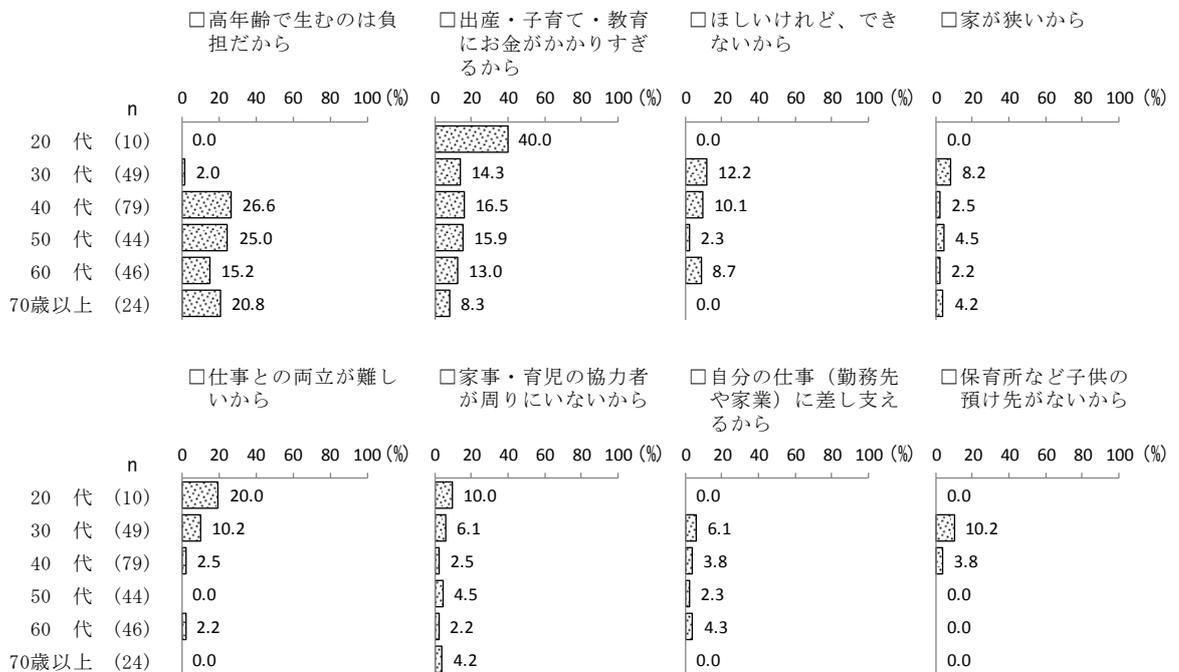
最も重要なものでは、「高年齢で生むのは負担だから」(17.9%)が2割近くと最も多く、次いで「出産・子育て・教育にお金がかかりすぎるから」(15.5%)、「ほしいけれど、できないから」(7.5%)、「家が狭いから」(4.0%)、「仕事との両立が難しいから」(4.0%)、「家事・育児の協力者が周りにいないから」(4.0%)となっている。

図2-5-4 理想とする人数よりも少なくなってしまう理由（最も重要なもの）



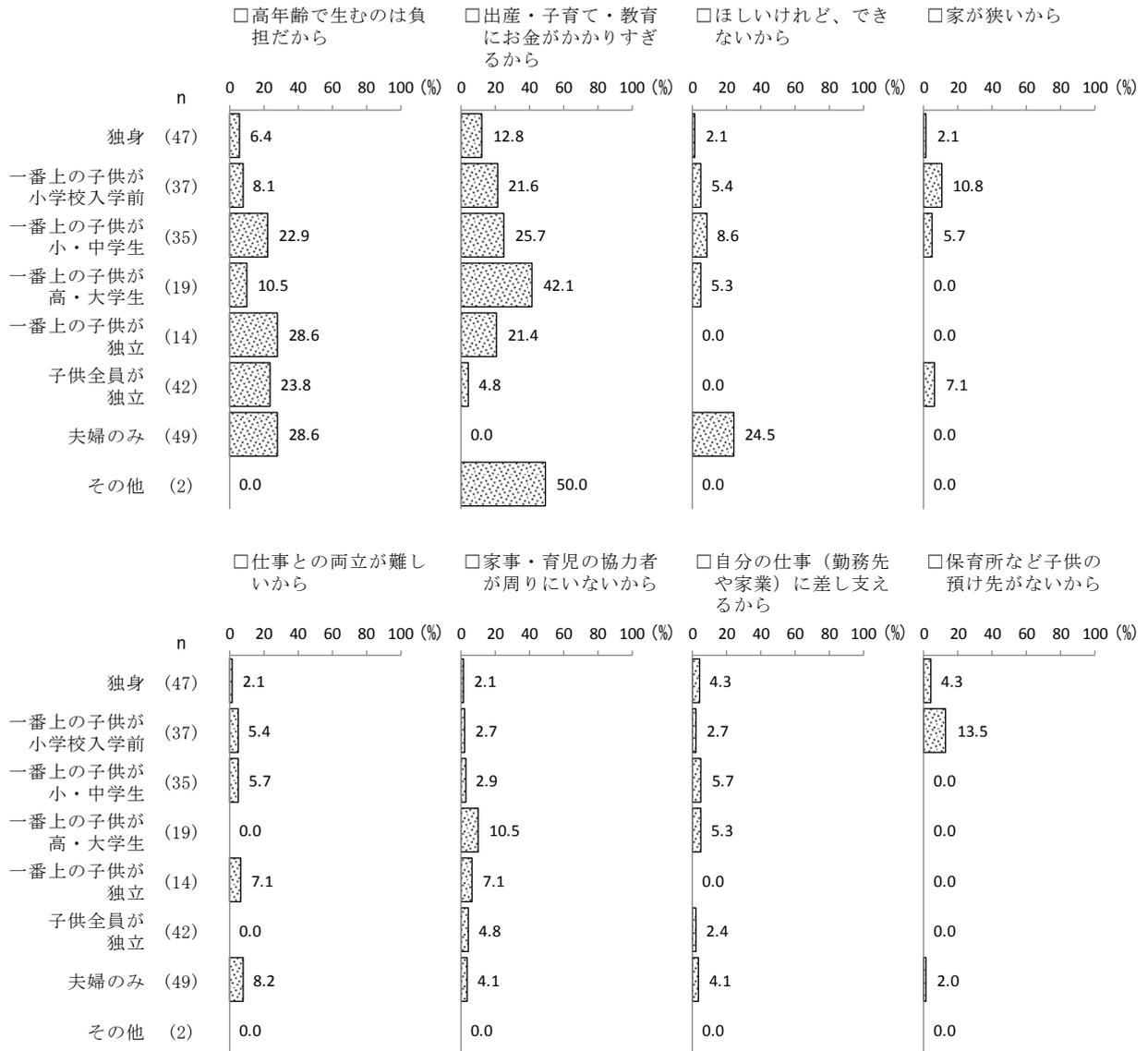
年代別でみると、「高年齢で生むのは負担だから」は40代（26.6%）で3割近くと多くなっている。「出産・子育て・教育にお金がかかりすぎるから」は20代（40.0%）で4割と多くなっている。「仕事との両立が難しいから」は20代（20.0%）で2割と多くなっている。

図2-5-5 理想とする人数よりも少なくなってしまう理由（最も重要なもの）
—年代別（上位8位）



家族構成別でみると、「出産・子育て・教育にお金がかかりすぎるから」が一番上の子供が高・大学生(42.1%)で4割を超え多くなっている。「ほしいけれど、できないから」は夫婦のみ(24.5%)で2割半ばとなっている。「保育所など子供の預け先がないから」が一番上の子供が小学校入学前(13.5%)で1割を超えている。

図2-5-6 理想とする人数よりも少なくなってしまう理由(最も重要なもの)
一 가족構成別(上位8位)



3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会

今回の調査では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「2020年東京大会」という。）に関して、皆様の率直なご意見やお考えをお伺いしました。

2020年東京大会の参加意向については、「競技場などに行って観戦・応援したい」の回答が5割以上であり、今後知りたい情報としては、「東京都の取り組みなど、2020年に向けた今後の動向に関する情報」の回答が4割半ばという結果となりました。

また、今後力を入れていく分野として「安全・安心の向上」と回答された方が5割半ばであり、ついで「駅や道路などのバリアフリー化」が続いています。

今後、今回の調査結果を参考に、大会組織委員会や東京都など関係機関と連携しながら、2020年東京大会に向けた各種取り組みを進めてまいります。

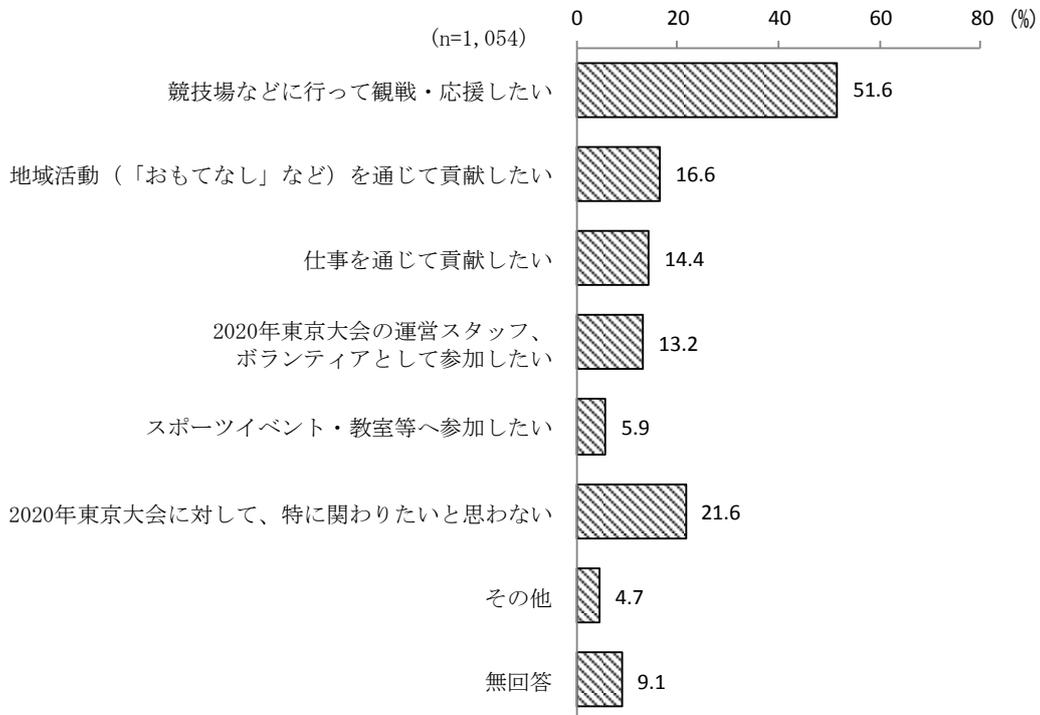
(総務部 東京オリンピック・パラリンピック担当)

3-1 2020年東京大会への参加形態

「競技場などに行って観戦・応援したい」が5割を超える

問7 2020年東京大会に対して、どのような形で参加したいですか。(〇はいくつでも)

図3-1-1



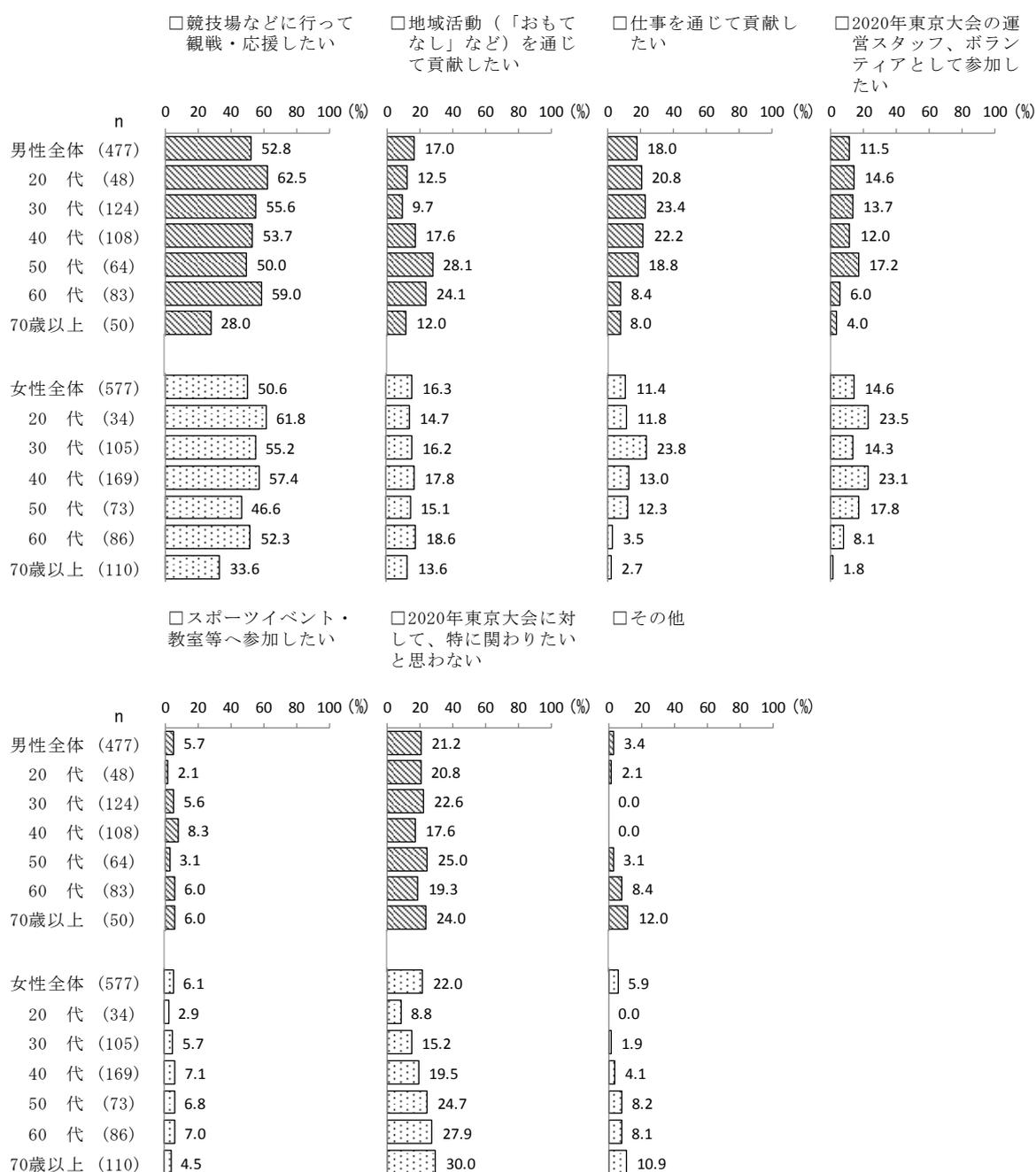
2020年東京大会への参加形態は、「競技場などに行って観戦・応援したい」(51.6%)が5割を超え最も多く、「地域活動（「おもてなし」など）を通じて貢献したい」(16.6%)、「仕事を通じて貢献したい」(14.4%)、「2020年東京大会の運営スタッフ、ボランティアとして参加したい」(13.2%)となっている。一方、「2020年東京大会に対して、特に関わりたいと思わない」(21.6%)が2割を超えている。(図3-1-1)

性別でみると、「仕事を通じて貢献したい」は男性（18.0%）が女性（11.4%）よりも6.6ポイント高くなっている。「2020年東京大会の運営スタッフ、ボランティアとして参加したい」は女性（14.6%）が男性（11.5%）よりも3.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「地域活動（「おもてなし」など）を通じて貢献したい」は男性50代（28.1%）で3割近くと多くなっている。「2020年東京大会の運営スタッフ、ボランティアとして参加したい」は女性20代（23.5%）、女性40代（23.1%）で2割を超え多くなっている。一方、「2020年東京大会に対して、特に関わりたいと思わない」は女性70歳以上（30.0%）で3割と多くなっている。

（図3-1-2）

図3-1-2 2020年東京大会への参加形態—性別、性・年代別

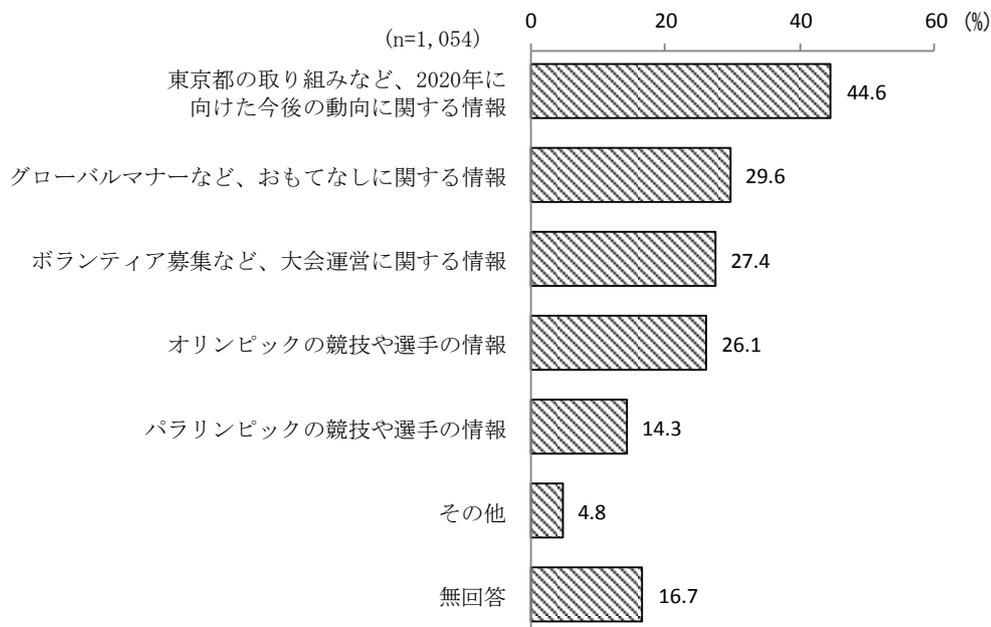


3-2 2020年東京大会に向けて知りたい情報

「東京都の取り組みなど、2020年に向けた今後の動向に関する情報」が4割半ば

問8 区では、2020年東京大会に向けて、区民の皆様と一体となった取り組みが必要だと考えています。今後どのような情報を知りたいと思いますか。(〇はいくつでも)

図3-2-1

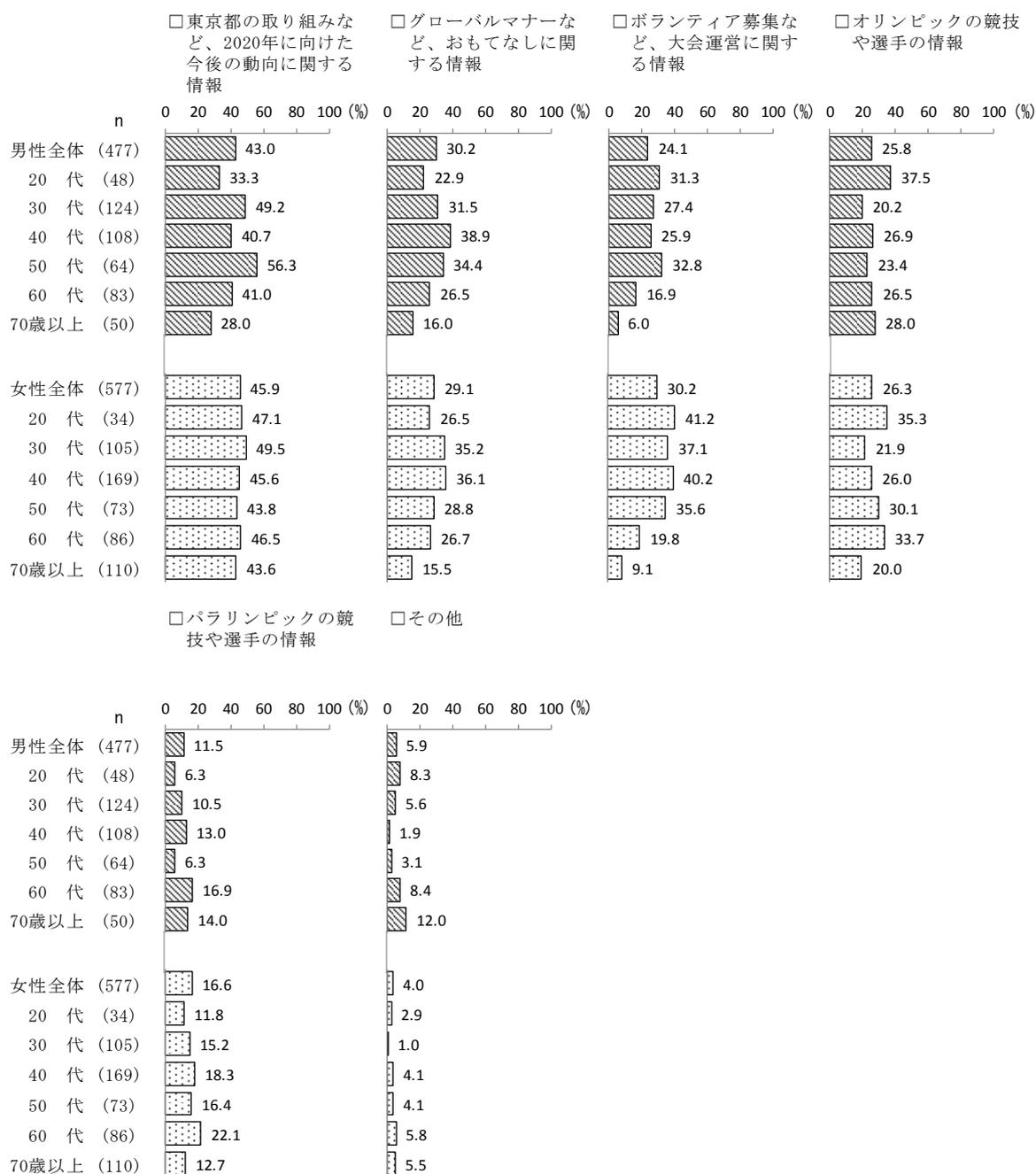


2020年東京大会に向けて知りたい情報は、「東京都の取り組みなど、2020年に向けた今後の動向に関する情報」(44.6%)が4割半ばと最も多く、次いで「グローバルマナーなど、おもてなしに関する情報」(29.6%)、「ボランティア募集など、大会運営に関する情報」(27.4%)、「オリンピックの競技や選手の情報」(26.1%)となっている。(図3-2-1)

性別でみると、「ボランティア募集など、大会運営に関する情報」は女性(30.2%)が男性(24.1%)より 6.1 ポイント高くなっている。「パラリンピックの競技や選手の情報」は女性(16.6%)が男性(11.5%)より 5.1 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「東京都の取り組みなど、2020年に向けた今後の動向に関する情報」は男性50代(56.3%)で5割半ばと多くなっている。「グローバルマナーなど、おもてなしに関する情報」は男性40代(38.9%)で4割近く、「ボランティア募集など、大会運営に関する情報」は女性20代(41.2%)で4割を超え高くなっている。(図3-2-2)

図3-2-2 2020年東京大会に向けて知りたい情報—性別、性・年代別

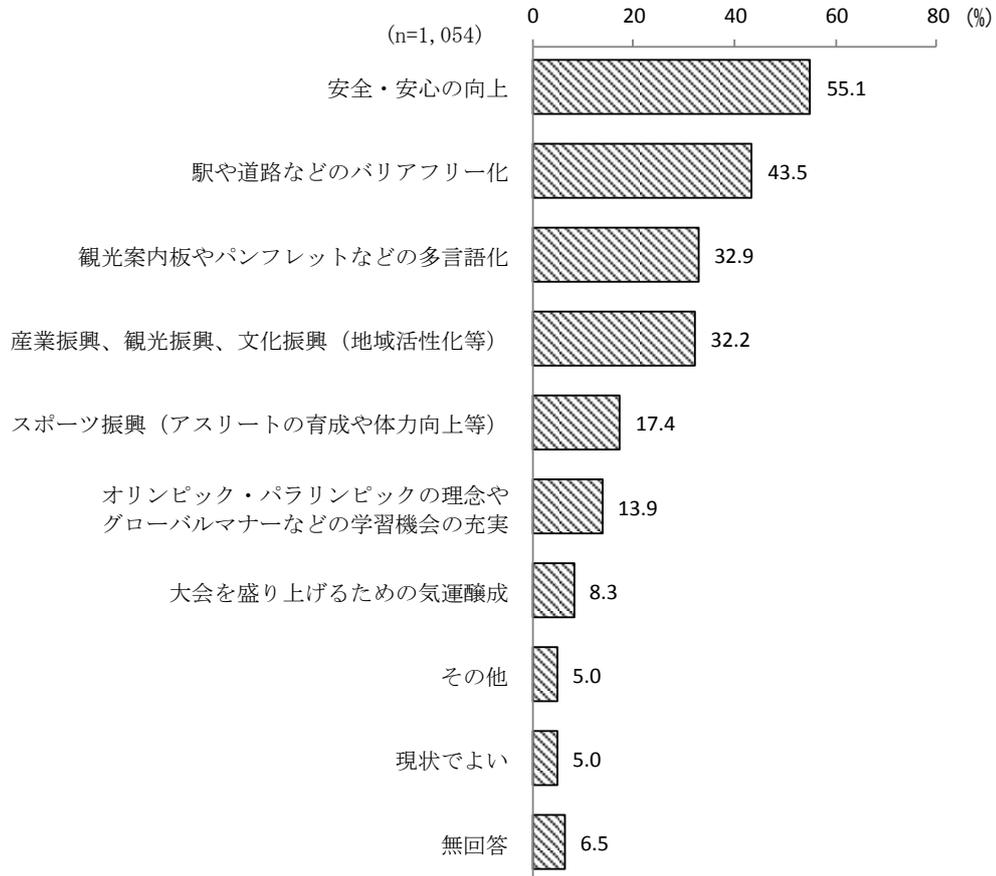


3-3 2020年東京大会に向けて力を入れていく分野

「安全・安心の向上」が5割半ば

問9 台東区は今後2020年東京大会に向けて、どのような分野に力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

図3-3-1



2020年東京大会に向けて力を入れていく分野は、「安全・安心の向上」(55.1%)が5割半ばと最も多く、「駅や道路などのバリアフリー化」(43.5%)、「観光案内板やパンフレットなどの多言語化」(32.9%)、「産業振興、観光振興、文化振興（地域活性化等）」(32.2%)となっている。

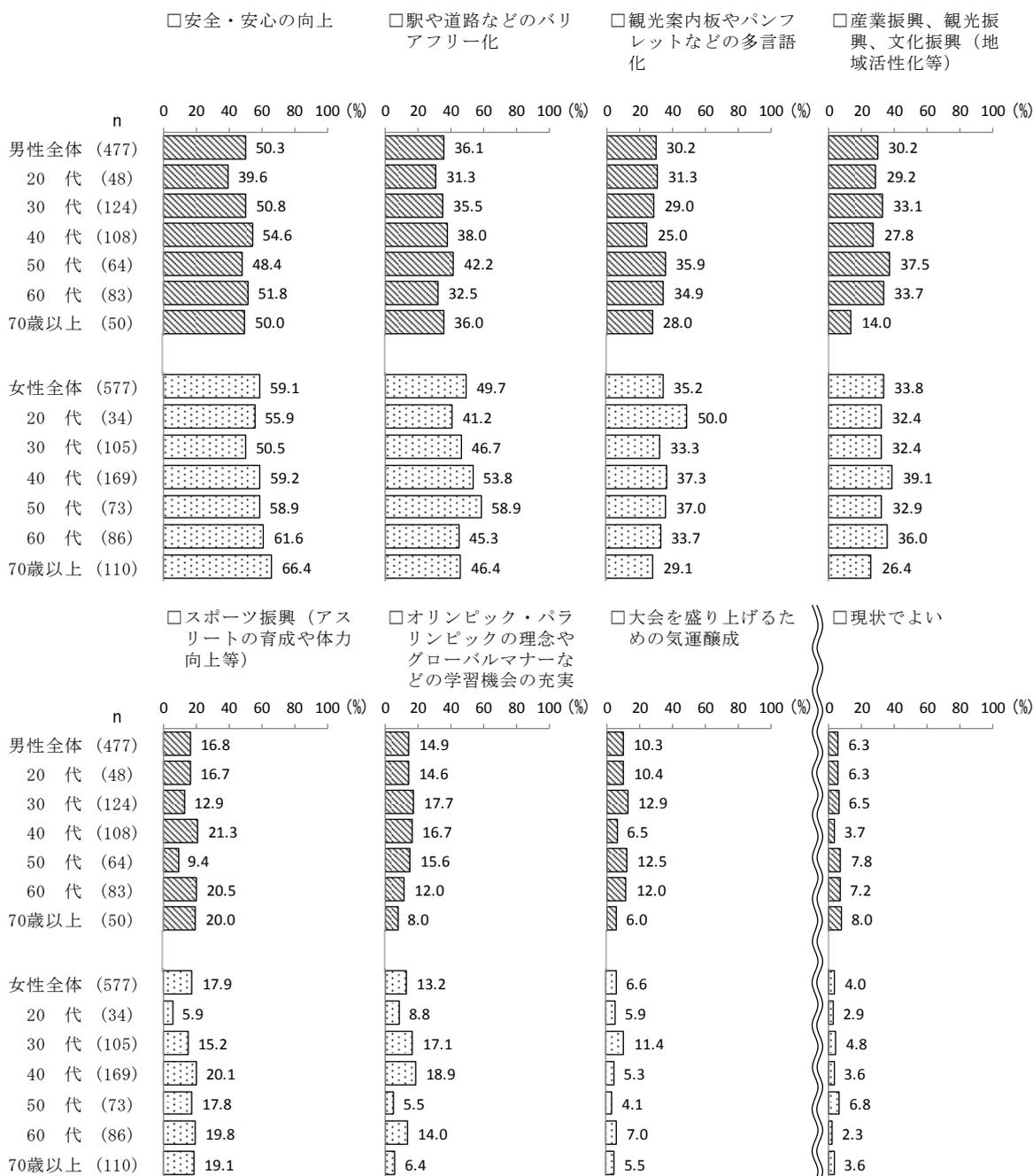
(図3-3-1)

性別でみると、「安全・安心の向上」は女性（59.1%）が男性（50.3%）より 8.8 ポイント高くなっている。「駅や道路などのバリアフリー化」は女性（49.7%）が男性（36.1%）より 13.6 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「安全・安心の向上」は女性 70 歳以上（66.4%）で 6 割半ばと多くなっている。「駅や道路などのバリアフリー化」は女性 50 代（58.9%）で 6 割近く、「観光案内板やパンフレットなどの多言語化」は女性 20 代（50.0%）で 5 割、「産業振興、観光振興、文化振興（地域活性化等）」は女性 40 代（39.1%）でほぼ 4 割と多くなっている。（図 3-3-2）

図 3-3-2 2020 年東京大会に向けて力を入れていく分野ー

性別、性・年代別（上位 7 位+「現状でよい」）



3-4 2020年東京大会に向けての意見や提案

問10 2020年東京大会に向けた取り組みについて、その他のご意見やご提案がありましたらご記入ください。

(代表的な意見)

【スポーツ振興について】

- ・その種目の子供教室を開いたり、スポーツと子供を身近にする機会を増やして欲しい。
- ・箱物やインフラ・経済成長を目標とするような大会ではなく、区民、国民が日常的にスポーツに親しめるような基盤・意識づくりを目指す大会になってほしいと思います。

【産業振興、観光振興、文化振興について】

- ・台東区では上野、浅草という外国人に人気のある場所があるので、それを活用したPRなどを行い、ボランティアなども活動したほうがよいと思う。
- ・特設で東京だけでなく日本各地の名産を世界にPR出来ればよいと思う。

【バリアフリー化について】

- ・「おもてなし」を掲げた以上、交通機関のバリアフリー化は絶対だと思います。車椅子やベビーカーで乗り換えが出来ないところが多すぎます。
- ・銀座線浅草駅のエレベーターを増やすべき。ベビーカーの人達が困っているのをよくみかける。

【観光案内等について】

- ・入谷地区はリーズナブルな宿が増えて外国人がかなり増加しています。案内板を整備してほしいです。この地区は目印となるような施設が少ないですし、2020年を待たずに取組んで欲しいです。
- ・グローバルマナーはさておき、上野の花見のように日本のデリケートな美を犯す事なく楽しんでもらうように、ローカルマナーの学習機会、案内、多言語パンフも充実させておもてなしする。
- ・多くの訪日外国人を迎えるにあたり、多言語対応や無料Wi-Fiの拡充が必要ではないか。

【マナーの向上について】

- ・ホテル、旅館、レストラン、店などでの外国人のマナー教育、店舗の担当者の相談に応じる機関が必要だと思います。
- ・グローバルスタンダードは公共の場では禁煙が当たり前。駐輪マナーや歩道での自転車走行マナー(左側通行をとらない併走など)がひどすぎる。
- ・外国人に対する意識は簡単には変わらないことはわかっていますが、特に台東区は下町なので飲食店などで外国人に露骨な態度をとる人も多い。自分自身もそうであるが人種啓発などの勉強会が必要なのではと思う。

【来街者の対策について】

- ・海外の方を受け入れる為のノウハウが台東区は多いと思います。一般の人でも「おもてなし」ができるようどのようなことを共有できるかなど考える会があるとよいと思います。また治安についてはさらなる取り組みが必要だと思います。

- ・台東区をあげて台東区を訪れる外国人たちをおもてなしする。外国語を話せる区民を総動員してガイドボランティアをしてもらう。
- ・オリンピック観光客のルールやマナーの周知と徹底。特にゴミの処理方法や、公共施設利用の仕方など。
- ・子供たちにきちんと思い出に残るように、関われる機会が多くなるとよい。オリンピックまでに台東区の小中学生の「おもてなし」のための英語力アッププログラムなどを行う。
- ・色々な国から大勢の方が台東区に来られるので特に全区をあげて安全のキャンペーンをして無事故に対する意識をたかめてもらいたい。

【大会を盛り上げる気運の醸成について】

- ・まだまだ国民全体がオリンピックに向けて気持ちが足りないような気がする。費用の問題や東北の震災などを考えるとオリンピック一色に盛り上がるのは難しい気がする。やはり前東京オリンピックを見たものにすれば是非成功してほしいと思う。

【安全・安心について】

- ・オリンピック開催にあつては、いろいろな病気や犯罪が入ってきたり起こると思うので、そういう事態に陥らないよう街の整備や病気の予防知識も併せて進めるべきだと思います。
- ・上野、浅草などの観光地を抱える台東区として、テロの標的になりやすいオリンピック時にどのような対策をお考えか具体的に区民に示すべきと考えます。
- ・オリンピック、パラリンピックでは多くの国から多くの人が日本に来ると思うのでセキュリティの強化に努めてほしい。

【環境美化について】

- ・環境レベルのアップ：住環境：道路のごみ、ゴミ出しルールの改善によりきれいな街とする。不法カンバン等の撤去、整備により安全できれいな街とする。歩道の不法使用の禁止。放置自転車を改善し街をスッキリする。交通環境：ネット配信の整備により行き先を分かりやすくする。ボランティア要員のレベルアップと育成。
- ・路上喫煙禁止に早くしてほしい。諸外国と比べても遅すぎる。
- ・駅周辺を中心に美しい景観が整備されることを願います。
- ・区には自転車を貸し出しするなど海外から来られた観光客をもてなすサービスは出来ているので道路の舗装にももう少し気をつけてほしい。水道工事のあとが特に汚いので美化をそこねている。

【交通環境の整備について】

- ・各競技会場への移動などがスムーズにいくように（選手、観客共に）また混雑などを回避できるようなアクセス方法を誰にでも分かりやすく示す方法を考えるべきだと思います。
- ・浅草では現段階でも外国人観光客などの利用するバスによって交通事情が悪化していると思われるので観光バス運行の総量規制などを条例で規制してほしい。
- ・観光バスの駐車スペースが不十分であり現状でも路上駐車が多くみられる。（上野動物園の周辺）歩行時や車の通行に支障がありますので2020年を待たずにして改善すべきと思います。
- ・東京は狭いので観光客対応（宿泊所など）スムーズに動ける様、考えておくとよいかと思います。

(羽田→バス→宿泊所) オリンピック会場。かなりの税金の投資額なのでそれ以上の収入が入ることを期待しています。日本経済が潤うことを願います。

【経費の削減について】

- ・東京都と東京都民両者が納得し、心からオリンピックを迎え入れる態勢をつくること。その過程で情報を全てオープンにすること。まずは新国立競技場コンペの問題点と責任、そしてこのような高額な支出が本当に必要なのか、十分に話し合っ欲しい。
- ・東京オリンピックの開催で忘れてしまいがちになる国内の諸問題（東日本大震災の被災地、原発の被災者の方たちのこと etc.）について、オリンピックで帳消しにならないように質素な大会（ど派手な開会式は無用）にすべき。余りお金をかけるべきではない。オリンピックの原点に立ち戻るべき。
- ・道路の整備やらに予算をかけるのは、今後も使い続けるのであろうかと思うが 2020 年以降貧困の差がますますひどくなっている人々が増えるのなら先々を考え慎重に税金を使ってほしいと思います。

【観戦・応援について】

- ・日本ではオリンピックで盛り上がりながらも後日行われるパラリンピックには関心が薄れてしまうような気がする。もっとあたたかくパラリンピックを応援するよう考えてほしい。
- ・競技や会場のチケットが簡単に手に入れやすくしてほしいです。
- ・オリンピックの年は一時的に祭日（休日）を増やして観戦、応援を出来る環境を作る。

【その他】

- ・それぞれの国の文化や街など、寄り添うのも安心感を与える一つだと感じますが、「日本ならではの・・・」「その街の個性」が無くなるのは残念です。お金のかかる事ですが、四季を感じることでできた柳の木が無くなりマロニエの木が植えられたことはとても残念です。
- ・これからの日本（東京）のグローバル化の意味でも、都民（区民）ができるだけ全員参加の方向で、何らかの形で参加、又はお手伝いをする事が絶対必要だと思います。これを機会に世界にもっと“日本”を印象付けるチャンスです。
- ・何十年に一回の機会なので若い台東区職員、公務員が先頭に立ち責任を与え頑張っていくことで台東区に住む若い人も自然に参加すると思います。
- ・皆が楽しめるオリンピックにしてほしいです。オリンピックが行われてよかったねと区民が感じられるようにしてほしいです
- ・東京大会は数多くあるイベントの1つで、この大会だけの取り組みはやめてほしい。大会後も持続的に活用できる取り組みであればよい。

4. 観光振興

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催決定など、台東区の観光を取り巻く環境は変化しています。これを、台東区が国際文化観光都市として大きく飛躍するチャンスと捉えて、観光施策を推進していくことが重要です。

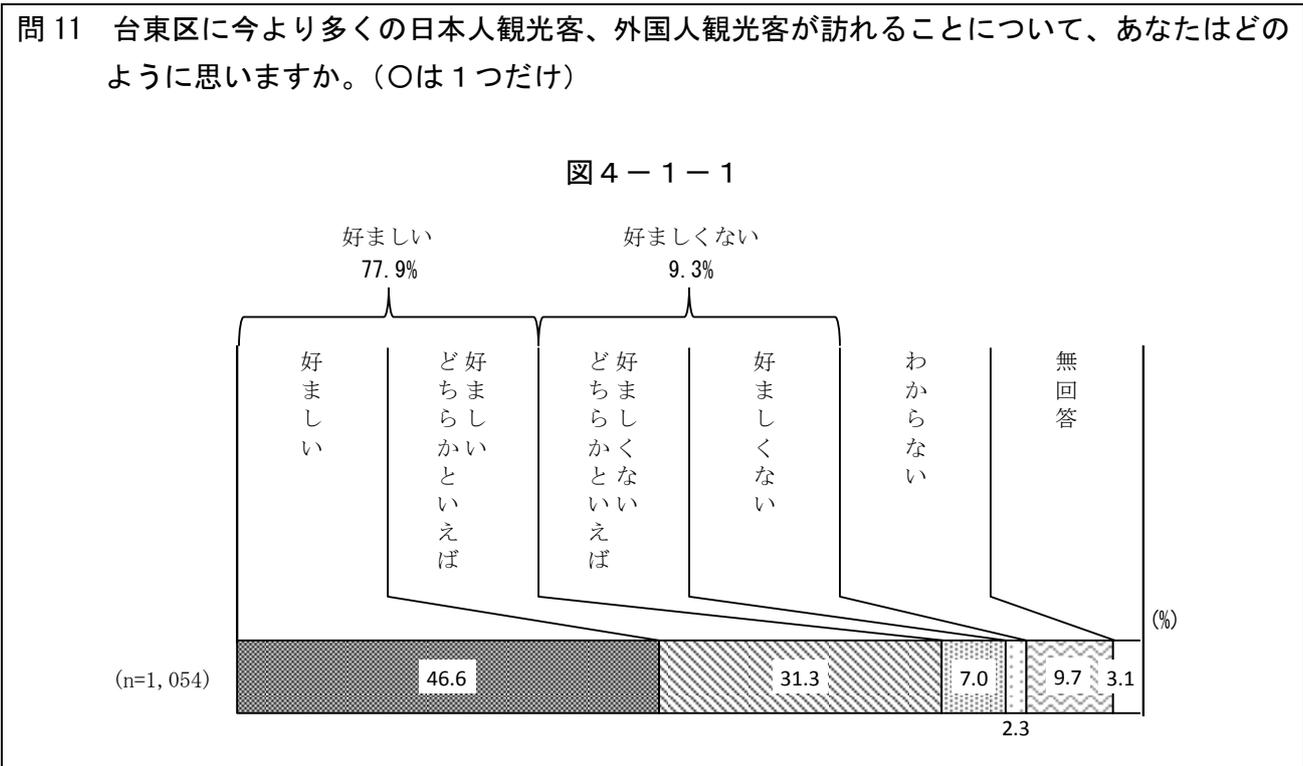
今回の調査では、8割近くの方が観光客の増加に対して好意的に受け止めている一方、騒音・ゴミが増えることや治安・交通環境が悪化することなどを多くの方が懸念していることが分かりました。

今回の調査結果を参考に、観光振興を単に観光客に向けたものではなく、区民の生活向上につながる取り組みとして進めてまいります。

(文化産業観光部 にぎわい計画課)

4-1 観光客の増加についての考え

『好ましい』が8割近く

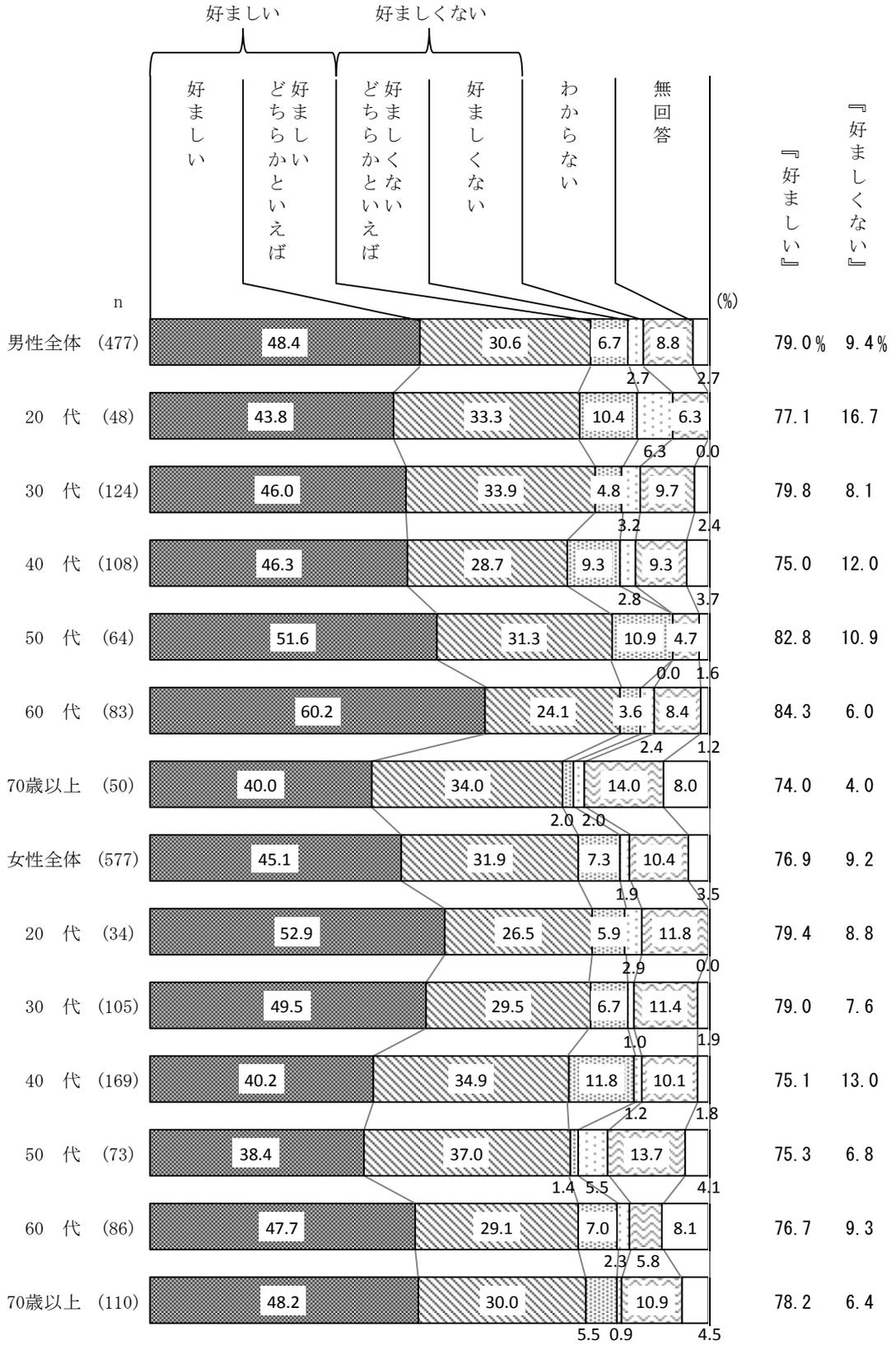


観光客の増加についての考えは、「好ましい」(46.6%)が5割近くと最も多く、「どちらかといえば好ましい」(31.3%)を合わせた『好ましい』(77.9%)は8割近くとなっている。一方、「どちらかといえば好ましくない」(7.0%)と「好ましくない」(2.3%)を合わせた『好ましくない』(9.3%)はほぼ1割となっている。(図4-1-1)

性別でみると、「好ましい」は男性(48.4%)が女性(45.1%)より3.3ポイント高くなっている。また、「どちらかといえば好ましい」を合わせた『好ましい』も男性(79.0%)が女性(76.9%)より2.1ポイント高くなっている。

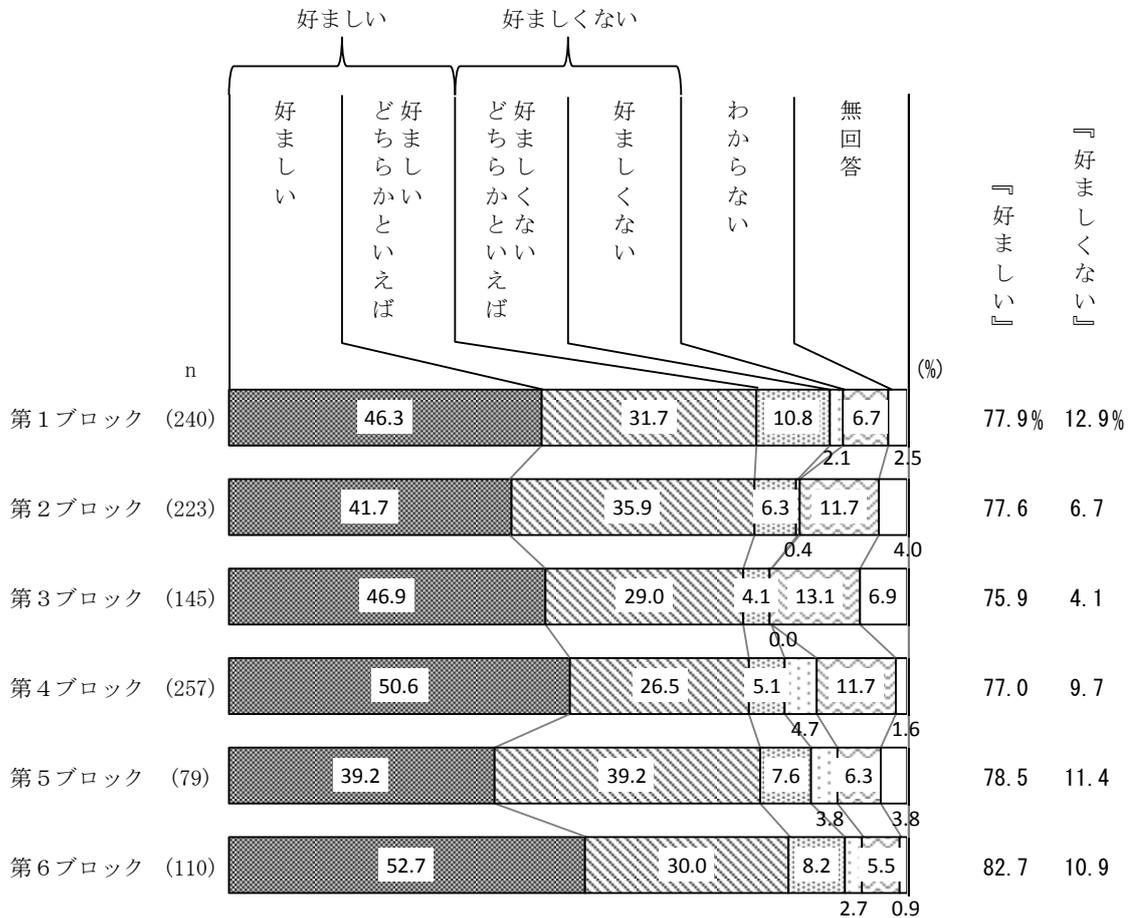
性・年代別でみると、「好ましい」は男性で年齢が高くなると多くなる傾向にあり、男性60代(60.2%)で6割と多くなっている。「どちらかといえば好ましい」を合わせた『好ましい』も男性60代(84.3%)で8割半ばと多くなっている。一方、『好ましくない』は男性20代(16.7%)で1割半ばとなっている。(図4-1-2)

図4-1-2 観光客の増加についての考え—性別、性・年代別



地区別にみると、「好ましい」は第6ブロック（52.7%）で5割を超え最も多くなっている。また、「どちらかといえば好ましい」を合わせた『好ましい』も第6ブロック（82.7%）で8割を超え最も多くなっている。『好ましくない』は第1ブロック（12.9%）で最も多い。（図4-1-3）

図4-1-3 観光客の増加についての考え—地区別

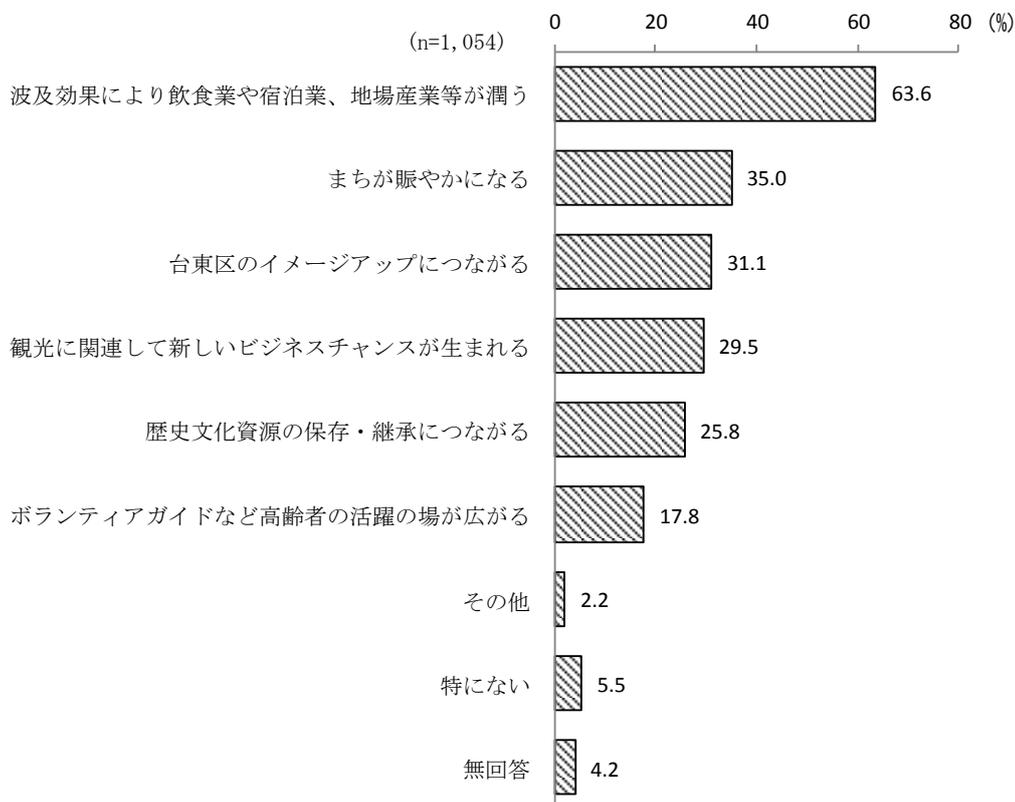


4-2 観光客が訪れることで期待するプラスの効果

「波及効果により飲食業や宿泊業、地場産業等が潤う」が6割を超える

問12 観光客が訪れることで期待するプラスの効果として、どのようなことが挙げられると思いますか。(〇はいくつでも)

図4-2-1

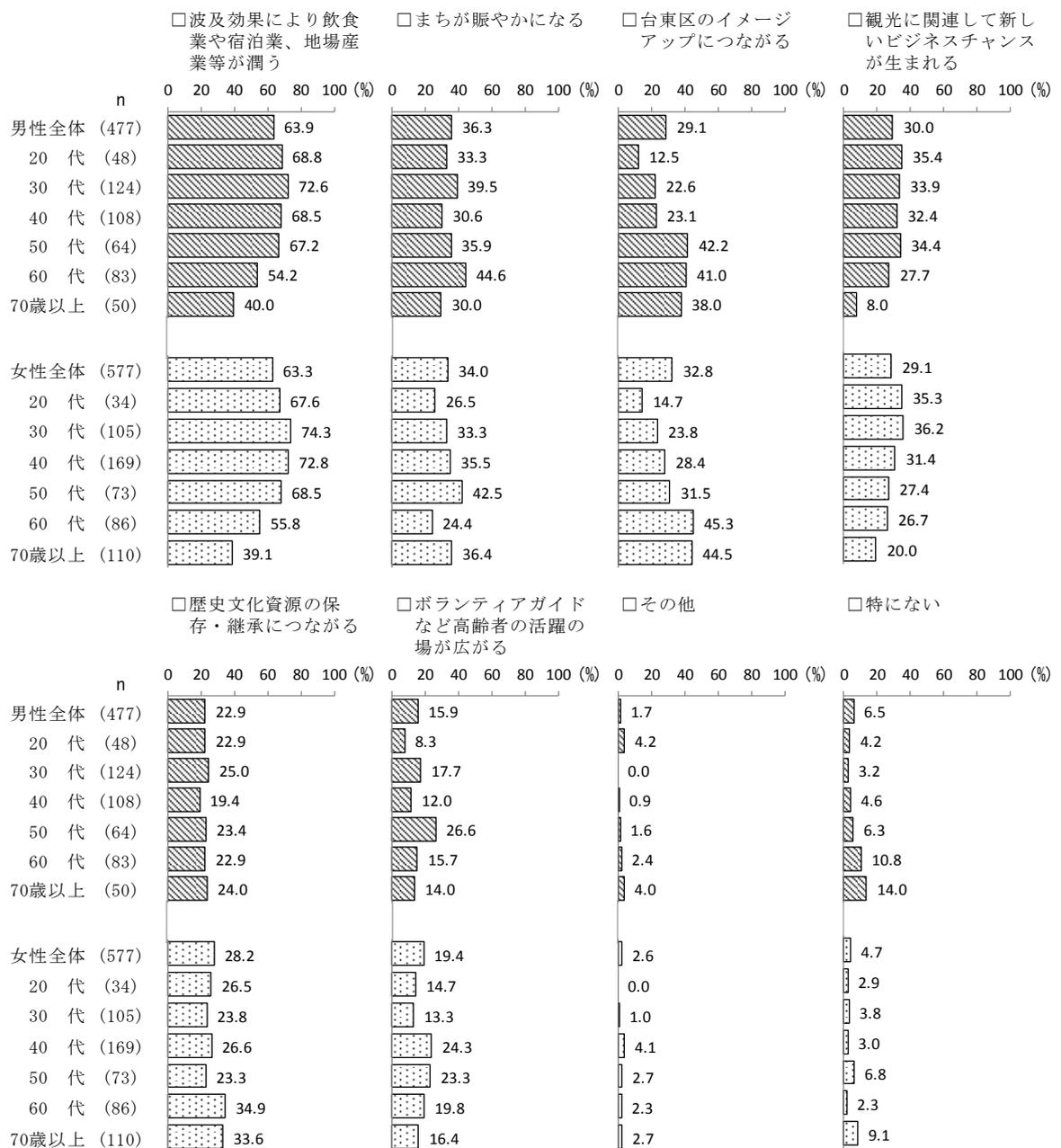


観光客が訪れることで期待するプラスの効果は、「波及効果により飲食業や宿泊業、地場産業等が潤う」(63.6%)が6割を超え最も多く、次いで「まちが賑やかになる」(35.0%)、「台東区のイメージアップにつながる」(31.1%)、「観光に関連して新しいビジネスチャンスが生まれる」(29.5%)、「歴史文化資源の保存・継承につながる」(25.8%)となっている。(図4-2-1)

性別でみると、「歴史文化資源の保存・継承につながる」は女性（28.2%）が男性（22.9%）より 5.3 ポイント高くなっている。「台東区のイメージアップにつながる」は女性（32.8%）が男性（29.1%）より 3.7 ポイント、「ボランティアガイドなど高齢者の活躍の場が広がる」は女性（19.4%）が男性（15.9%）より 3.5 ポイント、それぞれ高くなっている。

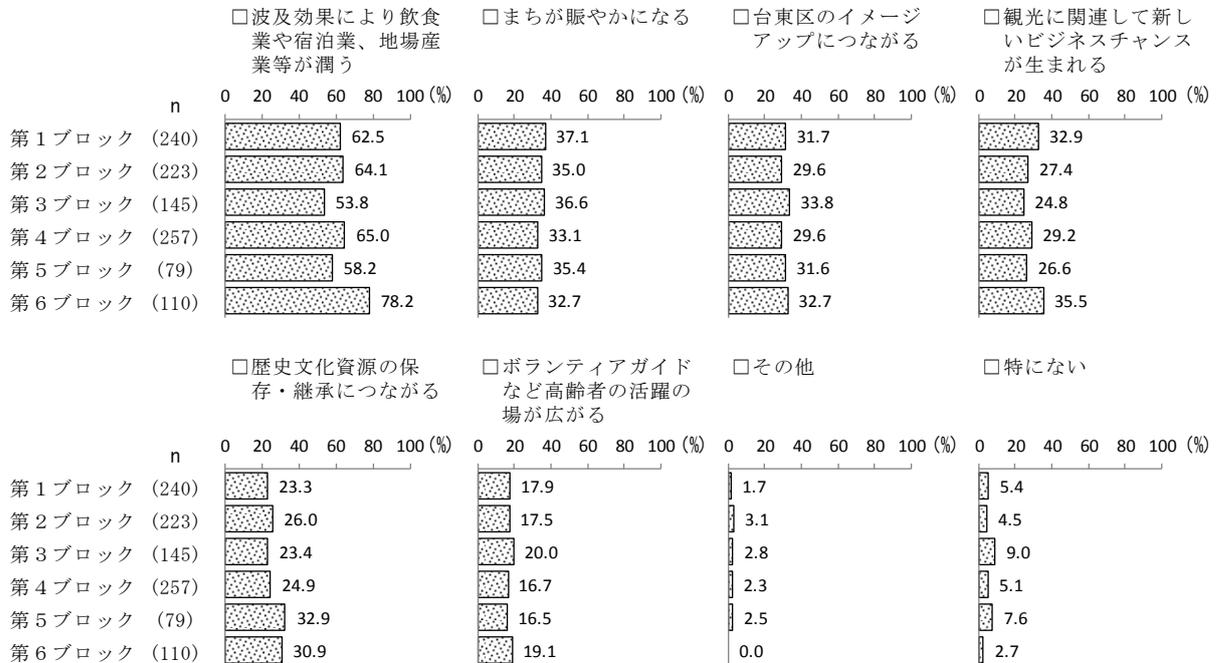
性・年代別でみると、「波及効果により飲食業や宿泊業、地場産業等が潤う」は男性 30 代（72.6%）、女性 30 代（74.3%）、女性 40 代（72.8%）で 7 割台と多くなっている。「まちが賑やかになる」は男性 60 代（44.6%）、女性 50 代（42.5%）で 4 割台と多くなっている。「台東区のイメージアップにつながる」は女性 60 代（45.3%）、女性 70 歳以上（44.5%）で 4 割半ば、男性 50 代（42.2%）、男性 60 代（41.0%）で 4 割を超え、それぞれ多くなっている。（図 4-2-2）

図 4-2-2 観光客が訪れることで期待するプラスの効果－性別、性・年代別



地区別にみると、「波及効果により飲食業や宿泊業、地場産業等が潤う」は第6ブロック(78.2%)で8割近くと多くなっている。「観光に関連して新しいビジネスチャンスが生まれる」は第6ブロック(35.5%)で3割半ば、「歴史文化資源の保存・継承につながる」は第5ブロック(32.9%)、第6ブロック(30.9%)で3割台と、それぞれ多くなっている。(図4-2-3)

図4-2-3 観光客が訪れることで期待するプラスの効果—地区別

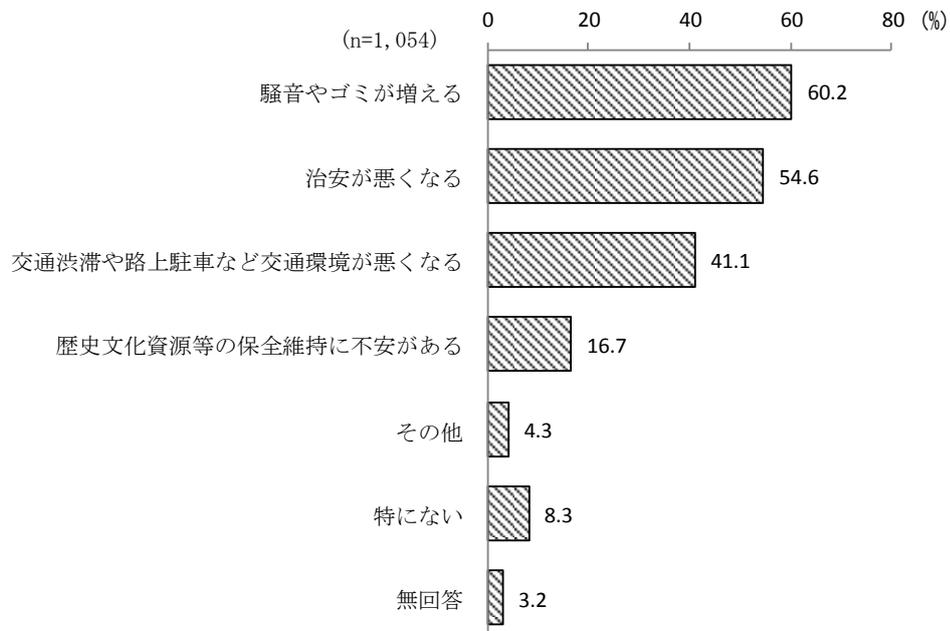


4-3 観光客が訪れることで心配するマイナスの影響

「騒音やゴミが増える」が6割

問13 観光客が訪れることで心配するマイナスの影響として、どのようなことが挙げられると思いますか。(〇はいくつでも)

図4-3-1

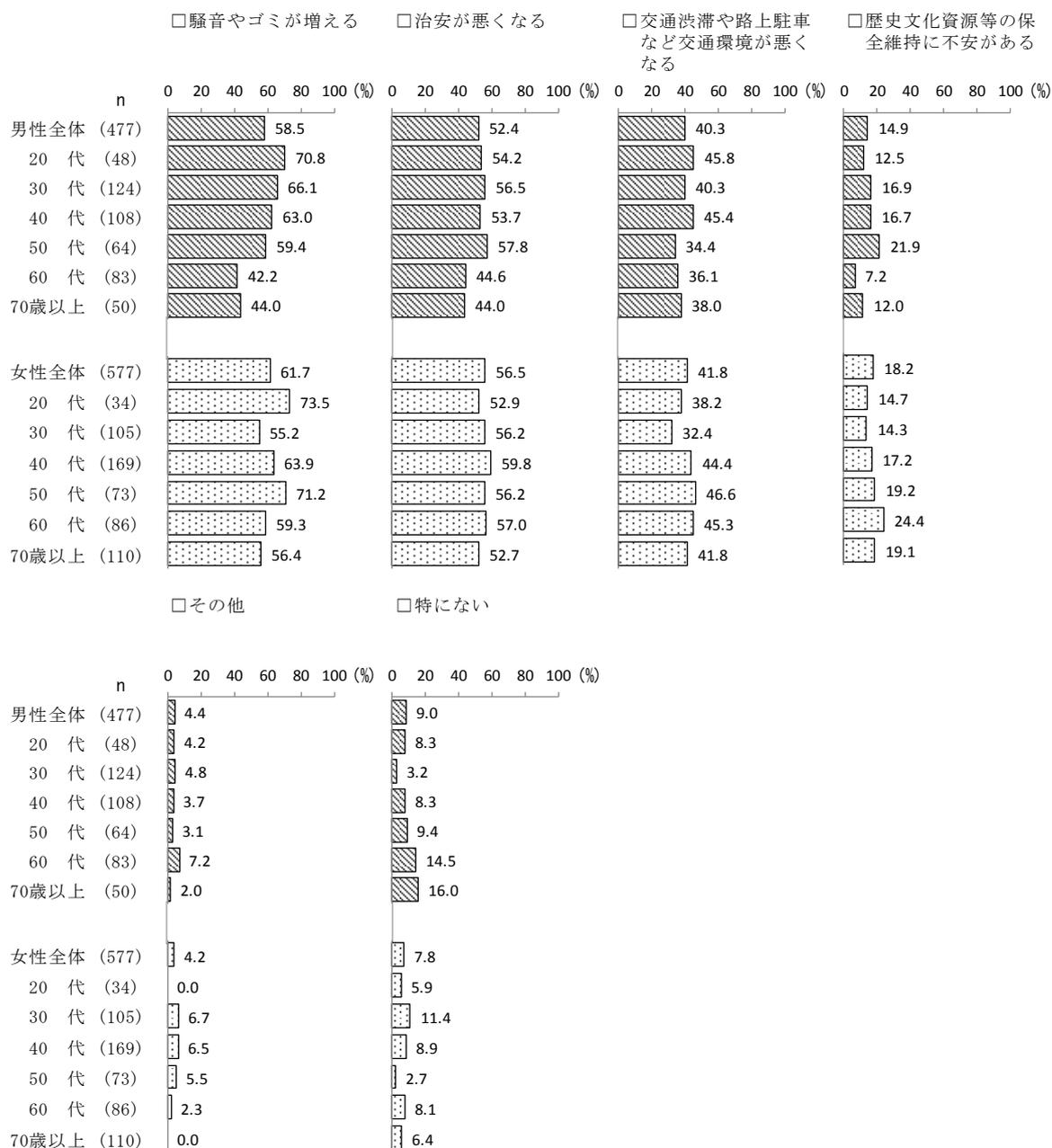


観光客が訪れることで心配するマイナスの影響は、「騒音やゴミが増える」(60.2%)が6割と最も多く、次いで「治安が悪くなる」(54.6%)、「交通渋滞や路上駐車など交通環境が悪くなる」(41.1%)、「歴史文化資源等の保全維持に不安がある」(16.7%)となっている。(図4-3-1)

性別でみると、「治安が悪くなる」は女性（56.5%）が男性（52.4%）より 4.1 ポイント高くなっている。「歴史文化資源等の保全維持に不安がある」は女性（18.2%）が男性（14.9%）より 3.3 ポイント、「騒音やゴミが増える」は女性（61.7%）が男性（58.5%）より 3.2 ポイント、それぞれ高くなっている。

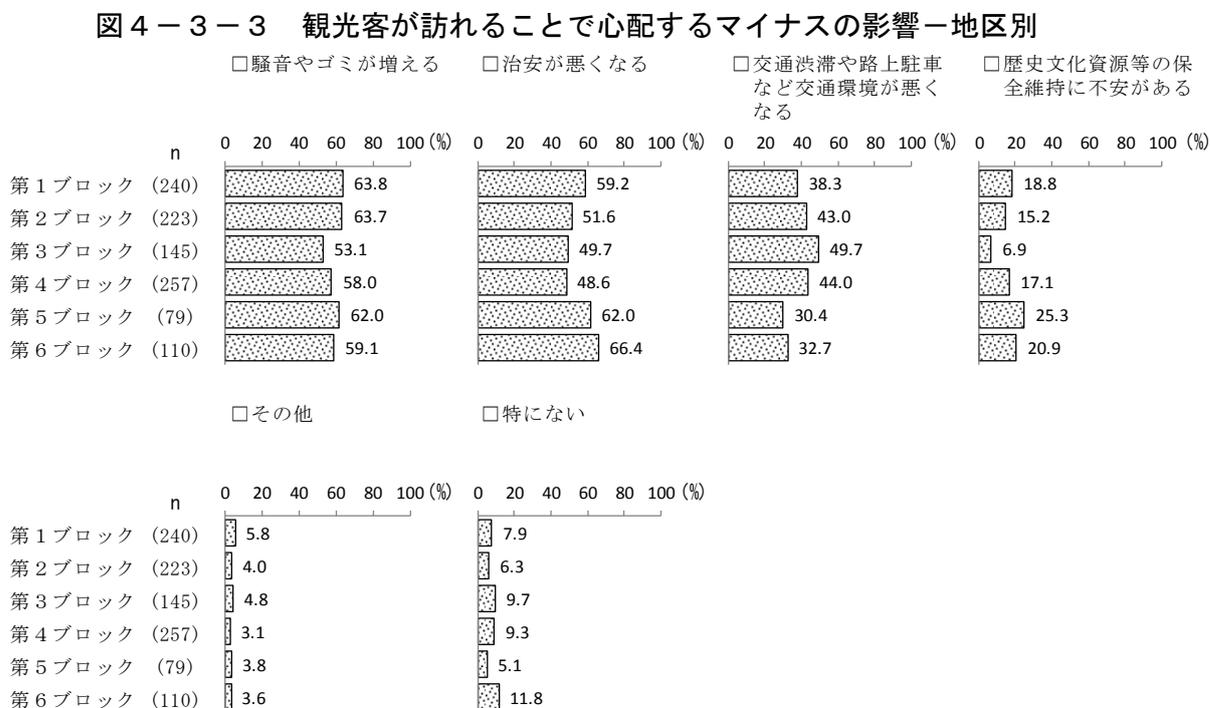
性・年代別でみると、「騒音やゴミが増える」は男性 20 代（70.8%）、女性 20 代（73.5%）、女性 50 代（71.2%）で 7 割台と多くなっている。「治安が悪くなる」は男性 60 代と 70 歳以上を除いて 5 割台となっている。「交通渋滞や路上駐車など交通環境が悪くなる」は男性の 40 代以下と女性の 40 代以上で 4 割台となっている。（図 4-3-2）

図 4-3-2 観光客が訪れることで心配するマイナスの影響—性別、性・年代別



地区別にみると、「治安が悪くなる」は第6ブロック（66.4%）で6割半ばと多くなっている。「交通渋滞や路上駐車など交通環境が悪くなる」は第3ブロック（49.7%）で5割、「歴史文化資源等の保全維持に不安がある」は第5ブロック（25.3%）で2割半ばと、それぞれ多くなっている。

(図4-3-3)

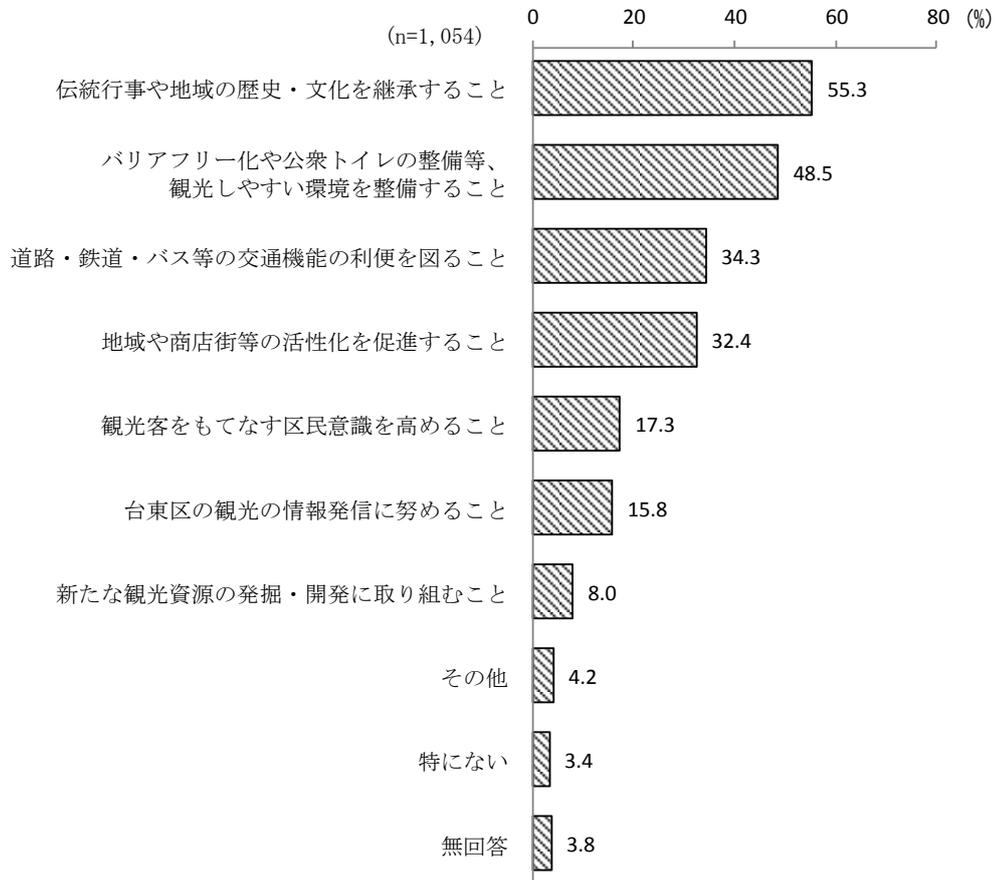


4-4 観光振興の上で重要なこと

「伝統行事や地域の歴史・文化を継承すること」が5割半ば

問14 台東区の観光を振興する上で重要なことは何だと思えますか。(○は3つまで)

図4-4-1



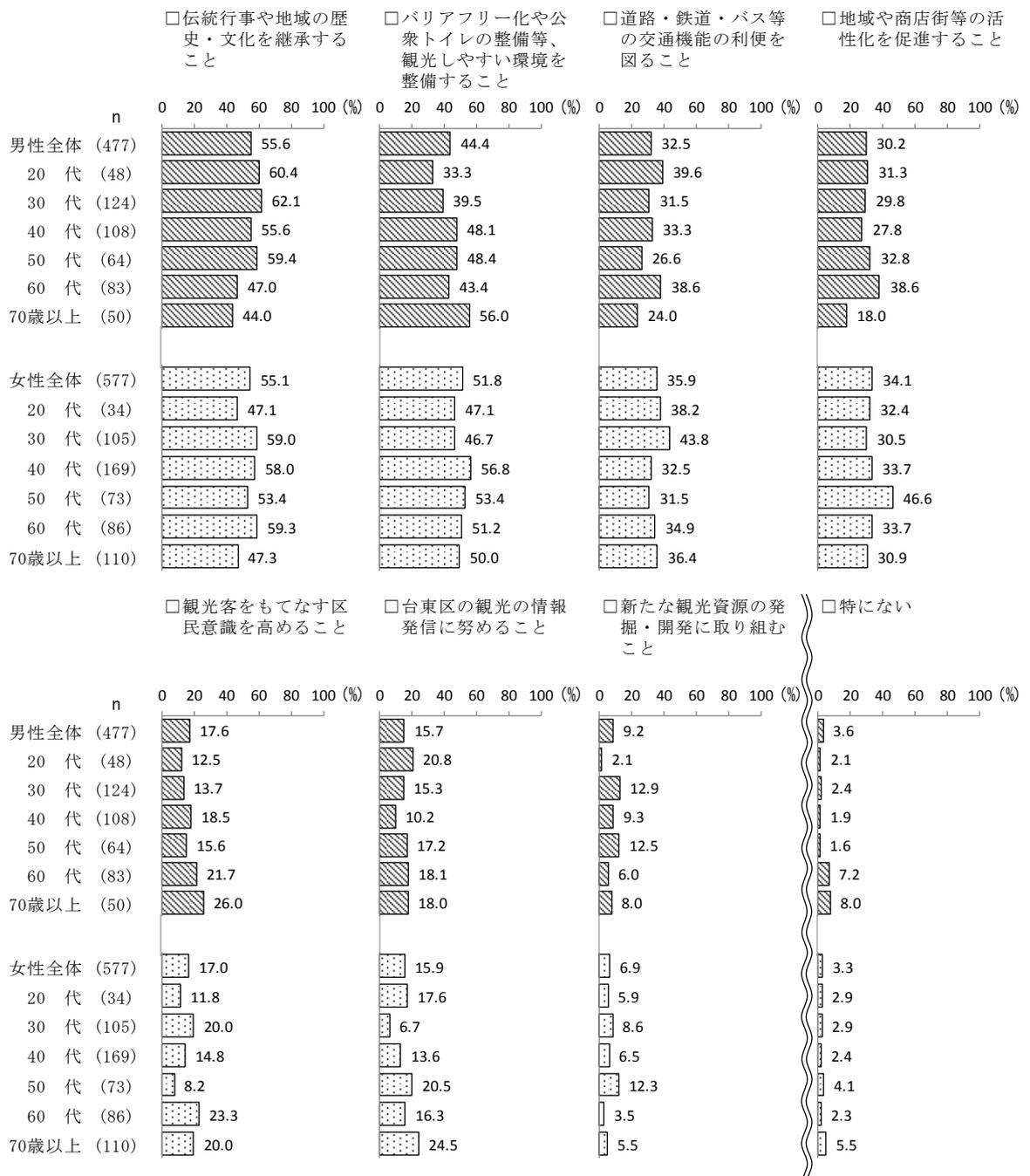
観光振興の上で重要なことは、「伝統行事や地域の歴史・文化を継承すること」(55.3%)が5割半ばと最も多く、次いで「バリアフリー化や公衆トイレの整備等、観光しやすい環境を整備すること」(48.5%)、「道路・鉄道・バス等の交通機能の利便を図ること」(34.3%)、「地域や商店街等の活性化を促進すること」(32.4%)となっている。(図4-4-1)

性別でみると、「バリアフリー化や公衆トイレの整備等、観光しやすい環境を整備すること」は女性（51.8%）が男性（44.4%）より 7.4 ポイント高くなっている。「地域や商店街等の活性化を促進すること」は女性（34.1%）が男性（30.2%）より 3.9 ポイント、「道路・鉄道・バス等の交通機能の利便を図ること」は女性（35.9%）が男性（32.5%）より 3.4 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別でみると、「バリアフリー化や公衆トイレの整備等、観光しやすい環境を整備すること」は男性 70 歳以上（56.0%）、女性 40 代（56.8%）で 5 割半ば、「道路・鉄道・バス等の交通機能の利便を図ること」は女性 30 代（43.8%）で 4 割を超え、それぞれ多くなっている。

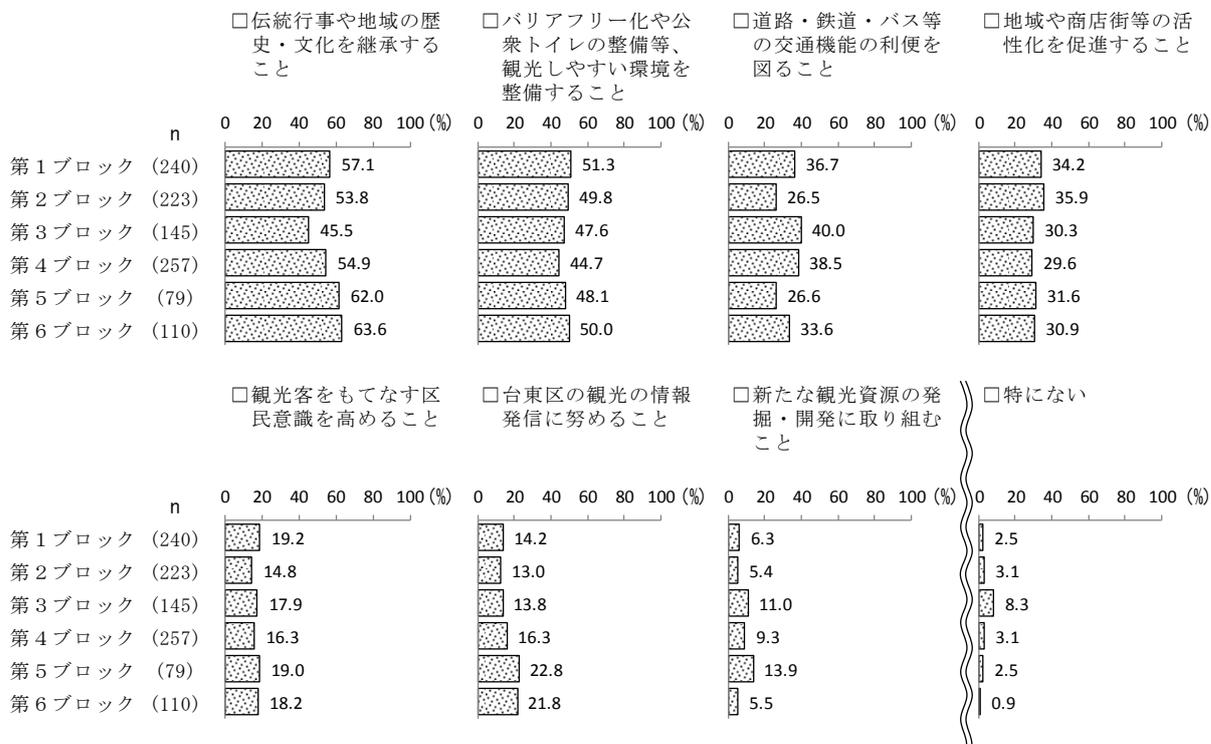
(図 4-4-2)

図 4-4-2 観光振興の上で重要なことー性別、性・年代別（上位 7 位+「特にない」）



地区別にみると、「伝統行事や地域の歴史・文化を継承すること」は第5ブロック（62.0%）、第6ブロック（63.6%）で6割を超え多くなっている。「道路・鉄道・バス等の交通機能の利便を図ること」は第3ブロック（40.0%）で4割、「台東区の観光の情報発信に努めること」は第5ブロック（22.8%）、第6ブロック（21.8%）で2割を超え、それぞれ多くなっている。（図4-4-3）

図4-4-3 観光振興の上で重要なこと一地区別（上位7位+「特にない」）

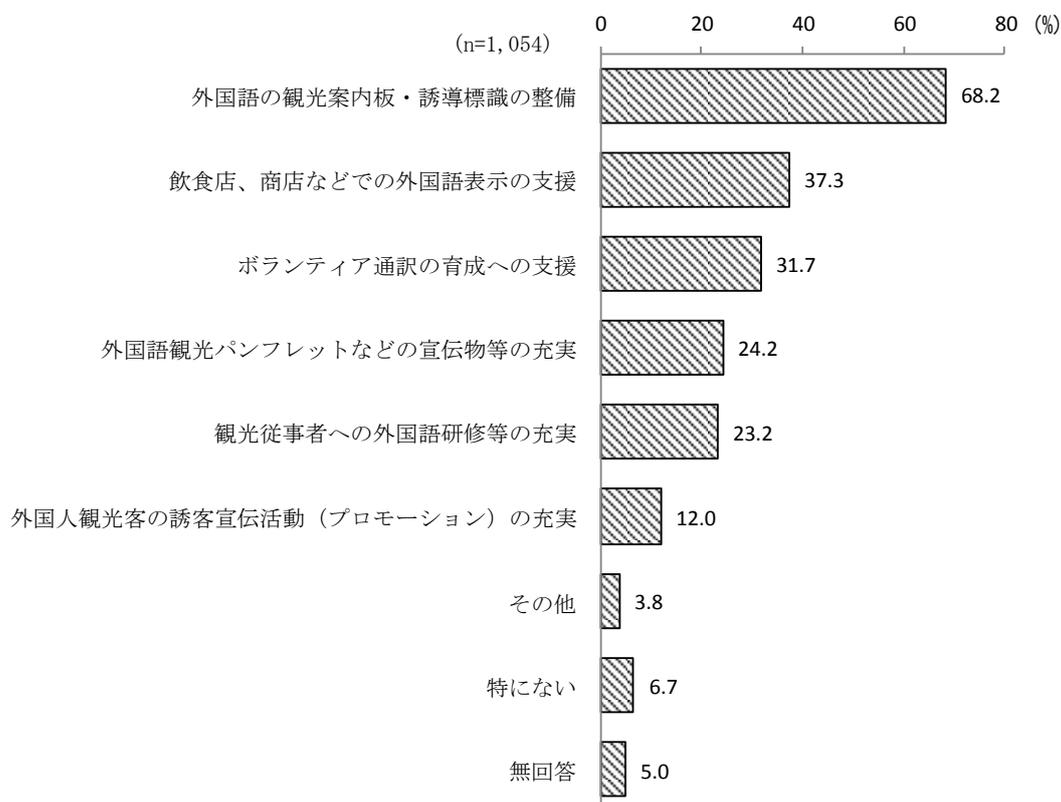


4-5 外国人観光客の増加に対する取り組み

「外国語の観光案内板・誘導標識の整備」が7割近く

問15 2020年東京大会に向けて、区内の外国人観光客が増加する傾向を踏まえ、区はどのような取り組みを重点的に進めるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

図4-5-1

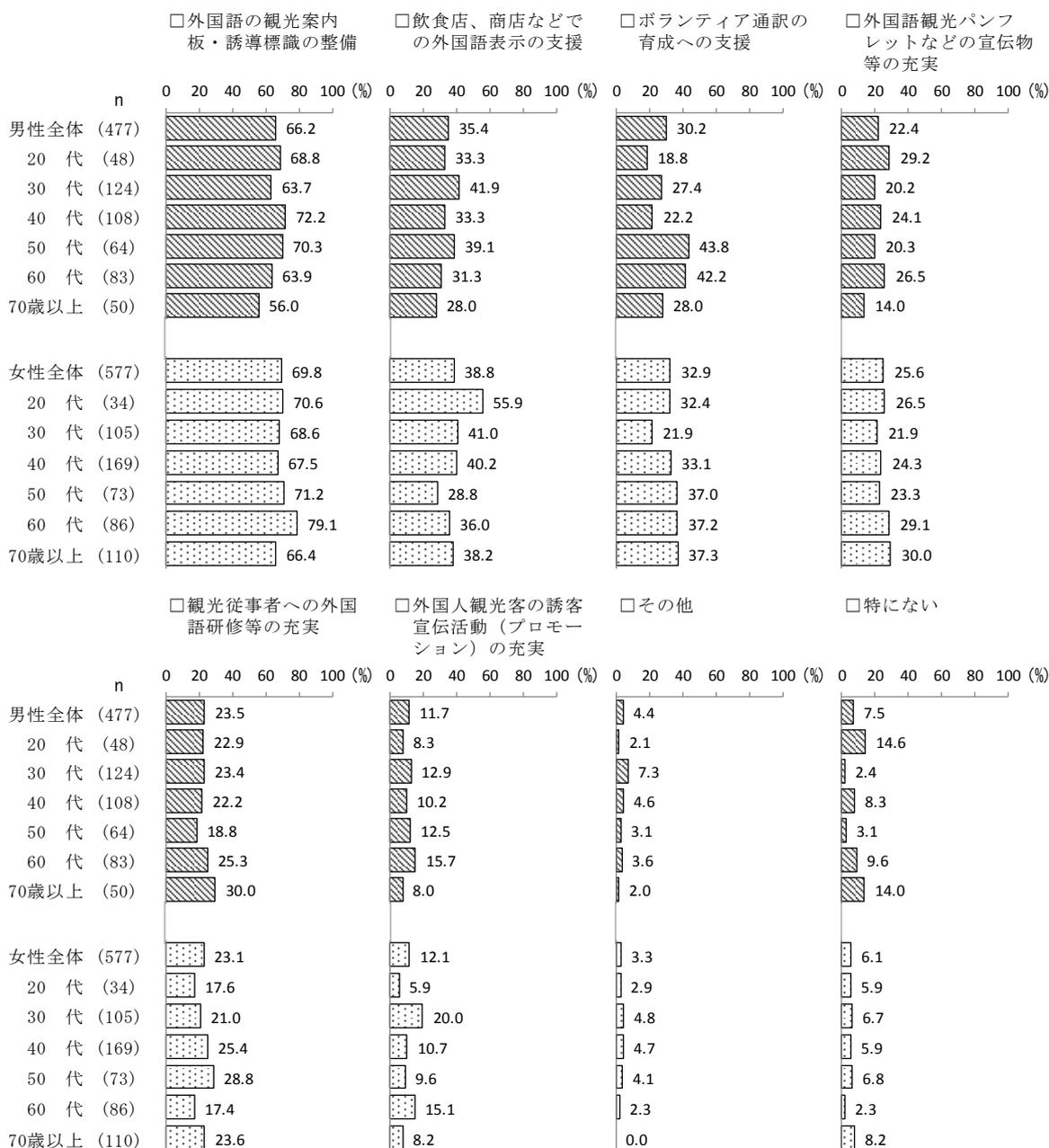


外国人観光客の増加に対する取り組みは、「外国語の観光案内板・誘導標識の整備」(68.2%)が7割近くと最も多く、次いで「飲食店、商店などでの外国語表示の支援」(37.3%)、「ボランティア通訳の育成への支援」(31.7%)、「外国語観光パンフレットなどの宣伝物等の充実」(24.2%)、「観光従事者への外国語研修等の充実」(23.2%)となっている。(図4-5-1)

性別でみると、「外国語の観光案内板・誘導標識の整備」は女性（69.8%）が男性（66.2%）より3.6ポイント高くなっている。「飲食店、商店などでの外国語表示の支援」は女性（38.8%）が男性（35.4%）より3.4ポイント、「外国語観光パンフレットなどの宣伝物等の充実」は女性（25.6%）が男性（22.4%）より3.2ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別でみると、「外国語の観光案内板・誘導標識の整備」は女性60代（79.1%）でほぼ8割と多くなっている。「飲食店、商店などでの外国語表示の支援」は女性20代（55.9%）で5割半ばと多くなっている。「ボランティア通訳の育成への支援」は男性50代（43.8%）、男性60代（42.2%）で4割を超え多くなっている。（図4-5-2）

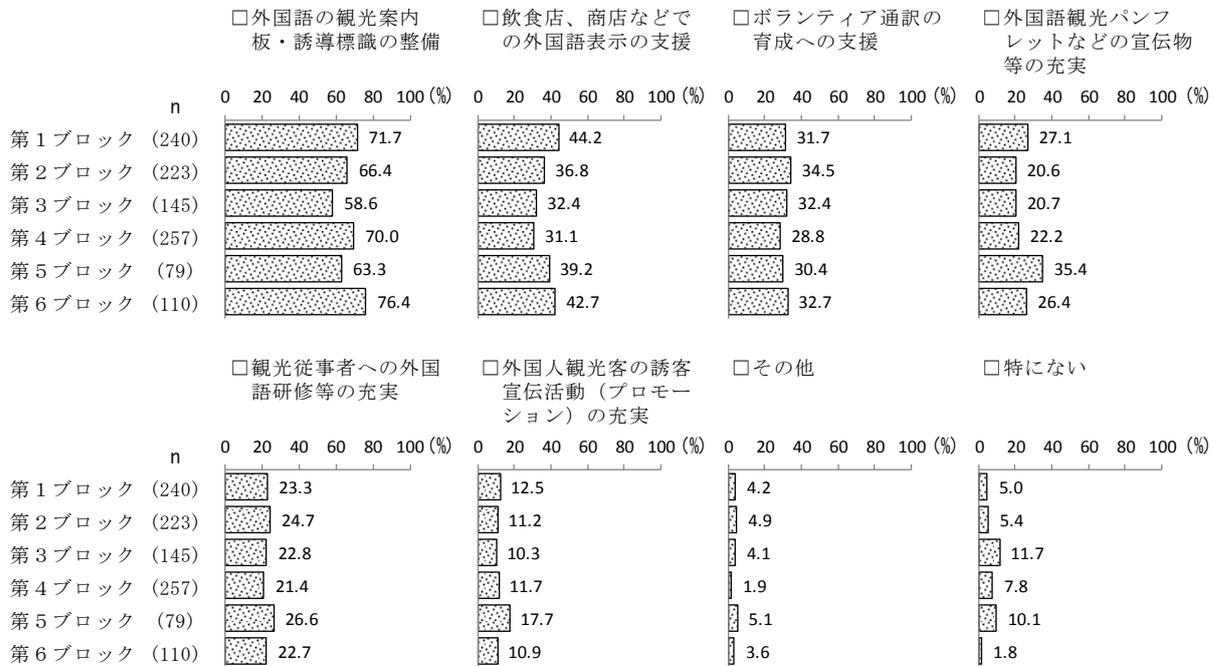
図4-5-2 外国人観光客の増加に対する取り組み—性別、性・年代別



地区別にみると、「外国語の観光案内板・誘導標識の整備」は第1ブロック（71.7%）、第4ブロック（70.0%）、第6ブロック（76.4%）で7割台と多くなっている。「飲食店、商店などでの外国語表示の支援」は第1ブロック（44.2%）、第6ブロック（42.7%）で4割台、「外国語観光パンフレットなどの宣伝物等の充実」は第5ブロック（35.4%）で3割半ばと、それぞれ多くなっている。

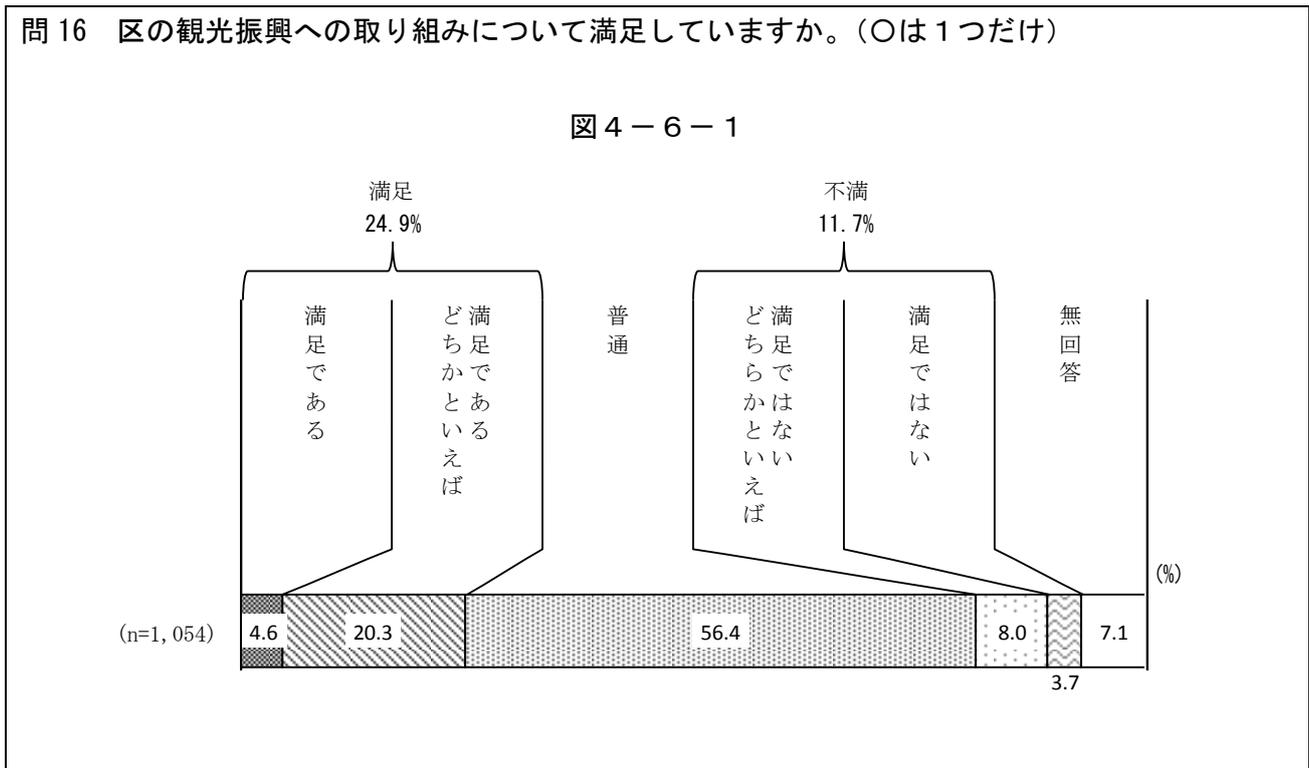
(図4-5-3)

図4-5-3 外国人観光客の増加に対する取り組み—地区別



4-6 区の観光振興への取り組みの満足度

「普通」が5割半ば

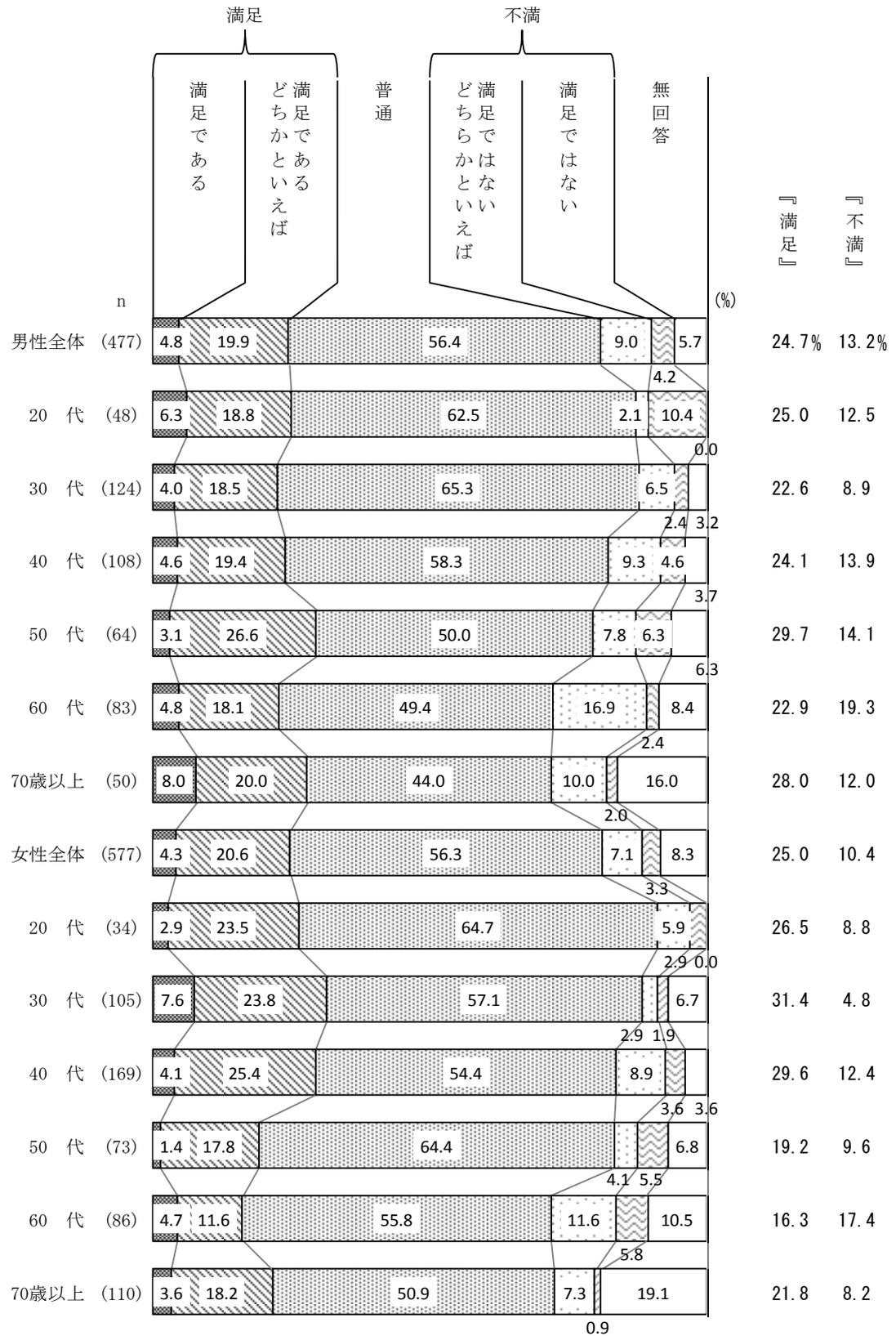


区の観光振興への取り組みの満足度は、「普通」(56.4%)が5割半ばで最も多く、「満足である」(4.6%)と「どちらかといえば満足である」(20.3%)を合わせた『満足』(24.9%)が2割半ばとなっている。一方、「満足ではない」(3.7%)と「どちらかといえば満足ではない」(8.0%)を合わせた『不満』(11.7%)が1割を超えている。(図4-6-1)

性別でみると、『不満』は男性(13.2%)が女性(10.4%)より2.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『満足』は女性30代(31.4%)で3割を超え最も多く、次いで男性50代(29.7%)、女性40代(29.6%)であり、女性60代(16.3%)で1割半ばと最も少なくなっている。『不満』は男性60代(19.3%)でほぼ2割と最も多く、次いで女性60代(17.4%)、男性50代(14.1%)であり、女性30代(4.8%)で1割未満と最も少なくなっている。(図4-6-2)

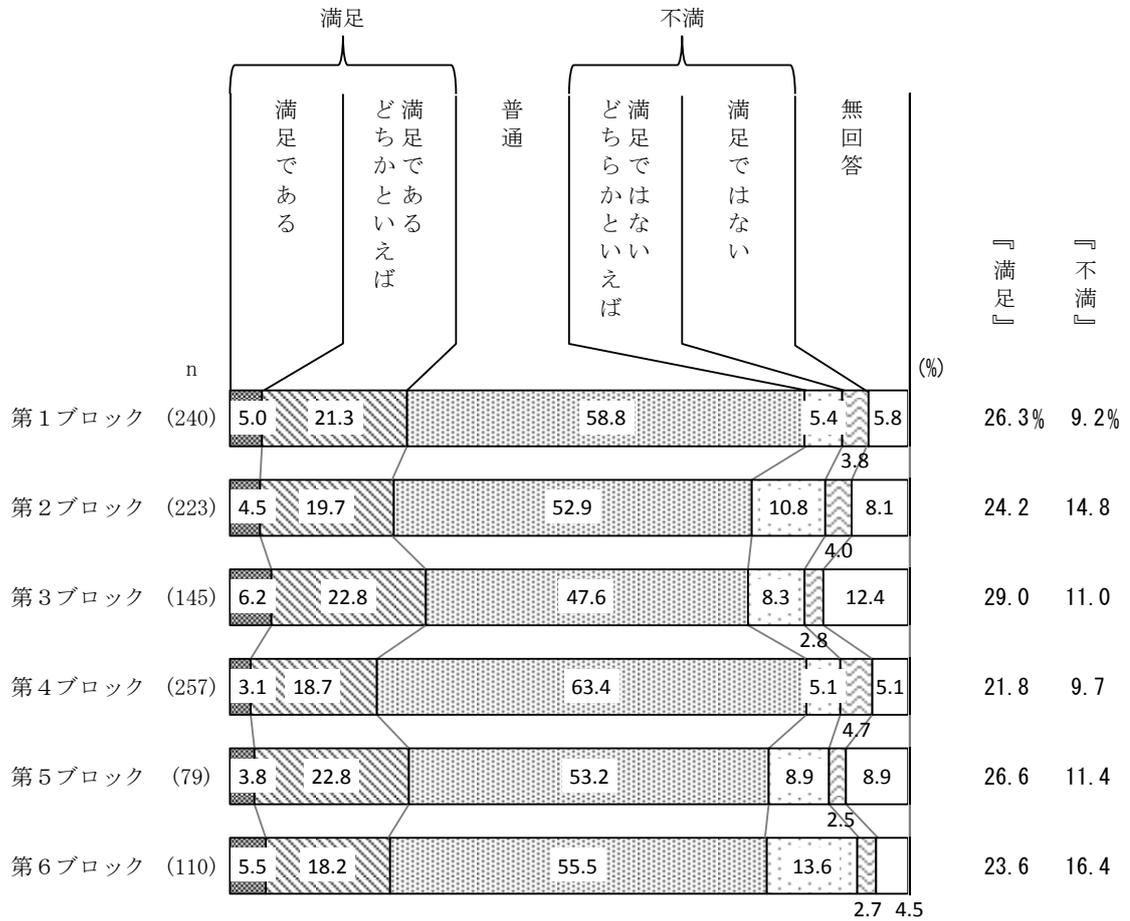
図 4-6-2 区の観光振興への取り組みの満足度—性別、性・年代別



地区別にみると、『満足』は第3ブロック（29.0%）でほぼ3割と最も多く、次いで第5ブロック（26.6%）、第1ブロック（26.3%）となっている。『不満』は第6ブロック（16.4%）で1割半ばと最も多く、次いで第2ブロック（14.8%）、第5ブロック（11.4%）となっている。

(図4-6-3)

図4-6-3 区の観光振興への取り組みの満足度—地区別



5. 浅草文化観光センター

浅草文化観光センターは平成24年4月20日にリニューアルオープンしてから3年が経過いたしました。当センターは、台東区を訪れる観光客向けの施設ではございますが、会議室、展望テラスなど、区民の皆様にもご利用いただける施設となっております。

今回の調査では、浅草文化観光センターについて、区民の皆様の利用状況について、また、当センターへの率直なご意見をお伺いいたしました。利用されたことがある方が2割近く、当センターをご存知ない方が4割ということが分かりました。

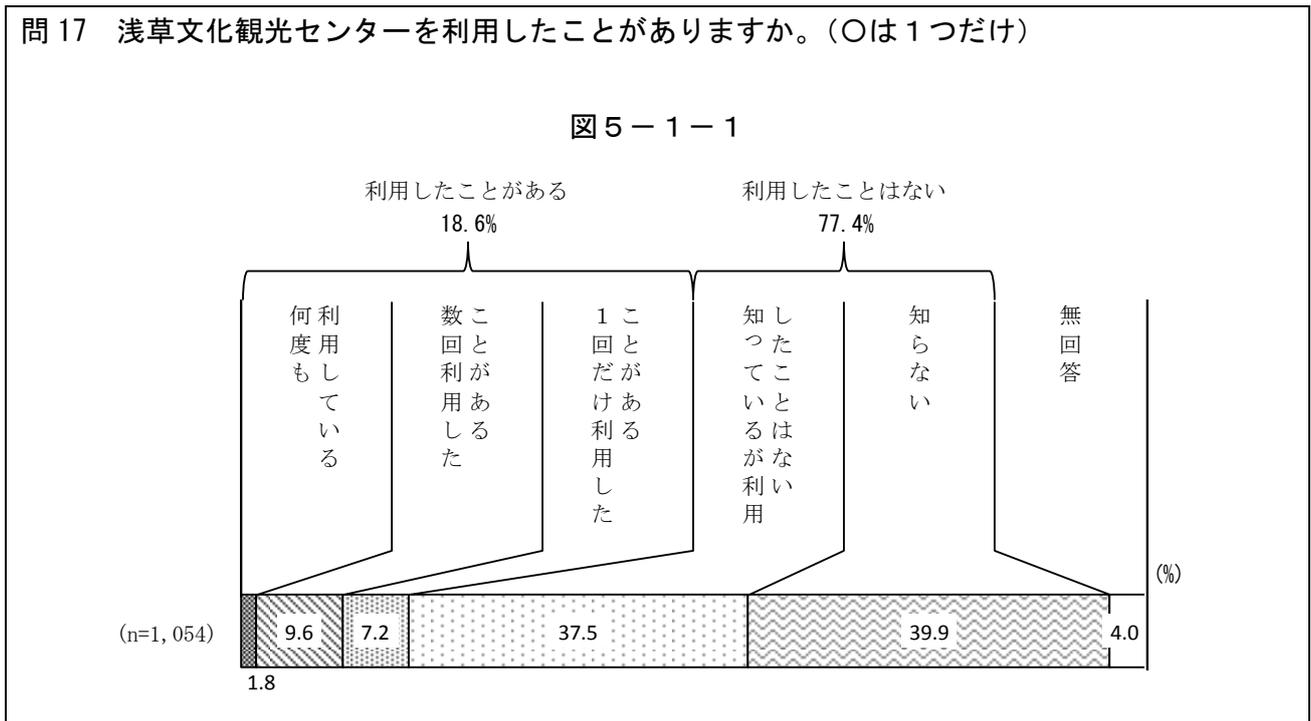
この調査結果は、施設を運営していく上での貴重な資料として活用してまいります。

(浅草文化観光センター)

5-1 浅草文化観光センターの利用状況

「知らない」が4割

問17 浅草文化観光センターを利用したことがありますか。(○は1つだけ)

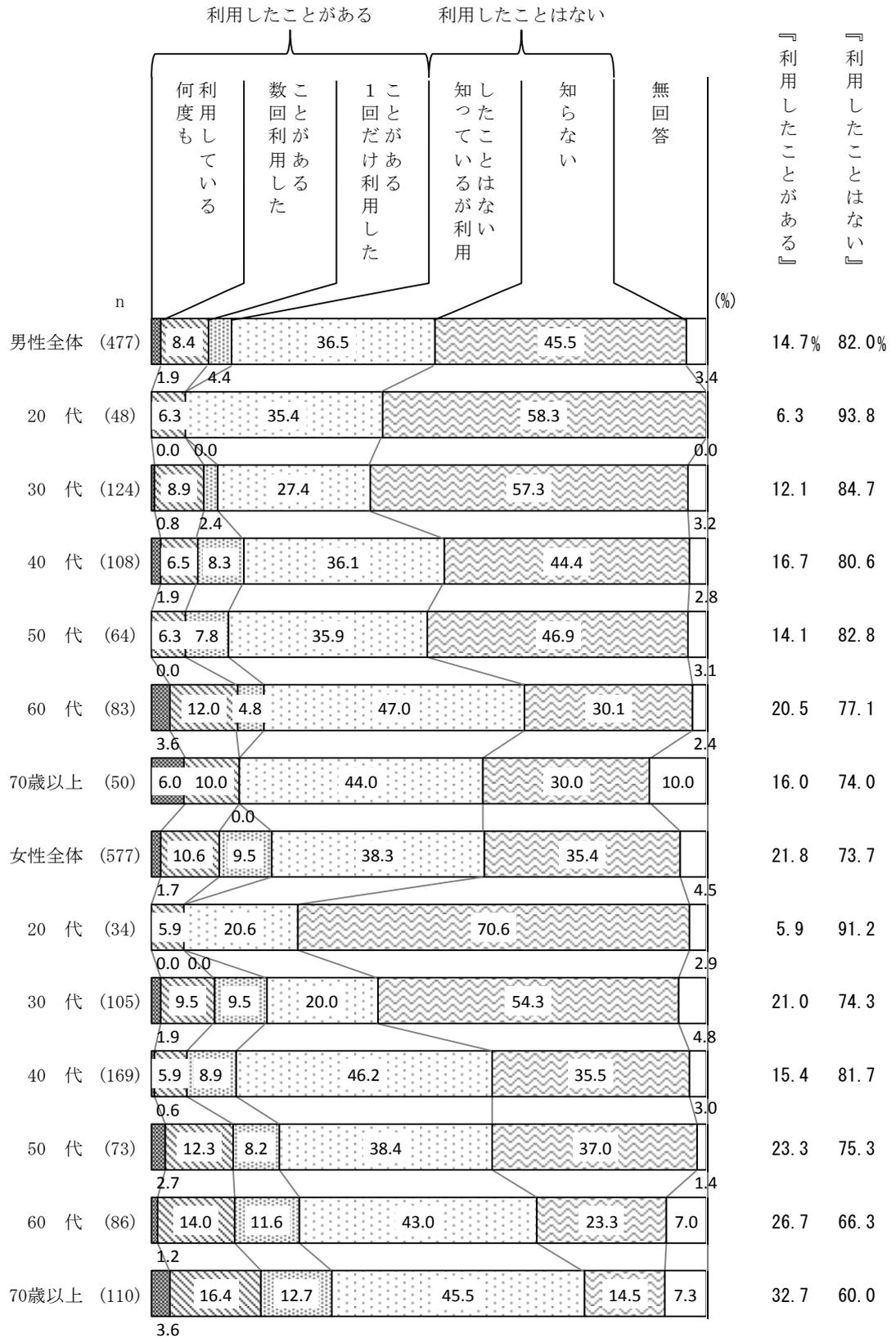


浅草文化観光センターの利用状況は、「知らない」(39.9%)が4割で最も多く、「知っているが利用したことはない」(37.5%)を合わせた『利用したことはない』(77.4%)が8割近くとなっている。一方、「何回も利用している」(1.8%)と「数回利用したことがある」(9.6%)と「1回だけ利用したことがある」(7.2%)を合わせた『利用したことがある』(18.6%)は2割近くとなっている。(図5-1-1)

性別でみると、『利用したことがある』は女性(21.8%)が2割を超え、男性(14.7%)より7.1ポイント高くなっている。『利用したことはない』は男性(82.0%)が8割を超え、女性(73.7%)より8.3ポイント高くなっている。

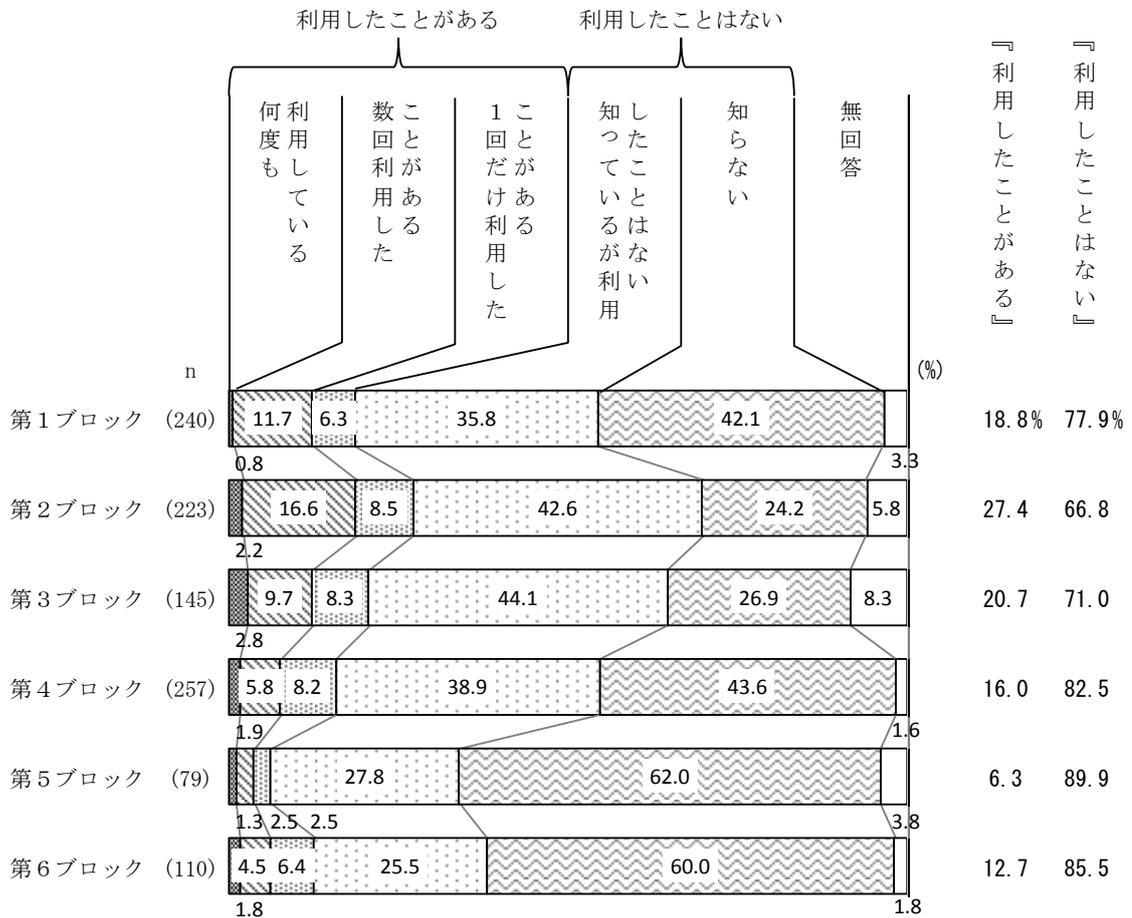
性・年代別でみると、『利用したことがある』は女性70歳以上(32.7%)で3割を超え最も多く、次いで女性60代(26.7%)、女性50代(23.3%)となっている。『利用したことはない』は男性20代(93.8%)で9割を超え最も多く、次いで女性20代(91.2%)、男性30代(84.7%)となっている。(図5-1-2)

図5-1-2 浅草文化観光センターの利用状況—性別、性・年代別



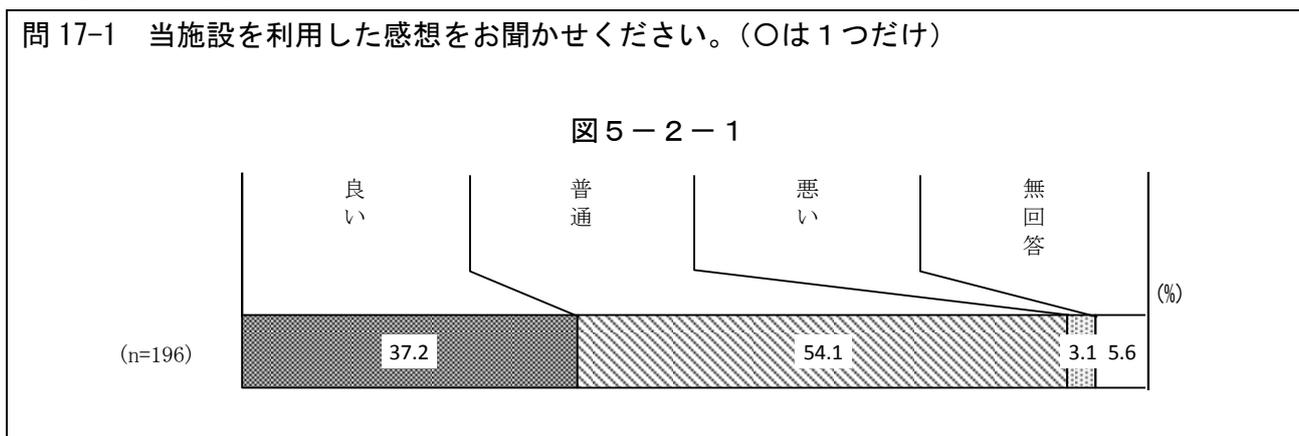
地区別にみると、『利用したことがある』は第2ブロック（27.4%）で3割近くと最も多く、次いで第3ブロック（20.7%）、第1ブロック（18.8%）となっている。『利用したことはない』は第5ブロック（89.9%）で9割と最も多く、次いで第6ブロック（85.5%）、第4ブロック（82.5%）となっている。（図5-1-3）

図5-1-3 浅草文化観光センターの利用状況—地区別



5-2 浅草文化観光センターを利用した感想

「普通」が5割半ば

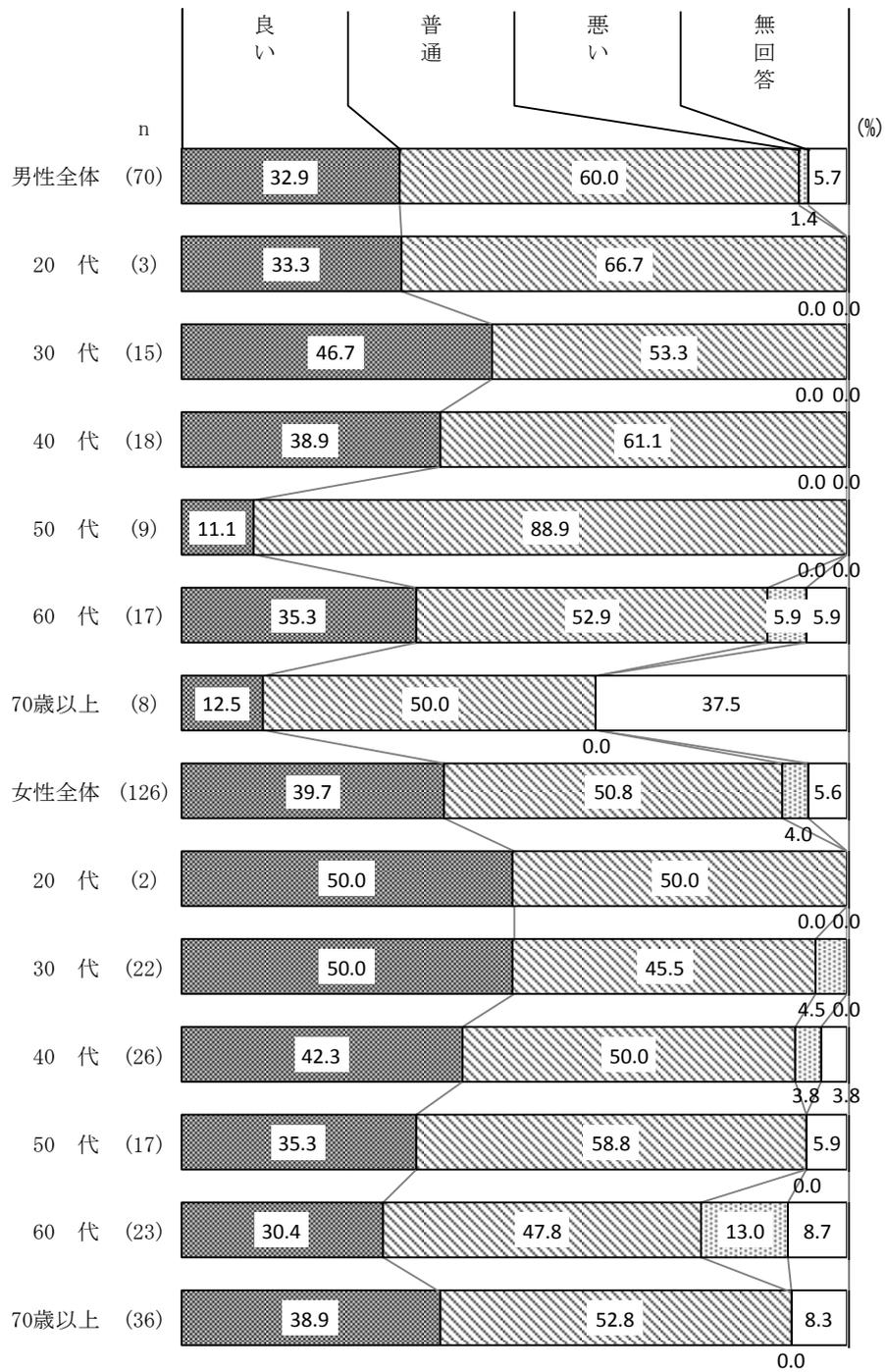


浅草文化観光センターを利用した感想は、「普通」(54.1%)が5割半ばと最も多く、「良い」(37.2%)が4割近く、「悪い」(3.1%)が1割未満となっている。(図5-2-1)

性別で見ると、「良い」は女性(39.7%)が4割で男性(32.9%)より6.8ポイント高くなっている。普通は男性(60.0%)が6割で、女性(50.8%)より9.2ポイント高くなっている。「悪い」は女性(4.0%)が男性(1.4%)より2.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「良い」は女性20代(50.0%)、女性30代(50.0%)でともに5割と最も多く、次いで男性30代(46.7%)となっている。「悪い」は女性60代(13.0%)で1割を超え最も多く、次いで男性60代(5.9%)、女性30代(4.5%)となっている。(図5-2-2)

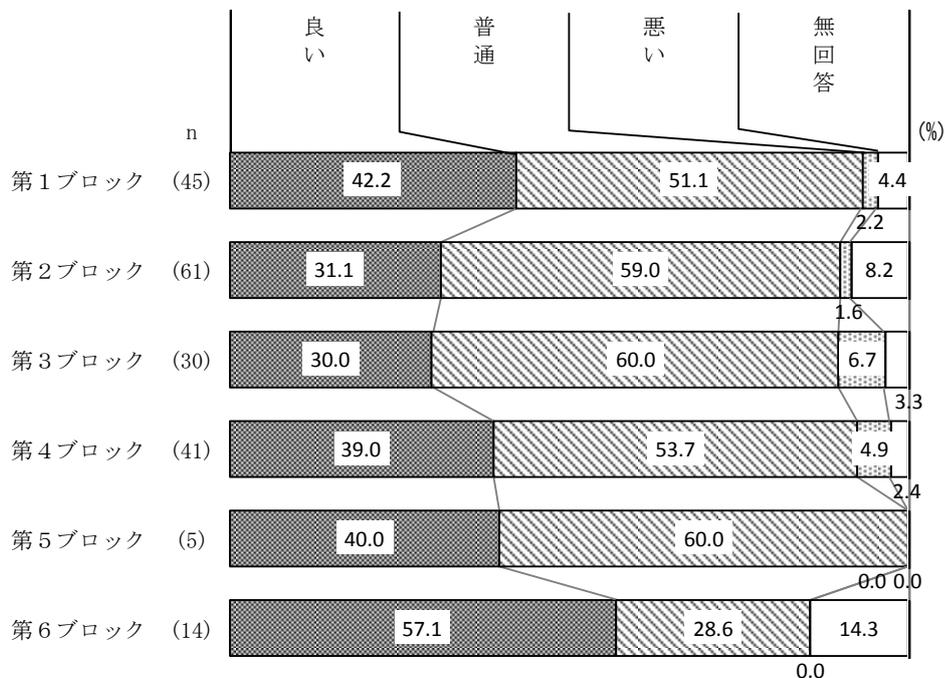
図5-2-2 浅草文化観光センターを利用した感想—性別、性・年代別



地区別にみると、「良い」は第6ブロック（57.1%）で6割近くと最も多く、次いで第1ブロック（42.2%）、第5ブロック（40.0%）となっている。「悪い」は第3ブロック（6.7%）で1割未満が最も多く、次いで第4ブロック（4.9%）となっている。「普通」は第3ブロック（60.0%）と第5ブロック（60.0%）でともに6割と最も多く、次いで第2ブロック（59.0%）となっている。

(図5-2-3)

図5-2-3 浅草文化観光センターを利用した感想—地区別



5-3 浅草文化観光センターへの意見

問 18 当施設に対してのご意見がございましたらお聞かせください。

(代表的な意見)

【施設の存在について】

- ・観光客が建物全体のデザインに興味をもってカメラを向けていました。区民の私も観光客同様にデザインは気に入っていますが、利用する立場になると館内の天井が低く圧迫感があり利用価値が少なくトイレだけ使わせていただいています。
- ・立地が良い。建築物のインパクトも良い。内容も分かりやすい。外国人スタッフを多く採用しており良い。来訪者(外国人)との通訳として利用させてもらった。又、案内書を添削してもらったりした。展示物、テーマ、期間ともに内容を精査しておりレベルが高い。台東区だけでなく東京のレベルの高い案内所となっている。
- ・観光客相手だと思うから地元の人達は余り利用しないと思う。センターの中もどうなっているかわからない。
- ・あまり施設の意味合いを理解できない。とても中途半端な印象。外国人が多く利用しているとは思えない。
- ・このセンターのことを知らない人が多くいると思います。もっとPRに努めてください。
- ・施設(建物)のデザインがどうも好きではない。不安感があるし、周りの景観と合っているようには思えない。
- ・「江戸下町伝統工芸館」は以前から知っており何度も利用したことがあるのですが「浅草文化観光センター」は恥ずかしながら今回初めて、その存在を知りました。せっかくの施設なので他施設との連携を強め一か所に行ったら区内全施設の位置や内容が分かるような案内や表示方法をとられてはいかがでしょうか。

【施設の設備について】

- ・トイレを何回か利用させていただきましたが清掃がゆきとどいており安心していくことができます。たまに担当の方を見かけることがあります。親切丁寧に接していただき感謝しております。パンフレット地図類も充実した内容だと思います。
- ・子供がいる人にとって授乳室があることがとても便利だと思います。
- ・トイレも多くきれいでした。仲見世もよくみえてよかったです。きれいになって本当に良かった。
- ・屋上のデッキの部分は、仲見世が見えて、とても素晴らしいですが、その他のスペースに無駄を感じています。
- ・最上階の眺望が良いだけ。展示室も暗くて興味をひかれる様な物はない。スペースをうめるだけの様に見える。エレベーターも遅いし外国人の団体さんが乗るとすぐいっぱいになる。階段も暗くて目が悪いので下りは特に怖い。
- ・基本的に健常者向けの施設だと感じた。ベビーカーで利用したが赤ちゃん子連れにあまり優しくない。
- ・エレベーターの容量が少ないうえに故障していた時の対応がひどく遅いのに驚いた。
- ・外から中の様子が分かりにくい。屋上とかとても素晴らしいのに、知らない人は入らないのでは。外見は派手だが一階エントランス(入口?)が狭い。

【利用内容について】

- theater を利用します。無料でちょっと一息つけて、知識も得られあまり混雑していない。こういう余裕のある施設をぜひ継続してください。
- 会議室を借りた事があるのですが、何の為のセンターか今一つ理解できない。観光案内所と同じ様に感じる。ホール（3Fだったか？）が何の為か理解できない。活用状況等をアピールして欲しい。そうでなければ存在の意味が伝わらない
- ことばや習慣の違う異文化の人々がもっとわかり易くそして気持ちよく訪れるような場所になって欲しい。わかり易いスッキリした誘導と少なくとも英語でガイドできるプロの人が必要。
- 子供がまだ授乳中だった時、こちらの施設の授乳室を利用し、快適に過ごせました。
- 掲示ものが沢山あり、まとまっていない。もう少し利用する側に立ってやったらいいと思う。

【その他】

- 時代、お客様の変化にもっとスピードをUPして、フレキシブルな考え方で対応すると良い、小規模だが良い商品や文化をもっと伝えたら良いと思う。
- これ以上観光客が増えれば、休むスペースも足りなくなる。誘致はほどほどに、マナーをお互いに守る様、設備投資をしすぎない様、オリンピックが終わった後の維持が大変なので、その後保育園、ホームとなる様な造り方もよいだろう。

6. スポーツ活動

今回の調査では、区民のスポーツ実施の状況についてお伺いしました。

過去1年間でスポーツを実施した方のなかで実際に行ったスポーツは、ウォーキング・散歩が60%で最も多く、ついで体操が30.5%と続きます。

また、スポーツを行った頻度では、スポーツ実施の基準となる週1回以上実施されている方の割合が57.8%であり、さらに週に3回以上実施されている方が2割を超えていました。一方、2割程度の方がスポーツの実施が月1回未満と回答しています。

スポーツや運動をしなかった理由で一番多かったものは、仕事や家事・育児が忙しく、時間がないからでした。週1回以上のスポーツ実施率で見ると、20代・30代の若年層が低いこと、また家族構成別では中学生以下の子供がいる家庭で低いことから、仕事や子育てを始める若年層の家庭に対するスポーツ事業の必要性が伺えます。

区では、子供を含む全世代に対するスポーツ習慣作りが期待できる、総合型地域スポーツクラブの振興や、幼児に対する運動教室を通じて、若年層の家庭へのスポーツ実施を働きかけてまいりたいと考えております。

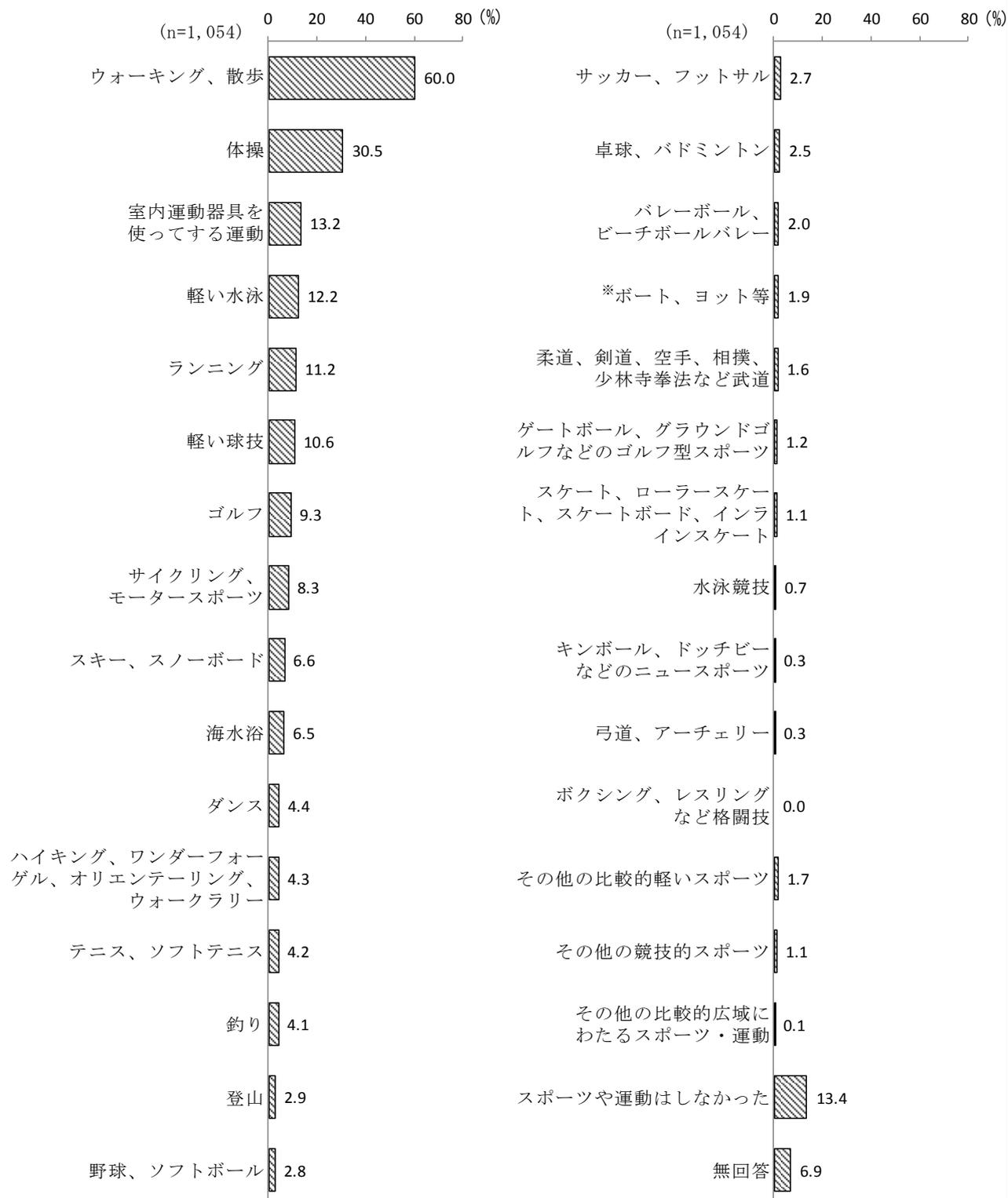
(教育委員会 青少年・スポーツ課)

6-1 この1年間に行ったスポーツや運動

「ウォーキング、散歩」が6割

問19 あなたが、この1年間に行ったスポーツや運動があれば、すべてお選びください。
(○はいくつでも)

図6-1-1



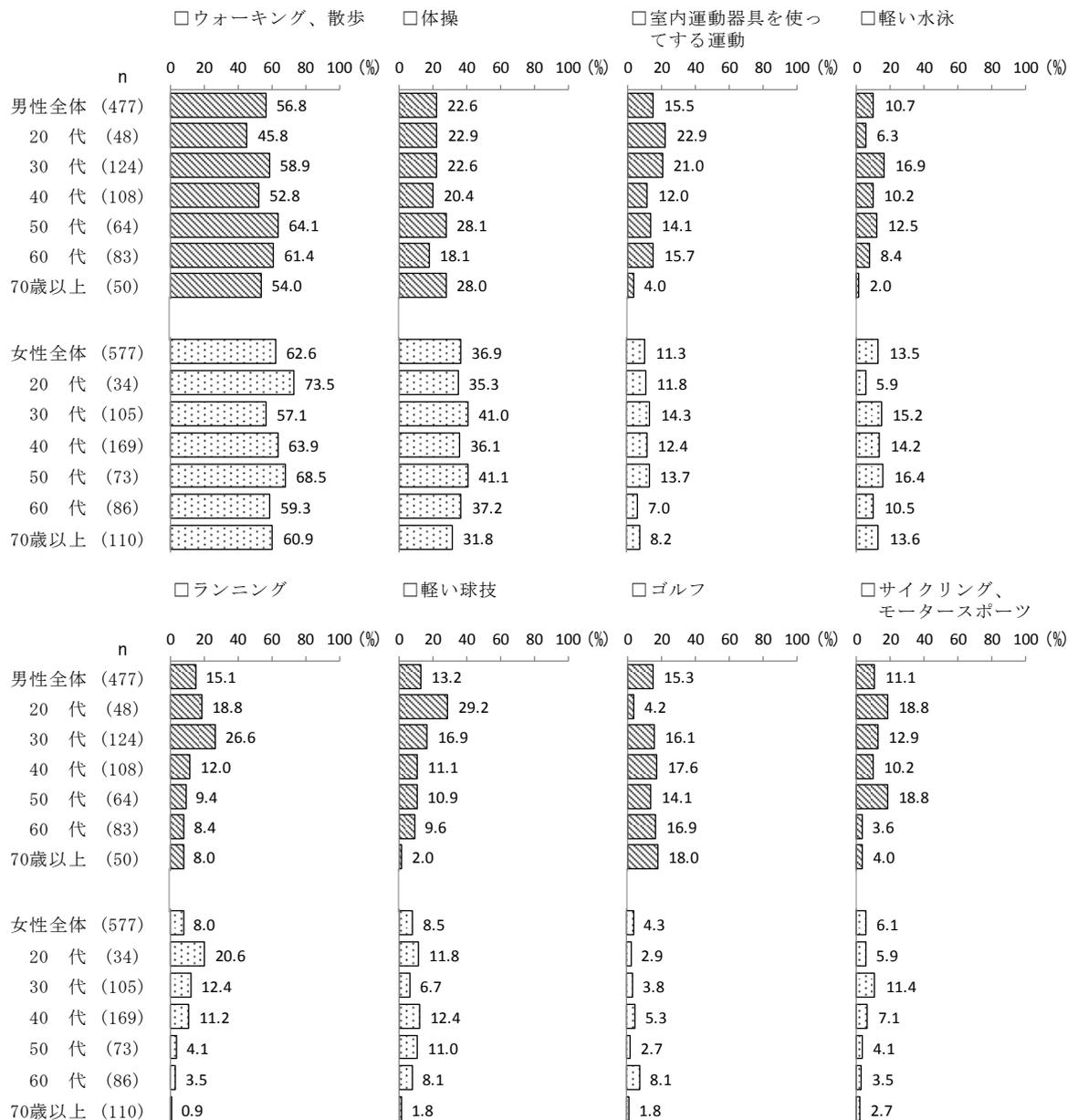
※「ボート、ヨット等」は「ボート、ヨット、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、ウィンドサーフィン、ボディボード」を省略した。

この1年間に行ったスポーツや運動は、「ウォーキング、散歩」(60.0%)が6割と最も多く、次いで「体操」(30.5%)、「室内運動器具を使ってする運動」(13.2%)、「軽い水泳」(12.2%)、「ランニング」(11.2%)、「軽い球技」(10.6%)となっている。一方、「スポーツや運動はしなかった」(13.4%)が1割を超えている。(図6-1-1)

性別でみると、「体操」は女性(36.9%)が男性(22.6%)より14.3ポイント高くなっている。「ゴルフ」は男性(15.3%)が女性(4.3%)より11.0ポイント高くなっている。

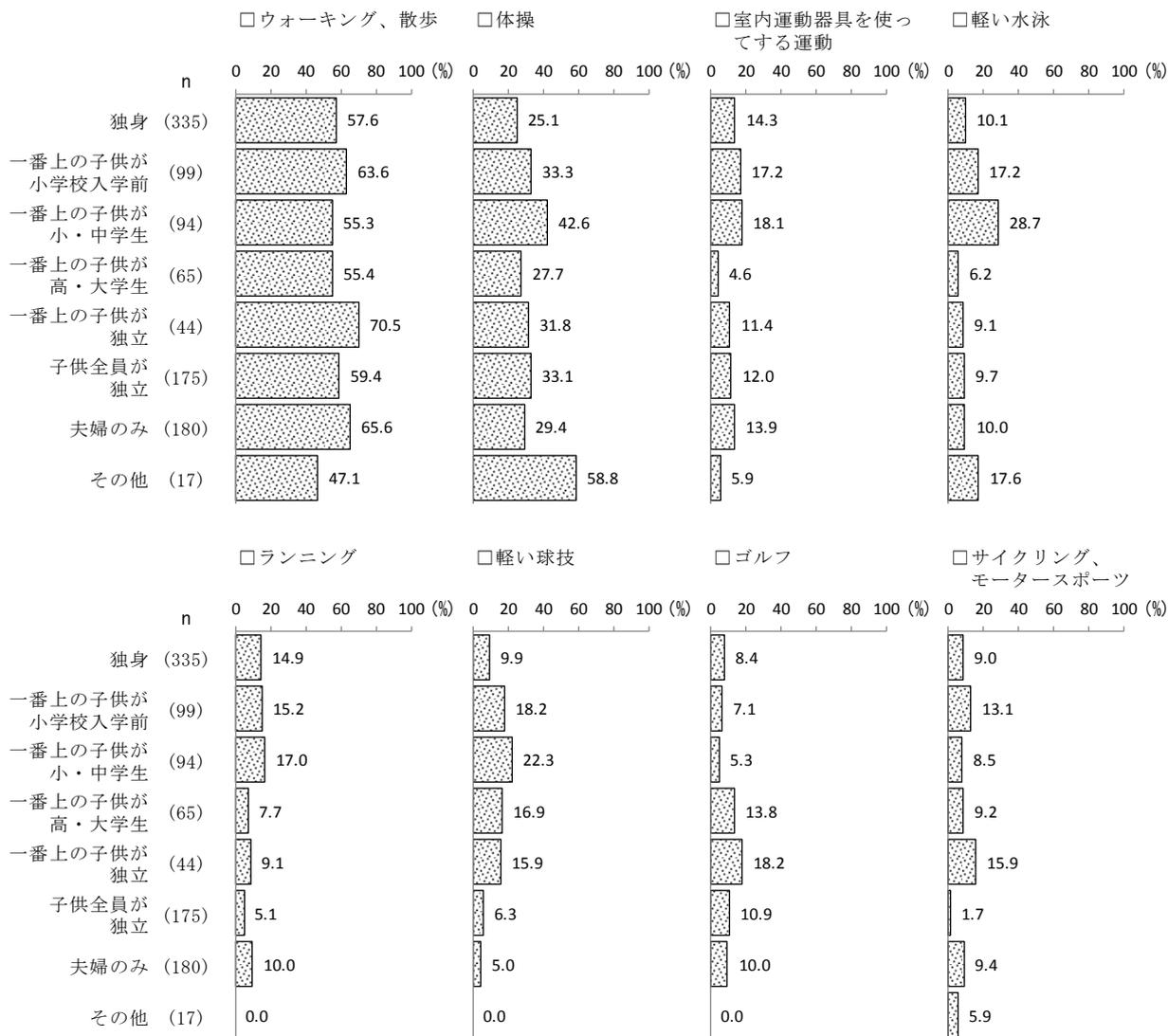
性・年代別でみると、「ウォーキング、散歩」は女性20代(73.5%)で7割を超え多くなっている。「体操」は女性30代(41.0%)、女性50代(41.1%)で4割を超えている。「軽い球技」は男性20代(29.2%)でほぼ3割となっている。(図6-1-2)

図6-1-2 この1年間に行ったスポーツや運動—性別、性・年代別(上位8位)



家族構成別でみると、「ウォーキング、散歩」が一番上の子供が独立（70.5%）でほぼ7割となっている。「体操」、「室内運動器具を使ってする運動」、「軽い水泳」、「ランニング」、「軽い球技」は一番上の子供が小・中学生で最も多くなっている。「ゴルフ」は一番上の子供が独立（18.2%）で2割近くと最も多くなっている。（図6-1-3）

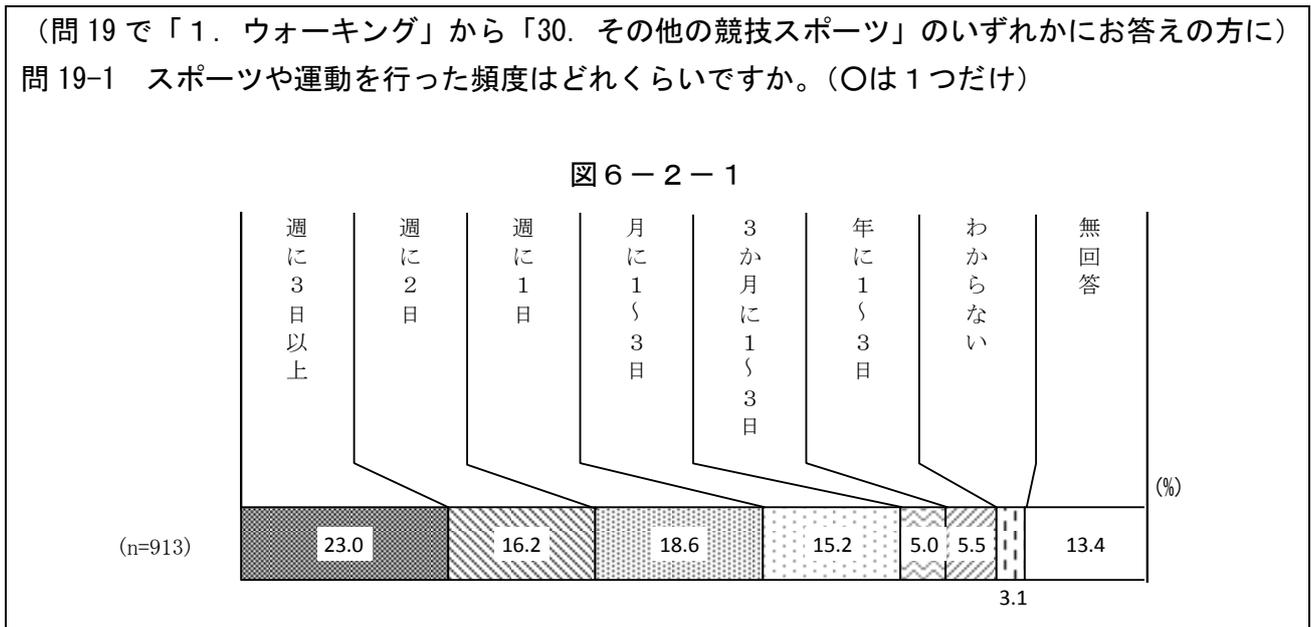
図6-1-3 この1年間に行ったスポーツや運動—家族構成別（上位8位）



6-2 スポーツや運動を行った頻度

「週に3日以上」が2割を超える

(問19で「1. ウォーキング」から「30. その他の競技スポーツ」のいずれかにお答えの方に)
 問19-1 スポーツや運動を行った頻度はどれくらいですか。(○は1つだけ)



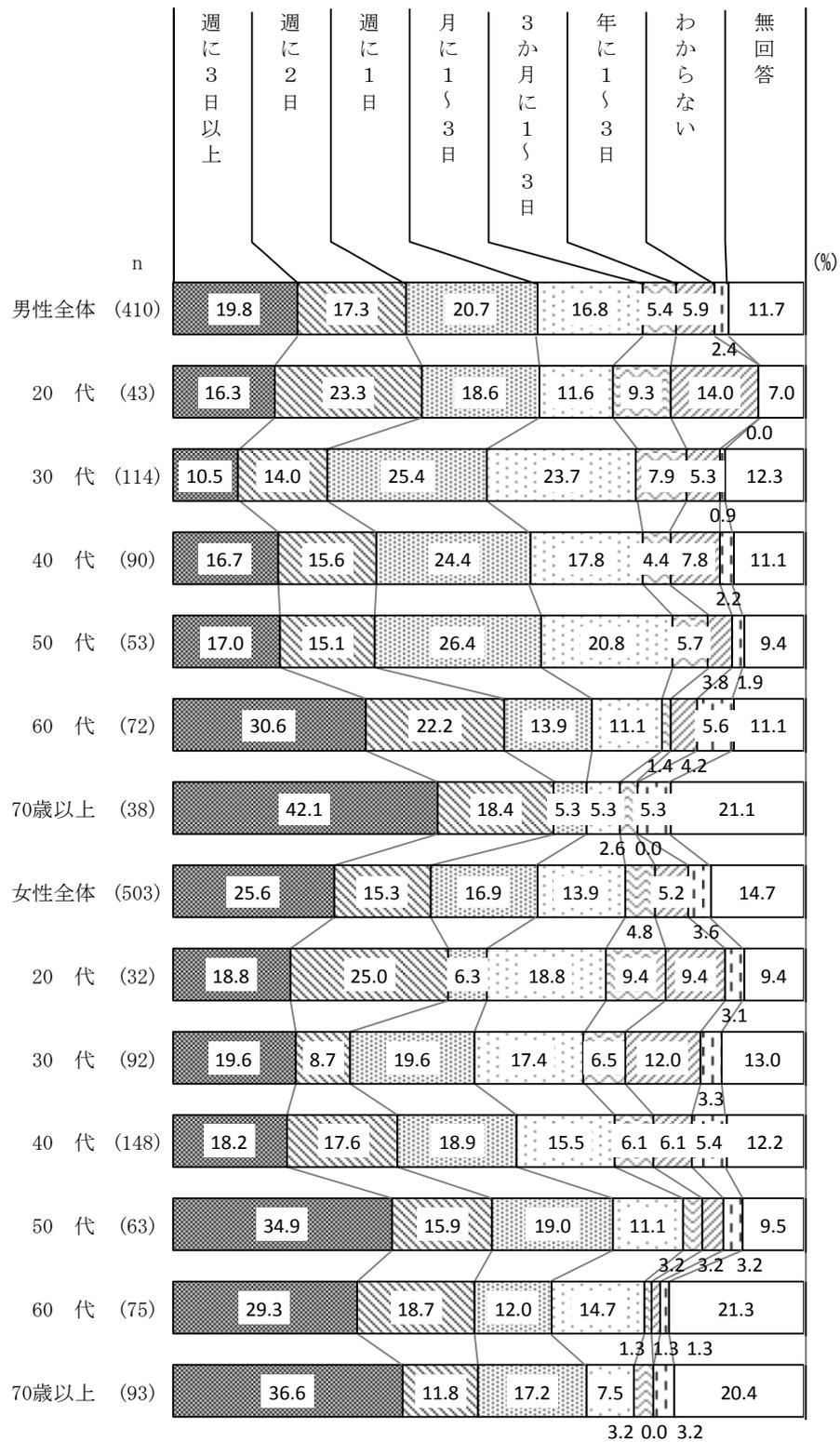
スポーツや運動を行った頻度は、「週に3日以上」(23.0%)が2割を超え最も多く、次いで「週に1日」(18.6%)、「週に2日」(16.2%)、「月に1〜3日」(15.2%)となっている。

(図6-2-1)

性別でみると、「週に3日以上」は女性(25.6%)が男性(19.8%)より5.8ポイント高くなっている。「週に1日」は男性(20.7%)が女性(16.9%)より3.8ポイント高くなっている。

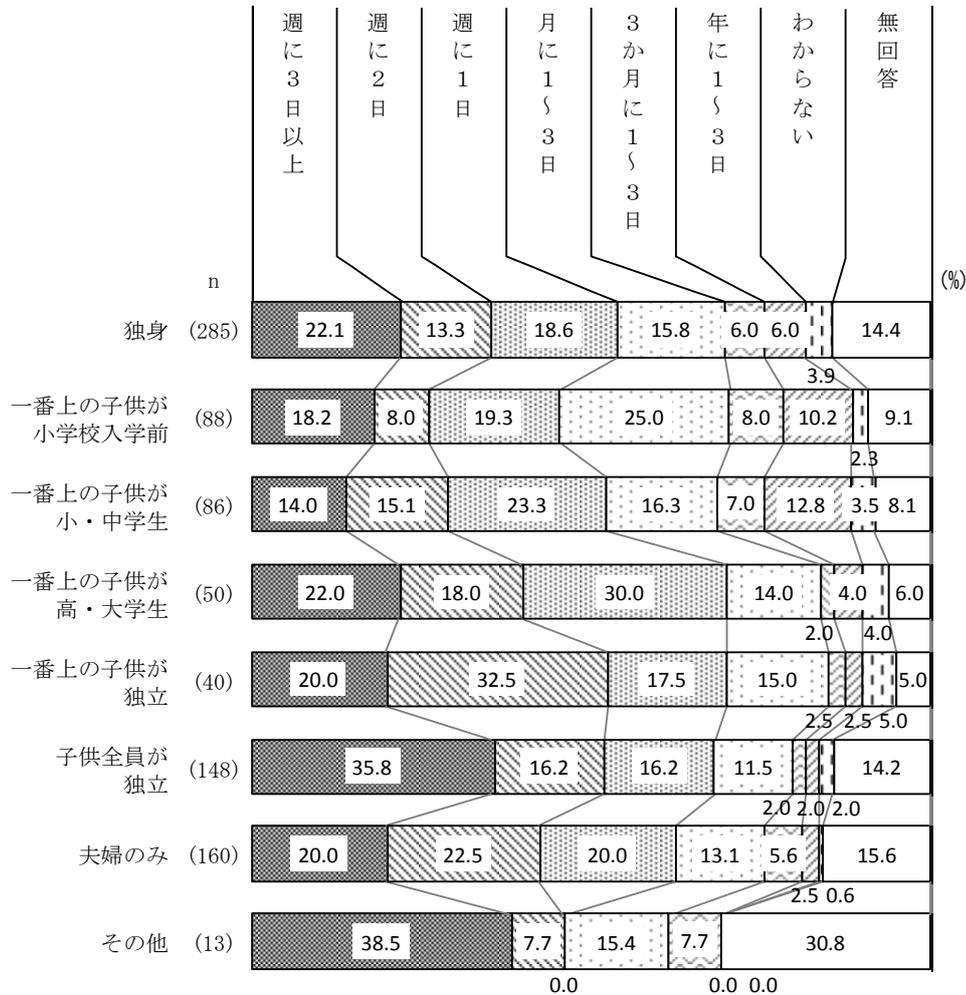
性・年代別でみると、「週に3日以上」は男性70歳以上(42.1%)が4割を超え最も多く、次いで女性70歳以上(36.6%)、女性50代(34.9%)であり、男性30代(10.5%)がほぼ1割で最も少なくなっている。「週に2日」は女性20代(25.0%)で2割半ばと最も多く、「週に1日」は男性50代(26.4%)で2割半ばと最も多くなっている。「月に1〜3日」は男性30代(23.7%)で最も多くなっている。(図6-2-2)

図6-2-2 スポーツや運動を行った頻度—性別、性・年代別



家族構成別にみると、「週に3日以上」は子供全員が独立（35.8%）で3割半ばと最も多くなっている。「週に2日」が一番上の子供が独立（32.5%）で3割を超え最も多く、「週に1日」が一番上の子供が高・大学生（30.0%）で3割と最も多く、「月に1～3日」が一番上の子供が小学校入学前（25.0%）で2割半ばと最も多くなっている。このことから、子供の成長段階が進むにつれてスポーツや運動を行う頻度が高くなる傾向がみられる。（図6-2-3）

図6-2-3 スポーツや運動を行った頻度—家族構成別

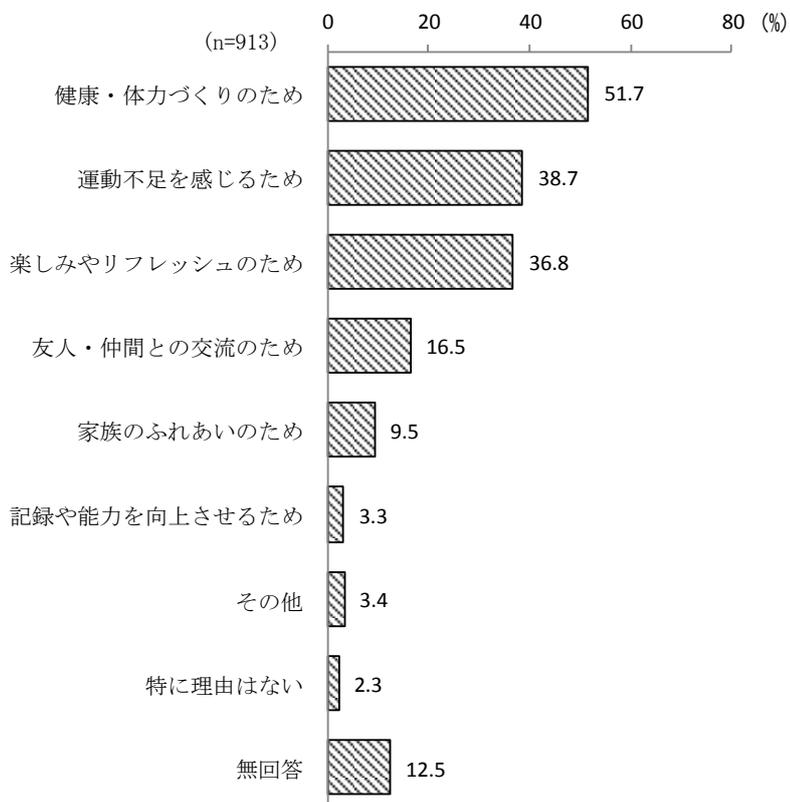


6-3 スポーツや運動をした理由

「健康・体力づくりのため」が5割を超える

(問19で「1. ウォーキング」から「30. その他の競技スポーツ」のいずれかにお答えの方に)
問19-2 あなたが、スポーツや運動をしたのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

図6-3-1

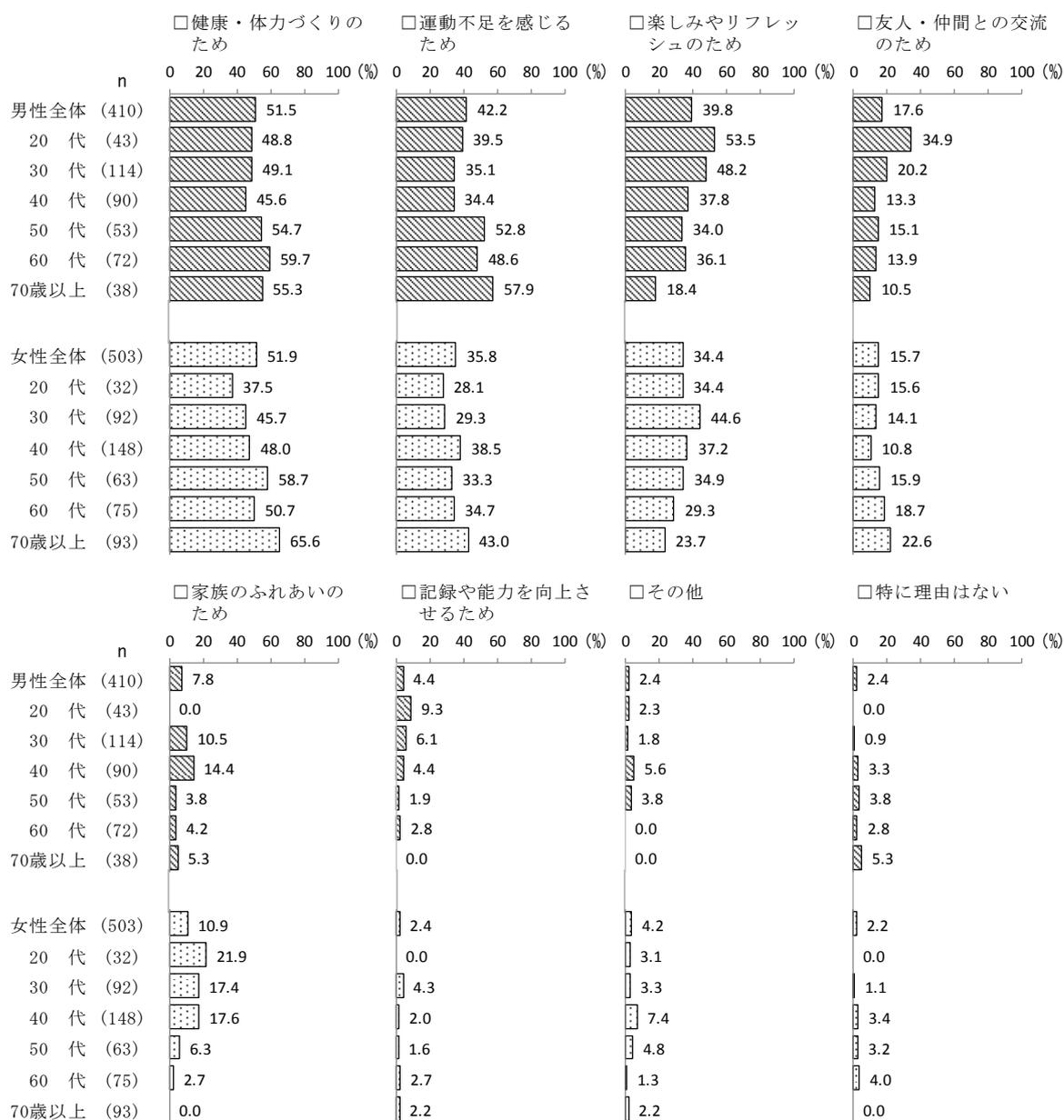


スポーツや運動をした理由は、「健康・体力づくりのため」(51.7%)が5割を超え最も多く、次いで「運動不足を感じるため」(38.7%)、「楽しみやリフレッシュのため」(36.8%)、「友人・仲間との交流のため」(16.5%)となっている。(図6-3-1)

性別でみると、「運動不足を感じるため」は男性（42.2%）が女性（35.8%）より 6.4 ポイント高くなっている。「楽しみやリフレッシュのため」は男性（39.8%）が女性（34.4%）より 5.4 ポイント高くなっている。「家族のふれあいのため」は女性（10.9%）が男性（7.8%）より 3.1 ポイント高くなっている。

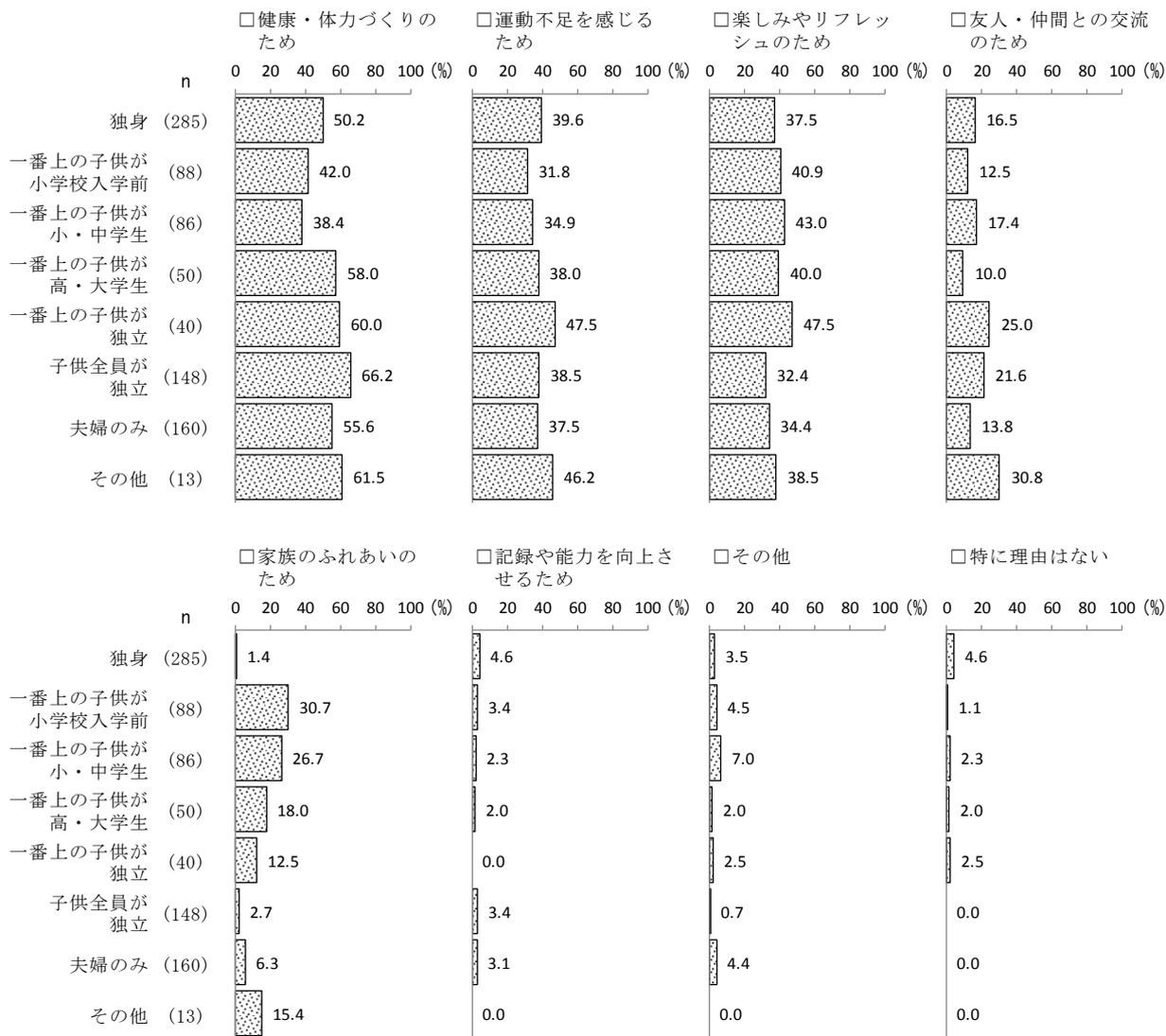
性・年代別でみると、「健康・体力づくりのため」は女性 70 歳以上（65.6%）で 6 割半ばで最も多く、次いで男性 60 代（59.7%）、女性 50 代（58.7%）となっている。「運動不足を感じるため」は男性 70 歳以上（57.9%）で 6 割近くと最も多く、次いで男性 50 代（52.8%）、男性 60 代（48.6%）となっている。「楽しみやリフレッシュのため」は男性 20 代（53.5%）で 5 割を超え最も多く、次いで男性 30 代（48.2%）、女性 30 代（44.6%）となっており、男女とも年齢が若い程多い傾向がある。（図 6-3-2）

図 6-3-2 スポーツや運動をした理由—性別、性・年代別



家族構成別にみると、「健康・体力づくりのため」は子供全員が独立（66.2%）で6割半ばと最も多く、次いで一番上の子供が独立（60.0%）となっている。「運動不足を感じるため」と「楽しみやリフレッシュのため」は一番上の子供が独立（47.5%）で5割近くと最も多くなっている。「家族のふれあいのため」は子供の成長過程が進むにつれて少なくなっている。（図6-3-3）

図6-3-3 スポーツや運動をした理由—家族構成別



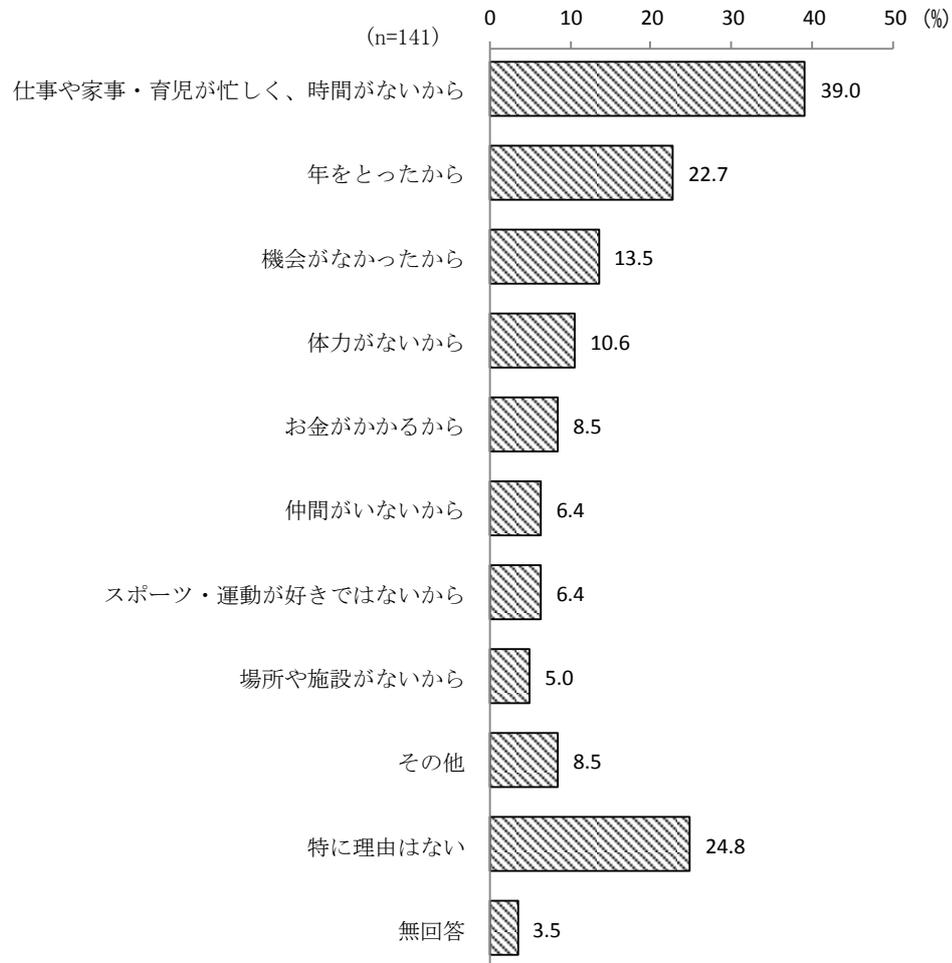
6-4 スポーツや運動をしなかった理由

「仕事や家事・育児が忙しく、時間がないから」がほぼ4割

(問19で「31. スポーツや運動はしなかった」とお答えの方に)

問19-3 スポーツや運動をしなかったのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

図6-4-1

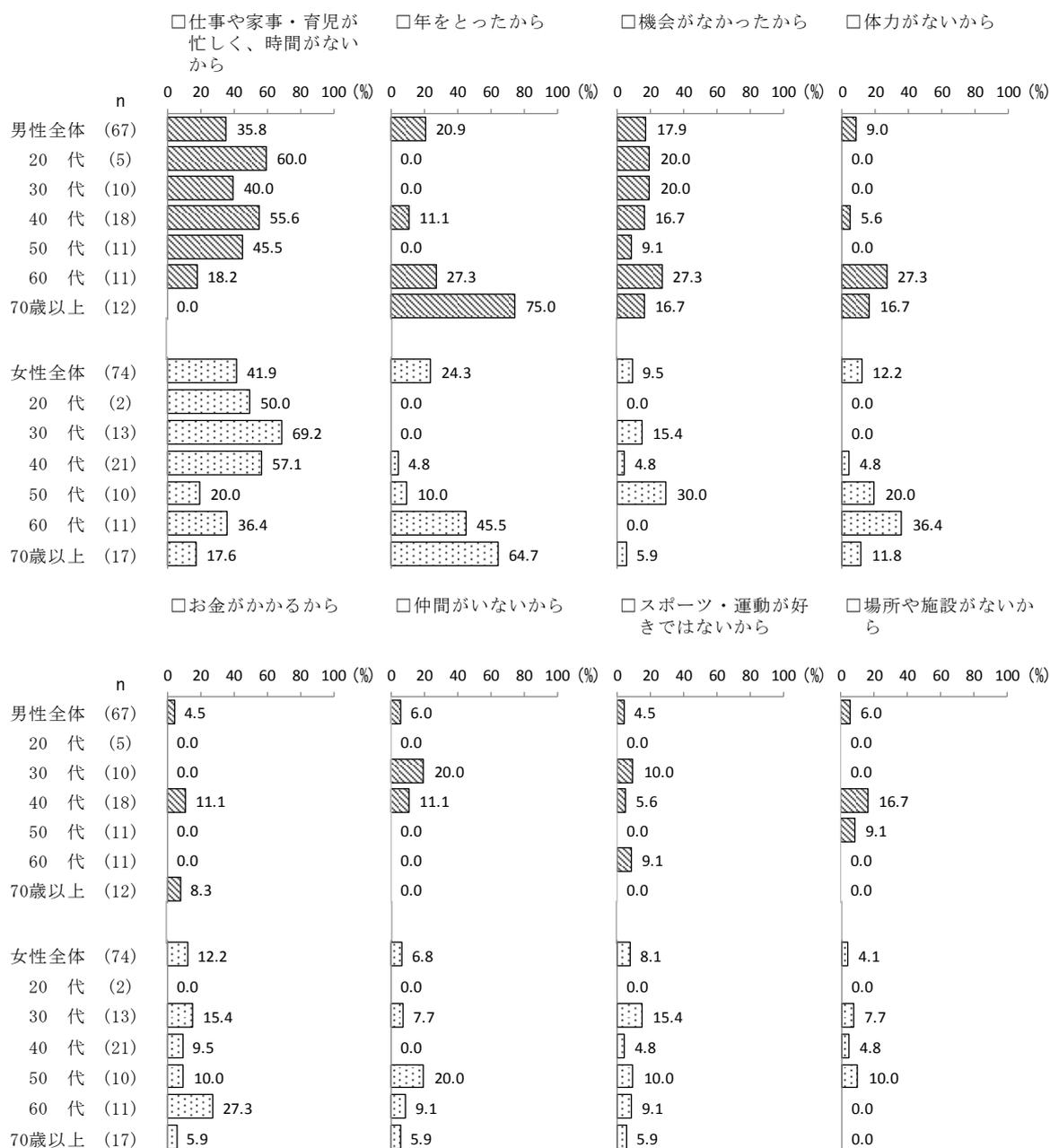


スポーツや運動をしなかった理由は、「仕事や家事・育児が忙しく、時間がないから」(39.0%)がほぼ4割と最も多く、次いで「年をとったから」(22.7%)、「機会がなかったから」(13.5%)、「体力がないから」(10.6%)となっている。一方、「特に理由はない」(24.8%)が2割半ばとなっている。(図6-4-1)

性別でみると、「仕事や家事・育児が忙しく、時間がないから」は女性（41.9%）が男性（35.8%）より 6.1 ポイント高くなっている。「機会がなかったから」は男性（17.9%）が女性（9.5%）より 8.4 ポイント高くなっている。

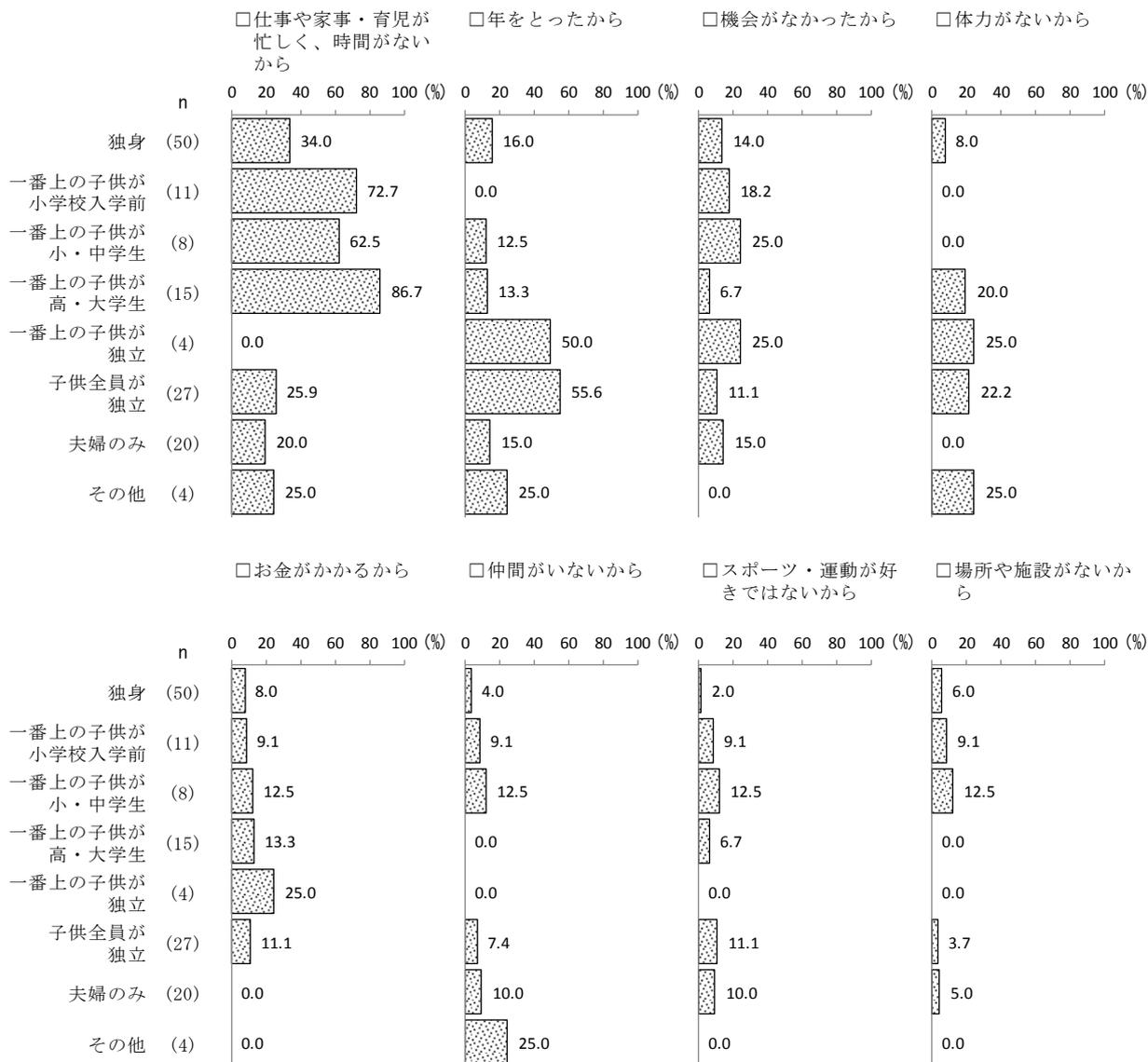
性・年代別でみると、「仕事や家事・育児が忙しく、時間がないから」は女性 30 代（69.2%）でほぼ 7 割と最も多く、次いで男性 20 代（60.0%）、女性 40 代（57.1%）となっている。「年をとったから」は男性 70 歳以上（75.0%）で 7 割半ばと最も多く、次いで女性 70 歳以上（64.7%）、女性 60 代（45.5%）となっている。（図 6-4-2）

図 6-4-2 スポーツや運動をしなかった理由—性別、性・年代別（上位 8 位）



家族構成別にみると、「仕事や家事・育児が忙しく、時間がないから」が一番上の子供が高・大学生（86.7%）で9割近くと最も多く、次いで一番上の子供が小学校入学前（72.7%）、一番上の子供が小・中学生（62.5%）となっている。「年をとったから」は子供全員が独立（55.6%）で5割半ばと最も多く、次いで一番上の子供が独立（50.0%）となっている。（図6-4-3）

図6-4-3 スポーツや運動をしなかった理由（上位8位）

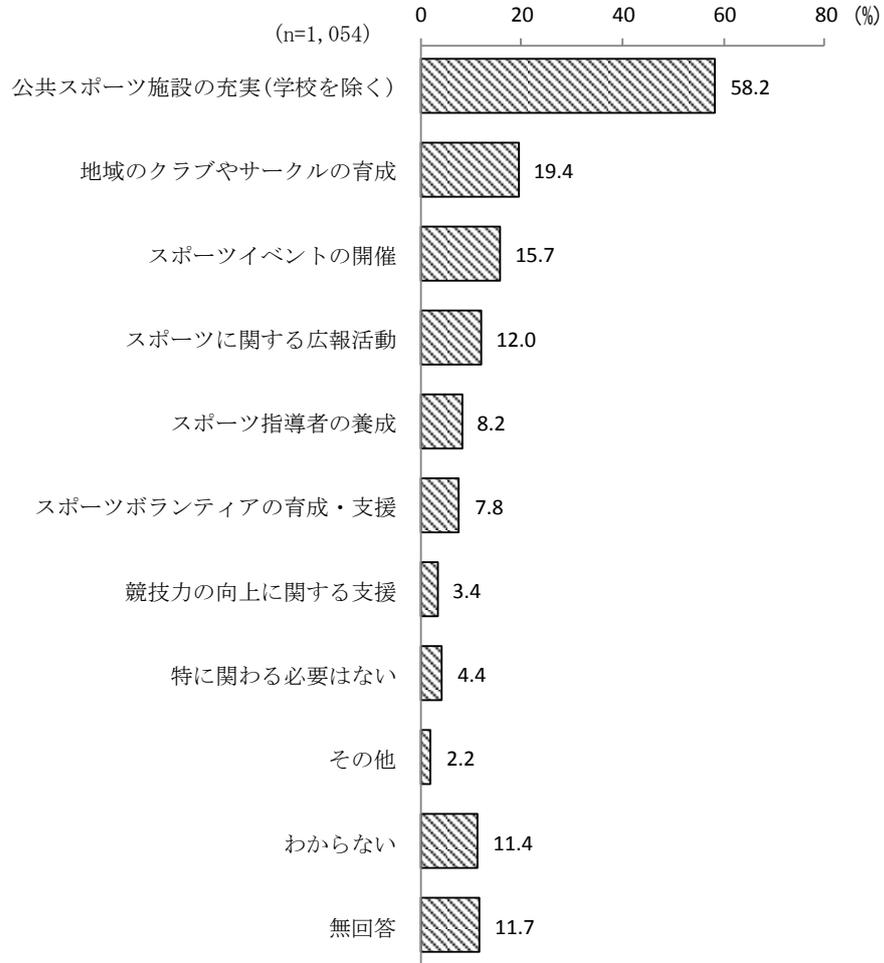


6-5 スポーツ活動の推進のために力を入れる施策

「公共スポーツ施設の充実（学校を除く）」が6割近く

問20 区民がスポーツ活動に、今以上に関わることができるようにするためには、区はどのような施策に力を入れるとよいと思いますか。（○はいくつでも）

図6-5-1



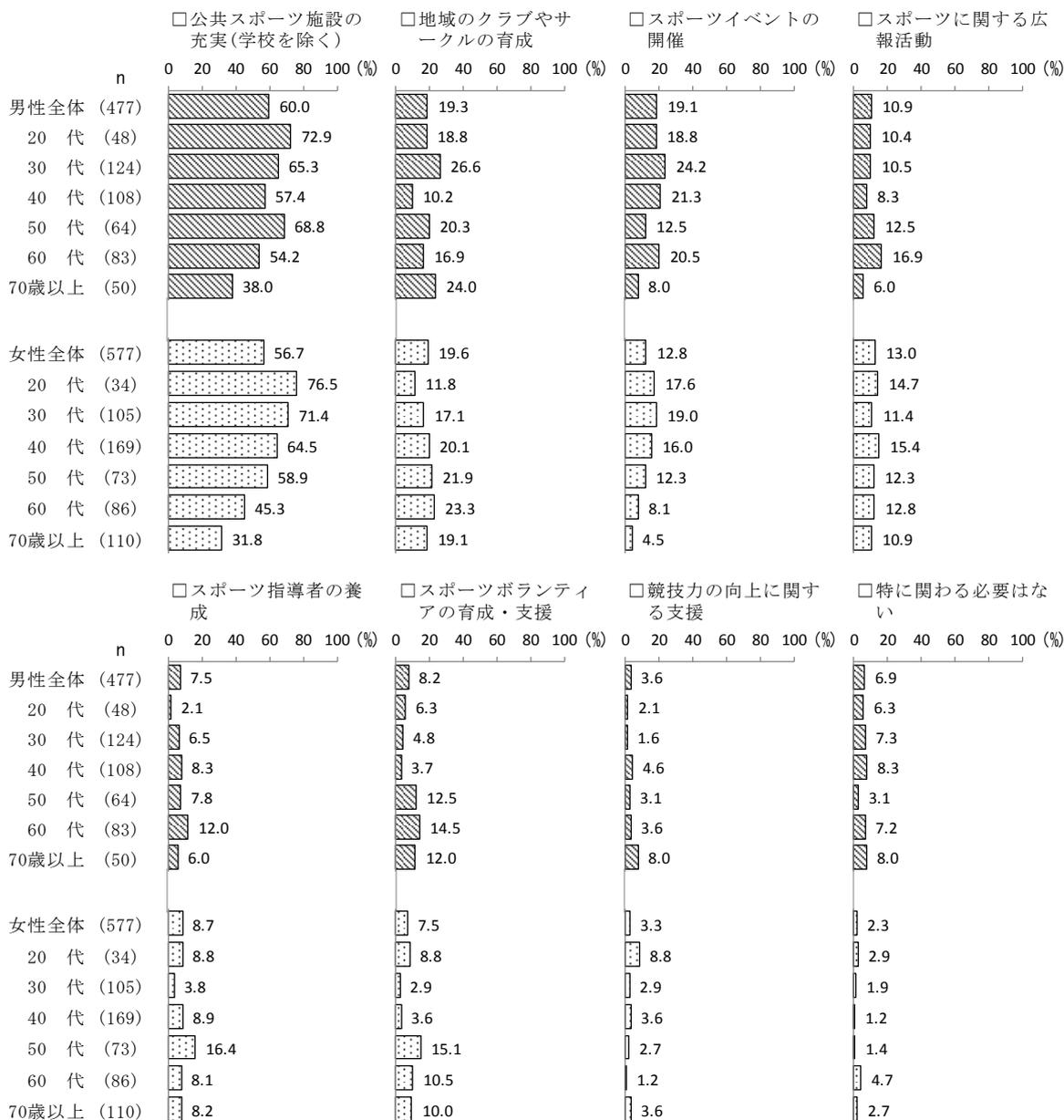
スポーツ活動の推進のために力を入れる施策は、「公共スポーツ施設の充実（学校を除く）」（58.2%）が6割近くと最も多く、次いで「地域のクラブやサークルの育成」（19.4%）、「スポーツイベントの開催」（15.7%）、「スポーツに関する広報活動」（12.0%）となっている。

（図6-5-1）

性別でみると、「スポーツイベントの開催」は男性（19.1%）が女性（12.8%）より 6.3 ポイント高くなっている。「スポーツに関する広報活動」は女性（13.0%）が男性（10.9%）より 2.1 ポイント高くなっている。「公共スポーツ施設の充実（学校を除く）」は女性で年代が高くなるほど少なくなる傾向がある。

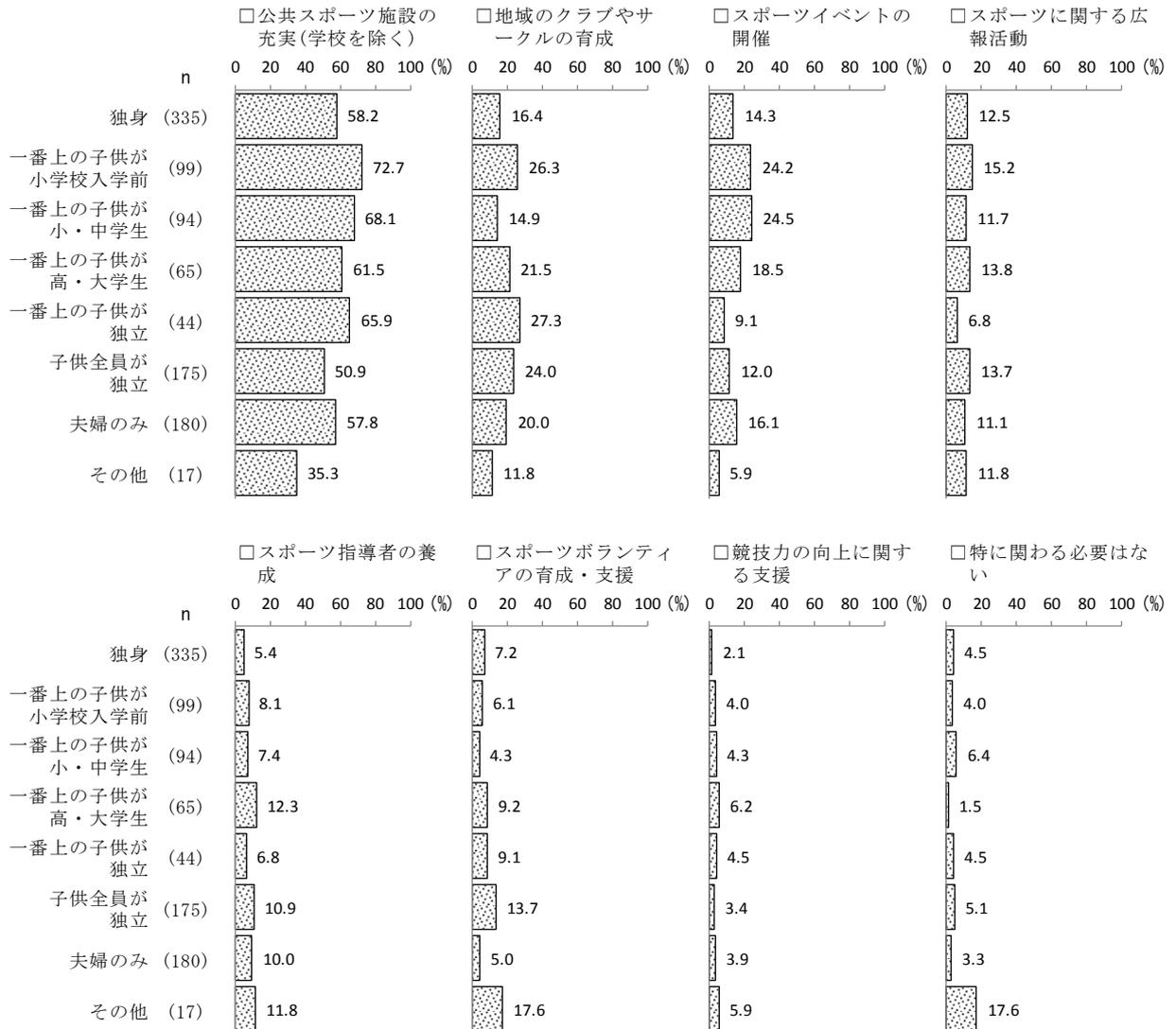
性・年代別でみると、「公共スポーツ施設の充実（学校を除く）」は女性 20 代（76.5%）で 8 割近くと最も多く、次いで男性 20 代（72.9%）、女性 30 代（71.4%）となっている。「地域のクラブやサークルの育成」は男性 30 代（26.6%）で 3 割近く、「スポーツイベントの開催」は男性 30 代（24.2%）で 2 割半ばと最も多くなっている。（図 6-5-2）

図 6-5-2 スポーツ活動の推進のために力を入れる施策—性別、性・年代別（上位 8 位）



家族構成別にみると、「公共スポーツ施設の充実(学校を除く)」が一番上の子供が小学校入学前(72.7%)で7割を超え最も多く、次いで一番上の子供が小・中学生(68.1%)、一番上の子供が独立(65.9%)となっている。「地域のクラブやサークルの育成」が一番上の子供が独立(27.3%)で3割近く、「スポーツイベントの開催」が一番上の子供が小・中学生(24.5%)で2割半ばと最も多くなっている。(図6-5-3)

図6-5-3 スポーツ活動の推進のために力を入れる施策—家族構成別(上位8位)



7. 災害対策

東日本大震災から4年が経過し、近年は地震だけでなく大雨による水害が頻繁に起こるなど、災害に対する危機意識がさらに高まり、日頃からの備えの大切さも、改めて感じておられると思います。そこで、災害や防災に関して、皆様の率直なご意見やご考えをお伺いしました。

まず、避難の方法の認知度が4割、地震に対する備えとしてご家庭で備蓄を行っている方が6割近くという結果が出ております。

今後、公助として、避難方法の周知や防災訓練の実施、ご家庭での3日分以上の備蓄を奨めてまいりますので、区民の皆様には、自助として防災への備えについても、さらに協力をお願いいたします。この調査結果を充分踏まえ、防災力の向上を推進してまいります。

(危機管理室 災害対策課)

7-1 避難の方法の認知度

【一時集合場所】が5割を超え、【避難所】が4割、【避難場所】が4割半ば

震災が発生し、避難する必要がある場合に備えて、区では、「一時（いつとき）集合場所」「避難所」「避難場所」を指定するとともに、避難の方法を次のとおり定め、広報たいとうや防災地図などにより周知に努めています。

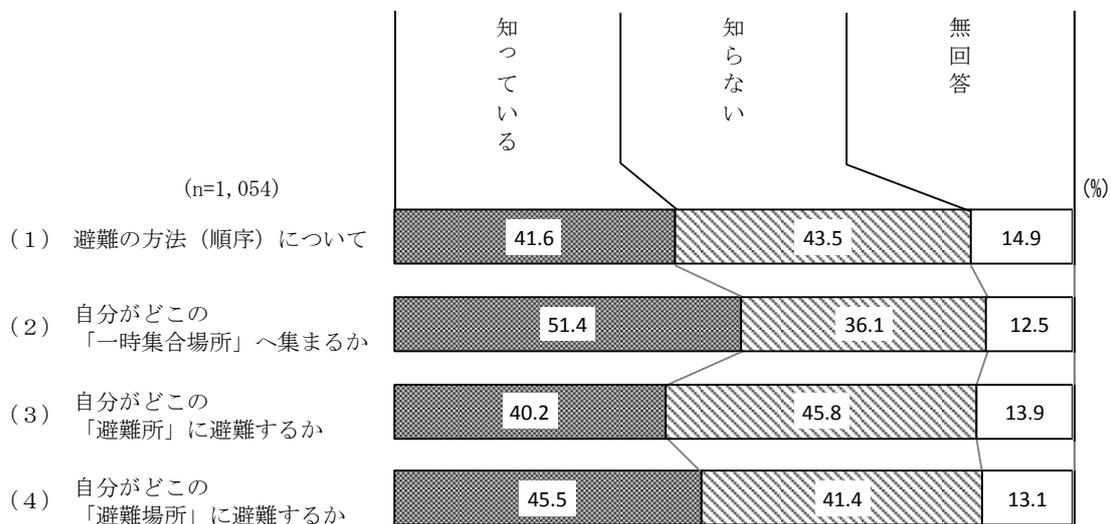
《 避難方法 》

- ① 自宅（被災現場）から「一時集合場所」に集まります。
- ② 一時集合場所から自宅が安全であれば自宅へ、自宅で生活ができない場合は集団で、被災状況により「避難所」または「避難場所」へ避難します。
- ③ 「避難所」が延焼などで危険な場合は、「避難場所」へ避難します。

問21 下記の（1）～（4）にあげる避難の方法について、あなたをご存知ですか。

（○はそれぞれ1つずつ）

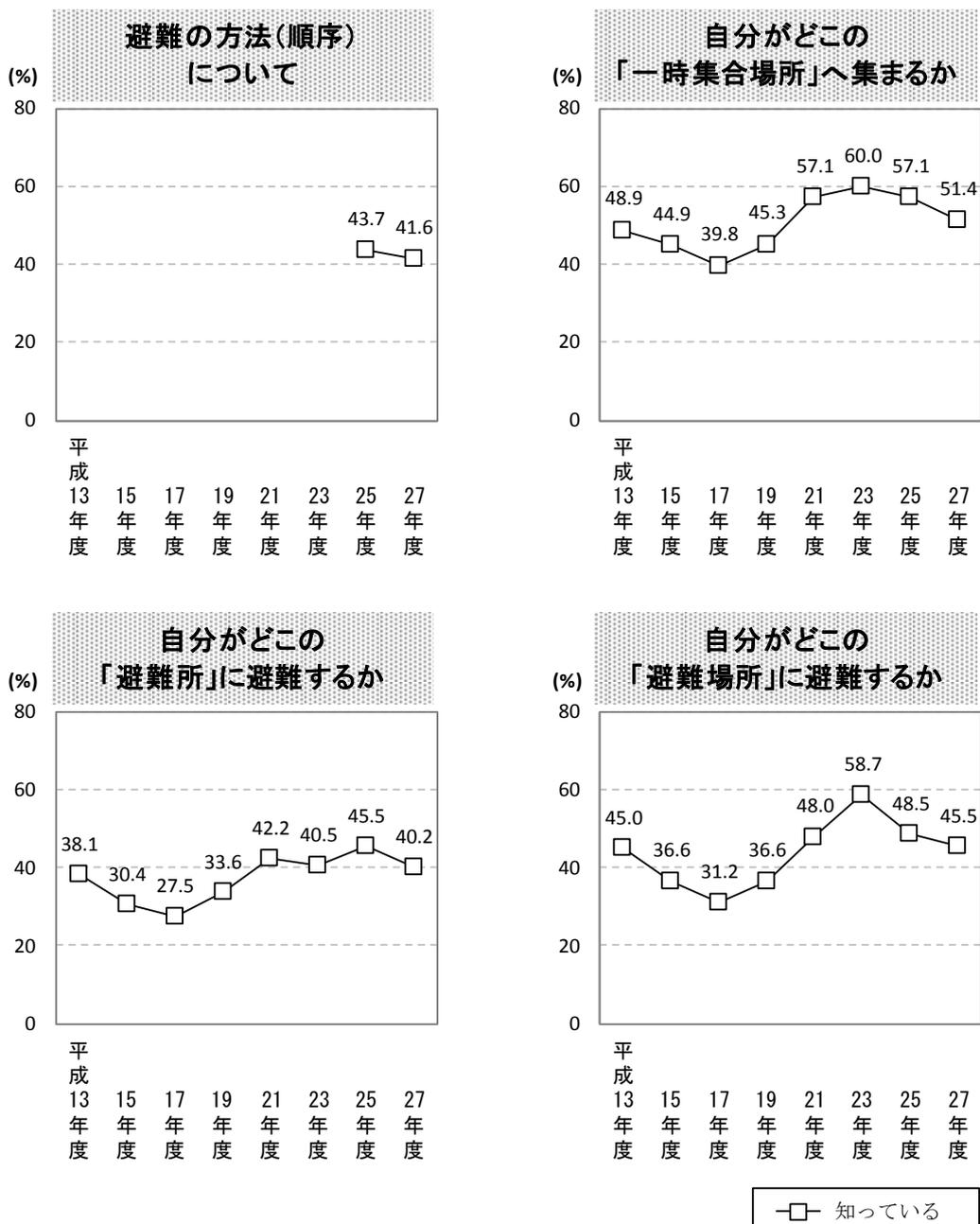
図7-1-1



避難の方法の認知度は、【避難の方法（順序）について】（以下、文章中では【避難順序】という。）「知っている」（41.6%）は4割を超えている。また、【自分がどこの「一時集合場所」へ集まるか】（以下、文章中では【一時集合場所】という。）「知っている」（51.4%）は5割を超え、【自分がどこの「避難所」に避難するか】（以下、文章中では【避難所】という。）「知っている」（40.2%）は4割、【自分がどこの「避難場所」に避難するか】（以下、文章中では【避難場所】という）「知っている」（45.5%）は4割半ばとなっている。（図7-1-1）

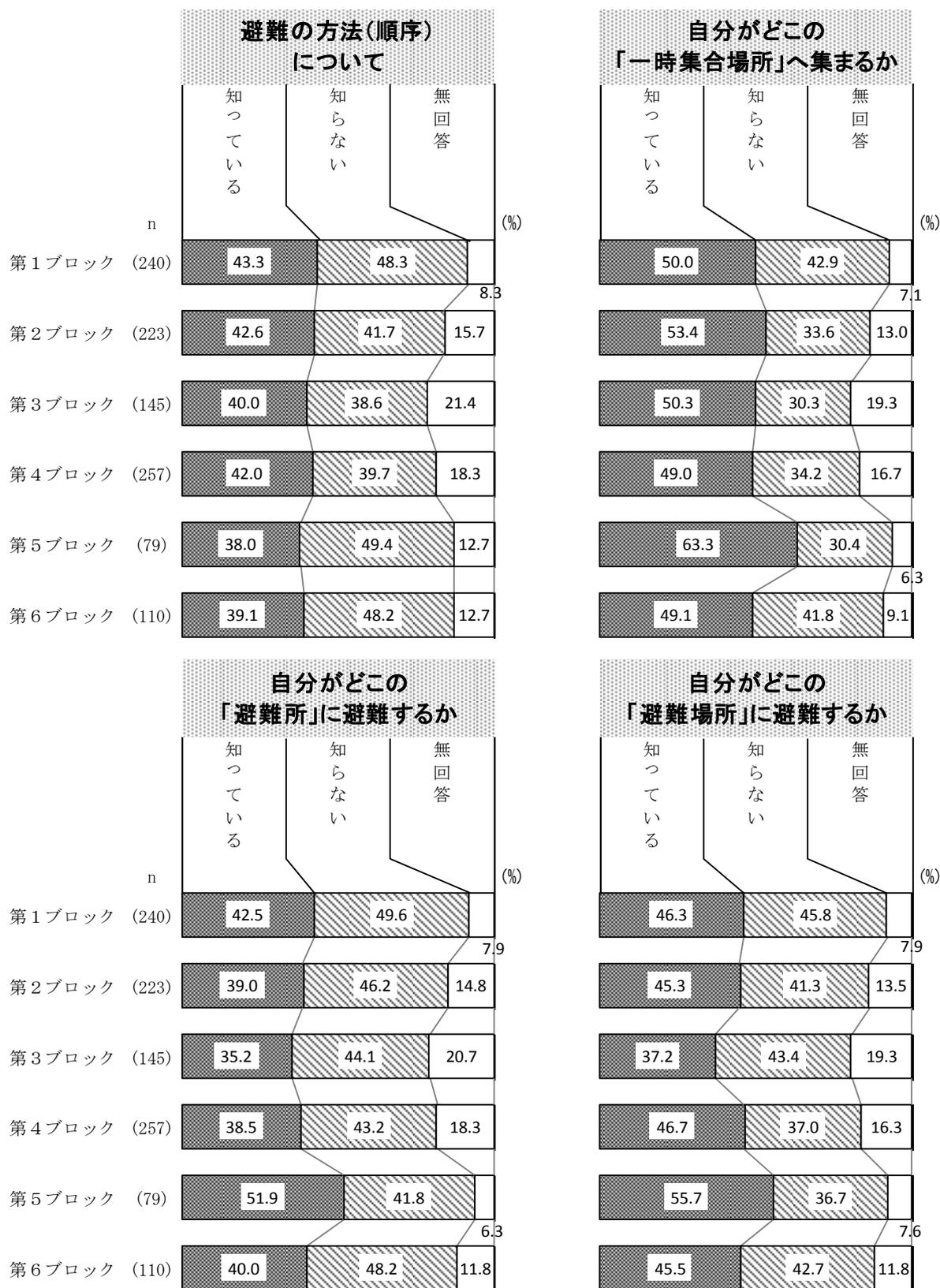
認知度の推移をみると、「知っている」は【一時集合場所】と【避難場所】では平成23年度から減少傾向にあり、【一時集合場所】で前回調査より5.7ポイント低く、【避難場所】でも3.0ポイント低くなっている。また、【避難所】についても前回調査より5.3ポイント低くなっており、前回調査から追加された【避難順序】も前回調査より2.1ポイント低くなっている。(図7-1-2)

図7-1-2 避難の方法の認知度—推移



地区別でみると、「知っている」は第5ブロックが【一時集合場所】、【避難所】、【避難場所】で最も多くなっており、【避難順序】は第1ブロックが最も多くなっている。(図7-1-3)

図7-1-3 避難の方法の認知度—地区別

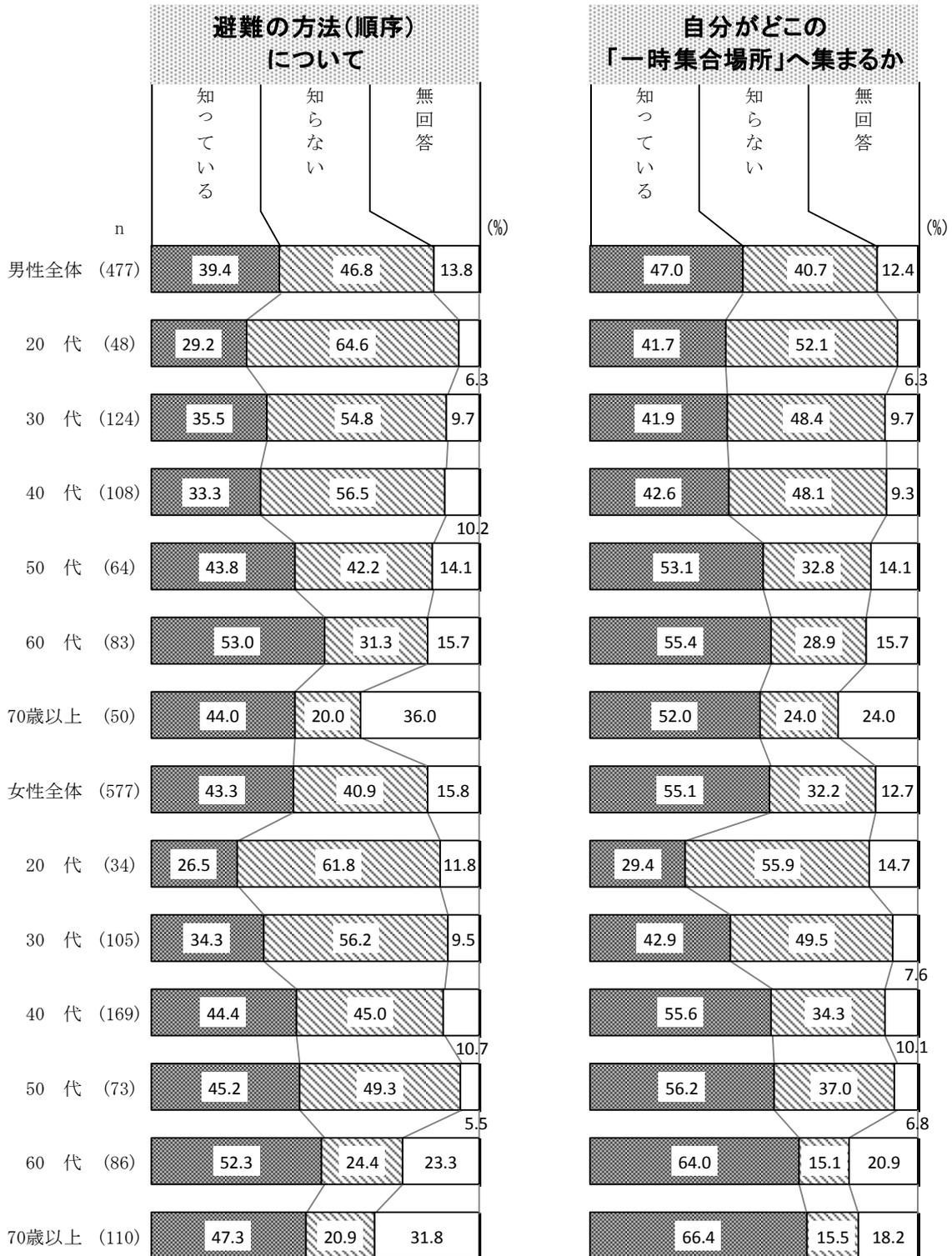


性別でみると、「知っている」は【避難順序】で3.9ポイント、【一時集合場所】で8.1ポイントともに女性が男性より高くなっている。

性・年代別でみると、「知っている」は【避難順序】では男性60代（53.0%）で5割を超え最も多く、女性20代（26.5%）で2割半ばと最も少なくなっている。【一時集合場所】では女性70歳以上（66.4%）で6割半ばと最も多く、女性20代（29.4%）ではほぼ3割と最も少なくなっている。

(図7-1-4)

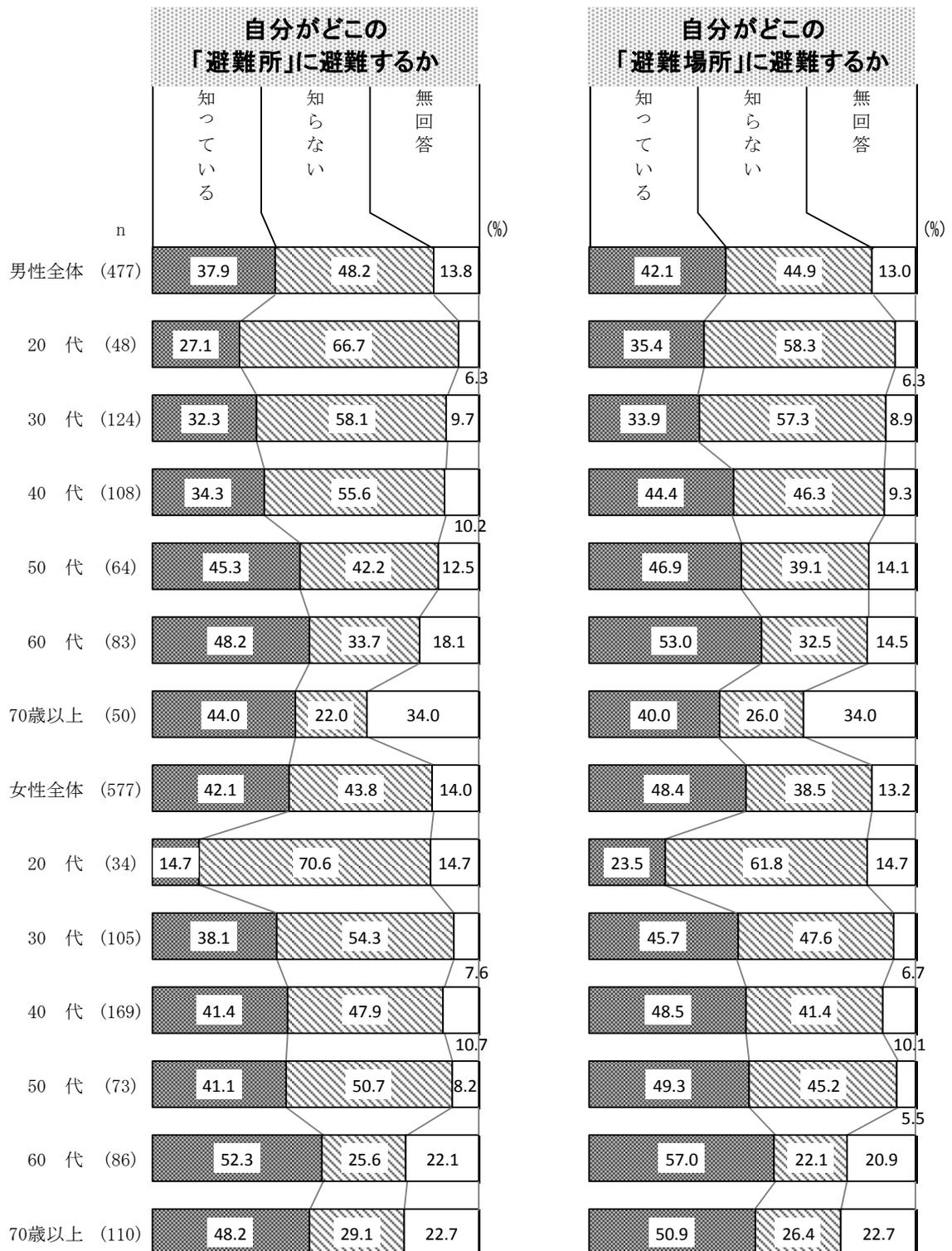
図7-1-4 避難の方法の認知度【避難順序】【一時集合場所】-性別、性・年代別



性別で見ると、「知っている」は【避難所】で4.2ポイント、【避難場所】で6.3ポイントともに女性が男性より高くなっている。

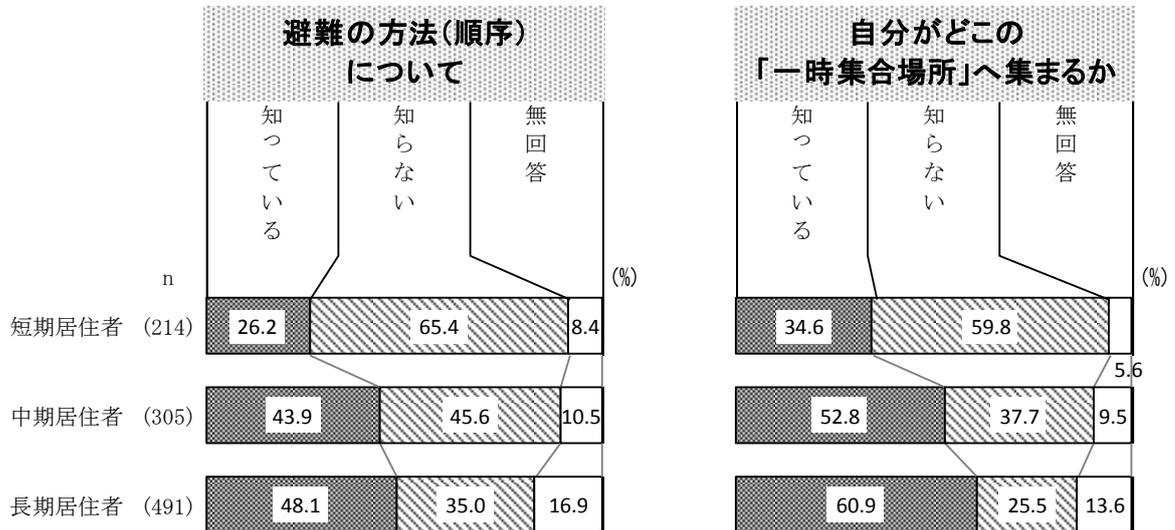
性・年代別で見ると、「知っている」は【避難所】では女性60代(52.3%)が5割を超え最も多く、女性20代(14.7%)で1割半ばと最も少なくなっている。【避難場所】では女性60代(57.0%)で6割近くと最も多く、女性20代(23.5%)で2割を超え最も少なくなっている。(図7-1-5)

図7-1-5 避難の場所の認知度【避難所】【避難場所】-性別、性・年代別



居住年数別でみると、【避難順序】では「知っている」は長期居住者（48.1%）で5割近くとなっているが、短期居住者（26.2%）で2割半ばとなっている。【一時集合場所】では「知っている」は長期居住者（60.9%）でほぼ6割となっているが、短期居住者（34.6%）で3割半ばとなっている。（図7-1-6）

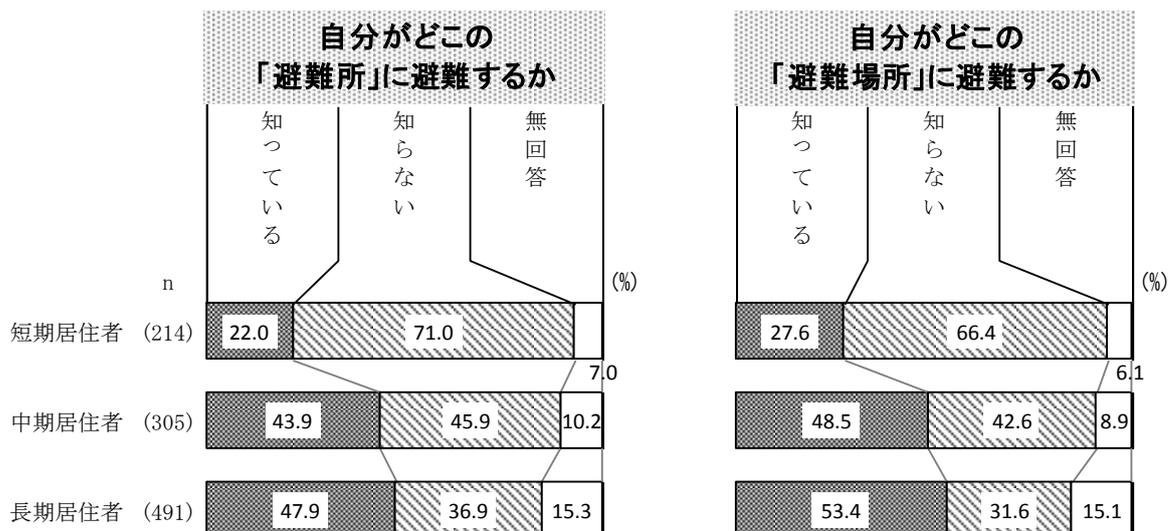
図7-1-6 避難の方法の認知度【避難順序】【一時集合場所】—居住年数別



居住年数別でみると、【避難所】では「知っている」は長期居住者（47.9%）で5割近くとなっているが、短期居住者（22.0%）で2割を超えている。【避難場所】では「知っている」は長期居住者（53.4%）で5割を超えているが、短期居住者（27.6%）で3割近くとなっている。（図7-1-7）

（図7-1-7）

図7-1-7 避難の場所の認知度【避難所】【避難場所】—居住年数別

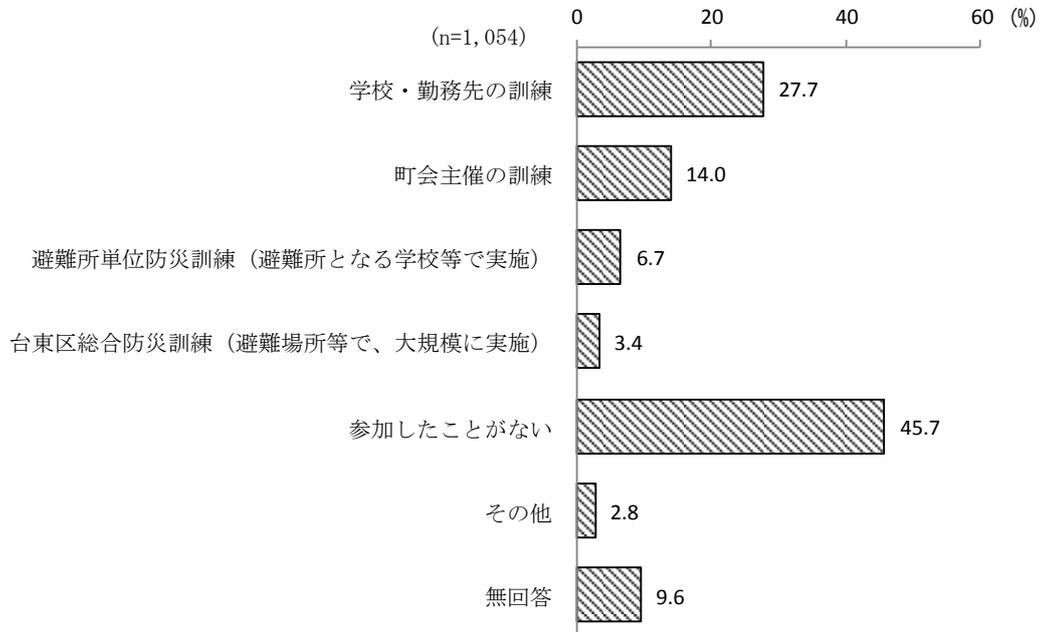


7-2 参加したことがある防災訓練

「学校・勤務先の訓練」が3割近く、一方、「参加したことがない」が4割半ば

問22 今まで参加したことがある防災訓練は何ですか。(〇はいくつでも)

図7-2-1

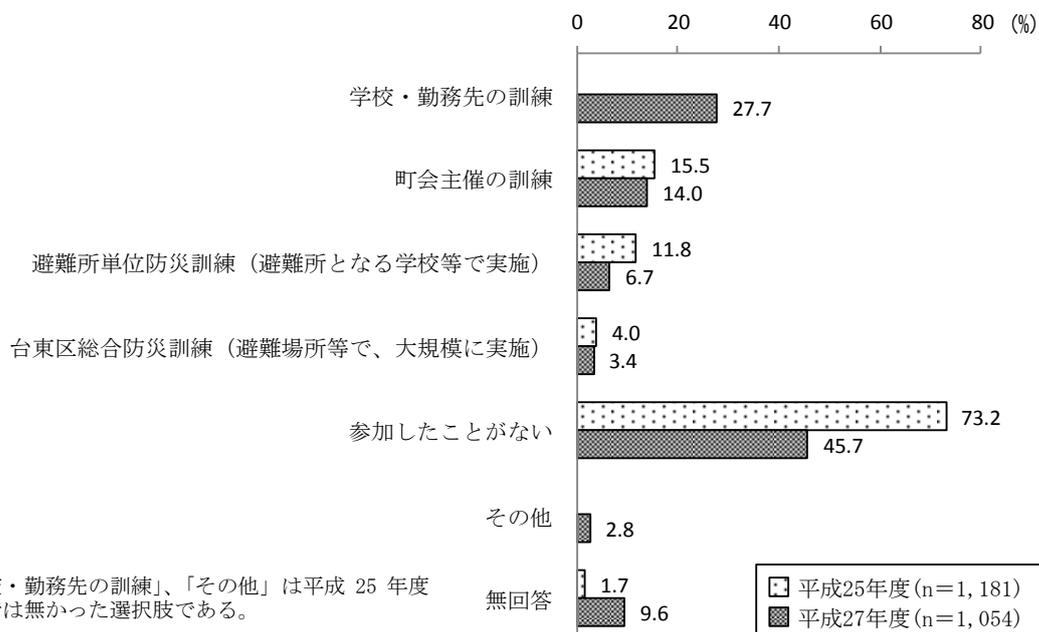


参加したことがある防災訓練は、「学校・勤務先の訓練」(27.7%)が3割近くと最も多く、次いで「町会主催の訓練」(14.0%)、「避難所単位防災訓練(避難所となる学校等で実施)」(6.7%)となっている。一方、「参加したことがない」(45.7%)が4割半ばとなっている。(図7-2-1)

推移をみると、前回と選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、各項目とも減少している。また、「参加したことがない」は前回調査から27.5ポイント低くなっている。

(図7-2-2)

図7-2-2 参加したことがある防災訓練—推移

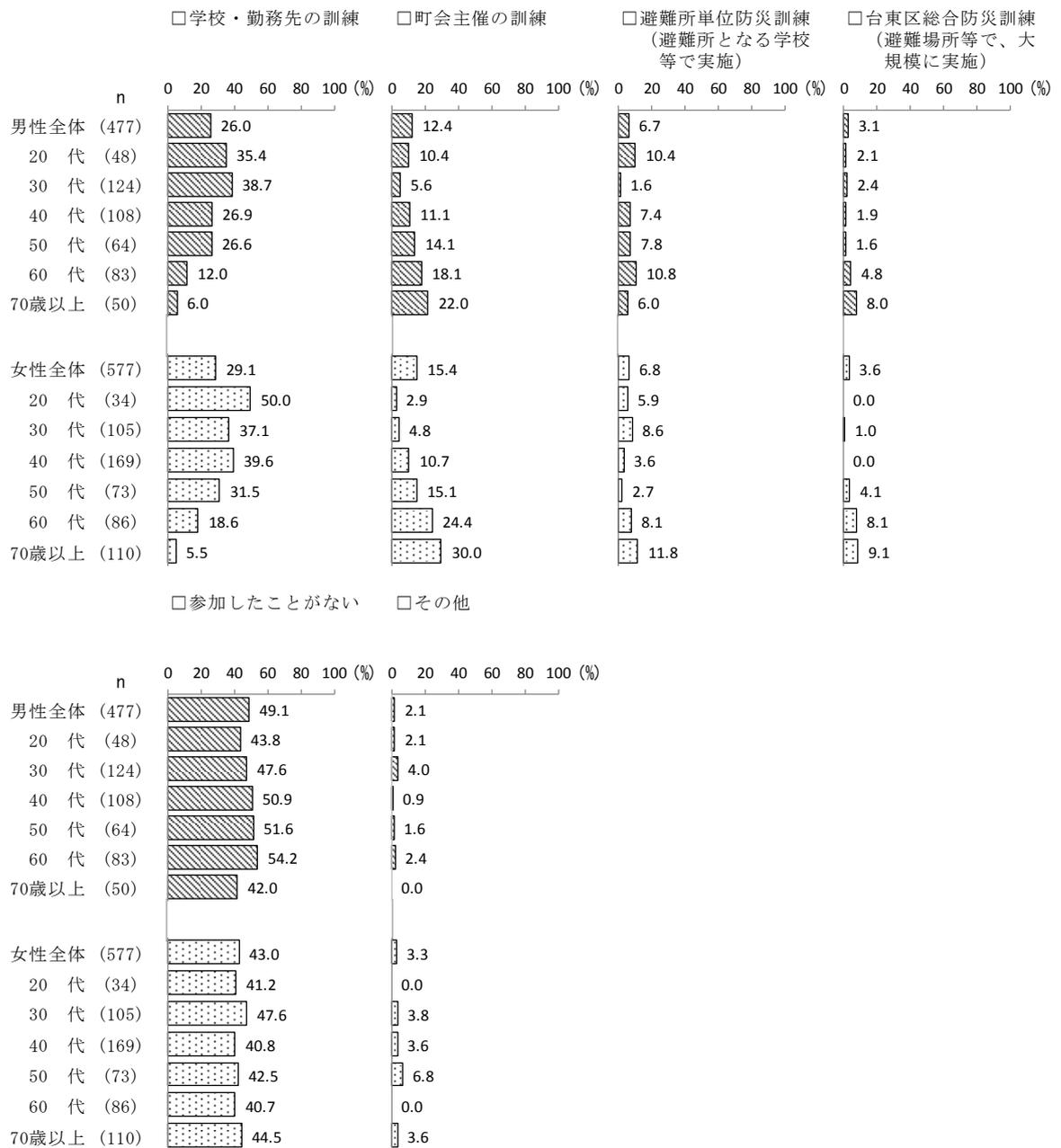


※「学校・勤務先の訓練」、「その他」は平成25年度調査では無かった選択肢である。

性別でみると、「学校・勤務先の訓練」は女性（29.1%）が男性（26.0%）より 3.1 ポイント高くなっている。「参加したことがない」は男性（49.1%）が女性（43.0%）より 6.1 ポイント高くなっている。

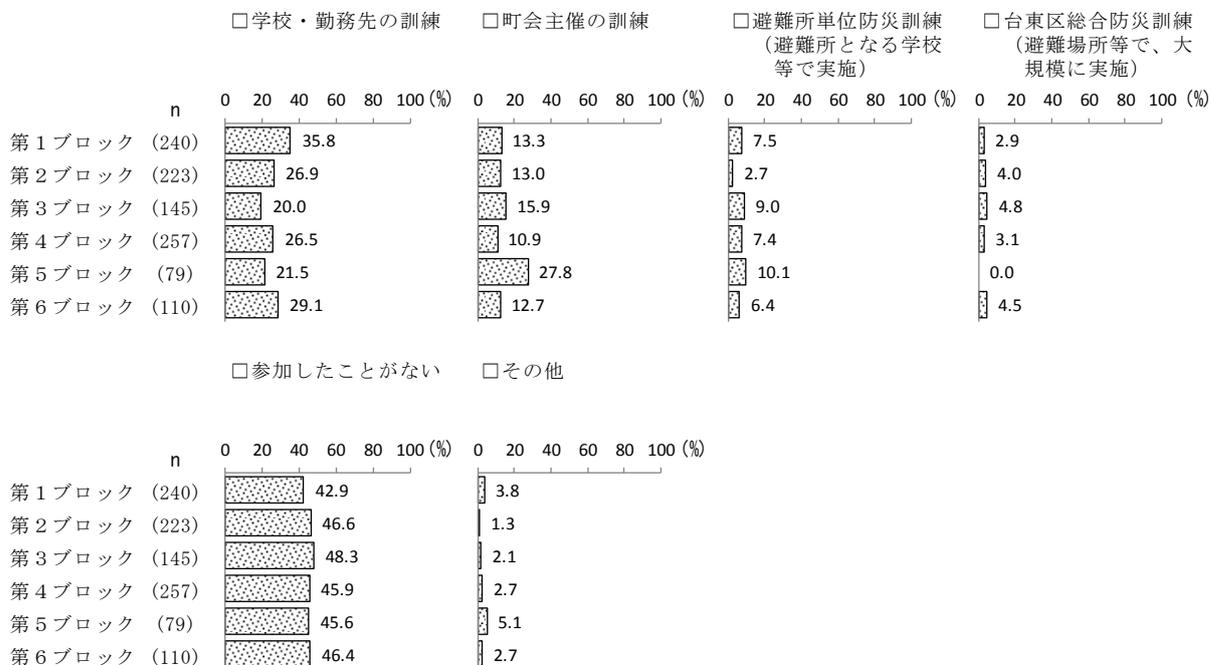
性・年代別でみると、「学校・勤務先の訓練」は男女ともに年齢が低くなるほど多くなっている。「町会主催の訓練」は男女ともに年齢が高くなるほど多くなっている。「参加したことがない」は男性 60 代（54.2%）で 5 割半ばと最も多く、次いで男性 50 代（51.6%）、男性 40 代（50.9%）となっている。（図 7-2-3）

図 7-2-3 参加したことがある防災訓練—性別、性・年代別



地区別でみると、「学校・勤務先の訓練」は第1ブロック（35.8%）で3割半ばと最も多く、次いで第6ブロック（29.1%）、第2ブロック（26.9%）となっている。「町会主催の訓練」は第5ブロック（27.8%）で3割近くと最も多くなっている。「参加したことがない」は第3ブロック（48.3%）で5割近くと最も多く、第1ブロック（42.9%）で最も少なくなっている。（図7-2-4）

図7-2-4 参加したことがある防災訓練—地区別

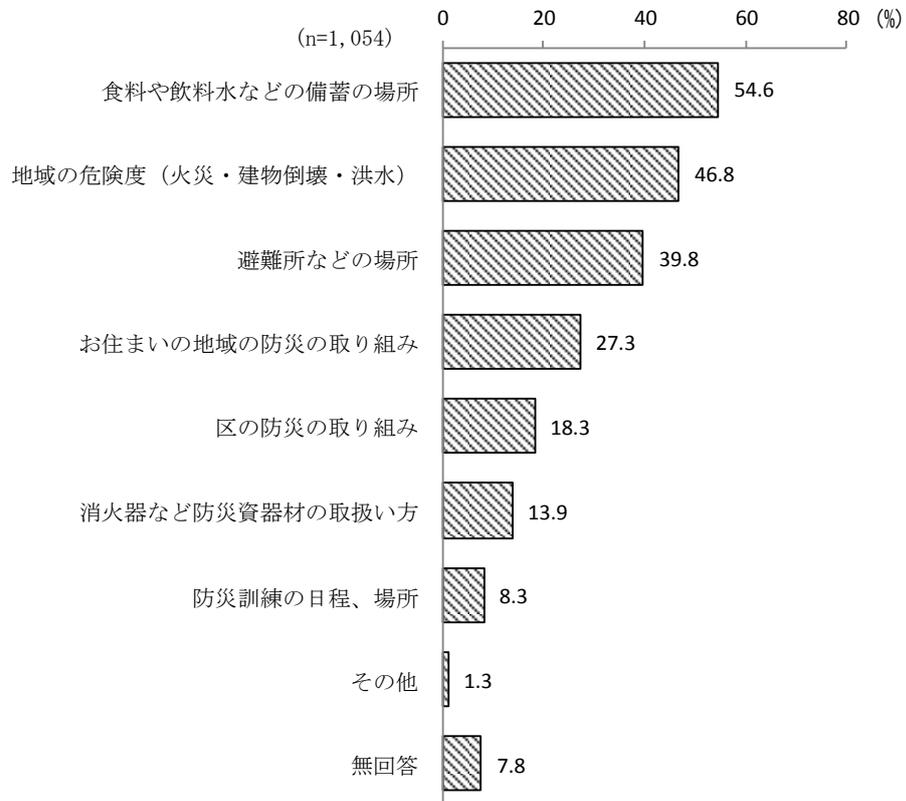


7-3 防災に対して知りたい情報

「食料や飲料水などの備蓄の場所」が5割半ば

問23 日頃、防災に対してどのような情報を知りたいですか。(〇はいくつでも)

図7-3-1

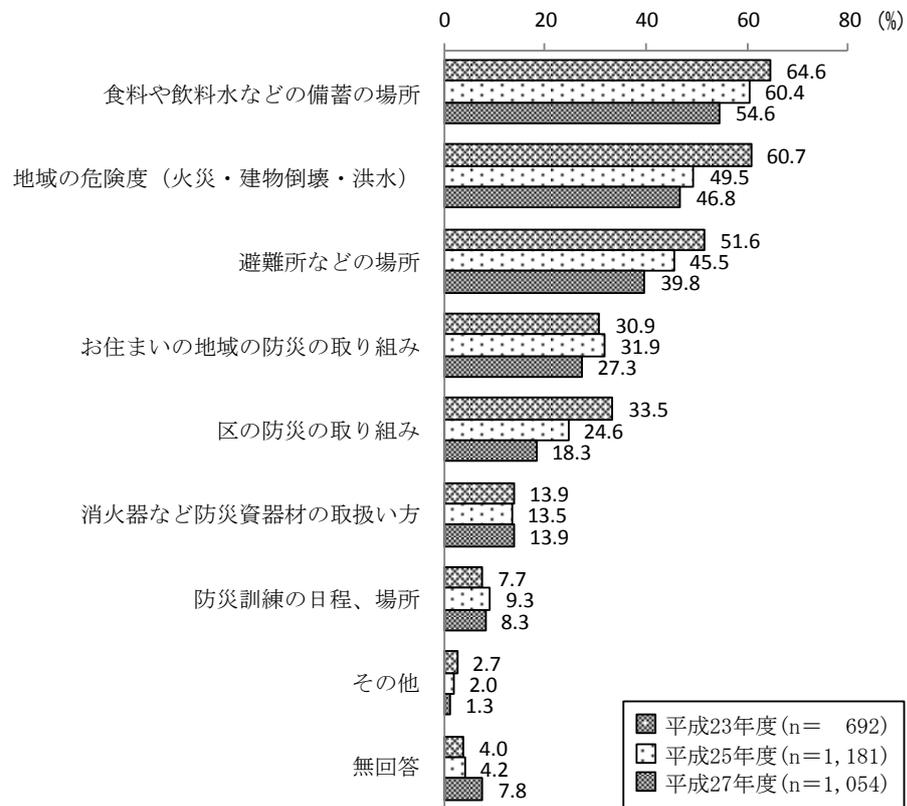


防災に対して知りたい情報は、「食料や飲料水などの備蓄の場所」(54.6%)が5割半ばと最も多く、次いで「地域の危険度(火災・建物倒壊・洪水)」(46.8%)、「避難所などの場所」(39.8%)、「お住まいの地域の防災の取り組み」(27.3%)となっている。(図7-3-1)

推移をみると、知りたい情報の順位は大きな変動はなく同じように推移しているが、ほぼ全ての選択肢で減少傾向にある。「区の防災の取り組み」は平成23年の調査から15.2ポイント減少し、「地域の危険度（火災・建物倒壊・洪水）」は平成23年の調査から13.9ポイント減少している。

(図7-3-2)

図7-3-2 防災に対して知りたい情報－推移

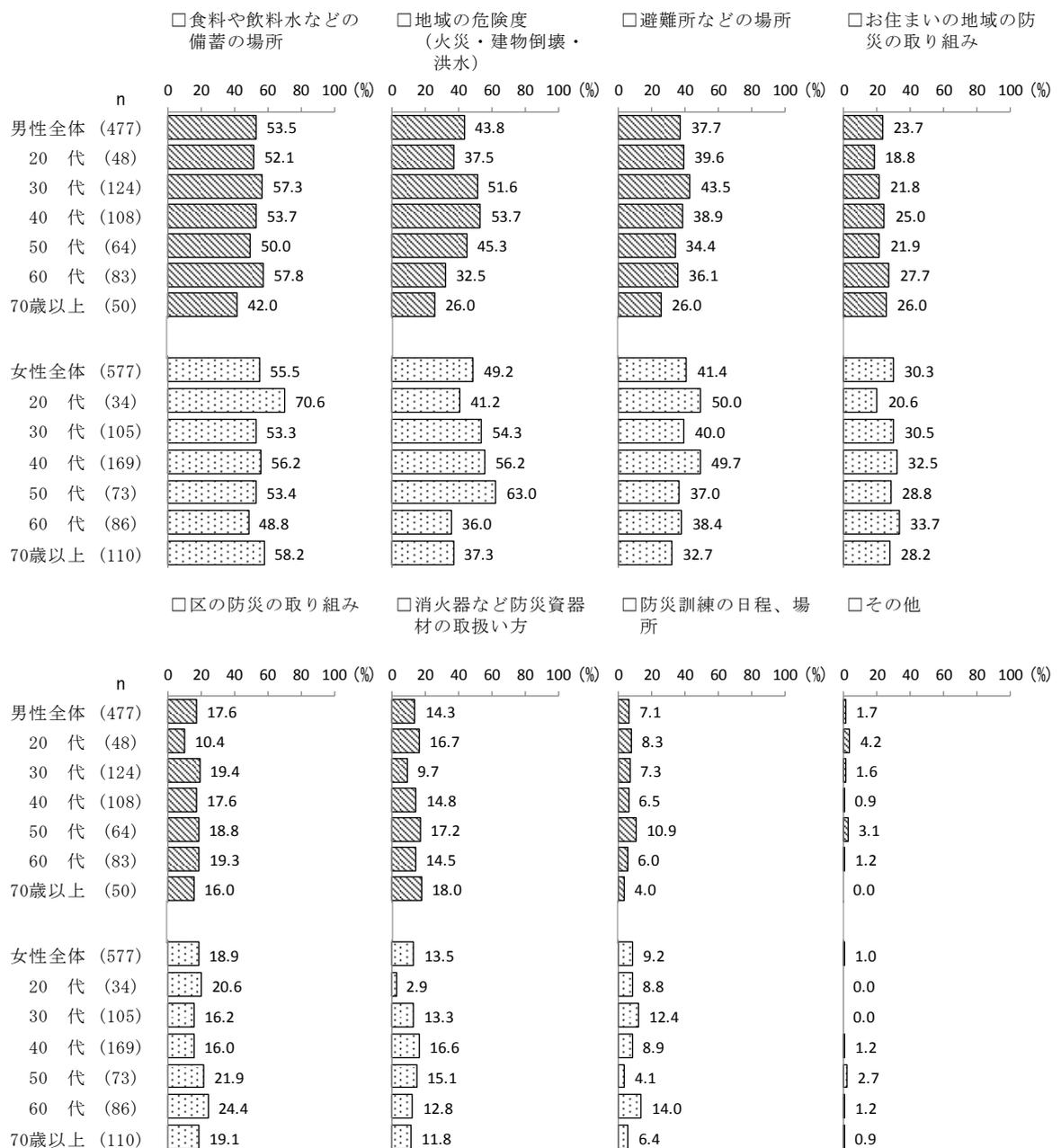


性別でみると、「地域の危険度（火災・建物倒壊・洪水）」は女性（49.2%）が男性（43.8%）より5.4ポイント高くなっている。「お住まいの地域の防災の取り組み」は女性（30.3%）が男性（23.7%）より6.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると「食料や飲料水などの備蓄の場所」は女性20代（70.6%）でほぼ7割と最も多くなっている。「地域の危険度（火災・建物倒壊・洪水）」は女性50代（63.0%）で6割を超え最も多くなっている。「避難所などの場所」は女性20代（50.0%）で5割と最も多くなっている。

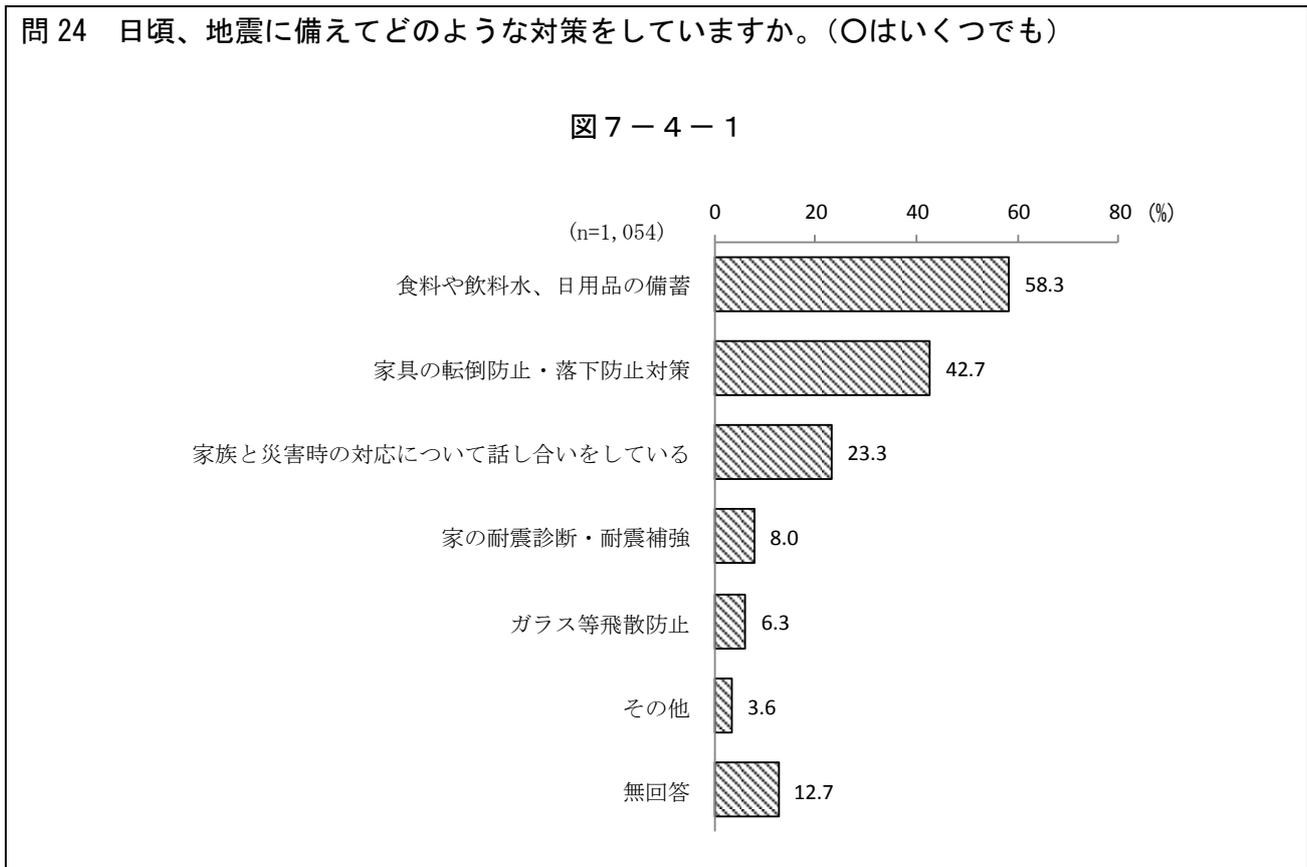
（図7-3-3）

図7-3-3 防災に対して知りたい情報－性別、性・年代別



7-4 地震に対する備え

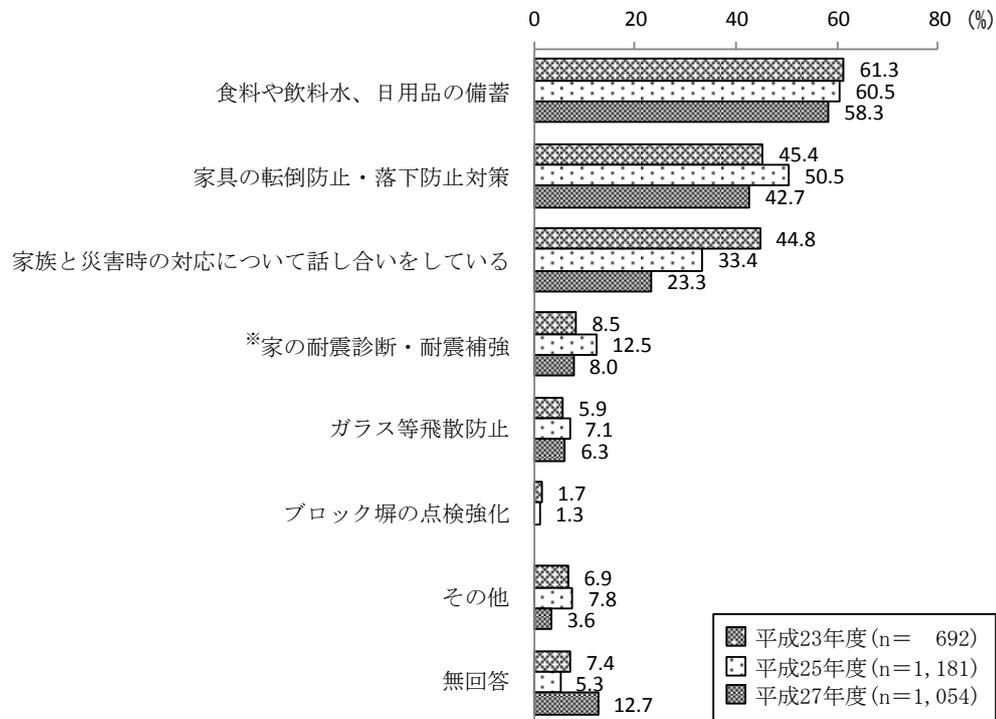
「食料や飲料水、日用品の備蓄」が6割近く



地震に対する備えは、「食料や飲料水、日用品の備蓄」(58.3%)が6割近くと最も多く、「家具の転倒防止・落下防止対策」(42.7%)、「家族と災害時の対応について話し合いをしている」(23.3%)となっている。(図7-4-1)

推移をみると、上位の項目の順位に大きな変動はない。今回調査ではほとんどの選択肢で減少している。「家族と災害時の対応について話し合いをしている」は平成23年度調査から21.5ポイント低くなっている。(図7-4-2)

図7-4-2 地震に対する備え—推移

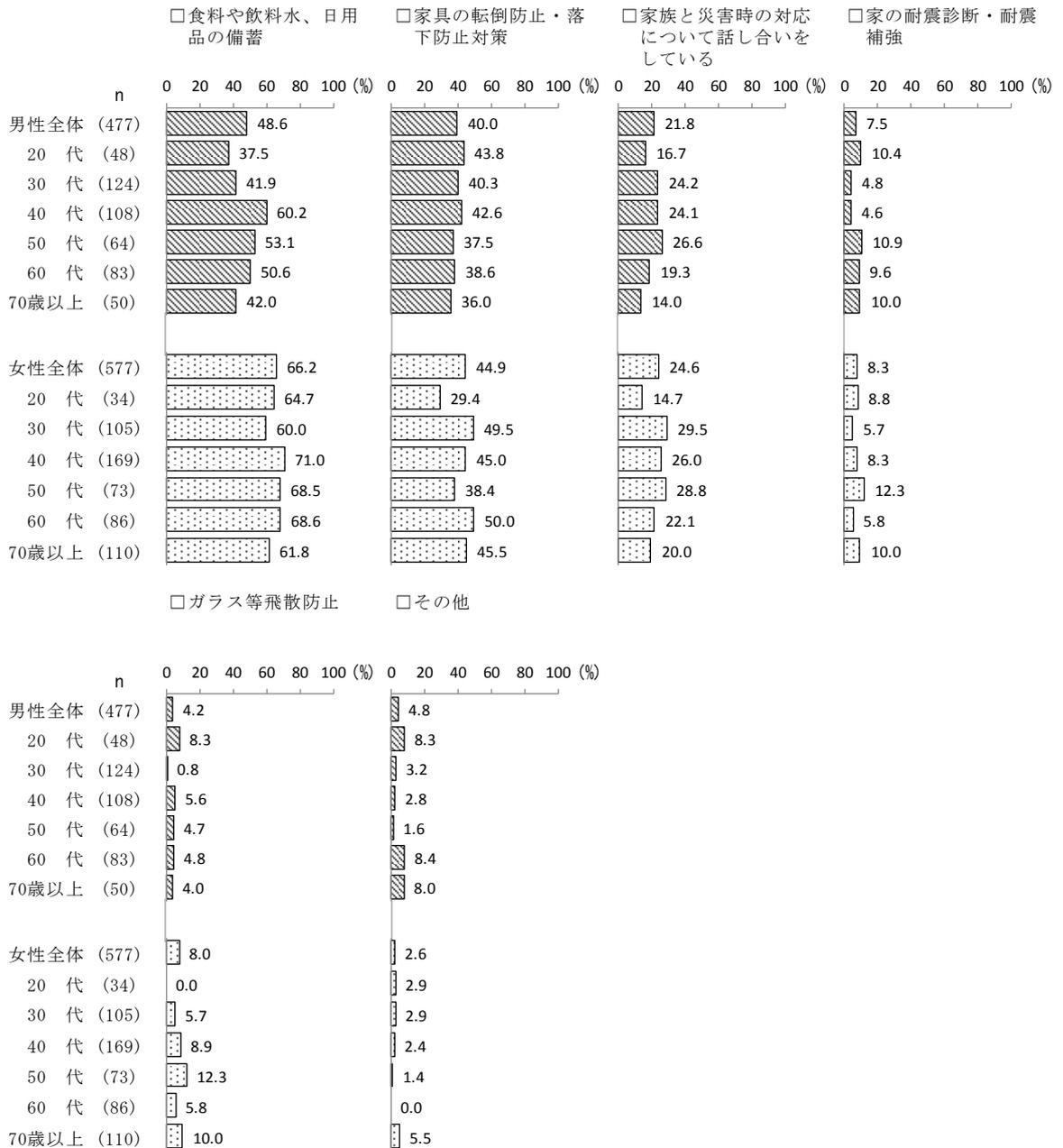


※「家の耐震診断・耐震補強」は、平成25年度調査では「家の耐震診断」(6.7%)と「家の耐震補強」(5.8%)に分かれていたため、合算値とした。

性別でみると、「食料や飲料水、日用品の備蓄」は女性（66.2%）が男性（48.6%）より17.6ポイント高くなっている。

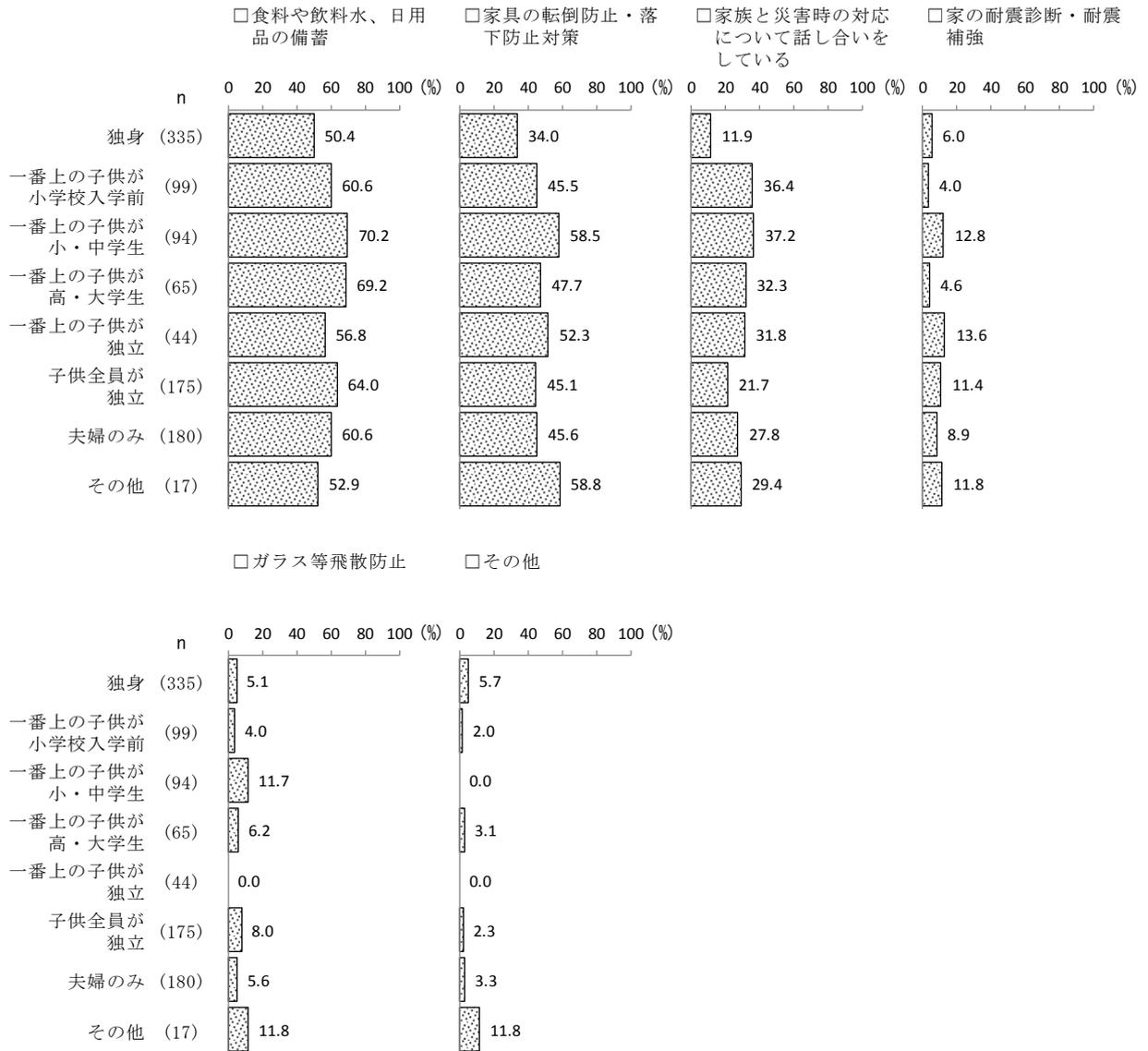
性・年代別でみると「食料や飲料水、日用品の備蓄」は女性40代（71.0%）で7割を超え最も多く、次いで女性60代（68.6%）、女性50代（68.5%）となっている。「家具の転倒防止・落下防止対策」は女性60代（50.0%）で5割と最も多く、次いで女性30代（49.5%）、女性70歳以上（45.5%）となっている。（図7-4-3）

図7-4-3 地震に対する備え—性別、性・年代別



家族構成別でみると、「食料や飲料水、日用品の備蓄」が一番上の子供が小・中学生（70.2%）で7割と最も多く、次いで一番上の子供が高・大学生（69.2%）、子供が全員独立（64.0%）となっている。「家具の転倒防止・落下防止対策」が一番上の子供が小・中学生（58.5%）で6割近くと最も多く、次いで一番上の子供が独立（52.3%）、一番上の子供が高・大学生（47.7%）となっている。（図7-4-4）

図7-4-4 地震に対する備え—家族構成別



8. 生活安全

今回の調査では、「日常生活で犯罪に巻き込まれそうな不安を感じているか」の問いについては、約45%の方がそう感じると回答されています。平成17年調査時の約72%からは大きく減少していますが、昨年約42%からは若干増加しています。

台東区内の刑法犯の認知件数は過去最も犯罪件数の多かった平成12年の8,847件から、平成26年は4,373件と、半数以下に減少しており、区内の治安状況の改善が進んでいることが伺えます。しかしながら、区内では、振り込め詐欺や侵入窃盗の発生件数は若干減少しているものの依然として発生しています。

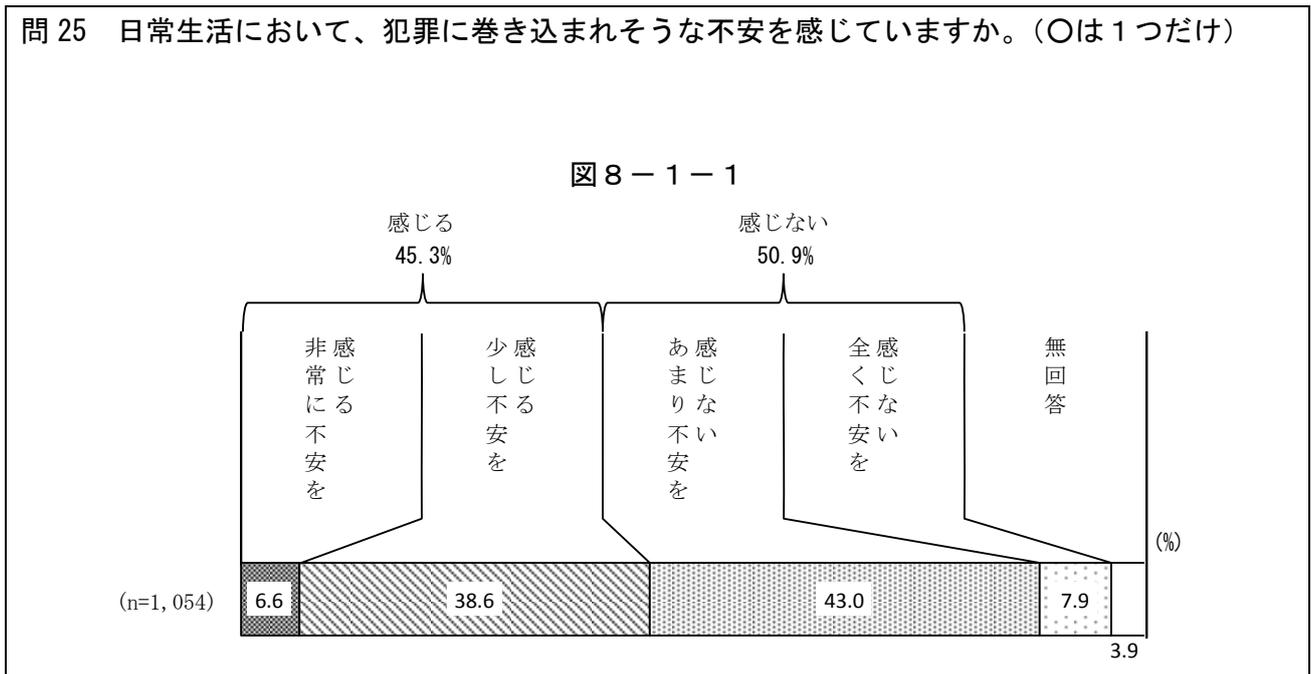
今回の調査結果を参考に警察等の関係機関と連携を深め、区民の皆様の防犯活動への参加、情報提供を一層進めながら、治安の向上に努めてまいります。

危機管理室 生活安全推進課

8-1 日常生活での治安の状況

不安を『感じない』がほぼ5割

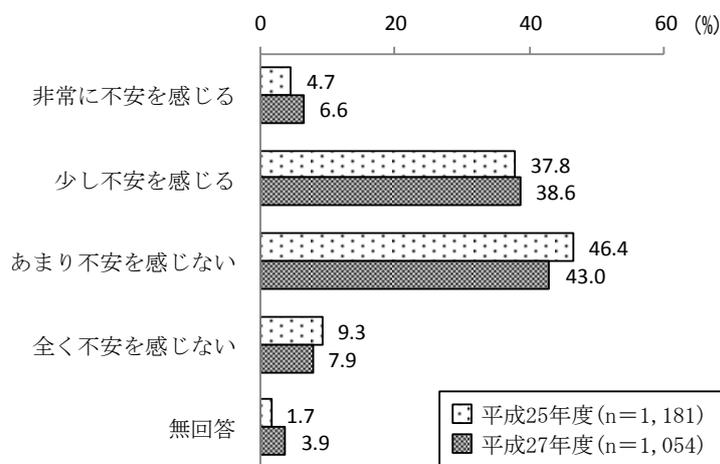
問25 日常生活において、犯罪に巻き込まれそうな不安を感じていますか。(○は1つだけ)



日常生活での治安の状況については、「あまり不安を感じない」(43.0%)が4割を超え最も多く、「全く不安を感じない」(7.9%)と合わせた『感じない』(50.9%)がほぼ5割となっている。一方、「非常に不安を感じる」(6.6%)と「少し不安を感じる」(38.6%)を合わせた『感じる』(45.3%)は4割半ばとなっている。(図8-1-1)

推移をみると、「非常に不安を感じる」は前回調査から1.9ポイント高く、「少し不安を感じる」は0.8ポイント高くなっている。一方、「あまり不安を感じない」は3.4ポイント低くなって、「全く不安を感じない」は1.4ポイント低くなっている。(図8-1-2)

図8-1-2 日常生活での治安の状況—推移

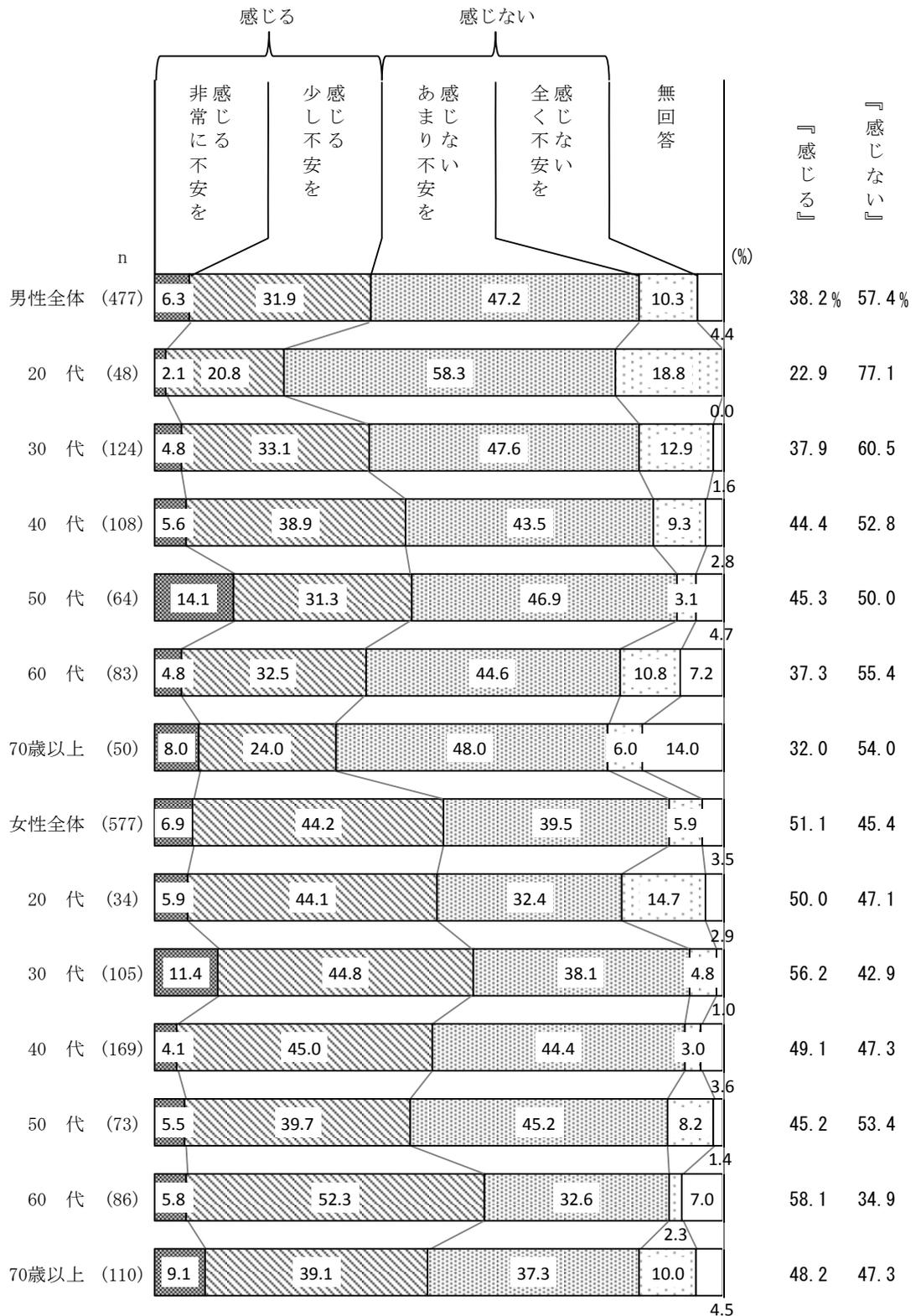


性別でみると、日常生活での治安について不安を『感じる』は女性（51.1%）が男性（38.2%）より12.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『感じる』は女性60代（58.1%）で6割近くと最も多く、次いで女性30代（56.2%）、女性20代（50.0%）となっている。一方、『感じない』は男性20代（77.1%）で8割近くと最も多く、次いで男性30代（60.5%）、男性60代（55.4%）となっている。

(図8-1-3)

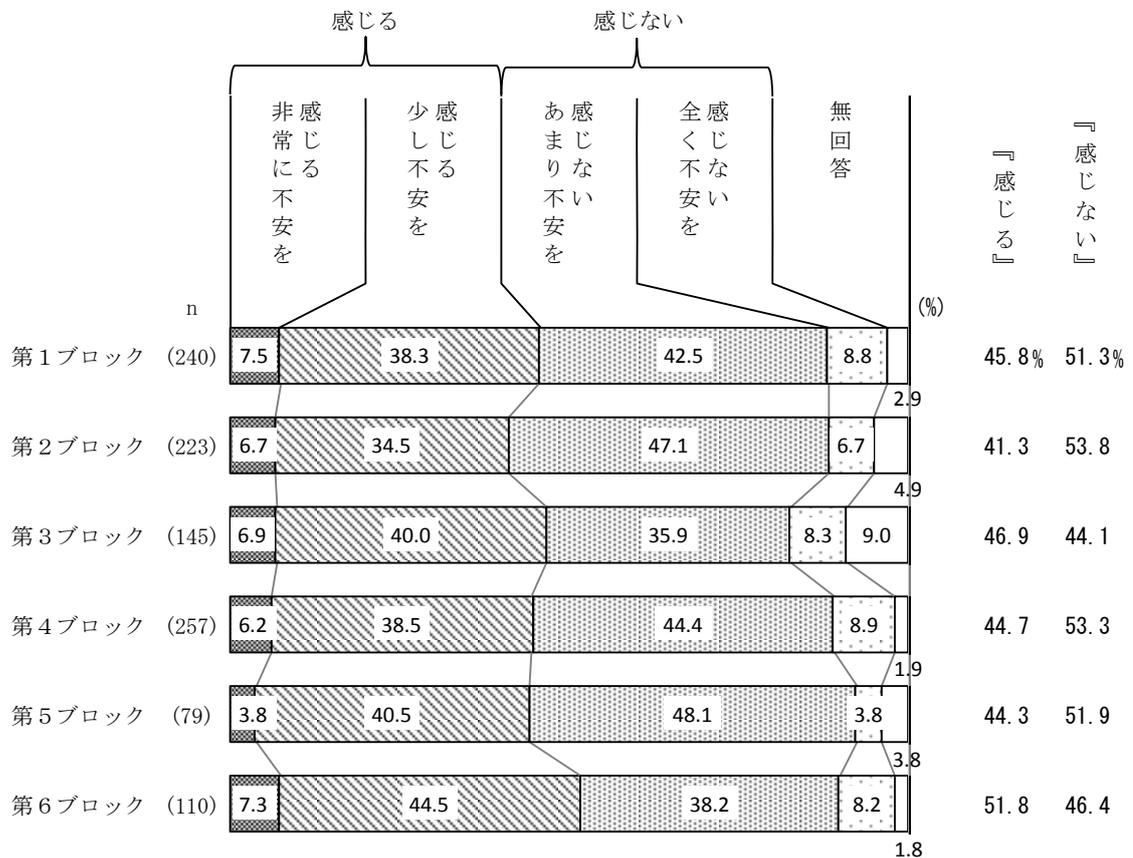
図8-1-3 日常生活での治安の状況—性別、性・年代別



地区別でみると、『感じる』は第6ブロック（51.8%）で5割を超え最も多く、次いで第3ブロック（46.9%）、第1ブロック（45.8%）となっている。一方、『感じない』は第2ブロック（53.8%）で5割を超え最も多く、次いで第4ブロック（53.3%）、第5ブロック（51.9%）となっている。

(図8-1-4)

図8-1-4 日常生活での治安の状況—地区別

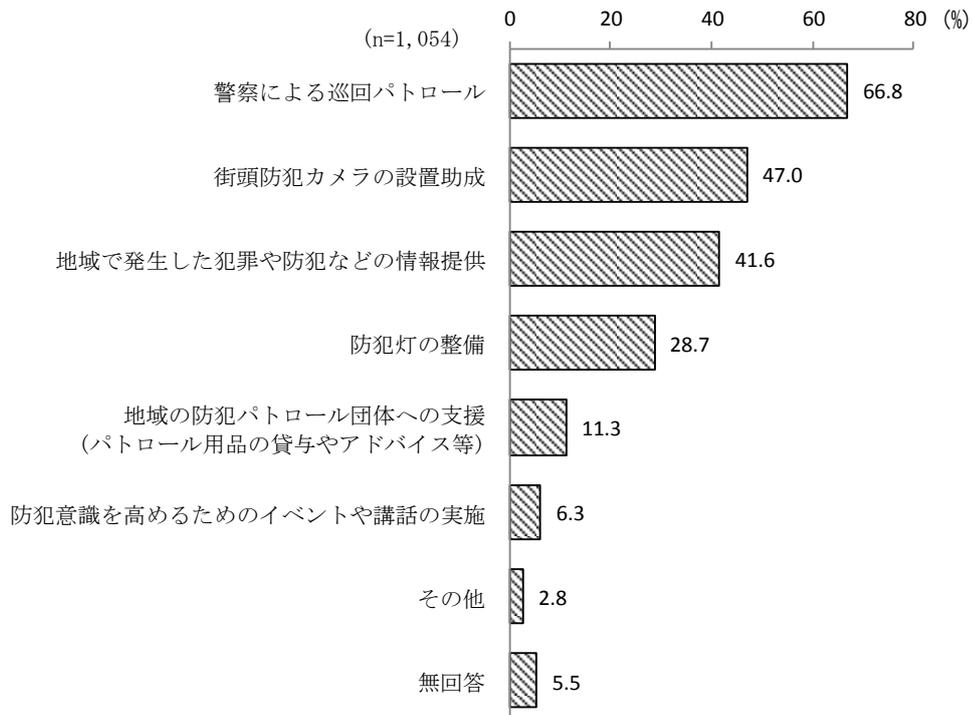


8-2 地域の防犯活動に対する取り組み強化の要望

「警察による巡回パトロール」が7割近く

問 26 地域の防犯活動に対して、区や警察等行政機関に取り組みを強化してほしいことは何ですか。(〇はいくつでも)

図 8-2-1

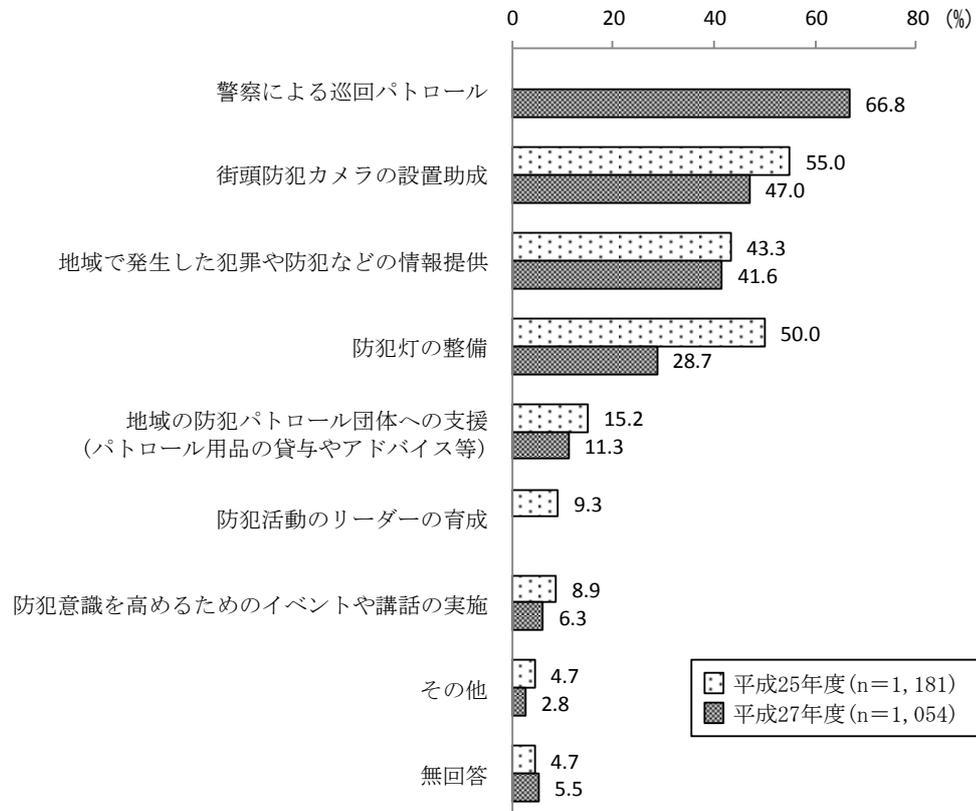


地域の防犯活動に対する取り組み強化の要望は、「警察による巡回パトロール」(66.8%)が7割近くと最も多く、次いで「街頭防犯カメラの設置助成」(47.0%)、「地域で発生した犯罪や防犯などの情報提供」(41.6%)、「防犯灯の整備」(28.7%)となっている。(図8-2-1)

推移をみると、前回と選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、各項目とも減少している。また、「防犯灯の整備」は前回調査から 21.3 ポイント低くなっている。

(図 8-2-2)

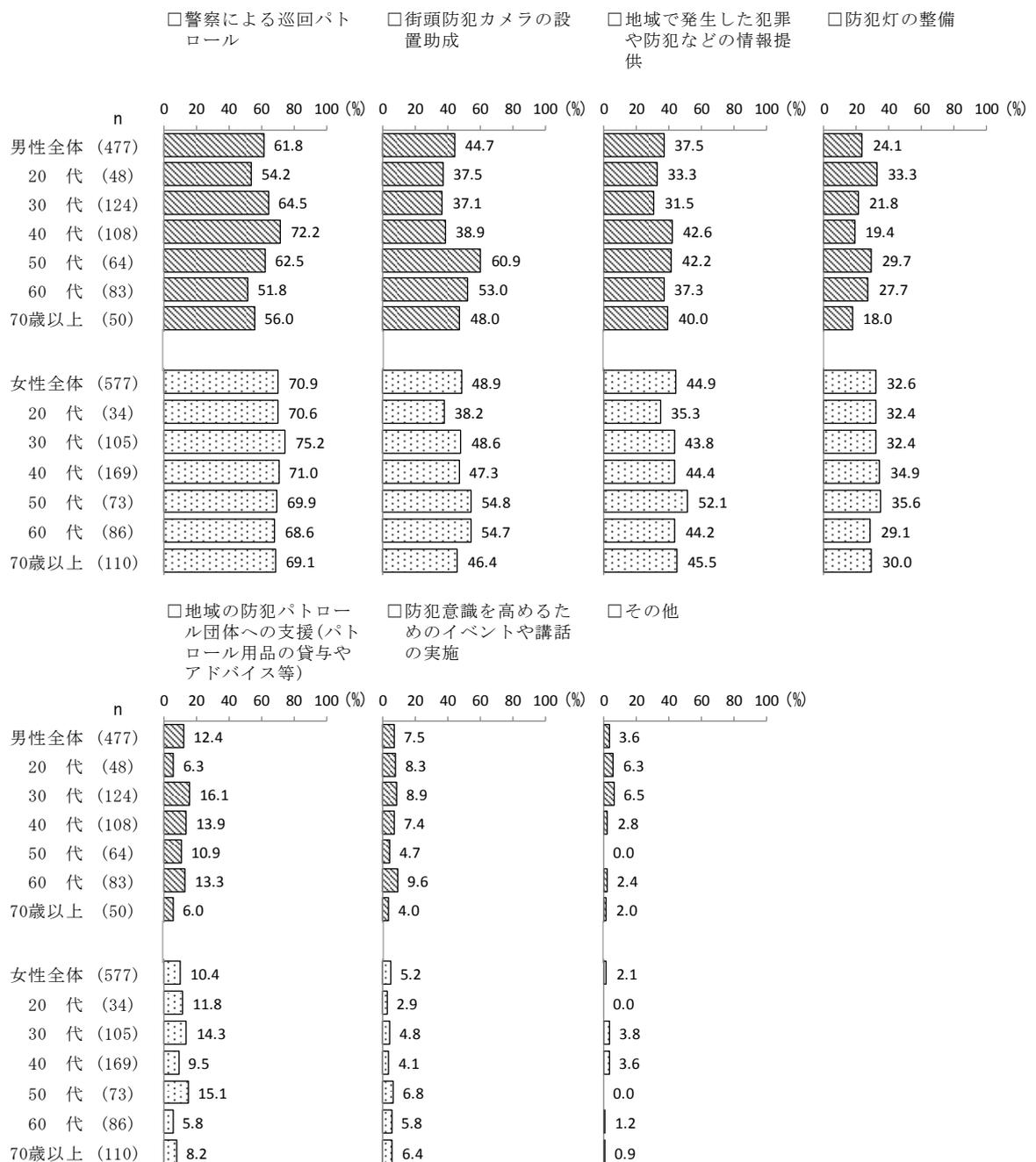
図 8-2-2 地域の防犯活動に対する取り組み強化の要望—推移



性別でみると、「警察による巡回パトロール」は女性（70.9%）が男性（61.8%）より 9.1 ポイント高くなっている。「地域で発生した犯罪や防犯などの情報提供」は女性（44.9%）が男性（37.5%）より 7.4 ポイント高く、「防犯灯の整備」は女性（32.6%）が男性（24.1%）より 8.5 ポイント高くなっている。

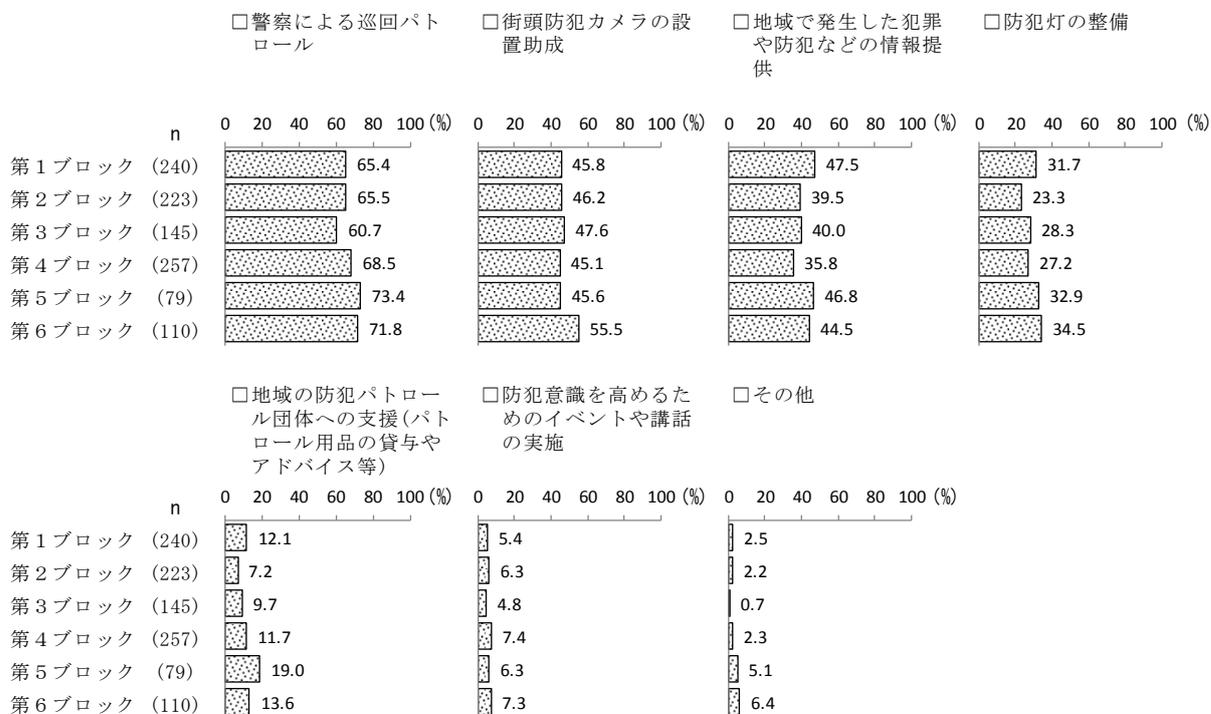
性・年代別でみると、「警察による巡回パトロール」は女性 30 代（75.2%）で 7 割半ばと最も多く、次いで男性 40 代（72.2%）、女性 40 代（71.0%）となっている。「街頭防犯カメラの設置助成」は男性 50 代（60.9%）でほぼ 6 割と最も高く、次いで女性 50 代（54.8%）、女性 60 代（54.7%）となっている。「地域で発生した犯罪や防犯などの情報提供」は女性 50 代（52.1%）で 5 割を超え最も多くなっている。（図 8-2-3）

図 8-2-3 地域の防犯活動に対する取り組み強化の要望—性別、性・年代別



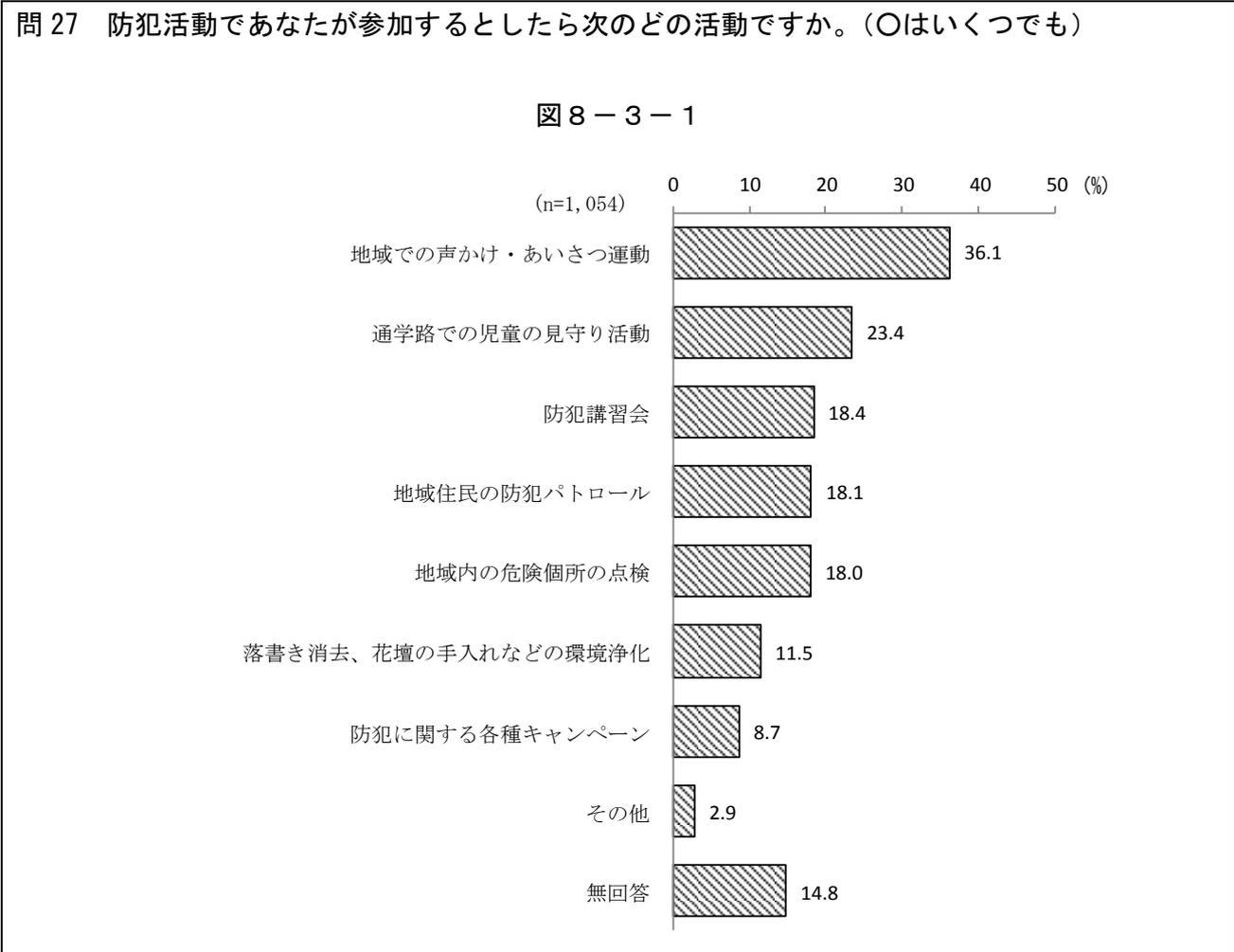
地区別にみると、「警察による巡回パトロール」は第5ブロック(73.4%)、第6ブロック(71.8%)が7割を超え多くなっている。「街頭防犯カメラの設置助成」は第6ブロック(55.5%)で5割半ばと多くなっている。「地域で発生した犯罪や防犯などの情報提供」は第1ブロック(47.5%)、第5ブロック(46.8%)で5割近くとなっている。(図8-2-4)

図8-2-4 地域の防犯活動に対する取り組み強化の要望—地区別



8-3 参加したい防犯活動

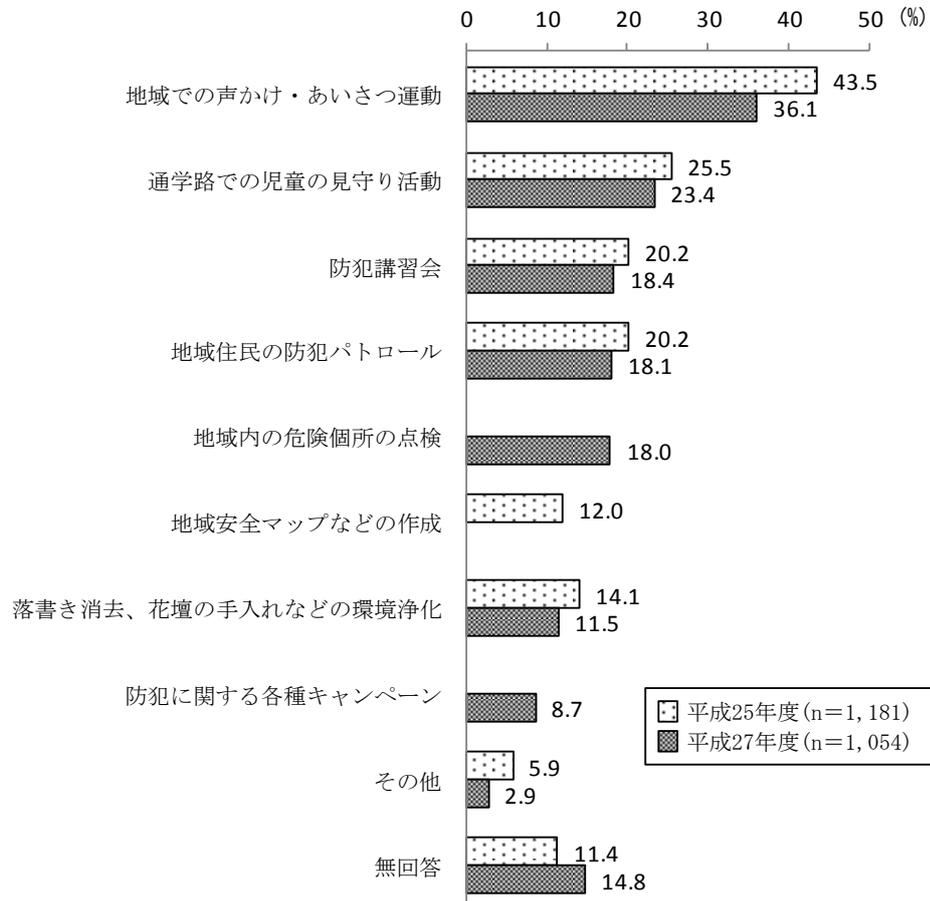
「地域での声かけ・あいさつ運動」が3割半ば



参加したい防犯活動は、「地域での声かけ・あいさつ運動」(36.1%)が3割半ばで最も多く、次いで「通学路での児童の見守り活動」(23.4%)、「防犯講習会」(18.4%)、「地域住民の防犯パトロール」(18.1%)、「地域内の危険個所の点検」(18.0%)となっている。(図8-3-1)

推移をみると、選択肢が異なるため単純に比較はできないが上位の選択肢に大きな変動はないが、全体的に減少している。「地域での声かけ・あいさつ運動」は前回調査から7.4ポイント低くなっている。(図8-3-2)

図8-3-2 参加したい防犯活動－推移

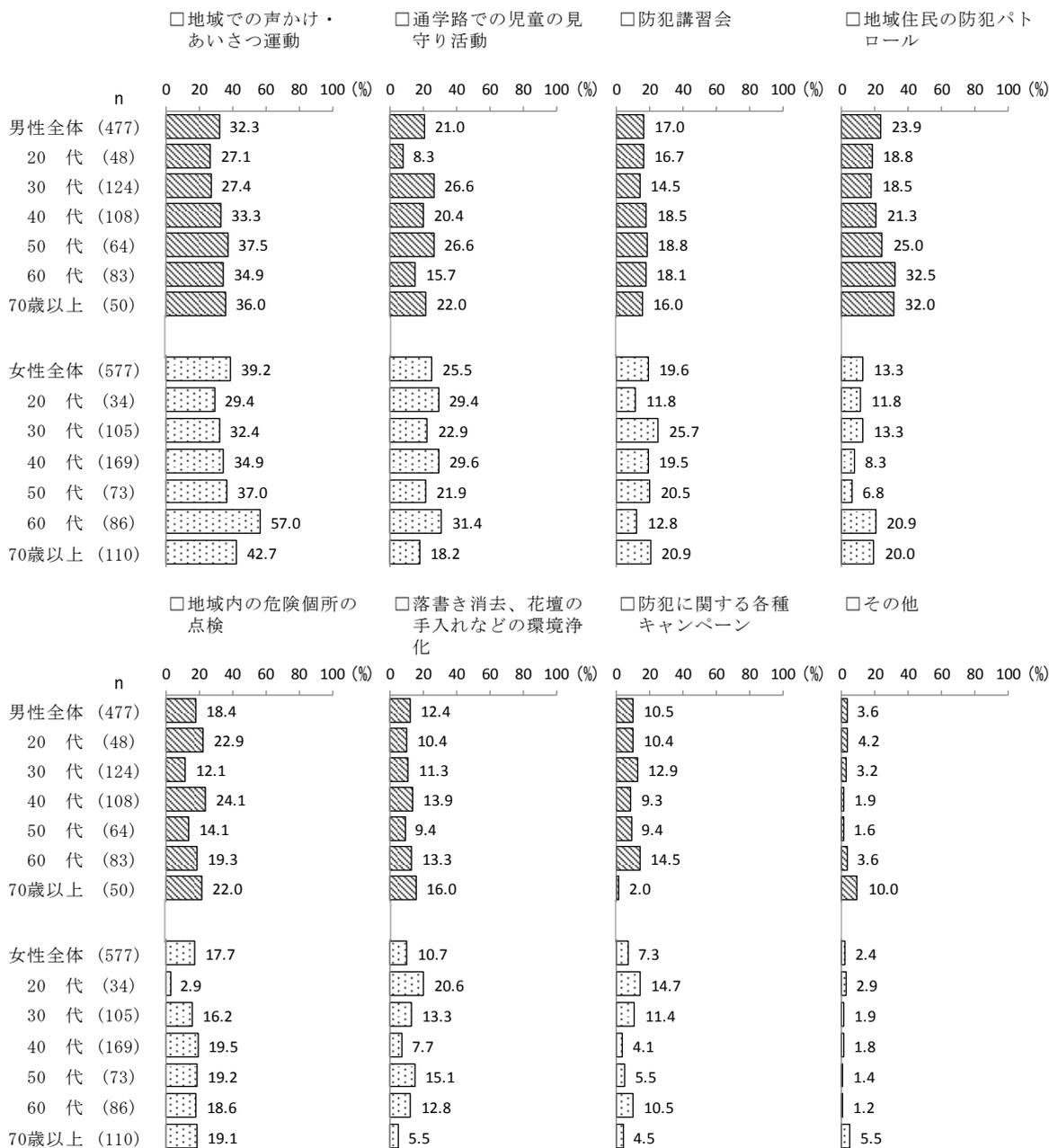


性別でみると、「地域住民の防犯パトロール」は男性（23.9%）が女性（13.3%）より10.6ポイント高くなっている。「地域での声かけ・あいさつ運動」は女性（39.2%）が男性（32.3%）より6.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「地域での声かけ・あいさつ運動」は女性60代（57.0%）で6割近くと最も多く、「通学路での児童の見守り活動」は女性60代（31.4%）で3割を超え最も多くなっている。

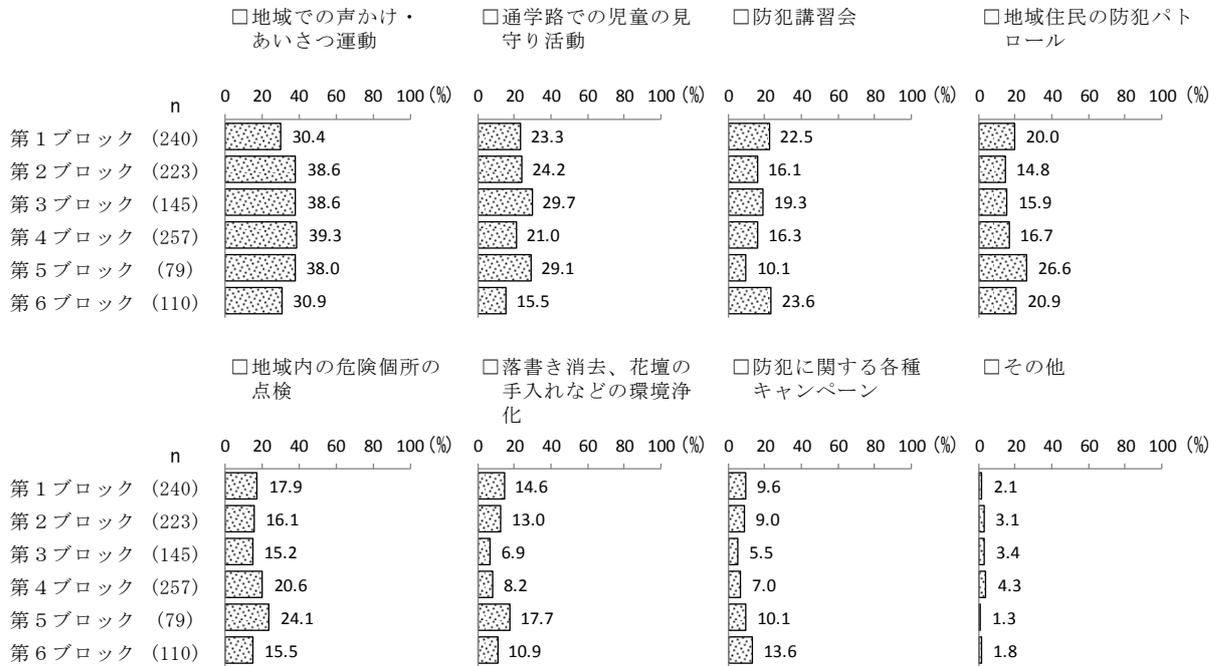
(図8-3-3)

図8-3-3 参加したい防犯活動－性別、性・年代別



地区別にみると、「地域での声かけ・あいさつ運動」は第1ブロック、第6ブロックで他のブロックより少なくなっている。「通学路での児童の見守り活動」は第3ブロック、第5ブロックで他のブロックより多くなっている。「地域住民の防犯パトロール」、「地域内の危険個所の点検」、「落書き消去、花壇の手入れなどの環境浄化」は第5ブロックで多くなっている。(図8-3-4)

図8-3-4 参加したい防犯活動—地区別



9. 地域活動

台東区は支え合いを基調とする地域性があり、多くの人たちが自らの知識や経験を活かし、地域の課題に取り組んでいこうという自主的・主体的な活動が広がっています。

今回の調査では、「地域活動への参加状況」、「活動・参加している（参加したい）地域活動の団体」、そして「地域活動に参加していない理由」についてお伺いしました。その結果、特に、地域活動に参加していない理由として、「参加の仕方がわからない、きっかけがない」「活動団体に関する情報が少ない」との回答が上位にあり、参加のきっかけとなるような地域活動や団体に関する情報が身近にないこと等がわかりました。

地域活動に参加することで、地域や人とのつながりが生まれ、それが地域を支えていく力になります。区では、このような地域の力を活かし、地域社会の身近な課題を解決していくため、お互いに思いやりを持って助け合い、多様な主体が力を合わせた協働によるまちづくりを進めています。

この調査結果を踏まえ、協働に取り組みやすい制度や環境の整備などに取り組み、地域活動への参加をさらに促進してまいります。

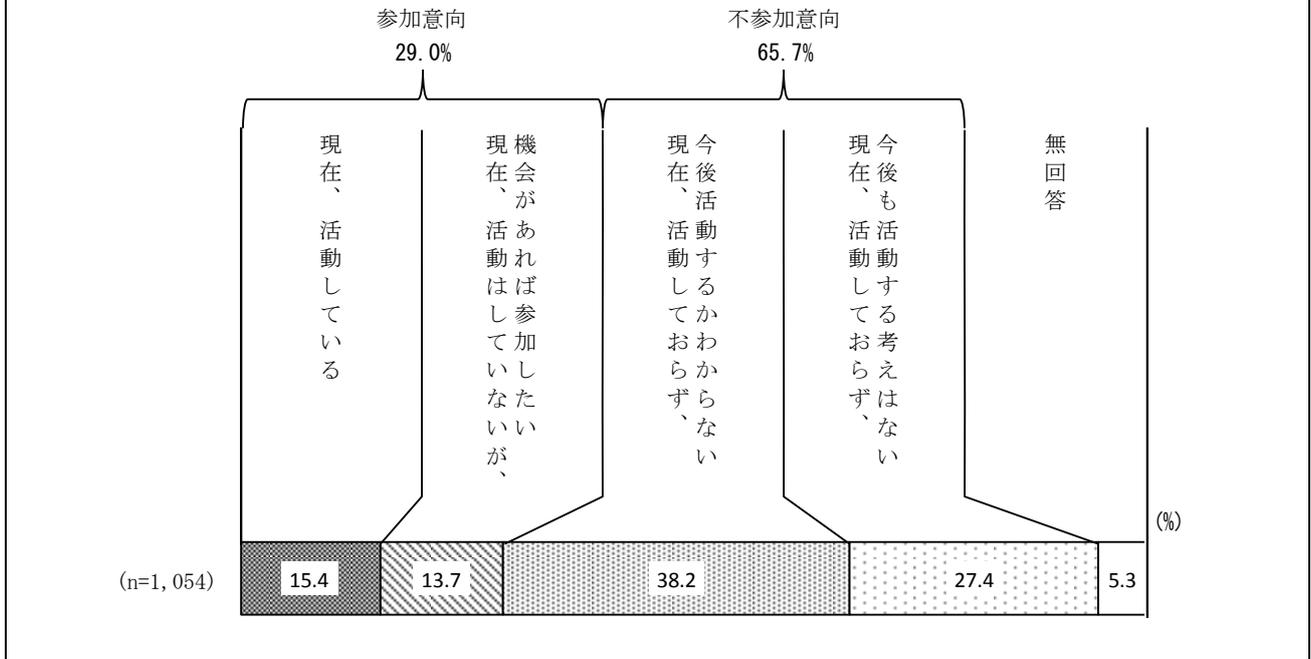
(区民部 区民課)

9-1 地域活動への参加状況

「現在、活動しておらず、今後活動するかわからない」が4割近く

問28 あなたは、町会、PTA、ボランティア、NPO活動などの地域活動をしていますか。または、今後、活動するお考えがありますか。(○は1つだけ)

図9-1-1



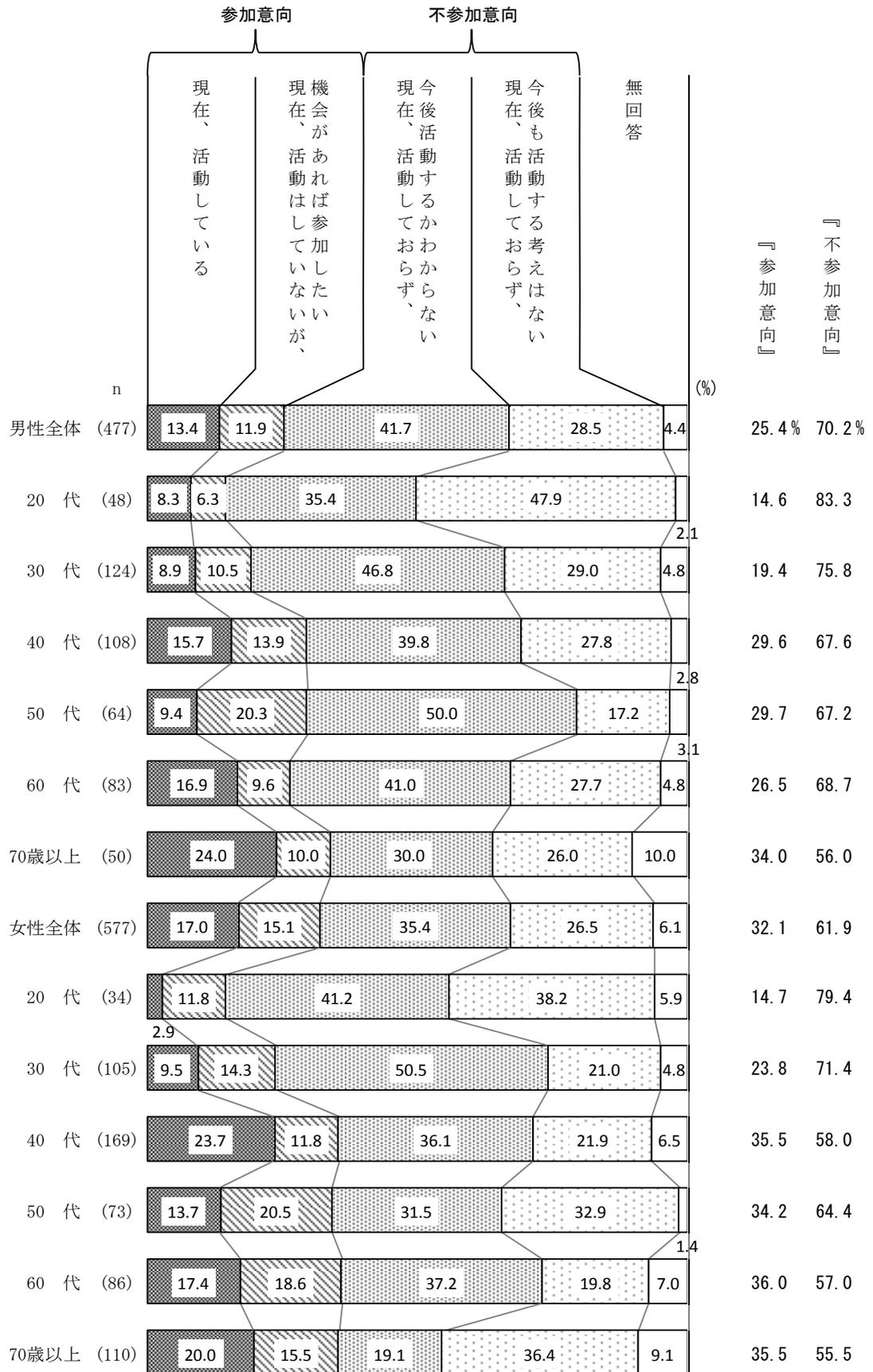
地域活動への参加状況は、「現在、活動しておらず、今後活動するかわからない」(38.2%)が4割近くと最も多く、「現在、活動しておらず、今後も活動する考えはない」(27.4%)と合わせた『不参加意向』(65.7%)は6割半ばとなっている。一方、「現在、活動している」(15.4%)と「現在、活動はしていないが、機会があれば参加したい」(13.7%)を合わせた『参加意向』(29.0%)はほぼ3割となっている。(図9-1-1)

性別でみると、『参加意向』は女性(32.1%)が男性(25.4%)より6.7ポイント高くなっている。一方、『不参加意向』は男性(70.2%)が女性(61.9%)より8.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『参加意向』は女性60代(36.0%)で3割半ばと最も多く、次いで女性40代及び女性70歳以上(35.5%)となっている。一方、『不参加意向』は男性20代(83.3%)で8割を超え最も多く、次いで女性20代(79.4%)、男性30代(75.8%)となっている。

(図9-1-2)

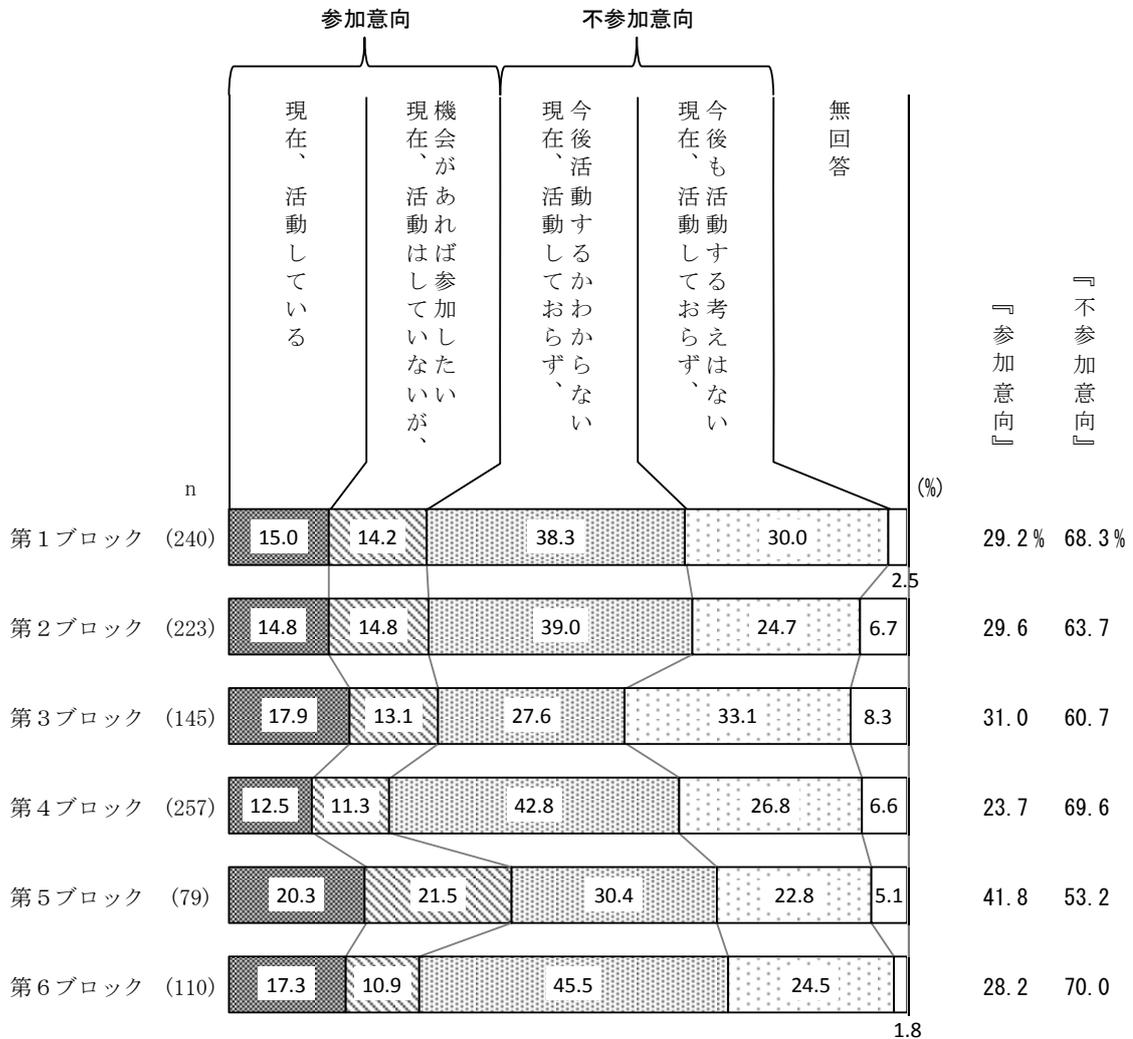
図9-1-2 地域活動への参加状況—性別、性・年代別



地区別にみると、『参加意向』は第5ブロック（41.8%）で4割を超え最も多く、次いで第3ブロック（31.0%）、第2ブロック（29.6%）となっている。一方、『不参加意向』は第6ブロック（70.0%）で7割と最も多く、次いで第4ブロック（69.6%）、第1ブロック（68.3%）となっている。

(図9-1-3)

図9-1-3 地域活動への参加状況—地区別



9-2 活動・参加している（参加したい）地域活動の団体

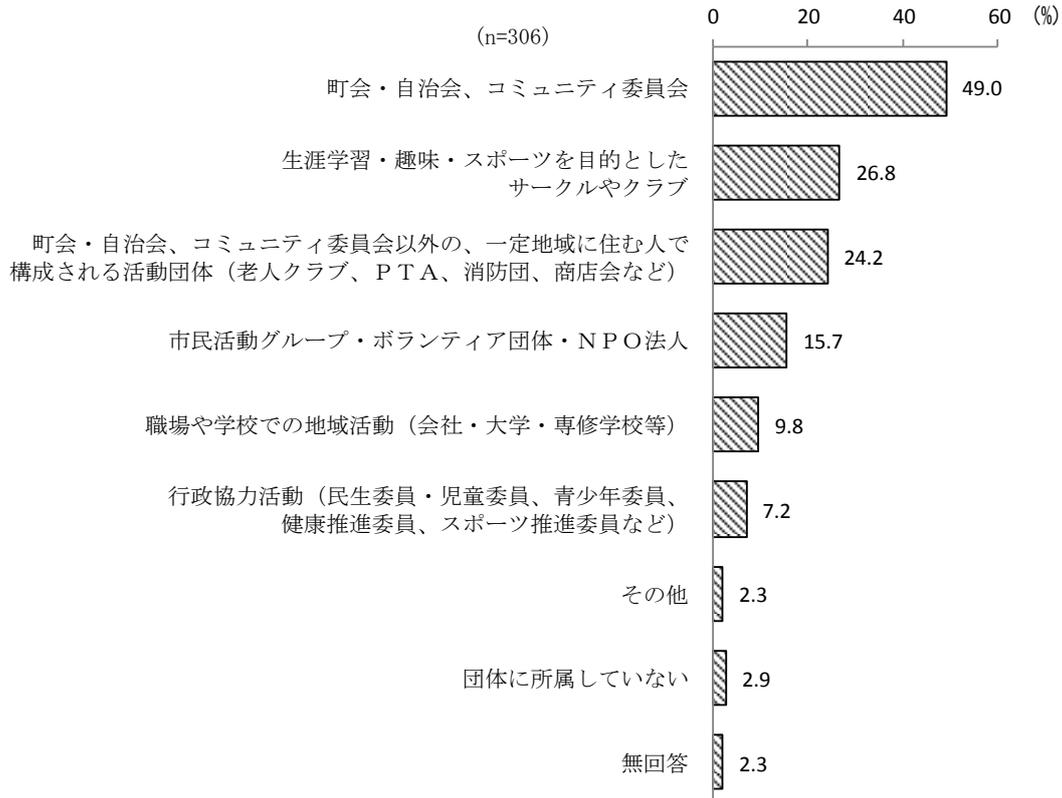
「町会・自治会、コミュニティ委員会」がほぼ5割

(問28で「1. 現在、活動している」または「2. 現在、活動はしていないが、機会があれば参加したい」とお答えの方に)

問28-1 あなたが活動・参加している（参加したい）地域活動の団体はどれですか。

(〇はいくつでも)

図9-2-1



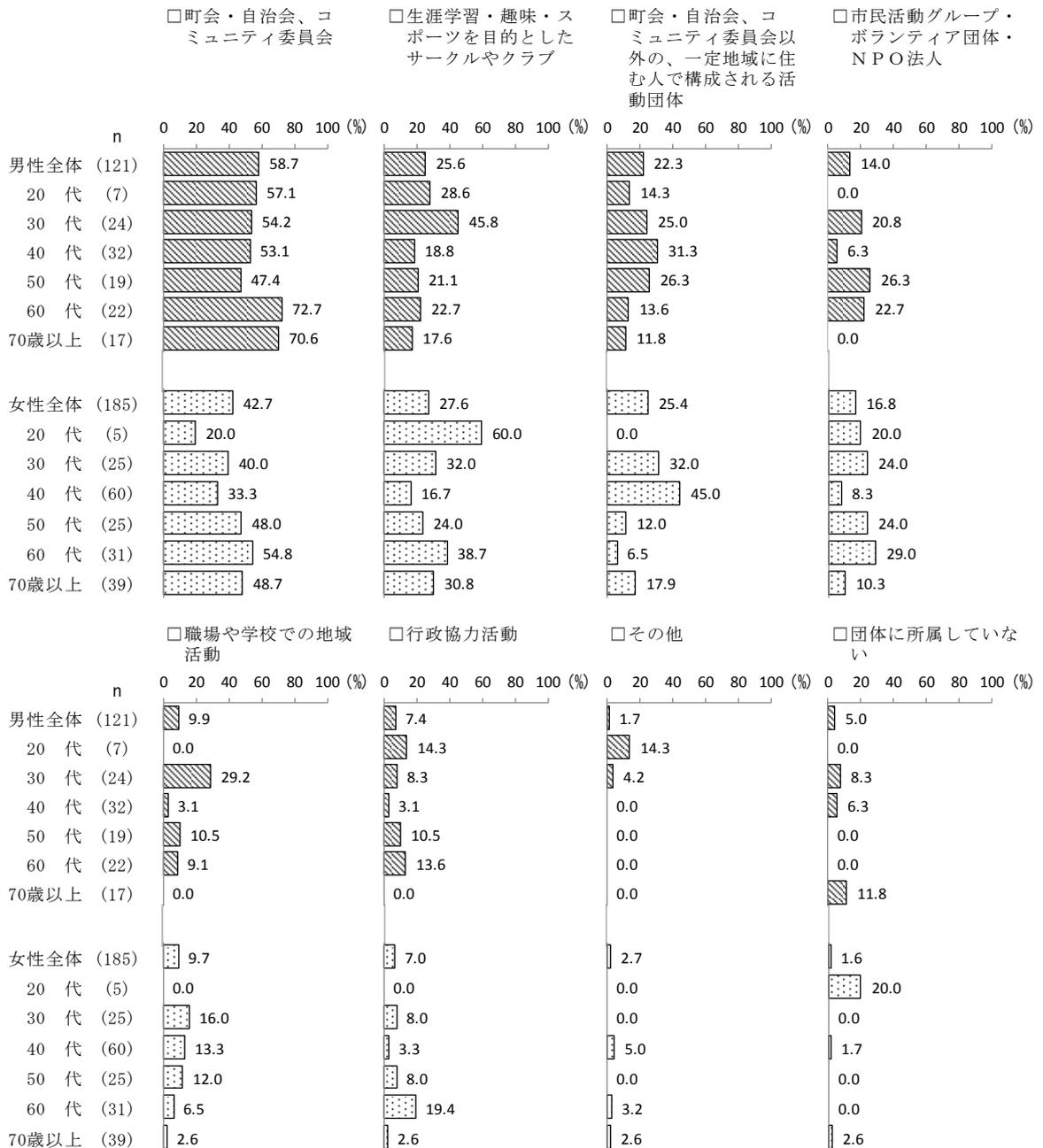
活動・参加している（参加したい）地域活動の団体は、「町会・自治会、コミュニティ委員会」(49.0%)がほぼ5割と最も多く、次いで「生涯学習・趣味・スポーツを目的としたサークルやクラブ」(26.8%)、「町会・自治会、コミュニティ委員会以外の、一定地域に住む人で構成される活動団体（老人クラブ、PTA、消防団、商店会など）」(24.2%)、「市民活動グループ・ボランティア団体・NPO法人」(15.7%)となっている。(図9-2-1)

性別でみると、「町会・自治会、コミュニティ委員会」は男性（58.7%）が女性（42.7%）より16.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「町会・自治会、コミュニティ委員会」は男性60代（72.7%）、男性70歳以上（70.6%）で7割台と多くなっている。「生涯学習・趣味・スポーツを目的としたサークルやクラブ」は女性20代（60.0%）で6割と多く、「町会・自治会、コミュニティ委員会以外の、一定地域に住む人で構成される活動団体」は女性40代（45.0%）で4割半ばと多くなっている。

(図9-2-2)

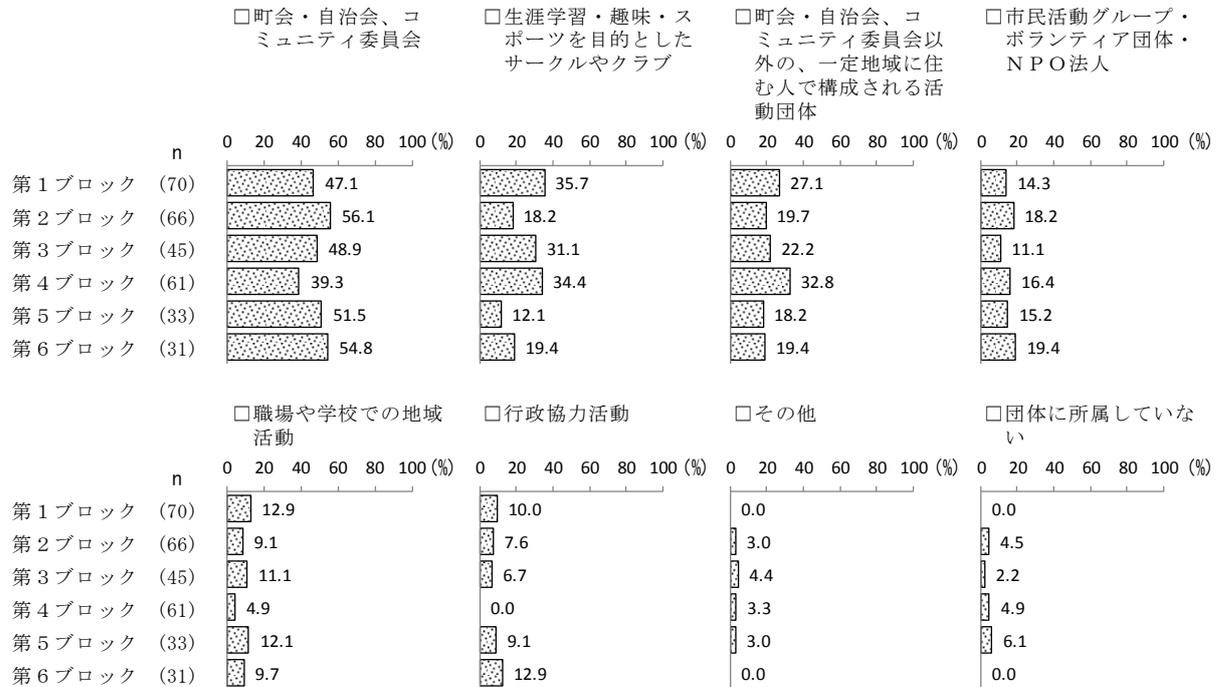
図9-2-2 活動・参加している（参加したい）地域活動の団体—性別、性・年代別



地区別にみると、「町会・自治会、コミュニティ委員会」は第2ブロック（56.1%）で5割半ばと最も多くなっている。「生涯学習・趣味・スポーツを目的としたサークルやクラブ」は第1ブロック（35.7%）で3割半ばと最も多く、「町会・自治会、コミュニティ委員会以外の、一定地域に住む人で構成される活動団体」は第4ブロック（32.8%）で3割を超え多くなっている。

(図9-2-3)

図9-2-3 活動・参加している（参加したい）地域活動の団体—地区別



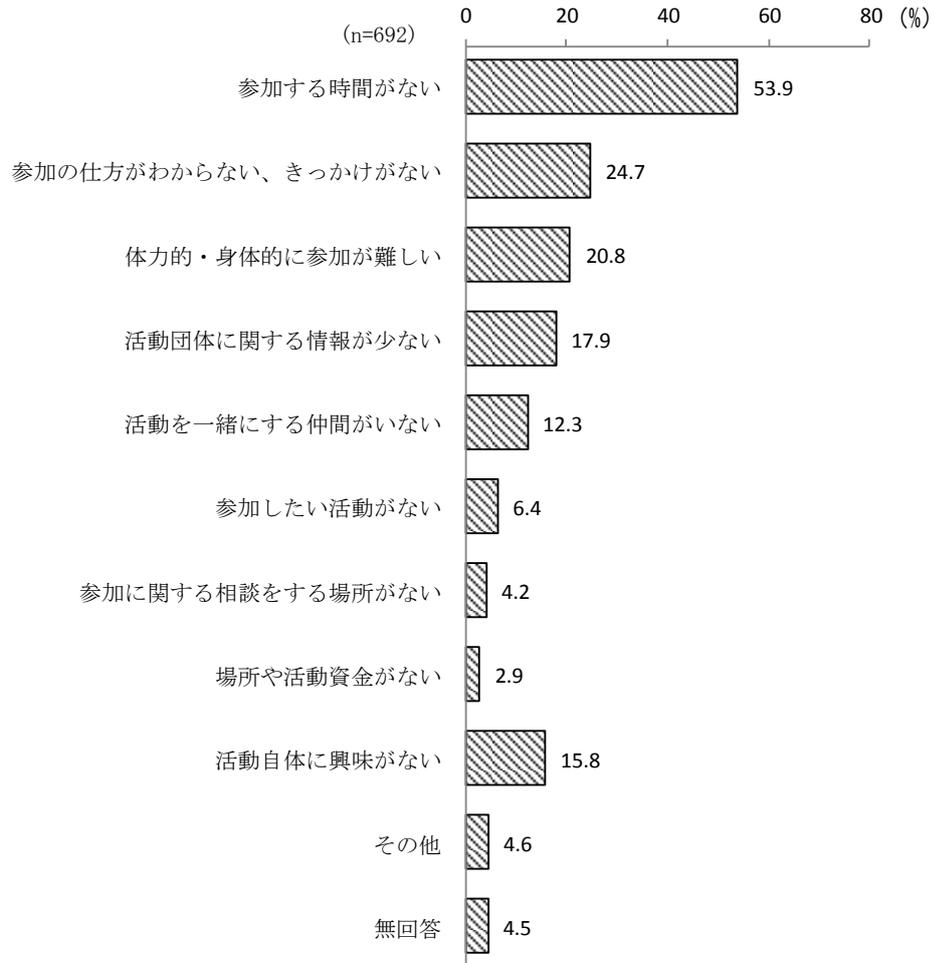
9-3 地域活動に参加していない理由

「参加する時間がない」が5割を超える

(問28で「3. 現在、活動しておらず、今後活動するかわからない」または「4. 現在、活動しておらず、今後も活動する考えはない」とお答えの方に)

問28-2 これらの活動に、参加していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図9-3-1



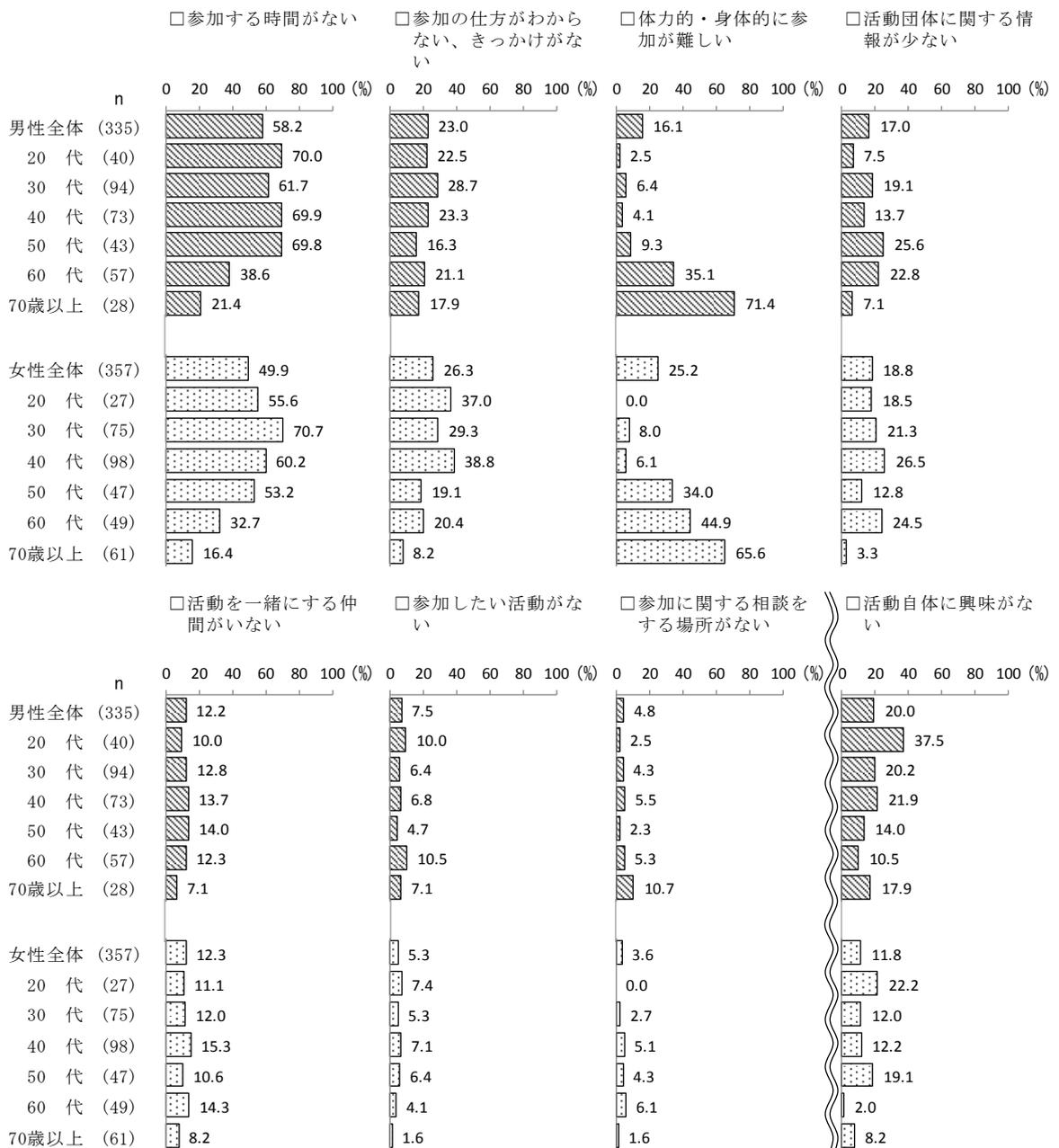
地域活動に参加していない理由は、「参加する時間がない」(53.9%)が5割を超え最も多く、次いで「参加の仕方がわからない、きっかけがない」(24.7%)、「体力的・身体的に参加が難しい」(20.8%)、「活動団体に関する情報が少ない」(17.9%)、「活動自体に興味がない」(15.8%)となっている。(図9-3-1)

性別で見ると、「参加する時間がない」は男性（58.2%）が女性（49.9%）より 8.3 ポイント高くなっている。「参加の仕方がわからない、きっかけがない」は女性（26.3%）が男性（23.0%）より 3.3 ポイント高くなっている。「体力的・身体的に参加が難しい」は女性（25.2%）が男性（16.1%）より 9.1 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「参加する時間がない」は 20 代から 50 代にかけて男性では 6 割以上、女性では 5 割以上となっている。「参加の仕方がわからない、きっかけがない」は男性では 30 代、40 代が多く、女性では 20 代から 40 代にかけて多くなっている。「体力的・身体的に参加が難しい」は男性では 60 代以上、女性では 50 代以上で多くなっている。一方、「活動自体に興味がない」は男性 20 代（37.5%）で 4 割近くと最も多く、次いで女性 20 代（22.2%）、男性 40 代（21.9%）となっている。（図 9-3-2）

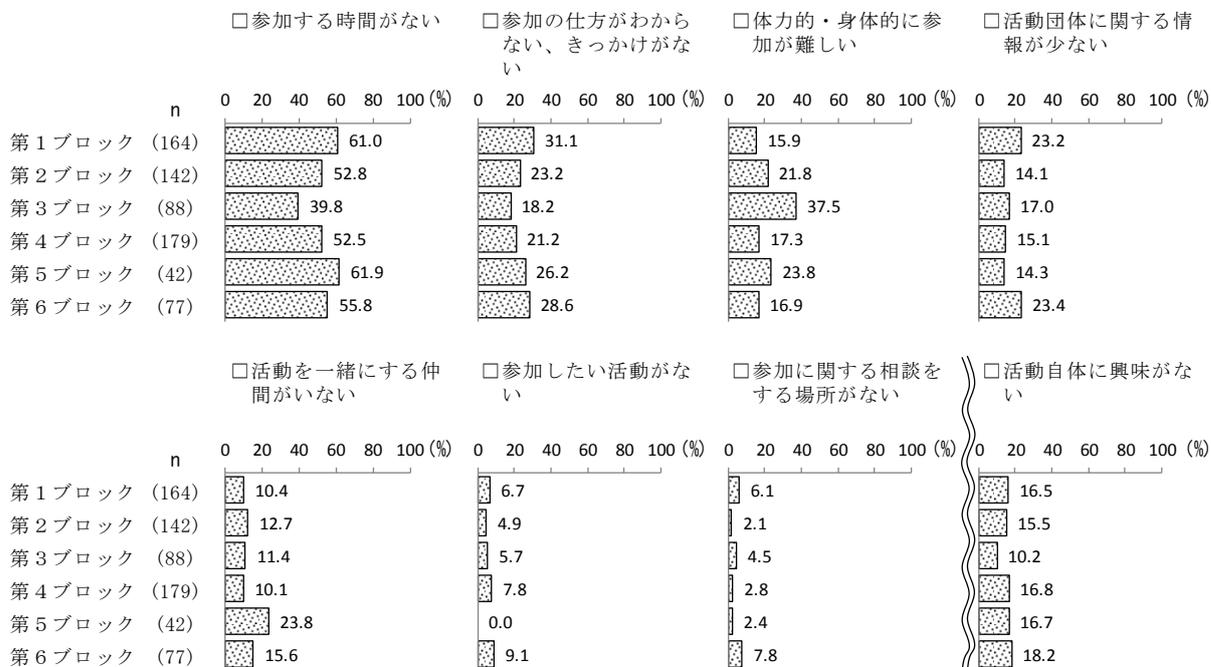
図 9-3-2 地域活動に参加しない理由一

性別、性・年代別（上位 7 位+「活動自体に興味がない」）



地区別にみると、「参加する時間がない」は第5ブロック（61.9%）、第1ブロック（61.0%）で6割を超え最も多く、「参加の仕方がわからない、きっかけがない」は第1ブロック（31.1%）で3割を超え、第6ブロック（28.6%）でも3割近くとなっている。「体力的・身体的に参加が難しい」は第3ブロック（37.5%）で4割近くと最も多くなっている。（図9-3-3）

図9-3-3 地域活動に参加しない理由—地区別（上位7位+「活動自体に興味がない」）



10. まちづくり

台東区は、まちづくりへの区民参加を進めており、区民の皆様が主体となってまちづくりを検討するために活動をする「まちづくり協議会」への支援を行っています。

今回の結果を踏まえ、区民の皆様がまちづくり協議会に参加しやすくなるような仕組みづくりについて検討を進めてまいります。

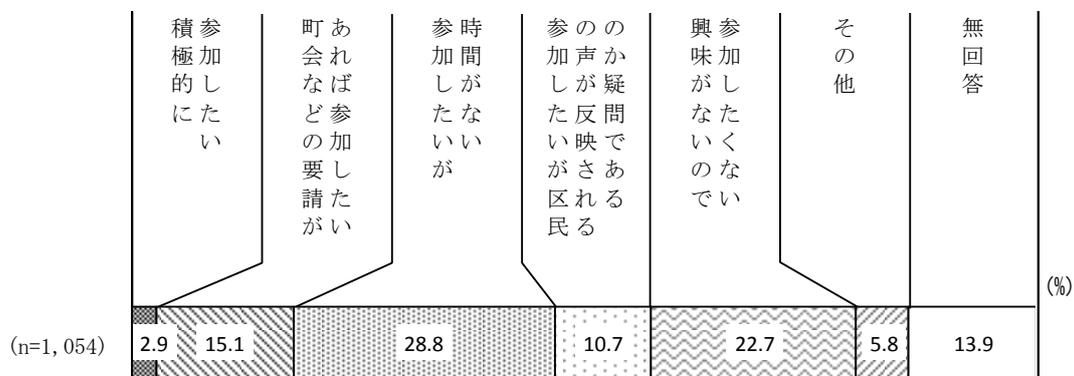
(都市づくり部 まちづくり推進課)

10-1 「まちづくり協議会」への参加の考え

「参加したいが時間がない」が3割近く

問 29 区では、まちづくりへの区民参加を進めています。区民の方が主体となって、まちづくり活動をする「まちづくり協議会」への参加について、どのようにお考えになりますか。
(○は1つだけ)

図 10-1-1



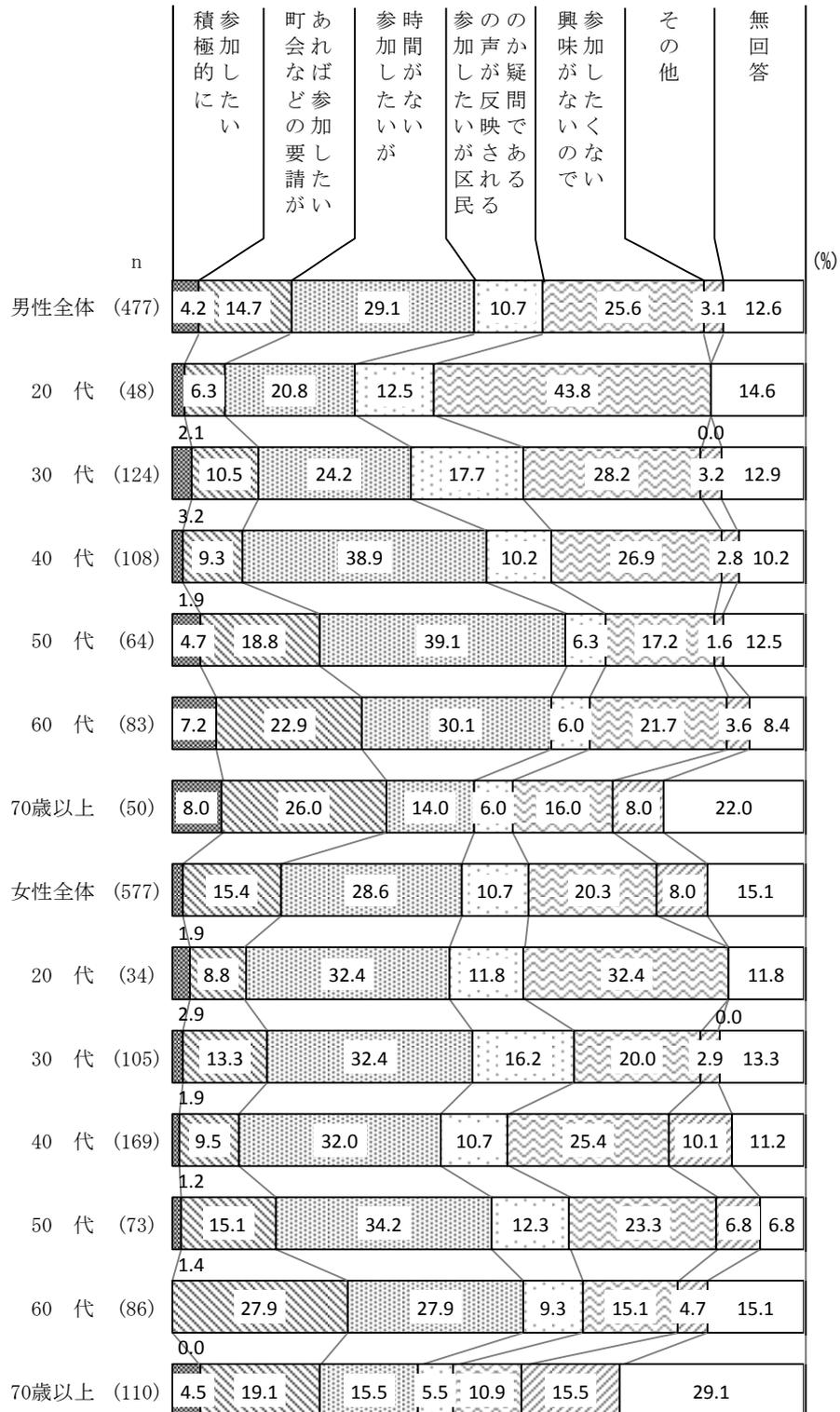
「まちづくり協議会」への参加の考えは、「参加したいが時間がない」(28.8%)が3割近くと最も多く、次いで「興味がないので参加したくない」(22.7%)、「町会などの要請があれば参加したい」(15.1%)、「参加したいが区民の声が反映されるのか疑問である」(10.7%)となっている。

(図 10-1-1)

性別でみると、「興味がないので参加したくない」は男性（25.6%）が女性（20.3%）より 5.3 ポイント高くなっている。

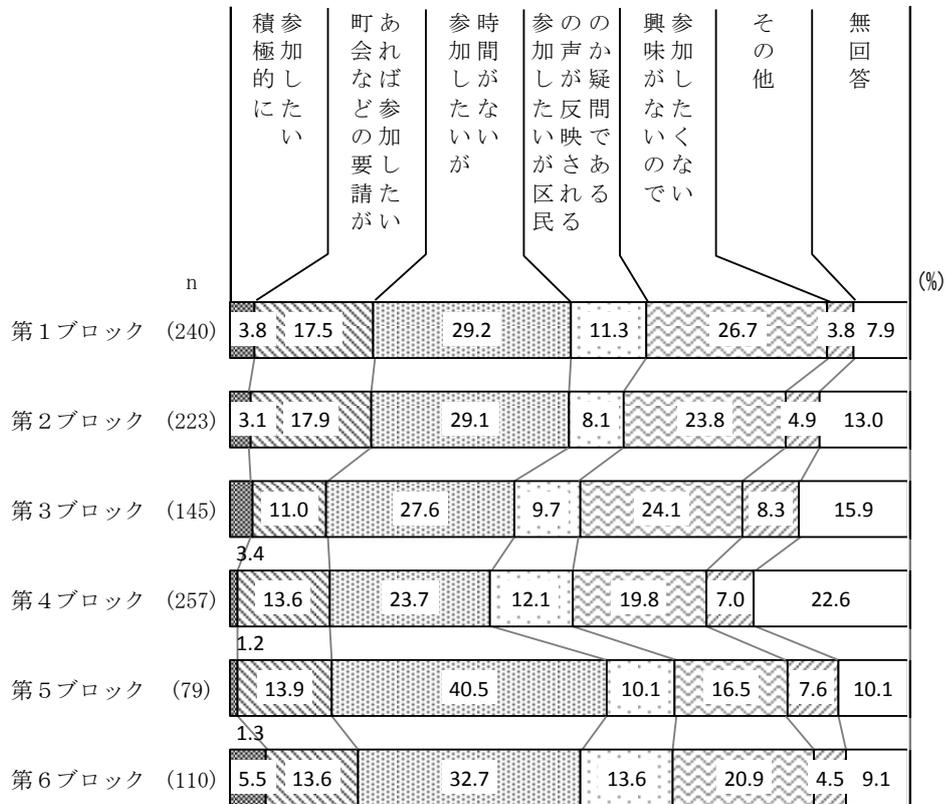
性・年代別でみると、「町会などの要請があれば参加したい」は男性では年齢が高くなるほど多くなっている。「参加したいが時間がない」は男性 40 代、50 代で多くなっている。「興味がないので参加したくない」は男性 20 代（43.8%）で 4 割を超え最も多くなっている。（図 10-1-2）

図 10-1-2 「まちづくり協議会」への参加の考え—性別、性・年代別



地区別にみると、「町会などの要請があれば参加したい」は第2ブロック（17.9%）、第1ブロック（17.5%）で2割近くと最も多くなっている。「参加したいが時間がない」は第5ブロック（40.5%）ではほぼ4割と最も多くなっている。（図10-1-3）

図10-1-3 「まちづくり協議会」への参加の考え—地区別



11. 人権・男女共同参画社会

人権が尊重される社会の実現を目指し、「人権のつどい」や「男女平等推進フォーラム」等、人権、男女共同参画のための事業を進めています。

今回の調査では、「人権が守られている」と回答した方が前回調査から減少傾向にある一方、「守られていない」と回答した方が増加したことから、今後も人権についての理解を進める事業により一層取り組んでいく必要があります。

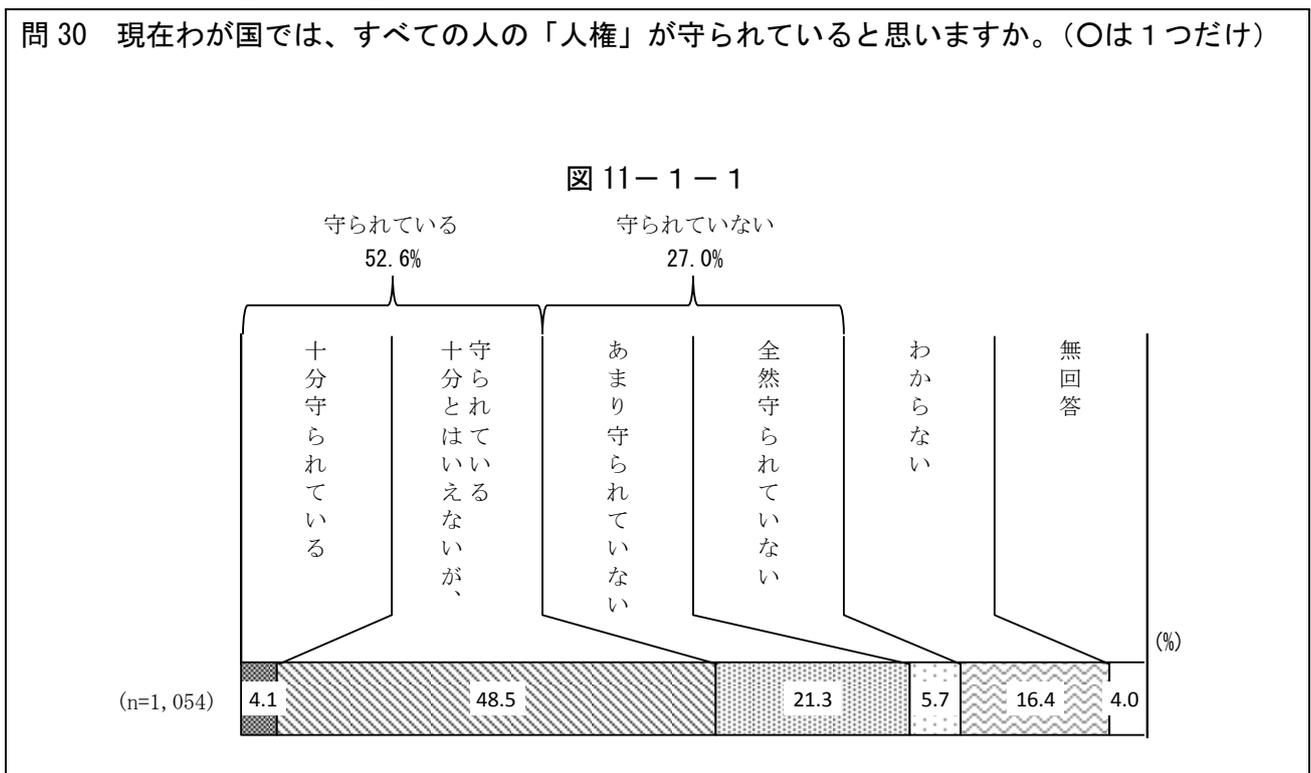
このほか、「日常生活での人権侵害」や、『はばたき21』で力を入れていくべき事業」の回答結果をふまえ、人権施策、男女平等推進プラザはばたき21での各種事業について、引き続き推進してまいります。

総務部 人権・男女共同参画課

11-1 すべての人の「人権」が守られているか

『守られている』が5割を超える

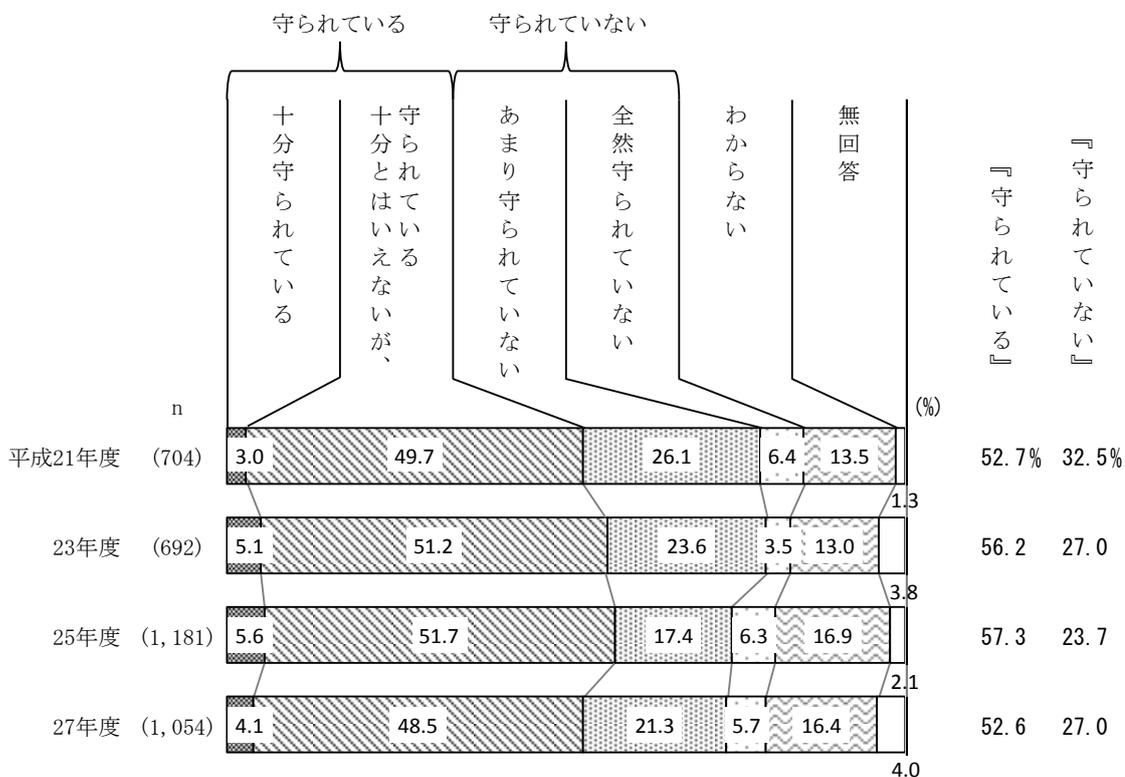
問30 現在わが国では、すべての人の「人権」が守られていると思いますか。(○は1つだけ)



すべての人の「人権」が守られているかは、「十分とはいえないが、守られている」(48.5%)が5割近くと最も多く、「十分守られている」(4.1%)と合わせた『守られている』(52.6%)が5割を超えている。一方、「あまり守られていない」(21.3%)と「全然守られていない」(5.7%)を合わせた『守られていない』(27.0%)は3割近くとなっている。(図11-1-1)

推移をみると、『守られている』は前回調査まで増加傾向にあったが、今回調査（52.6%）では前回調査（57.3%）から4.7ポイント低くなっている。また、『守られていない』は前回調査まで減少傾向にあったが、今回調査（27.0%）では前回調査（23.7%）から3.3ポイント高くなっている。（図11-1-2）

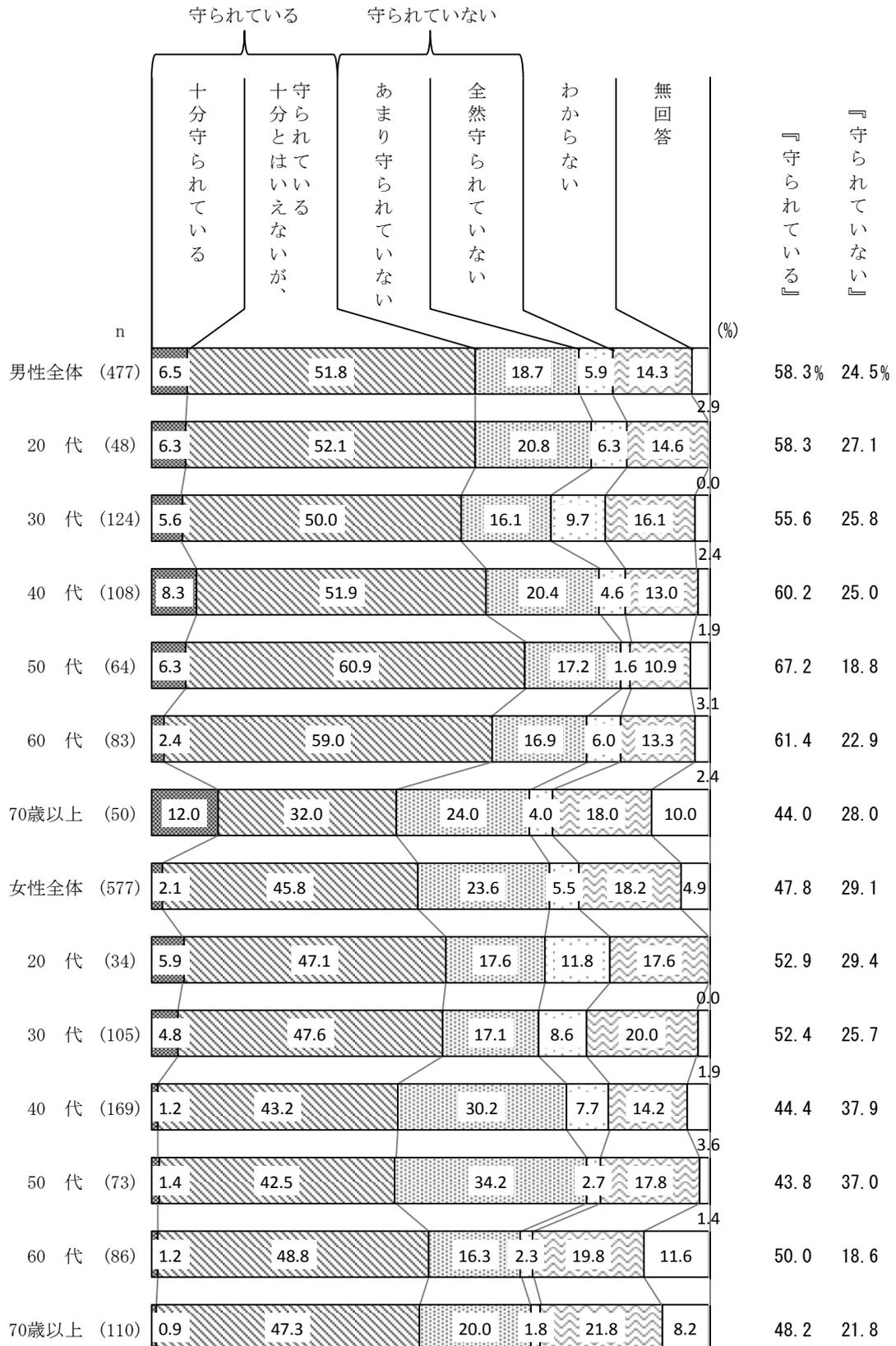
図11-1-2 すべての人の「人権」が守られているかー推移



性別で見ると、『守られている』は男性（58.3%）が女性（47.8%）よりも10.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『守られている』は男性50代（67.2%）で6割近くと最も多くなっている。『守られていない』は女性40代（37.9%）で4割近くと最も多くなっている。（図11-1-3）

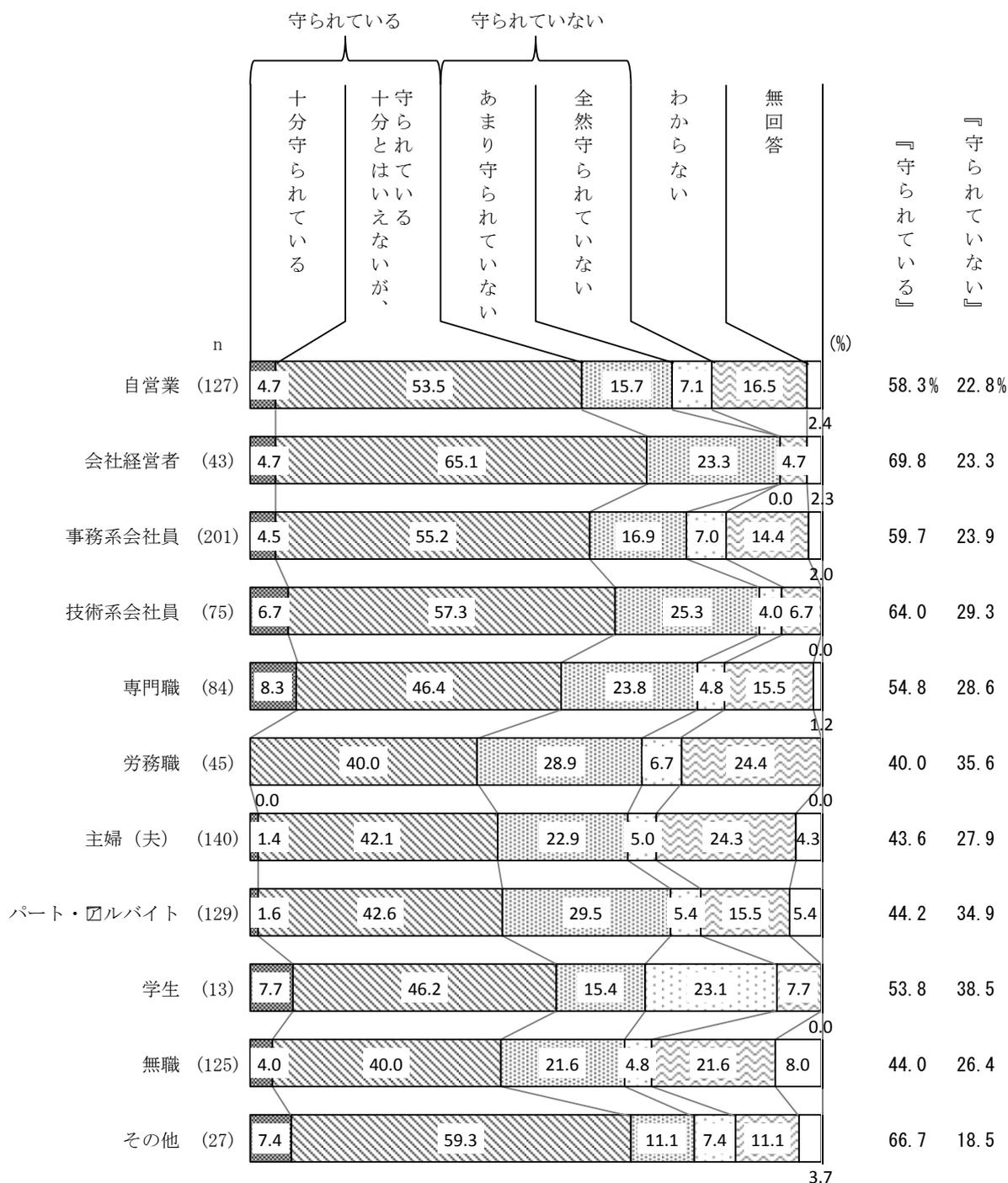
図11-1-3 すべての人の「人権」が守られているかー性別、性・年代別



職業別でみると、『守られている』は会社経営者（69.8%）で7割と最も多く、次いで技術系会社員（64.0%）、事務系会社員（59.7%）となっている。『守られていない』は学生（38.5%）で4割近くと最も多く、次いで労務職（35.6%）、パート・アルバイト（34.9%）となっている。

(図 11-1-4)

図 11-1-4 すべての人の「人権」が守られているか—職業別

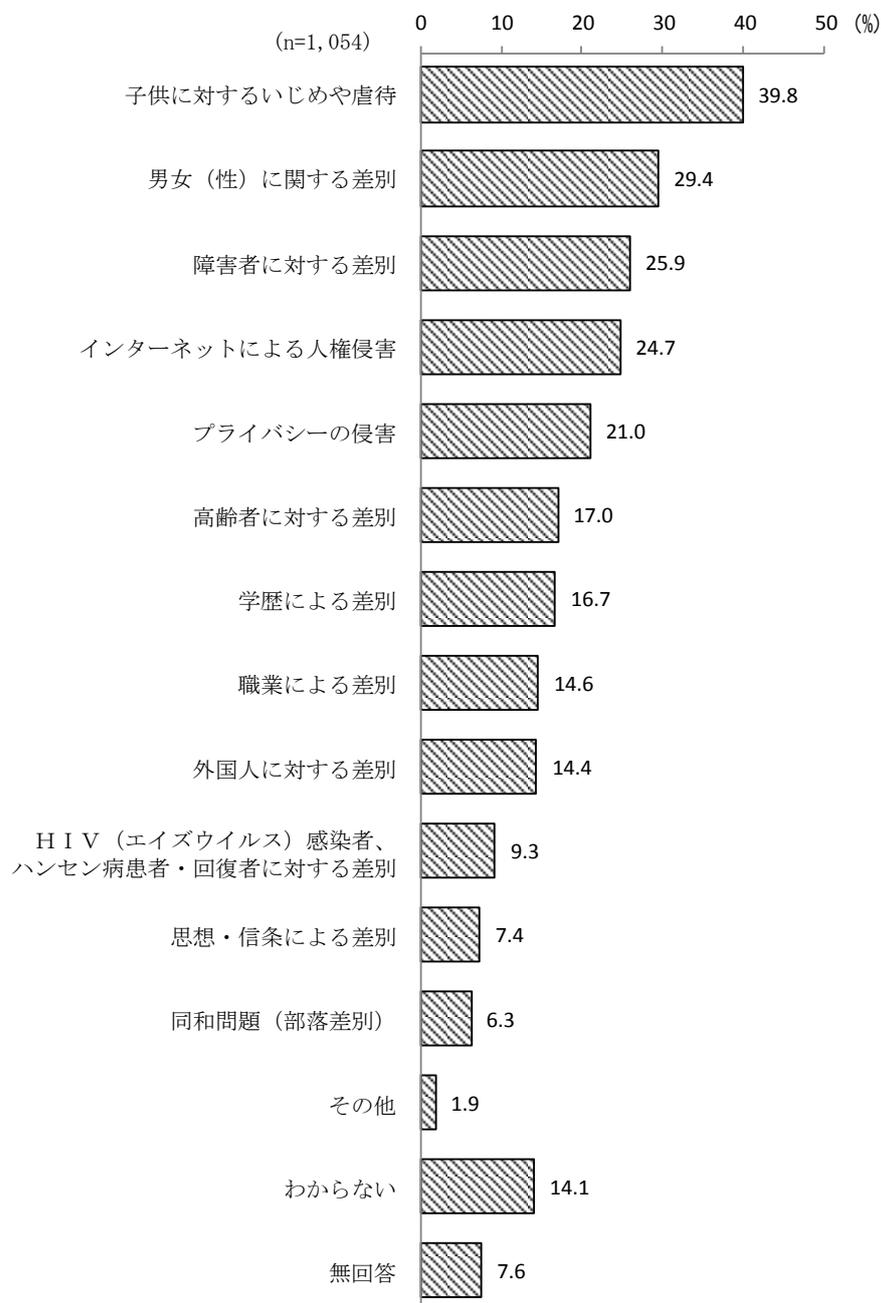


11-2 日常生活の中での人権侵害

「子供に対するいじめや虐待」が4割

問31 日常生活の中で、どのような人権侵害があると思いますか。(〇はいくつでも)

図 11-2-1

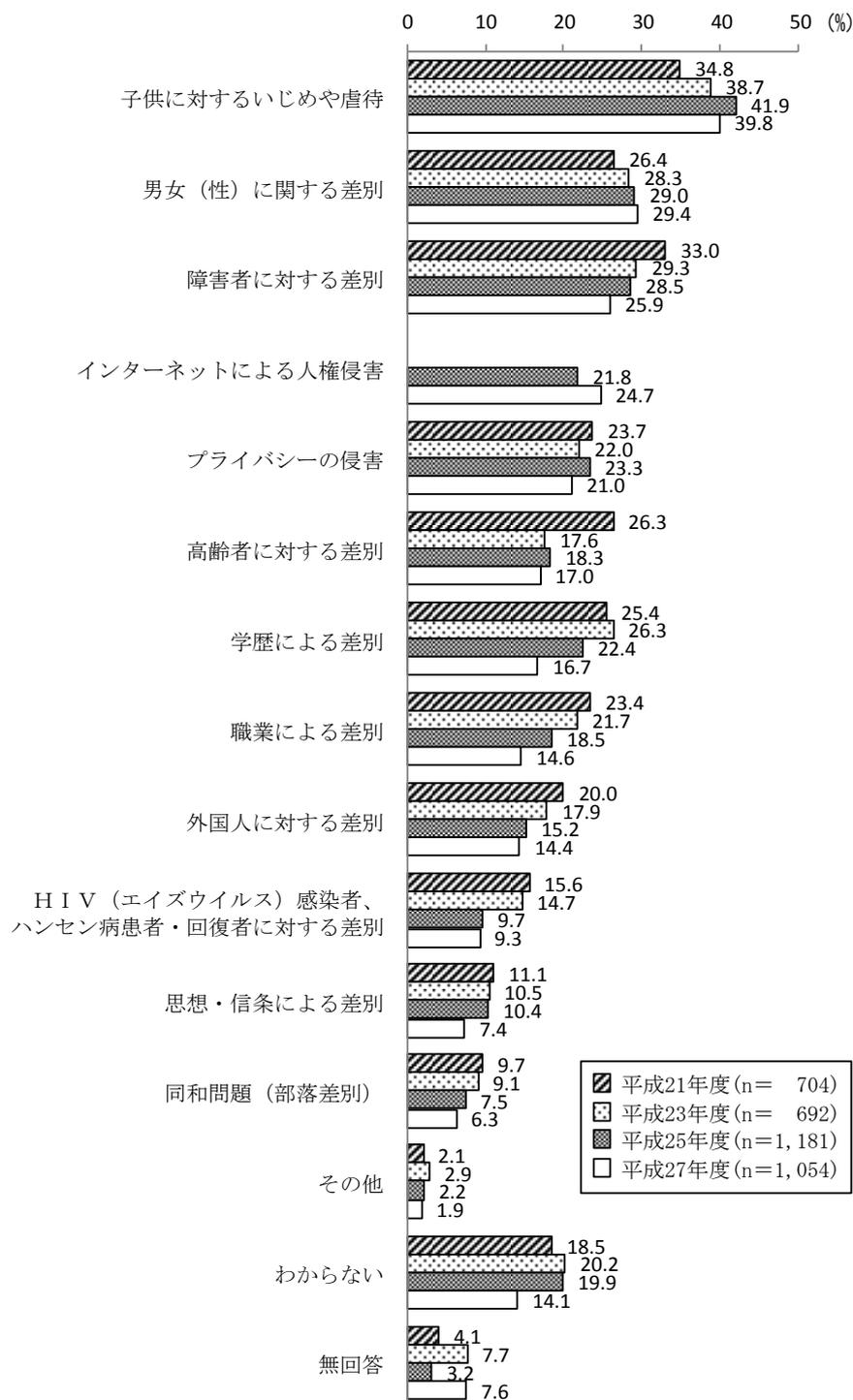


日常生活の中での人権侵害は、「子供に対するいじめや虐待」(39.8%)が4割と最も多く、次いで「男女(性)に関する差別」(29.4%)、「障害者に対する差別」(25.9%)、「インターネットによる人権侵害」(24.7%)、「プライバシーの侵害」(21.0%)となっている。(図 11-2-1)

推移をみると、上位の項目では「子供に対するいじめや虐待」は過去の調査から連続して1位となっているが、今回調査では前回調査より2.1ポイント低くなっている。「男女（性）に関する差別」は増加傾向にあり、前回調査より0.4ポイント高くなっている。「障害者に対する差別」は減少傾向にあり、前回調査より2.6ポイント低くなった。前回調査から追加された「インターネットによる人権侵害」は今回4位に位置し、前回調査より2.9ポイント高くなっている。

(図 11-2-2)

図 11-2-2 日常生活の中での人権侵害—推移

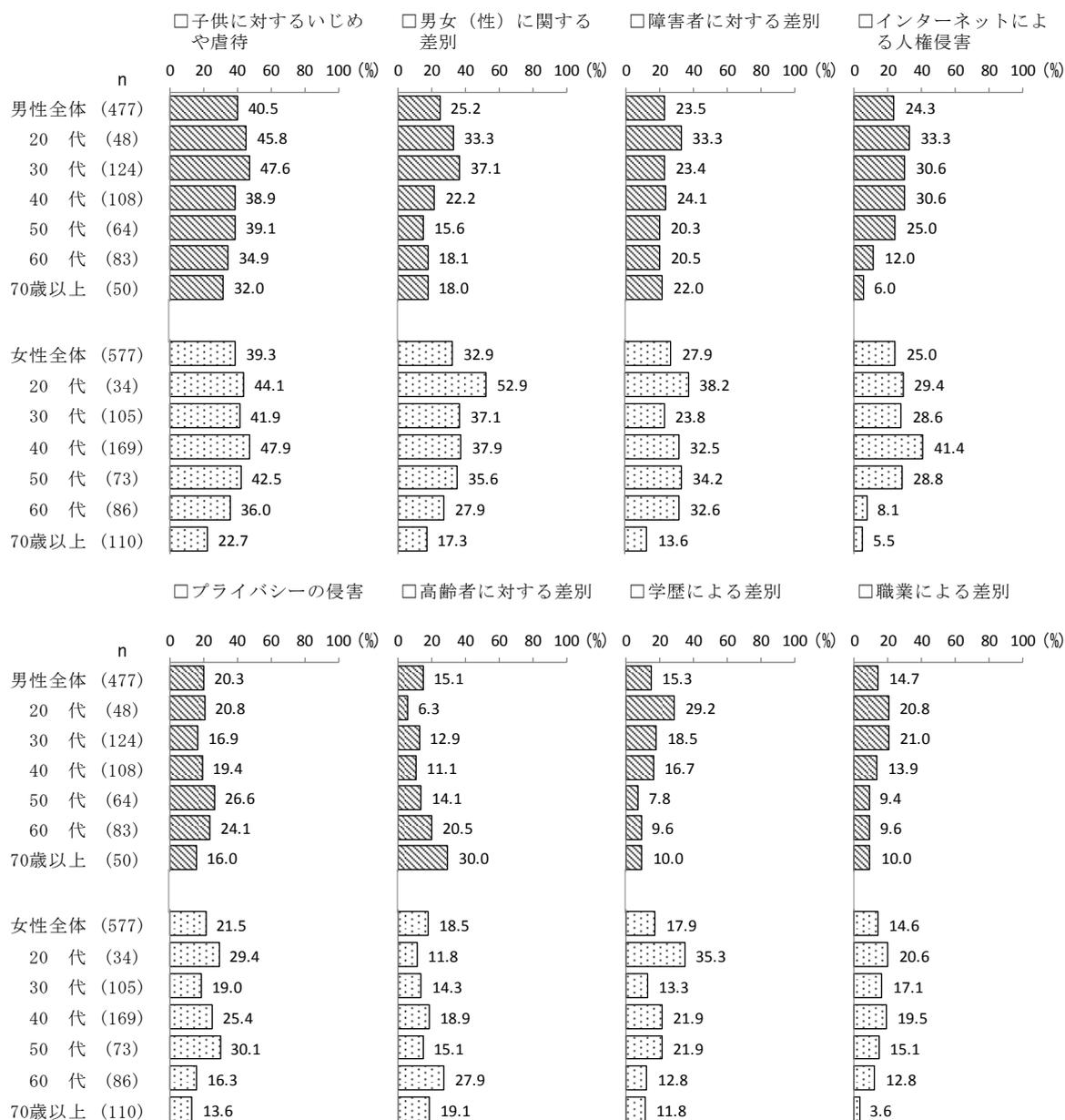


性別でみると、「男女（性）に関する差別」は女性（32.9%）が男性（25.2%）より 7.7 ポイント、「障害者に対する差別」は女性（27.9%）が男性（23.5%）より 4.4 ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年代別でみると、「男女（性）に関する差別」は女性 20 代（52.9%）で 5 割を超え最も多くなっている。「インターネットによる人権侵害」は男性では男性 20 代（33.3%）で 3 割を超え最も多く、年齢が上がるにつれて少なくなっている。女性では女性 40 代（41.4%）で 4 割を超え最も多いが、年齢による傾向はない。「学歴による差別」は男女とも 20 代で最も多くなっている。

(図 11-2-3)

図 11-2-3 日常生活の中での人権侵害—性別、性・年代別（上位 8 位）

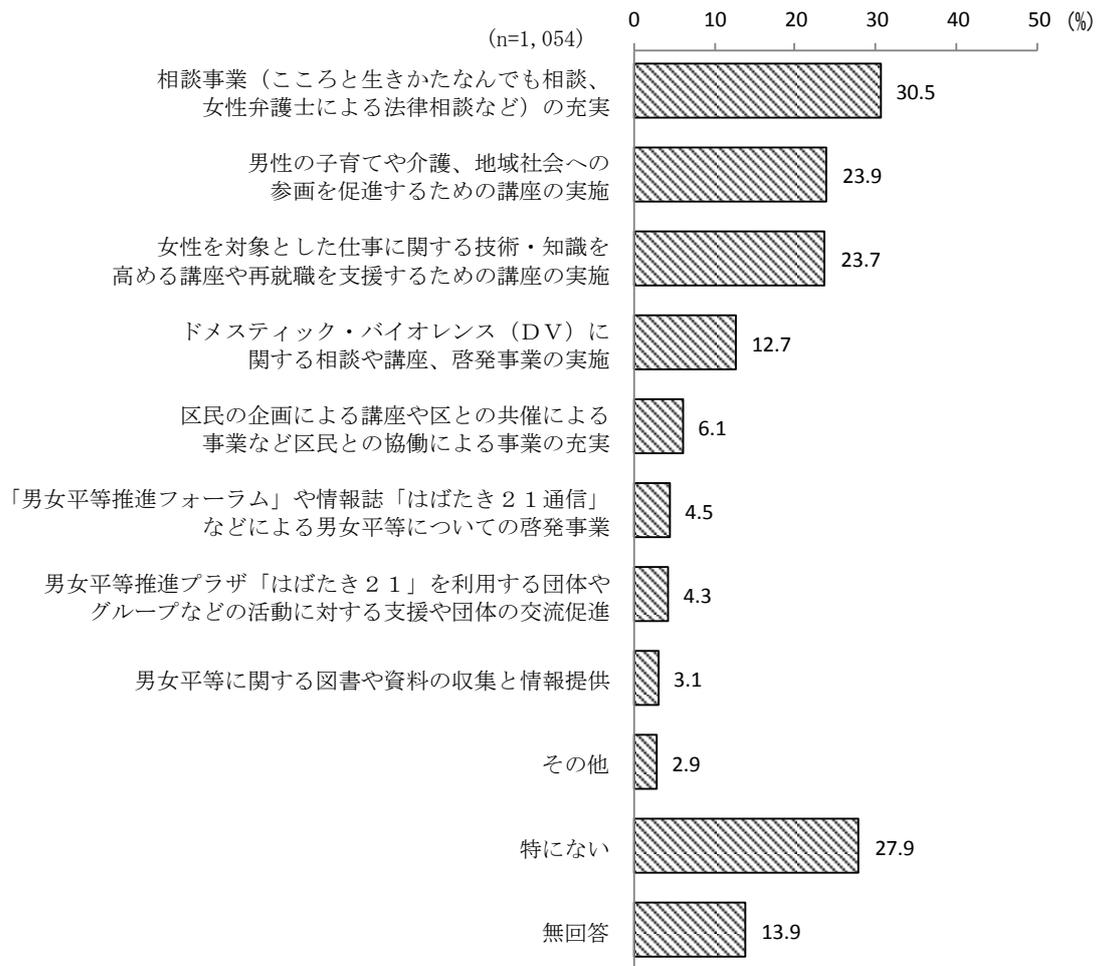


11-3 「はばたき21」で力を入れていくべき事業

「相談事業（こころと生きかたなんでも相談、女性弁護士による法律相談など）の充実」が
 ほぼ3割

問 32 あなたは、男女平等参画社会の実現を目指す区民活動の拠点である男女平等推進プラザ「はばたき21」で、今後どのような事業に力を入れて実施していく必要があると思いますか。（○は3つまで）

図 11-3-1



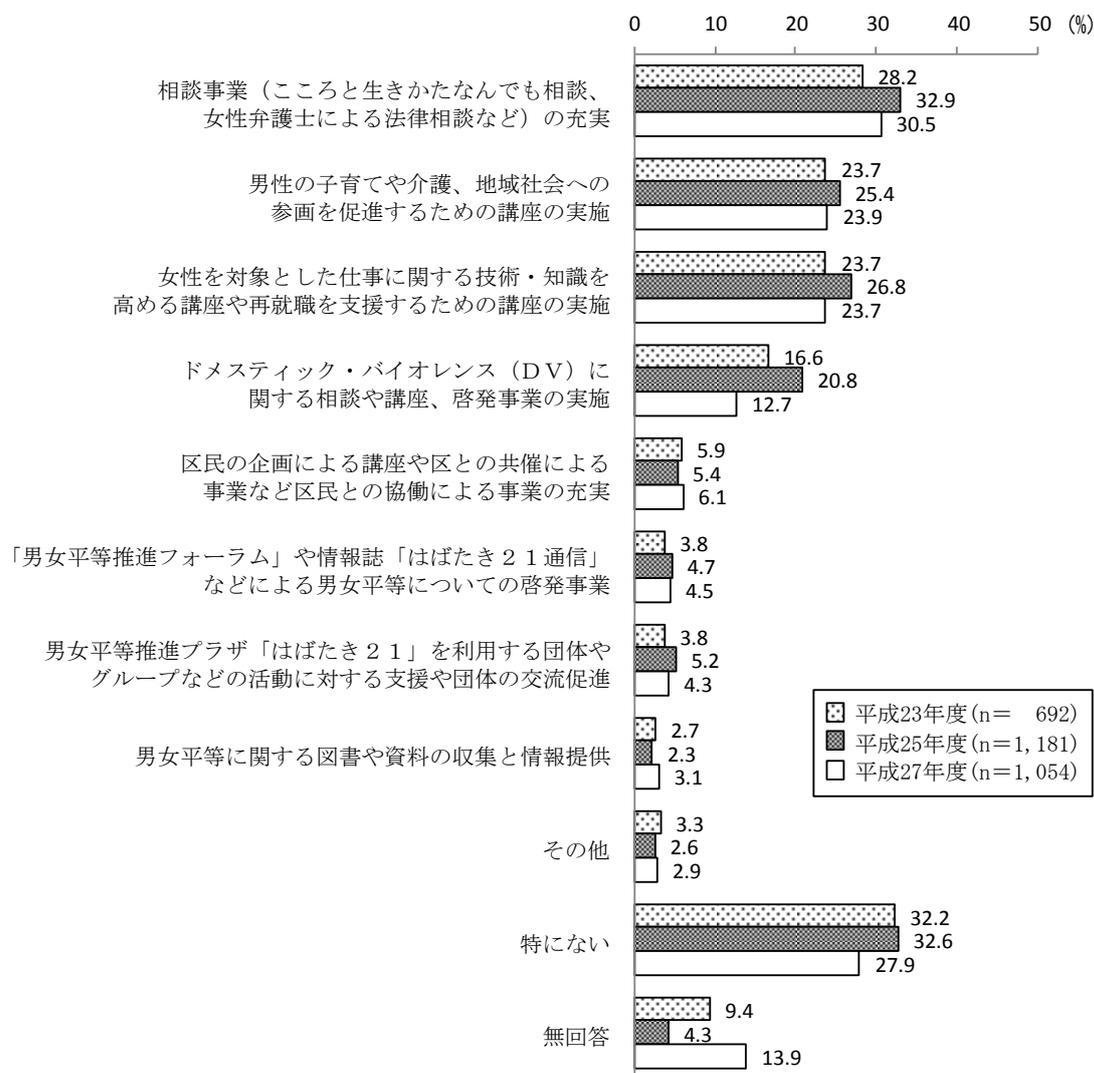
「はばたき21」で力を入れていくべき事業は、「相談事業（こころと生きかたなんでも相談、女性弁護士による法律相談など）の充実」（30.5%）がほぼ3割で最も多く、次いで「男性の子育てや介護、地域社会への参画を促進するための講座の実施」（23.9%）、「女性を対象とした仕事に関する技術・知識を高める講座や再就職を支援するための講座の実施」（23.7%）、「ドメスティック・バイオレンス（DV）に関する相談や講座、啓発事業の実施」（12.7%）となっている。

（図 11-3-1）

推移をみると、上位の項目の順位に大きな変動はないが、1位の「相談事業（こころと生きかたなんでも相談、女性弁護士による法律相談など）の充実」が前回調査より2.4ポイント低くなっているのははじめ上位項目は前回調査より低下している。特に「ドメスティック・バイオレンス（DV）に関する相談や講座、啓発事業の実施」は前回調査から8.1ポイント低くなっている。

(図 11-3-2)

図 11-3-2 「はばたき21」で力を入れていくべき事業—推移

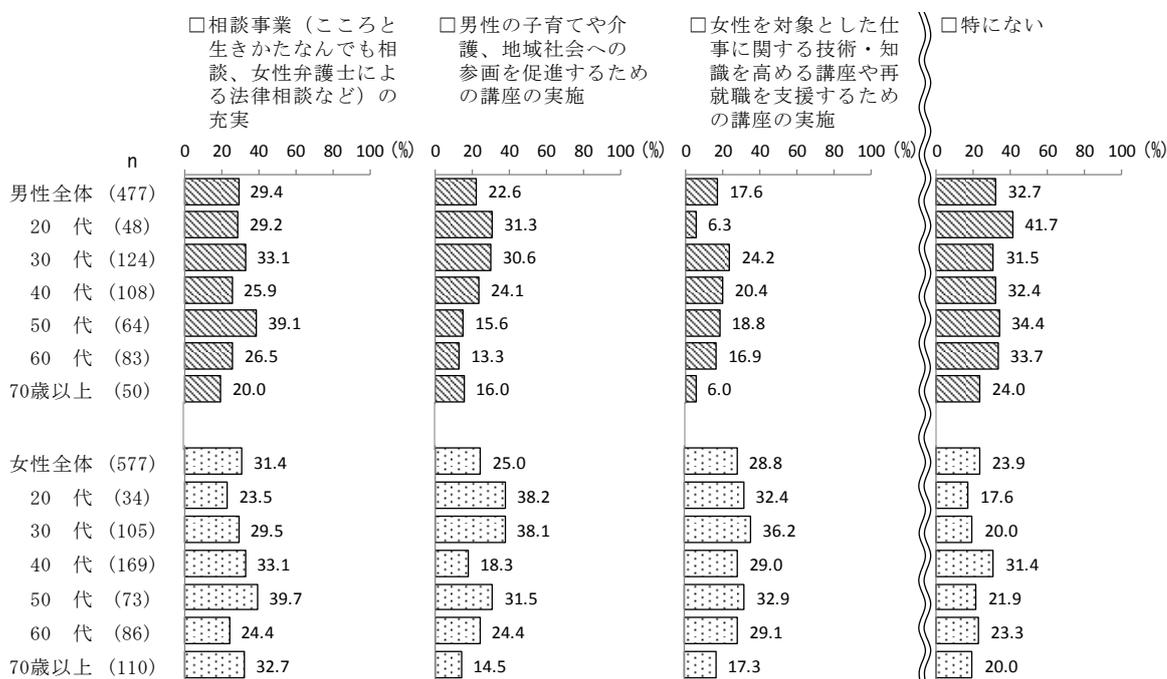


性別でみると、「女性を対象とした仕事に関する技術・知識を高める講座や再就職を支援するための講座の実施」は女性（28.8%）が男性（17.6%）より 11.2 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「相談事業（こころと生きかたなんでも相談、女性弁護士による法律相談など）の充実」は女性 50 代（39.7%）で 4 割と最も多くなっている。「男性の子育てや介護、地域社会への参画を促進するための講座の実施」は女性 20 代（38.2%）で 4 割近くと最も多くなっている。「女性を対象とした仕事に関する技術・知識を高める講座や再就職を支援するための講座の実施」は女性 30 代（36.2%）で 3 割半ばと最も多くなっている。「特にない」は男性 20 代（41.7%）で 4 割を超え最も多くなっている。（図 11-3-3）

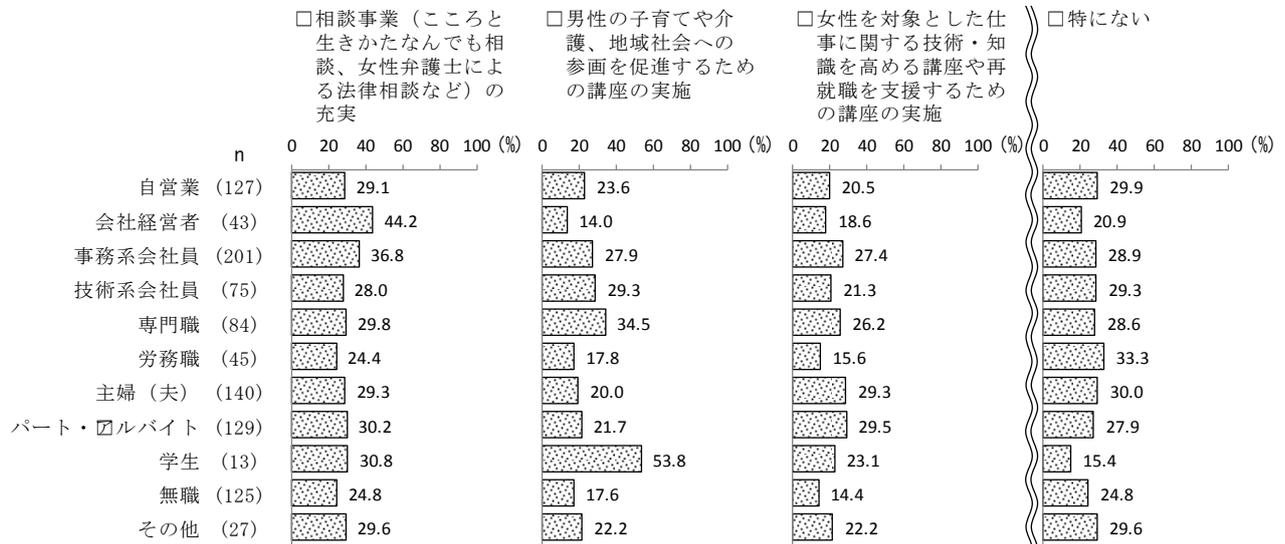
図 11-3-3 「はばたき 2 1」で力を入れていくべき事業

—性別、性・年代別（上位 3 位＋「特にない」）



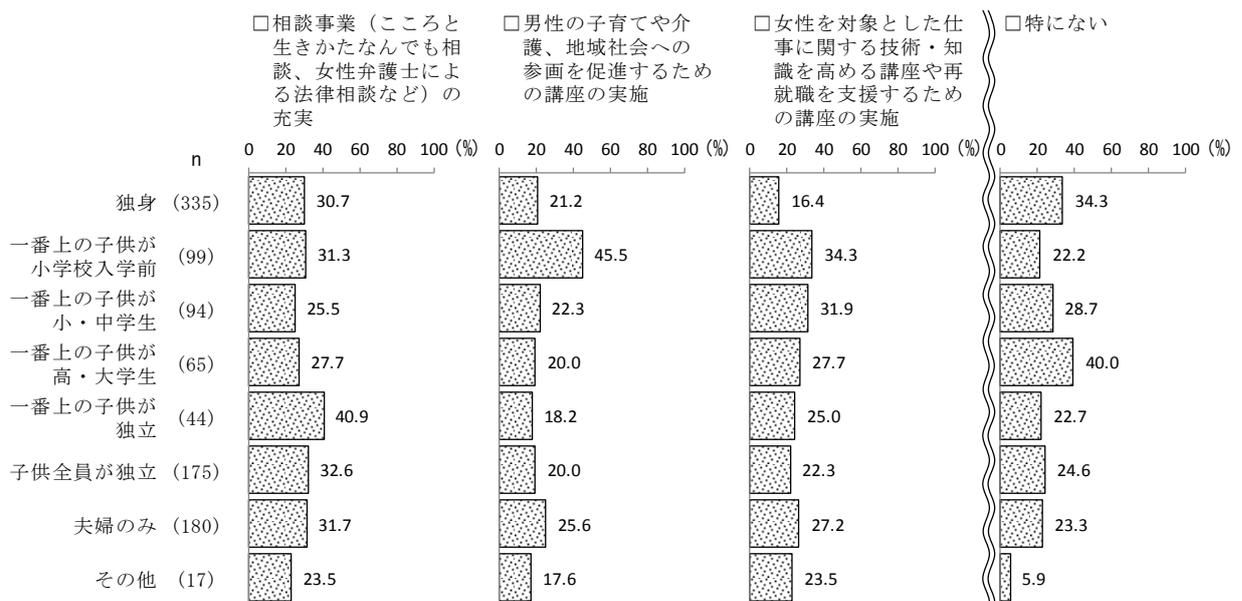
職業別にみると、「相談事業（こころと生きかたなんでも相談、女性弁護士による法律相談など）の充実」は会社経営者（44.2%）で4割半ばと最も多くなっている。「男性の子育てや介護、地域社会への参画を促進するための講座の実施」は学生（53.8%）で5割を超え最も多くなっている。（図 11-3-4）

図 11-3-4 「はばたき21」で力を入れていくべき事業—職業別（上位3位+「特にない」）



家族構成別にみると、「相談事業（こころと生きかたなんでも相談、女性弁護士による法律相談など）の充実」が一番上の子供が独立（40.9%）でほぼ4割と最も多くなっている。「男性の子育てや介護、地域社会への参画を促進するための講座の実施」が一番上の子供が小学校入学前（45.5%）で4割半ばと最も多くなっている。（図 11-3-5）

図 11-3-5 「はばたき21」で力を入れていくべき事業—家族構成別（上位3位+「特にない」）



12. 福祉のまちづくり

今回の調査では、「心のバリアフリー」という言葉を「知らなかった」が 39.8%、「ユニバーサルデザイン」という言葉を「知らなかった」が 42.5%となり、「以前から言葉も意味も知っていた」（心のバリアフリー35.2%、ユニバーサルデザイン 35.0%）を上回る結果になりました。

区では、区内小中学校に対して高齢者疑似体験・車いす体験を実施し、周りの人との支えあいや、ちょっとした思いやりと心づかいを呼びかけるなど、「心のバリアフリー」の普及・啓発を行っております。

今後も「心のバリアフリー」の意識の醸成を行うとともに、今あるバリア（障壁）を除去する「バリアフリー」だけではなく、初めからバリアを作らない「ユニバーサルデザイン」の周知を行ってまいります。

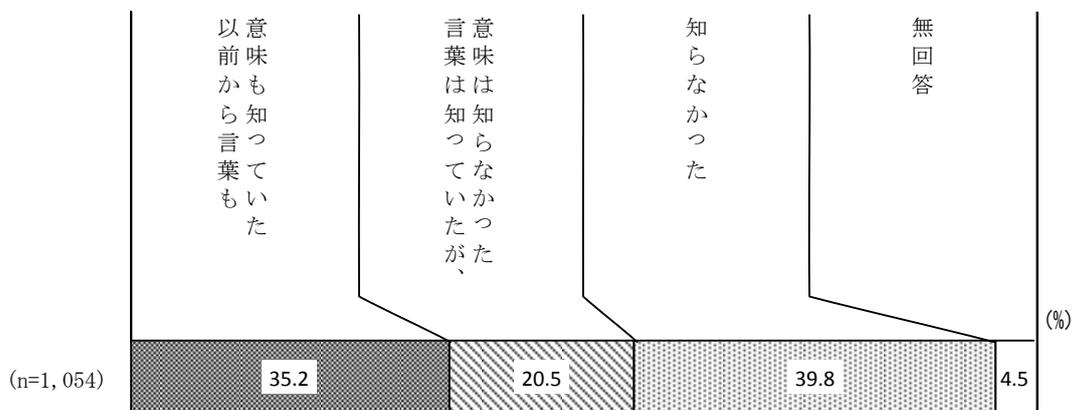
（福祉部 福祉課）

12-1 心のバリアフリーという言葉の認知度

「知らなかった」が4割

問 33 あなたは、心のバリアフリーという言葉の意味を知っていましたか。（○は1つだけ）

図 12-1-1

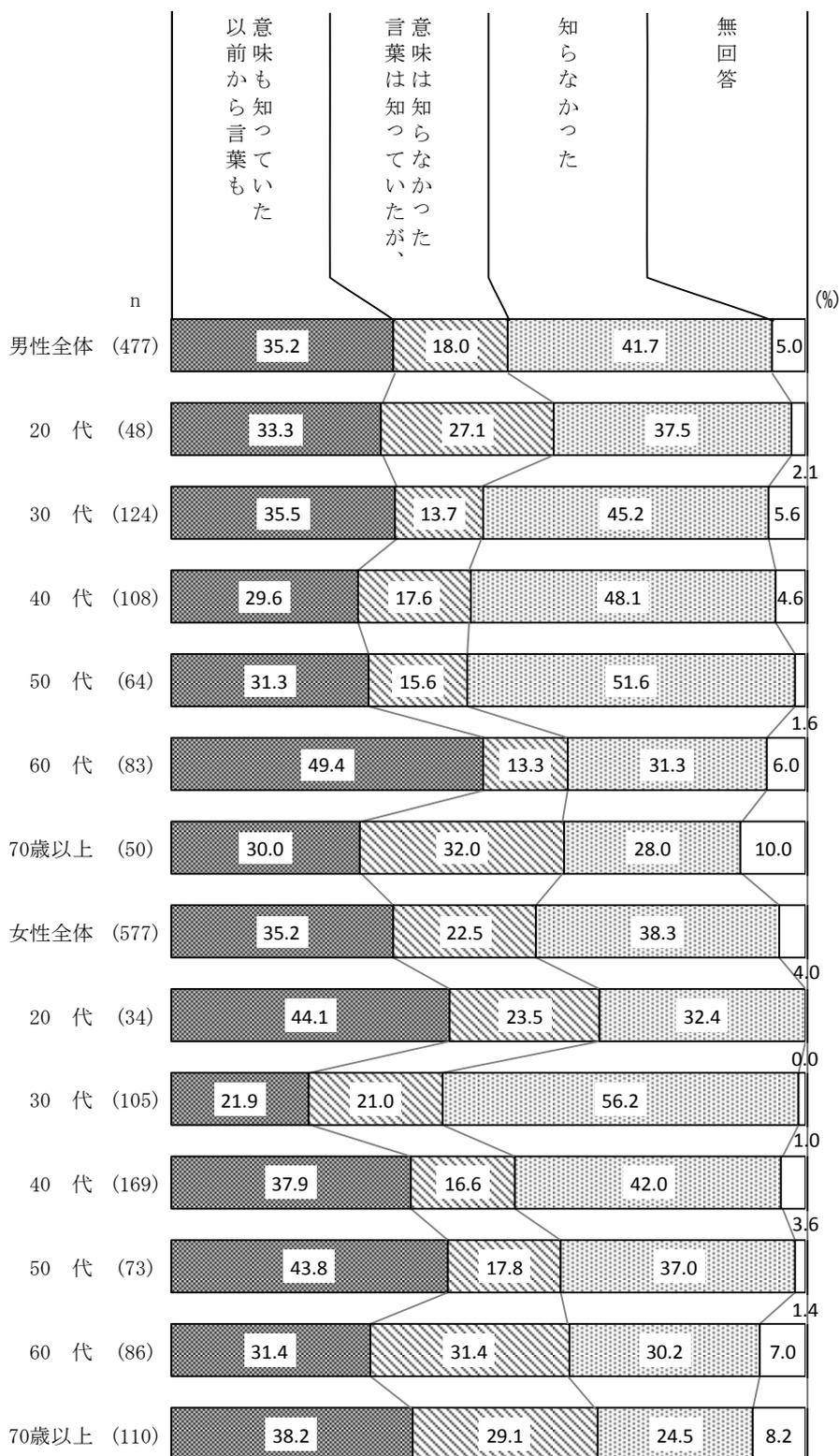


心のバリアフリーという言葉の認知度は、「知らなかった」（39.8%）が4割と最も多く、次いで「以前から言葉も意味も知っていた」（35.2%）、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」（20.5%）となっている。（図 12-1-1）

性別で見ると、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」は女性（22.5%）が男性（18.0%）より 4.5 ポイント高くなっている。

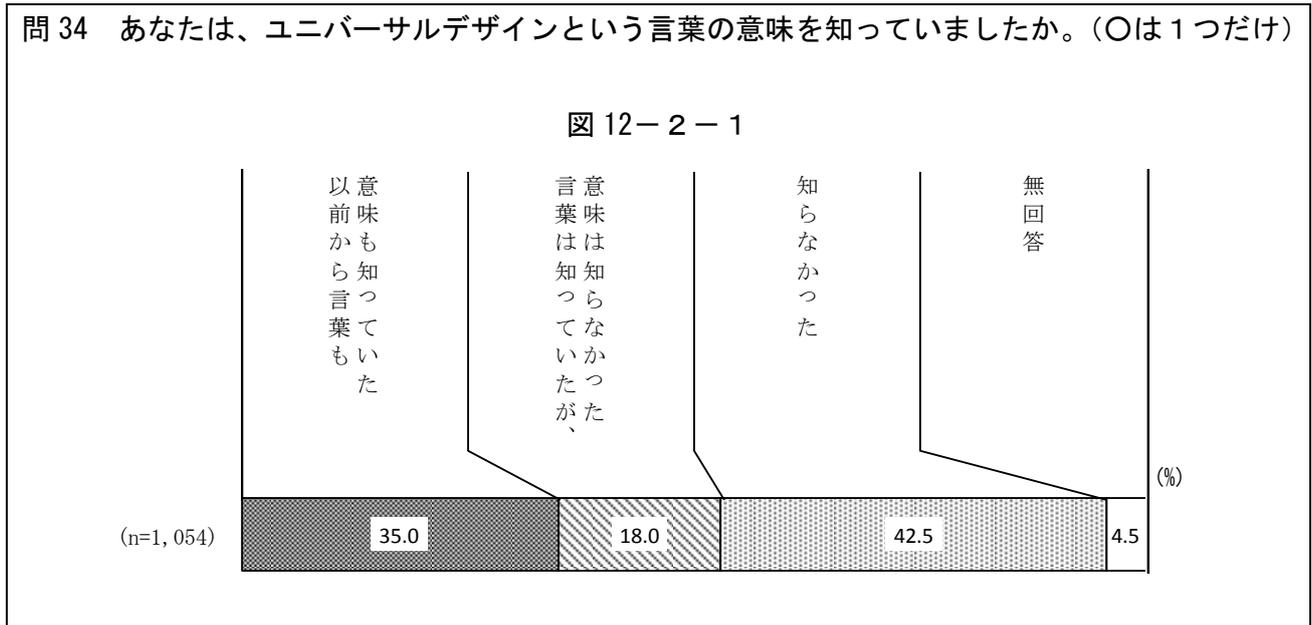
性・年代別でみると、「以前から言葉も意味も知っていた」は男性60代（49.4%）でほぼ5割と最も多く、次いで女性20代（44.1%）、女性50代（43.8%）となっている。一方、「知らなかった」は女性30代（56.2%）で5割半ばと最も多く、次いで男性50代（51.6%）、男性40代（48.1%）となっている。（図12-1-2）

図12-1-2 心のバリアフリーという言葉の認知度—性別、性・年代別



12-2 ユニバーサルデザインという言葉の認知度

「知らなかった」が4割を超える

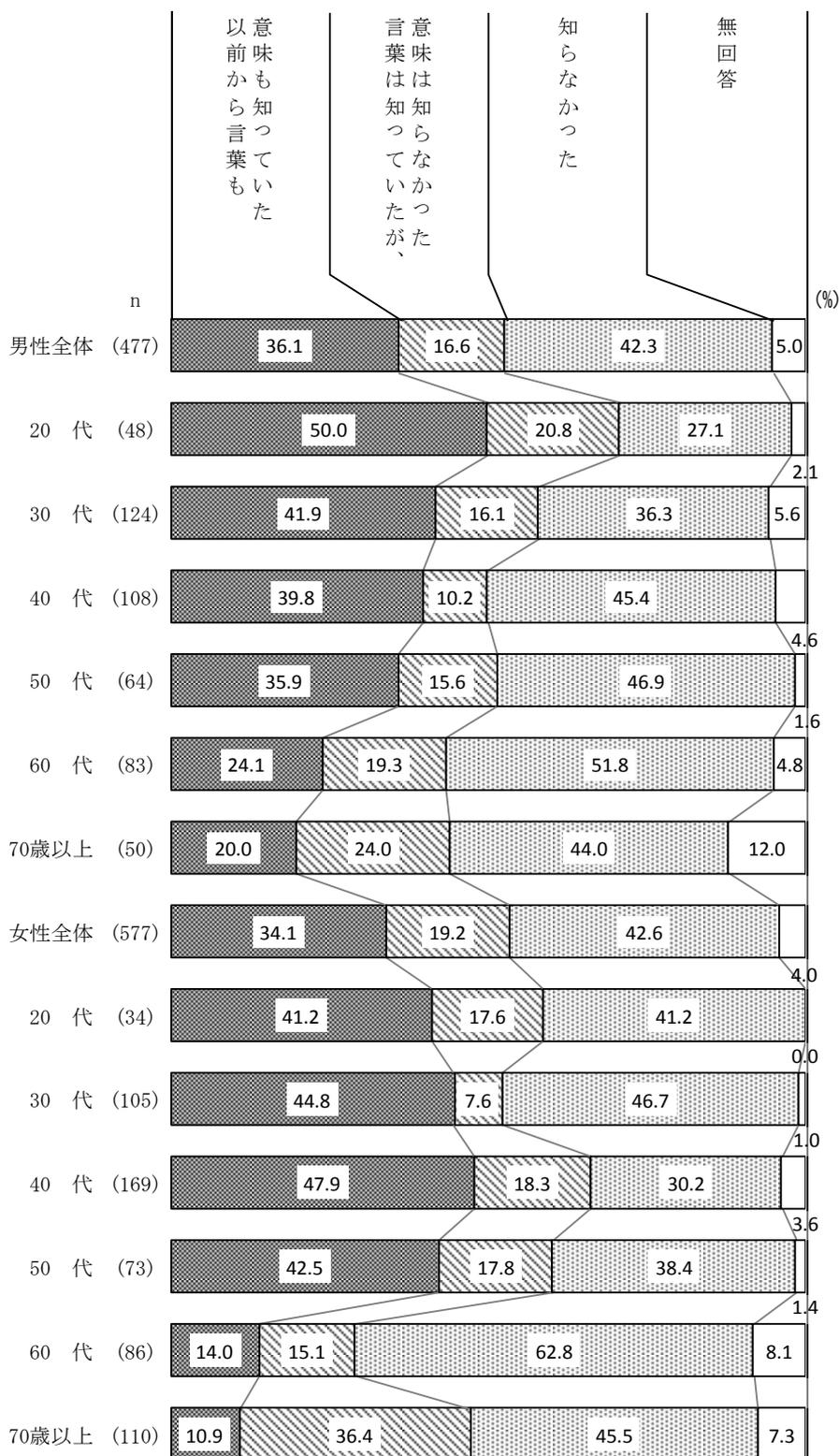


ユニバーサルデザインという言葉の認知度は、「知らなかった」(42.5%)が4割を超え最も多く、次いで「以前から言葉も意味も知っていた」(35.0%)、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」(18.0%)となっている。(図 12-2-1)

性別で見ると、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」は女性(19.2%)が男性(16.6%)より2.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「以前から言葉も意味も知っていた」は男性 20 代（50.0%）で 5 割と最も多く、次いで女性 40 代（47.9%）、女性 30 代（44.8%）となっている。一方、「知らなかった」は女性 60 代（62.8%）で 6 割を超え最も多く、次いで男性 60 代（51.8%）、男性 50 代（46.9%）となっている。（図 12-2-2）

図 12-2-2 ユニバーサルデザインという言葉の認知度—性別、性・年代別



13. かかりつけ医・歯科医・薬局

区民の皆様が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、必要なときに身近な地域で適切な医療を受けられることが不可欠です。

「かかりつけ医・歯科医・薬局」は、日頃の受診だけでなく、介護予防や健康づくり、他の医療機関との連携、在宅療養等の推進において重要な役割を担っています。

今回の調査結果については、区と医療関係機関等との会議や講演会等における資料として活用し、「かかりつけ医・歯科医・薬局」のより一層の定着に努めてまいります。

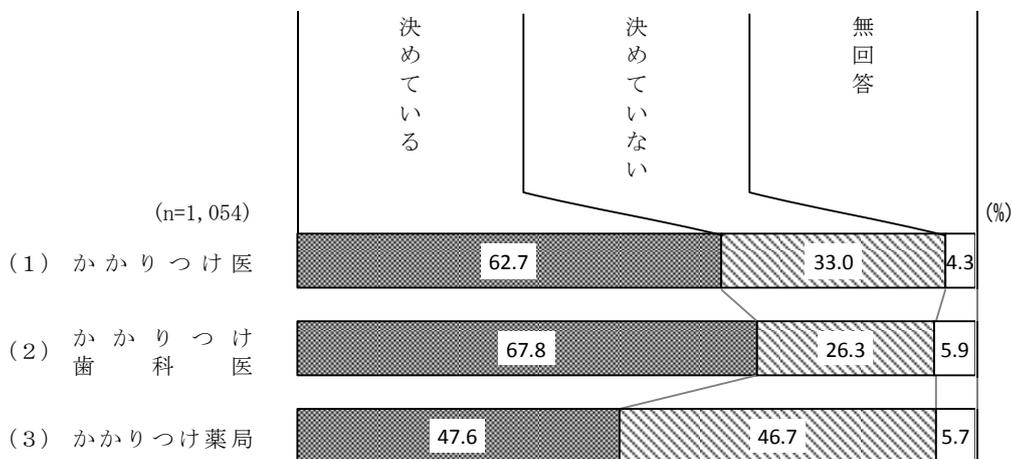
(健康部 健康課)

13-1 かかりつけ医・歯科医・薬局を決めているか

「かかりつけ医」と「かかりつけ歯科医」が6割台

問 35 あなたは、かかりつけのお医者さん、かかりつけの歯医者さん、かかりつけの薬局を決めていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

図 13-1-1

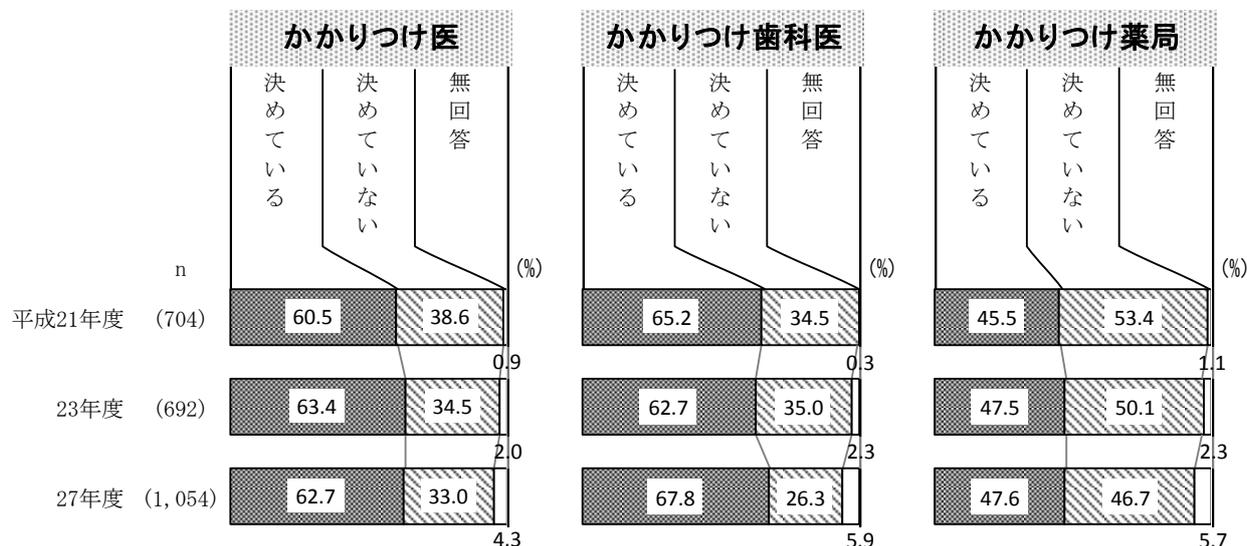


かかりつけを「決めている」割合は、「かかりつけ医」(62.7%)と「かかりつけ歯科医」(67.8%)がともに6割台、「かかりつけ薬局」(47.6%)が5割近くとなっている。(図 13-1-1)

かかりつけ医・歯科医・薬局を決めているかの推移をみると、「決めている」は前回調査より「かかりつけ医」は0.7ポイント低く、「かかりつけ歯科医」は5.1ポイント高くなっている。また、「かかりつけ薬局」は平成21年度から増加傾向にあるが、前回調査とはほぼ同じ割合となっている。

(図 13-1-2)

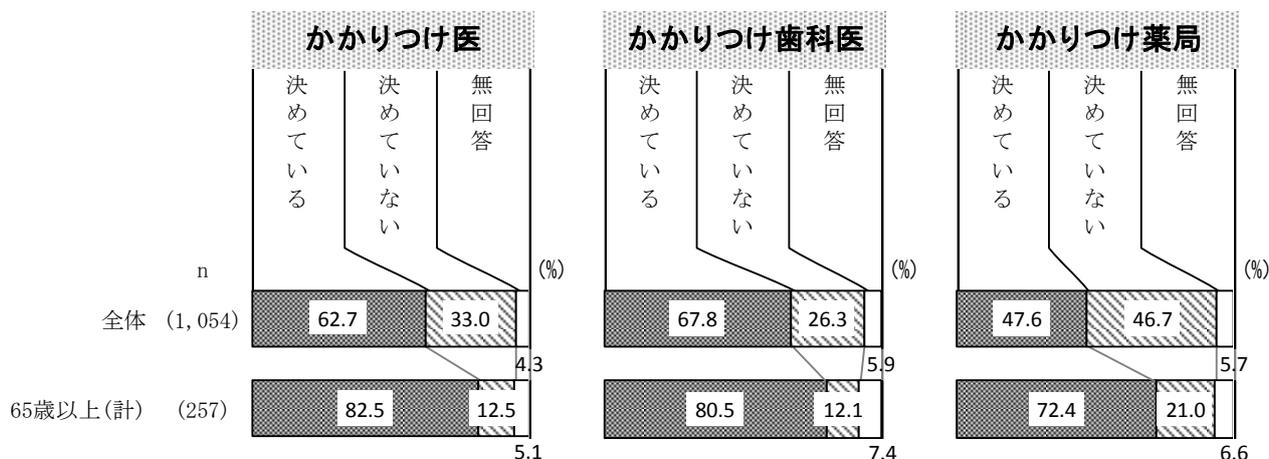
図 13-1-2 かかりつけ医・歯科医・薬局を決めているかー推移



全体と65歳以上の方の結果を比較すると、「決めている」は3項目とも65歳以上(計)が全体よりも多く、「かかりつけ医」は19.8ポイント、「かかりつけ歯科医」は12.7ポイント、「かかりつけ薬局」は24.8ポイント高くなっている。

65歳以上の方がかかりつけを「決めている」割合としては、「かかりつけ医」(82.5%)が8割を超え、「かかりつけ歯科医」(80.5%)がほぼ8割、「かかりつけ薬局」(72.4%)が7割を超えている。(図 13-1-3)

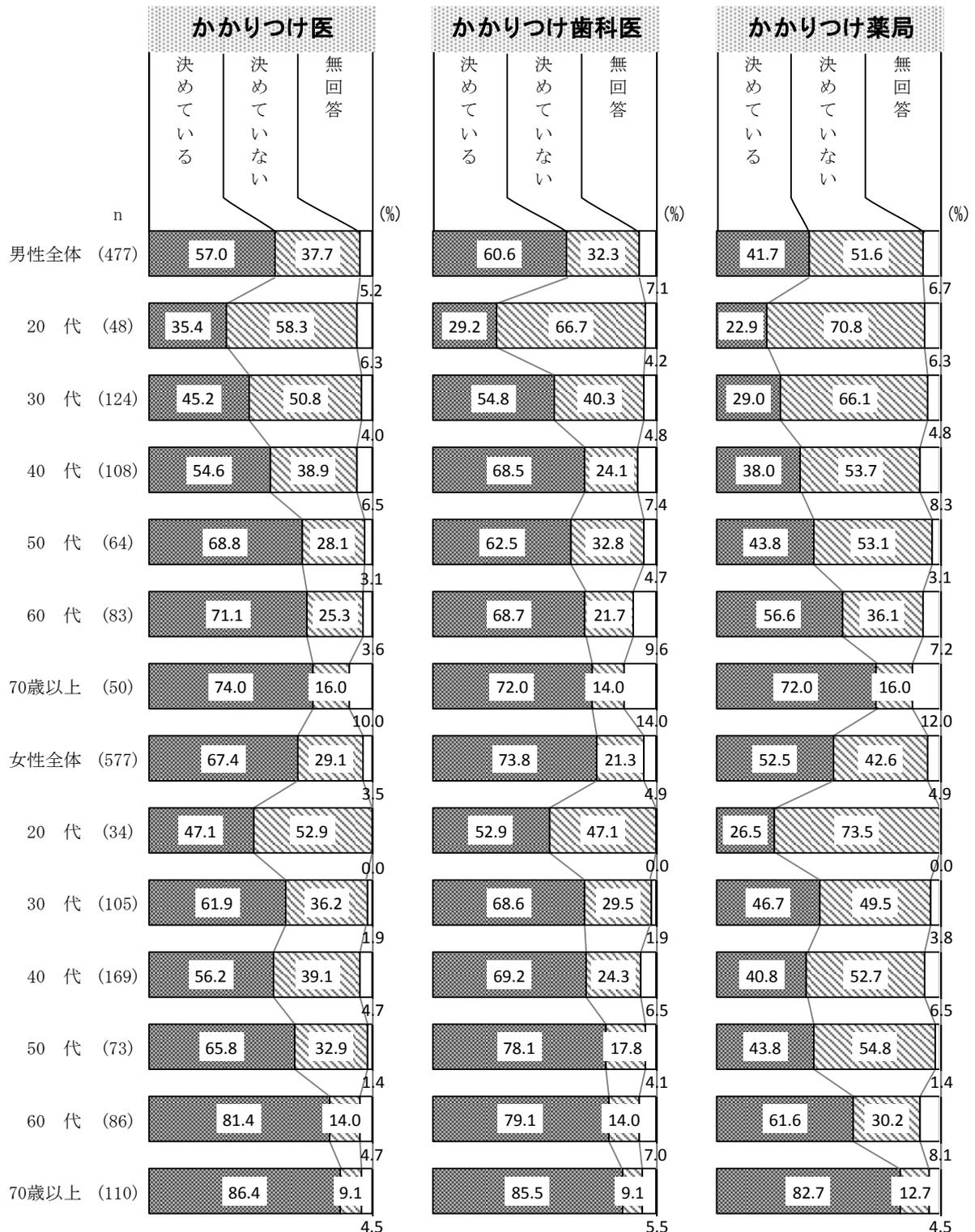
図 13-1-3 かかりつけ医・歯科医・薬局を決めているかー全体と65歳以上の比較



性別でみると、「決めている」割合は3項目とも女性が男性を大きく上回り、「かかりつけ医」は10.4ポイント、「かかりつけ歯科医」は13.2ポイント、「かかりつけ薬局」は10.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「決めている」割合は3項目とも年代が上がるほど多くなる傾向が見られ、女性70歳以上が3項目とも8割台と最も多くなっている。

図 13-1-4 かかりつけ医・歯科医・薬局を決めているかー性別、性・年代別



14. 芸術・文化

「歴史と文化のまち」台東区には、多彩で粹な、誇るべき文化が根付いています。そして、2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会は、本区の文化の発展にとっても大きなチャンスとなります。

この調査では、区民の皆様の芸術・文化活動の実態や、区に期待されている取り組みについてお伺いしました。

回答からは、この1年間に芸術・文化の鑑賞や体験をしなかった理由としてほぼ5割の方が「時間的な余裕がない」を、3割の方が「興味のあるものがない」を挙げており、今後の区の取り組みとして、区民の皆様に気軽に芸術・文化に触れていただける機会を一層充実していくことが求められていることがわかりました。

この調査結果は、本区の文化施策を推進する上での、貴重な資料として活用してまいります。

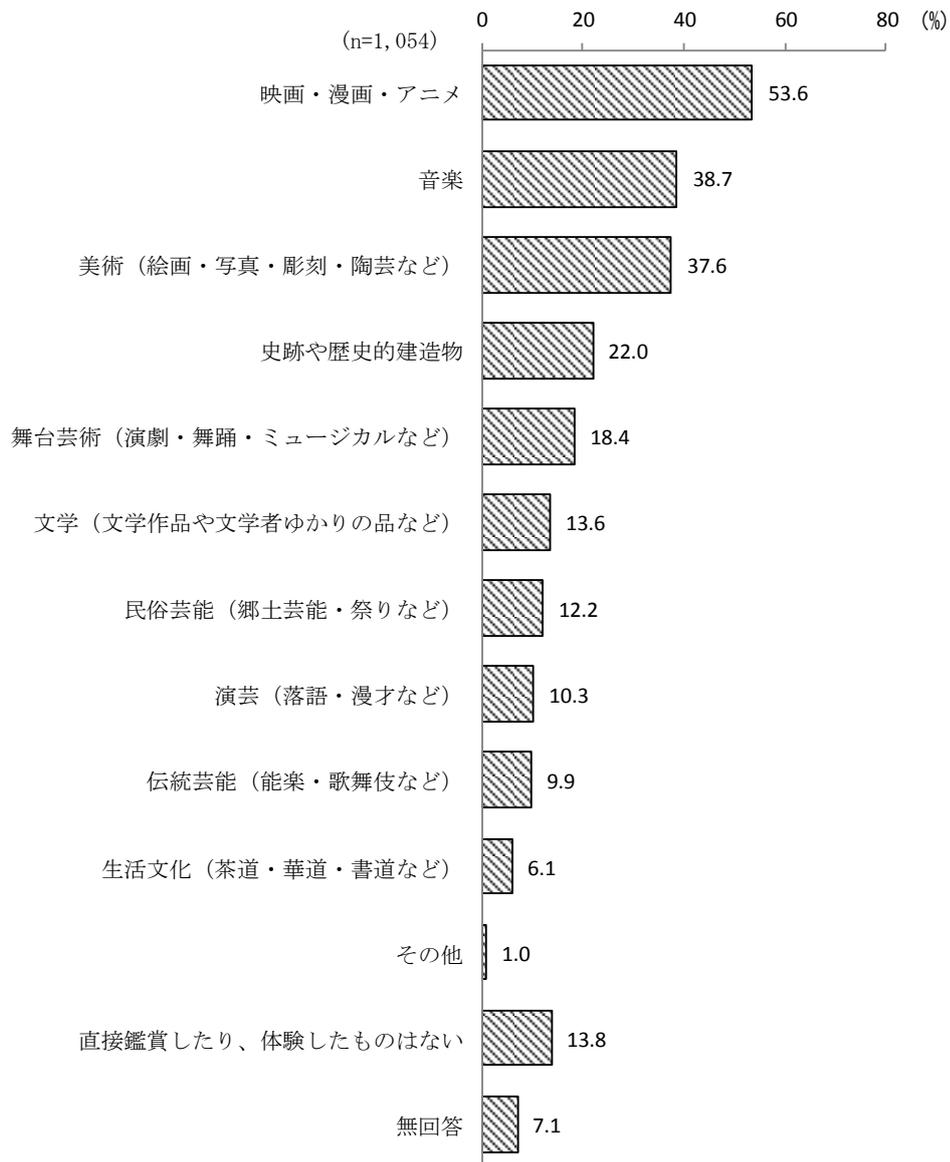
(文化産業観光部 文化振興課)

14-1 この1年間に鑑賞したり体験した芸術文化の分野

「映画・漫画・アニメ」が5割を超える

問36 あなたが、この1年間に、直接鑑賞したり、体験した芸術文化の分野は何ですか。体験の場所は、区内に限定せずにお答えください。(〇はいくつでも)

図 14-1-1

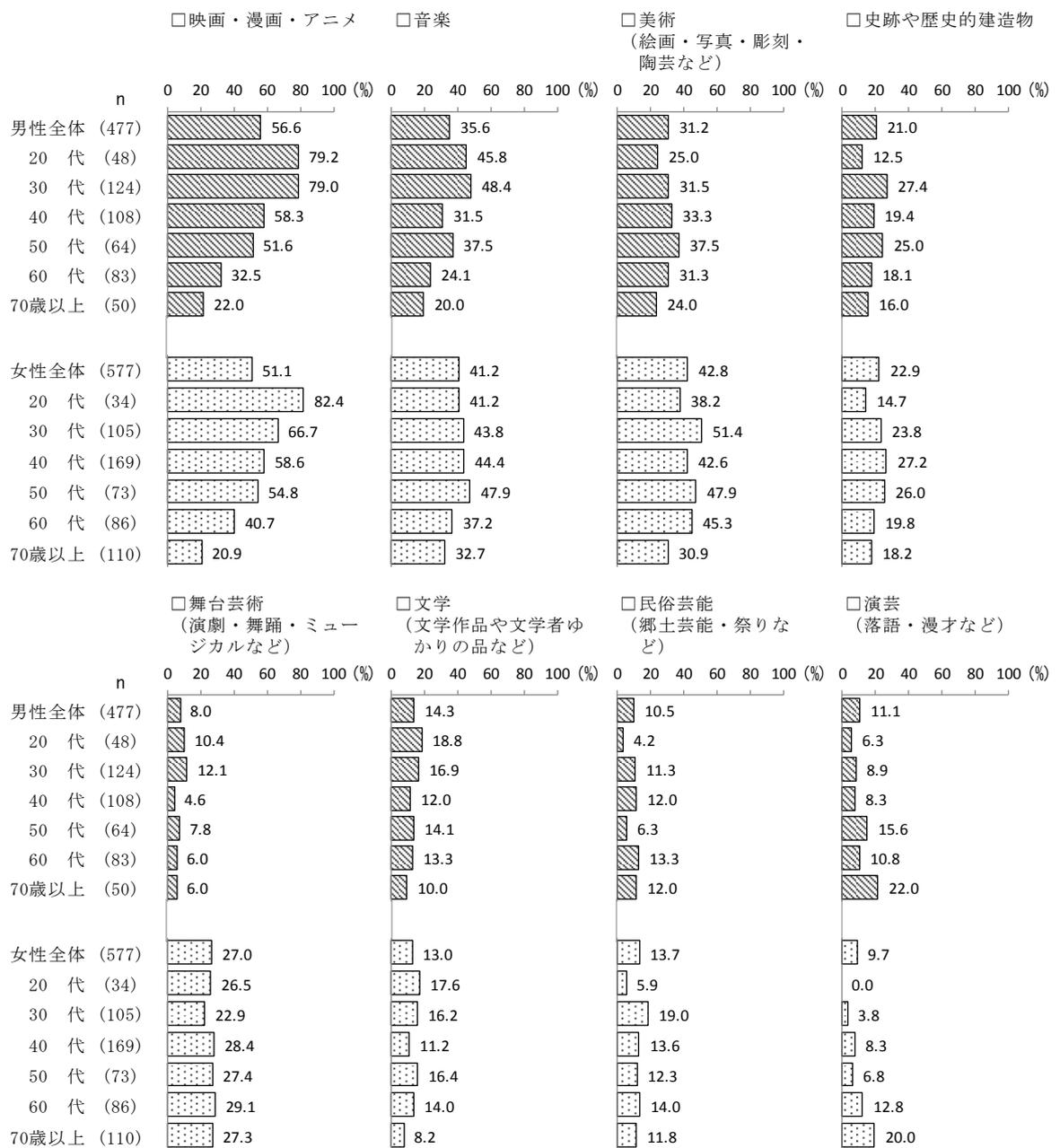


この1年間に鑑賞したり体験した芸術文化の分野は、「映画・漫画・アニメ」(53.6%)が5割を超え最も多く、次いで「音楽」(38.7%)、「美術(絵画・写真・彫刻・陶芸など)」(37.6%)、「史跡や歴史的建造物」(22.0%)となっている。(図14-1-1)

性別でみると、「舞台芸術（演劇・舞踊・ミュージカルなど）」は女性（27.0%）が男性（8.0%）より 19.0 ポイント、「美術（絵画・写真・彫刻・陶芸など）」は女性（42.8%）が男性（31.2%）より 11.6 ポイント高くなっている。「映画・漫画・アニメ」は男性（56.6%）が女性（51.1%）より 5.5 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「映画・漫画・アニメ」は男女ともに年齢が低くなるほど多くなっている。「音楽」は男性が 30 代以下で、女性は 50 代以下で 4 割台となっている。「美術（絵画・写真・彫刻・陶芸など）」は女性 30 代（51.4%）で 5 割を超え最も多くなっている。（図 14-1-2）

図 14-1-2 この 1 年間に鑑賞したり体験した芸術文化の分野—性別、性・年代別（上位 8 位）



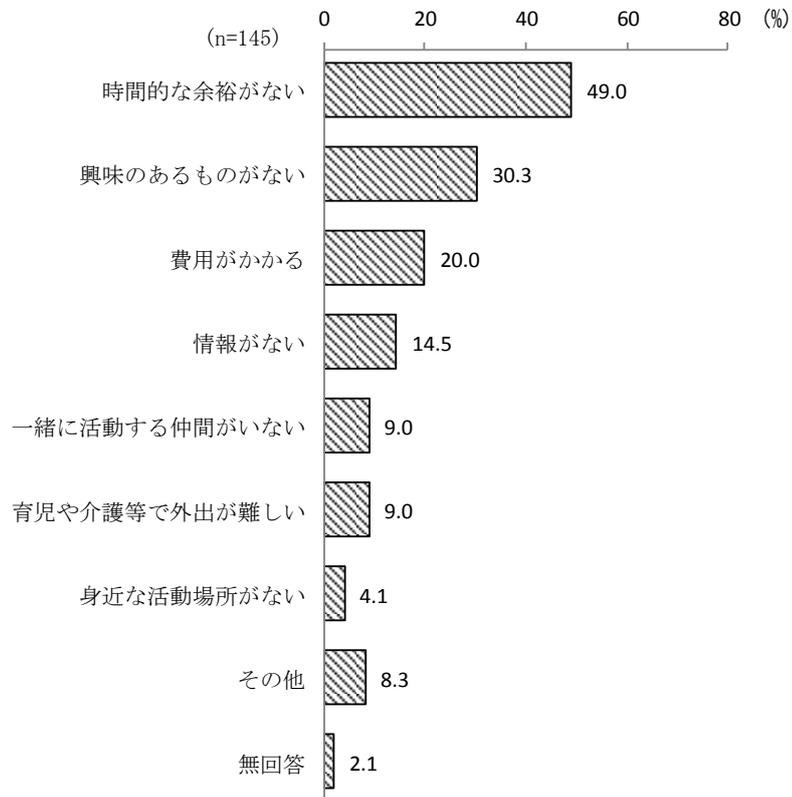
14-2 この1年間に鑑賞や体験をしなかった理由

「時間的な余裕がない」がほぼ5割

(問36で「12. 直接鑑賞したり、体験したものはない」とお答えの方に)

問36-1 その主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図 14-2-1

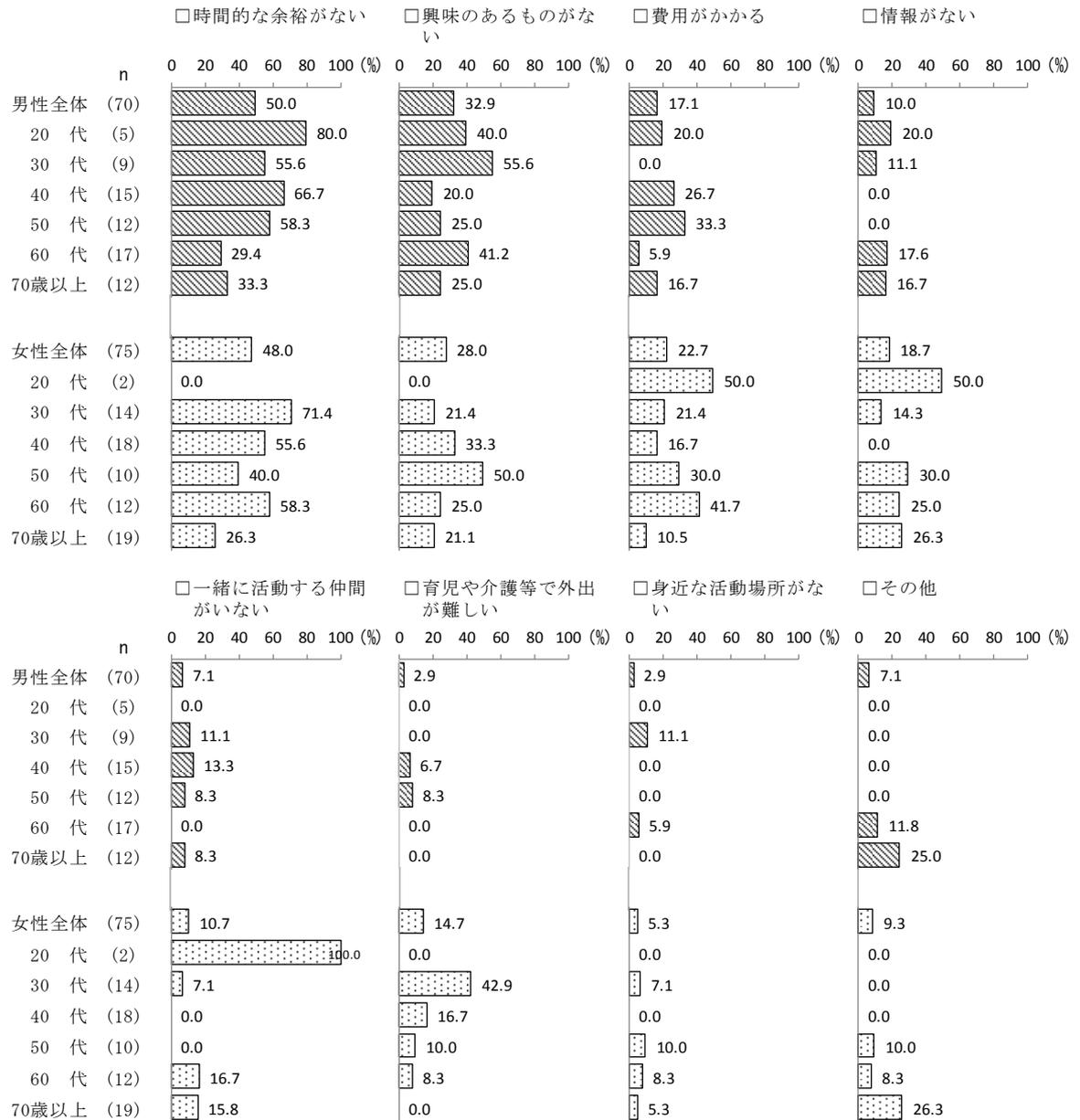


この1年間に鑑賞や体験をしなかった理由は、「時間的な余裕がない」(49.0%)がほぼ5割と最も多く、次いで「興味のあるものがない」(30.3%)、「費用がかかる」(20.0%)、「情報がない」(14.5%)となっている。(図 14-2-1)

性別でみると、「費用がかかる」は女性（22.7%）が男性（17.1%）より 5.6 ポイント高くなっている。「興味のあるものがない」は男性（32.9%）が女性（28.0%）より 4.9 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「時間的な余裕がない」は男性 20 代（80.0%）で 8 割と最も多く、次いで女性 30 代（71.4%）、男性 40 代（66.7%）となっている。「興味のあるものがない」は男性 30 代（55.6%）で 5 割半ばと最も多くなっている。（図 14-2-2）

図 14-2-2 この 1 年間に鑑賞や体験をしなかった理由—性別、性・年代別

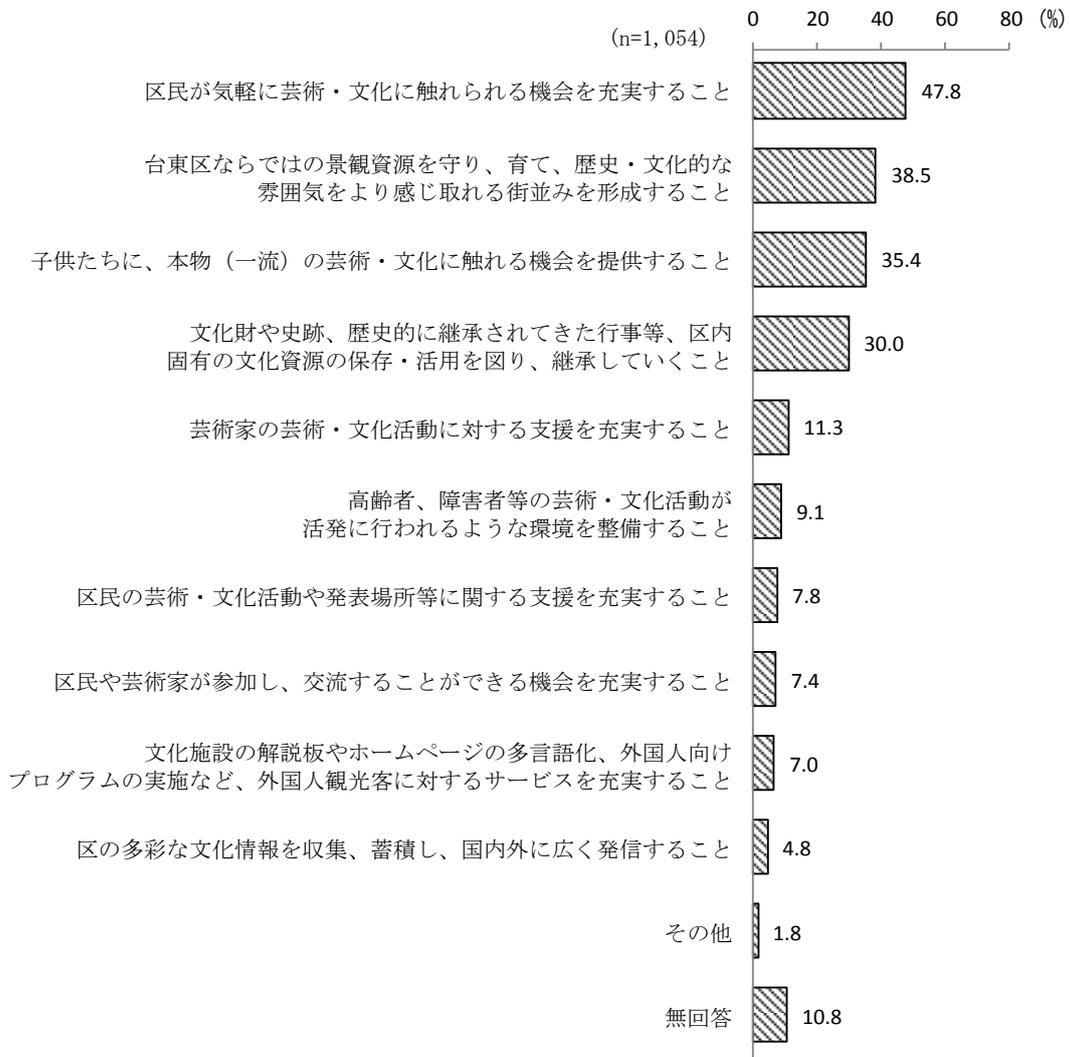


14-3 台東区の芸術・文化の取り組みで重要なこと

「区民が気軽に芸術・文化に触れられる機会を充実すること」が5割近く

問37 あなたは、今後の台東区の芸術・文化に関する取り組みとして、何が重要だと考えますか。
(○は3つまで)

図 14-3-1

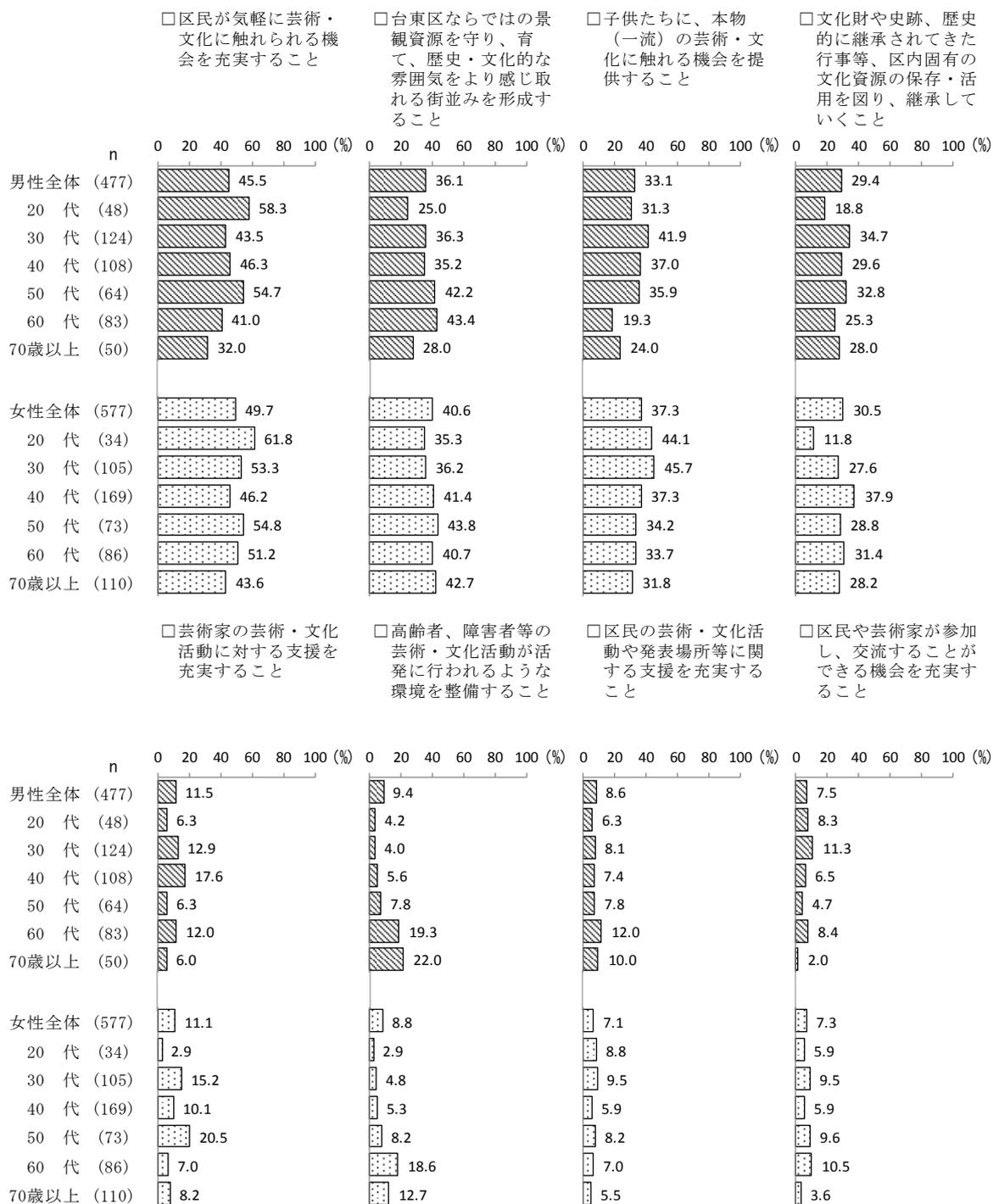


台東区の芸術・文化の取り組みで重要なことは、「区民が気軽に芸術・文化に触れられる機会を充実すること」(47.8%)が5割近くと最も多く、次いで「台東区ならではの景観資源を守り、育て、歴史・文化的な雰囲気をより感じ取れる街並みを形成すること」(38.5%)、「子供たちに、本物（一流）の芸術・文化に触れる機会を提供すること」(35.4%)、「文化財や史跡、歴史的に継承されてきた行事等、区内固有の文化資源の保存・活用を図り、継承していくこと」(30.0%)となっている。(図 14-3-1)

性別でみると、「台東区ならではの景観資源を守り、育て、歴史・文化的な雰囲気を感じ取れる街並みを形成すること」は女性（40.6%）が男性（36.1%）より 4.5 ポイント、「区民が気軽に芸術・文化に触れられる機会を充実すること」は女性（49.7%）が男性（45.5%）より 4.2 ポイント、「子供たちに、本物（一流）の芸術・文化に触れる機会を提供すること」は女性（37.3%）が男性（33.1%）より 4.2 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別でみると、「区民が気軽に芸術・文化に触れられる機会を充実すること」は女性 20 代（61.8%）で 6 割を超え最も多く、次いで男性 20 代（58.3%）、女性 50 代（54.8%）となっている。「台東区ならではの景観資源を守り、育て、歴史・文化的な雰囲気を感じ取れる街並みを形成すること」は女性 50 代（43.8%）で 4 割を超え最も多くなっている。（図 14-3-2）

図 14-3-2 台東区の芸術・文化の取り組みで重要なこと一性別、性・年代別（上位 8 位）



15. 生涯学習

今回の調査では、区民の生涯学習の取り組み状況と学習ニーズについてお伺いしました。

この1年間に何らかの生涯学習をしたことがあると回答した方の割合は、75.3%で、国が行った同様の全国調査の直近の結果 57.1%に比べ 18.2 ポイント高く、全国に比べ生涯学習に取り組む区民の割合は高い状況にあることが伺えます。また、学習ニーズの質問では、年代や性別によりニーズが多様化していることが伺え、この1年間で学習したことがある方と今後学習したい方を合わせた学習分野ごとの回答では約5割の方が「健康・スポーツ」や「趣味的なもの」を志向しています。

また、今後取り組みたいと考える生涯学習の内容、学習する場所や形態についても年代や性別により多様化しており、本区の生涯学習を推進するためには、引き続き区民のニーズを的確に把握し、学習の機会や情報を充実していく必要があります。

今後したい学習の場所や形態では、約2割の方が「公の機関の講座や教室」と最も多く、区民の皆様の期待に応えられるよう今後も区民のライフステージに合わせ、さまざまな学習機会や情報の提供に努め、生涯学習の環境整備を進めてまいります。

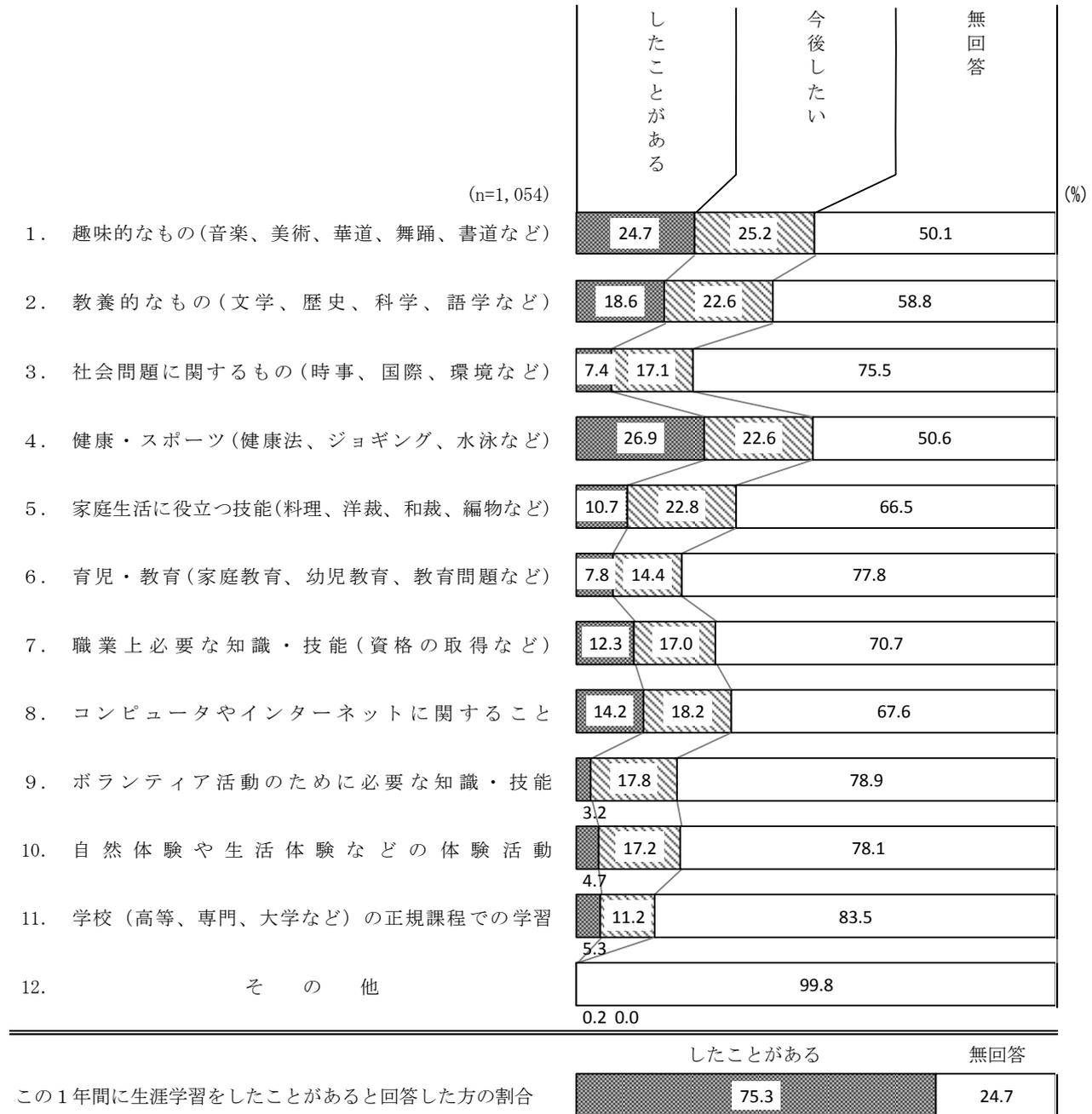
(教育委員会 生涯学習課)

15-1 この1年間に行った（今後したい）生涯学習

【したことがある】は「健康・スポーツ（健康法、ジョギング、水泳など）」が3割近く、【今後したい】は「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」が2割半ば

問 38 あなたは、この1年間に生涯学習をしたことがありますか。また、今後どのような学習をしたいですか。（○はいくつでも）

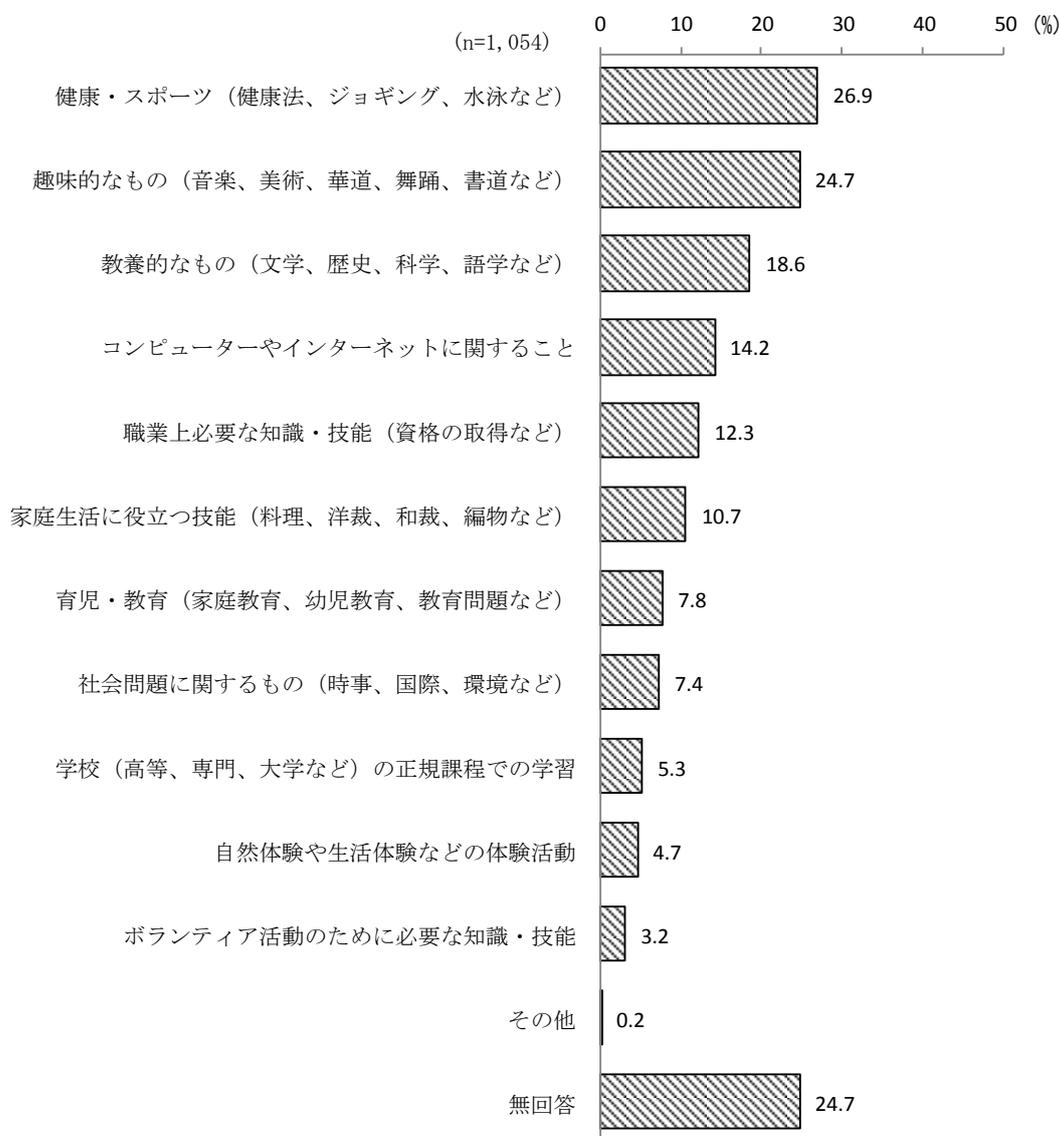
図 15-1-1



この1年間に行った生涯学習または今後したい生涯学習は、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」（49.9%）が5割と最も多く、次いで「健康・スポーツ（健康法、ジョギング、水泳など）」（49.5%）、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）」（41.2%）、「家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編物など）」（33.5%）となっている。（図 15-1-1）

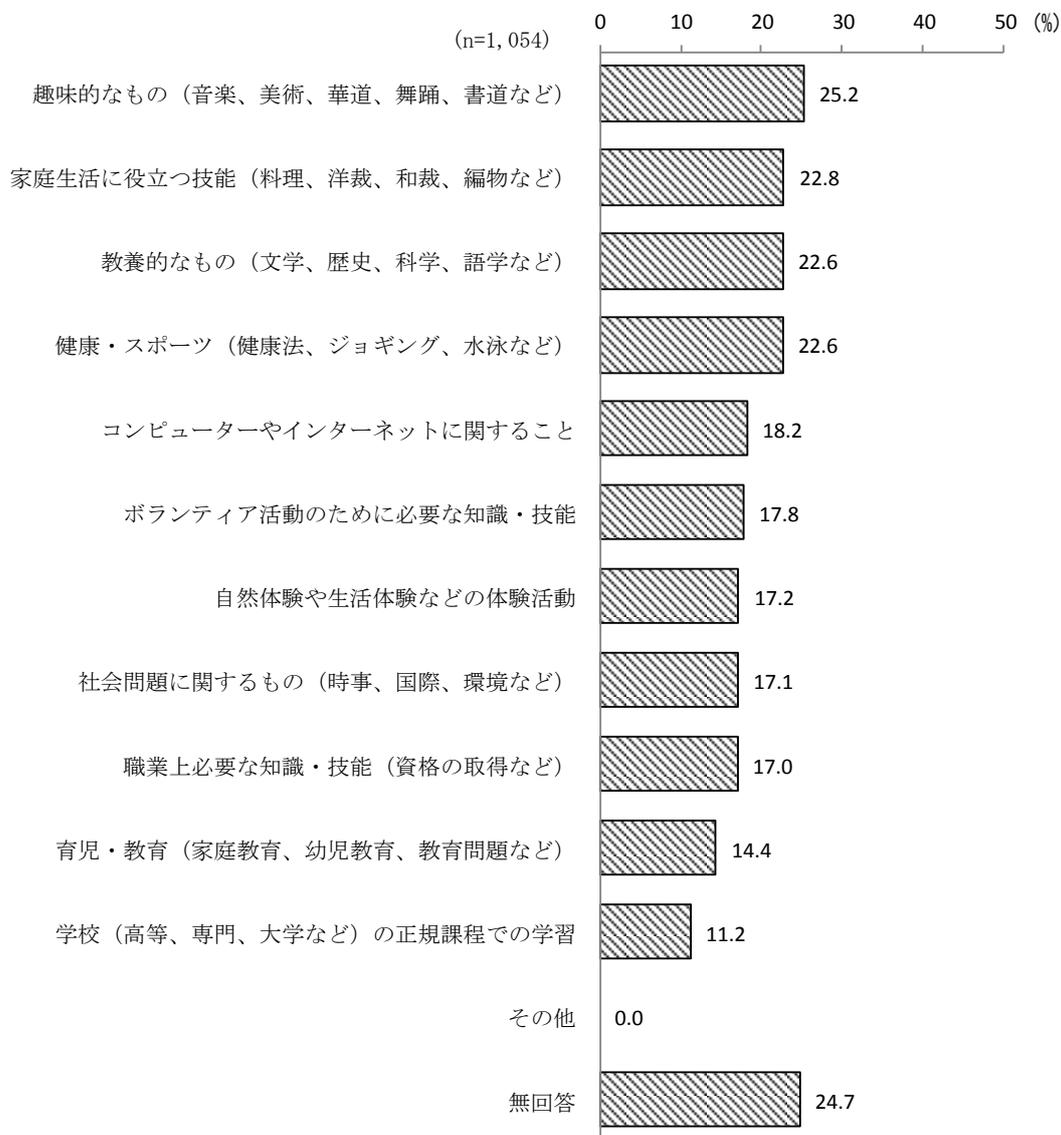
【したことがある】では「健康・スポーツ(健康法、ジョギング、水泳など)」(26.9%)が3割近くと最も多く、次いで「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道など)」(24.7%)、「教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)」(18.6%)となっている。(図15-1-2)

図15-1-2 この1年間に行った生涯学習ー【したことがある】



【今後したい】では「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道など)」(25.2%)が2割半ばで最も多く、次いで「家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編物など)」(22.8%)、「教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)」(22.6%)、「健康・スポーツ(健康法、ジョギング、水泳など)」(22.6%)となっている。(図15-1-3)

図15-1-3 この1年間に行った生涯学習ー【今後したい】

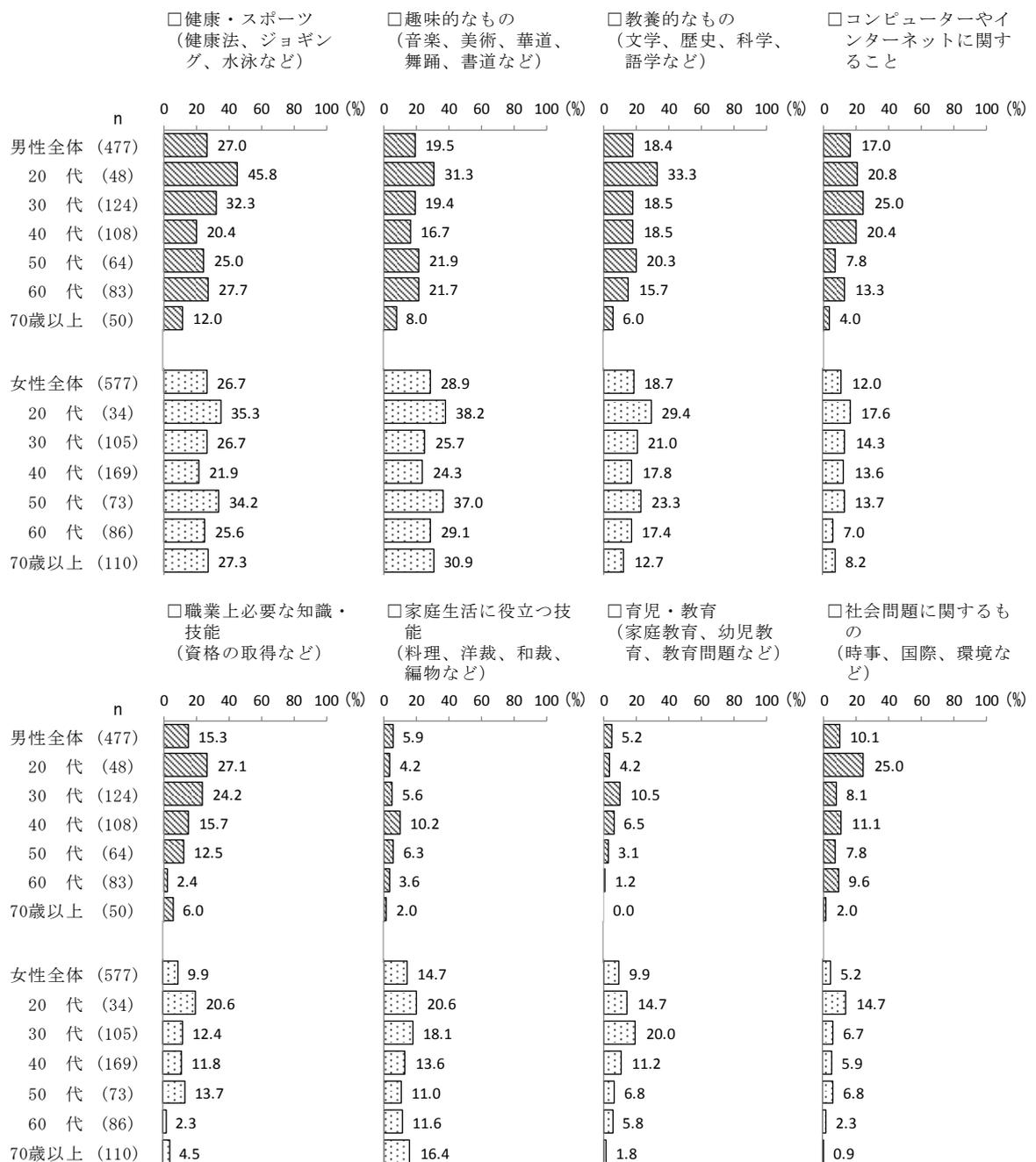


(1) 【したことがある】

性別で見ると、「職業上必要な知識・技能（資格の取得など）」は男性（15.3%）が女性（9.9%）より5.4ポイント高くなっている。「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」は女性（28.9%）が男性（19.5%）より9.4ポイント、「家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編物など）」は女性（14.7%）が男性（5.9%）より8.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると、「健康・スポーツ（健康法、ジョギング、水泳など）」は男性20代（45.8%）で4割半ばと最も多く、次いで女性20代（35.3%）、女性50代（34.2%）となっている。「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」は女性20代（38.2%）で4割近くと最も多くなっている。「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）」は男性20代（33.3%）で3割を超え最も多くなっている。（図15-1-4）

図15-1-4 この1年間に行った生涯学習－【したことがある】（上位8位）

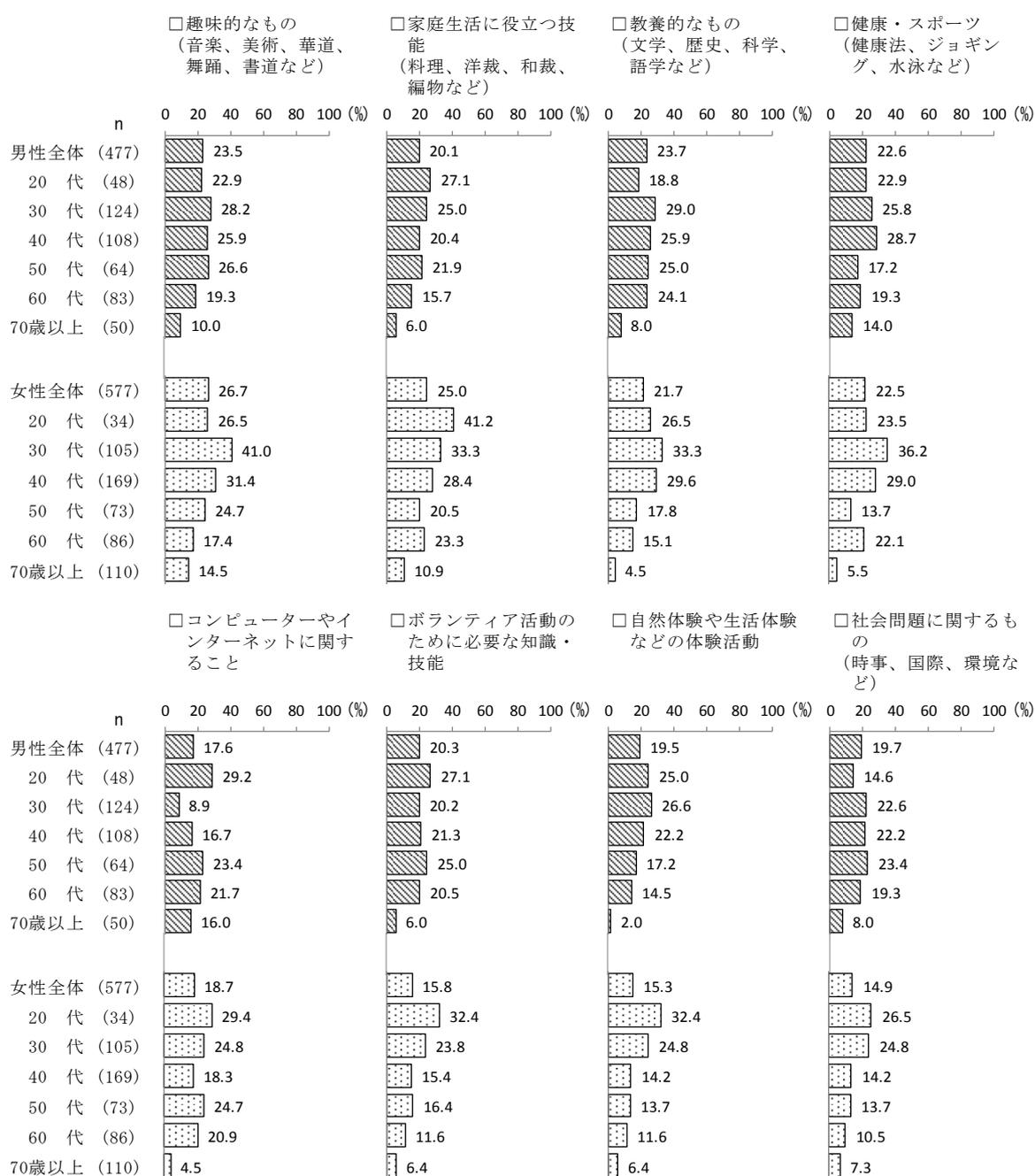


(2) 【今後したい】

性別でみると、「家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）」は女性（25.0%）が男性（20.1%）より 4.9 ポイント高くなっている。「社会問題に関するもの（時事、国際、環境など）」は男性（19.7%）が女性（14.9%）より 4.8 ポイント、「ボランティア活動のために必要な知識・技能」は男性（20.3%）が女性（15.8%）より 4.5 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別でみると、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」は女性 30 代（41.0%）で 4 割を超え最も多く、次いで女性 40 代（31.4%）、男性 30 代（28.2%）となっている。「家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）」は女性 20 代（41.2%）で 4 割を超え最も多くなっている。「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）」は女性 30 代（33.3%）で 3 割を超え最も多くなっている。（図 15-1-5）

図 15-1-5 この 1 年間に行った生涯学習ー【今後したい】（上位 8 位）

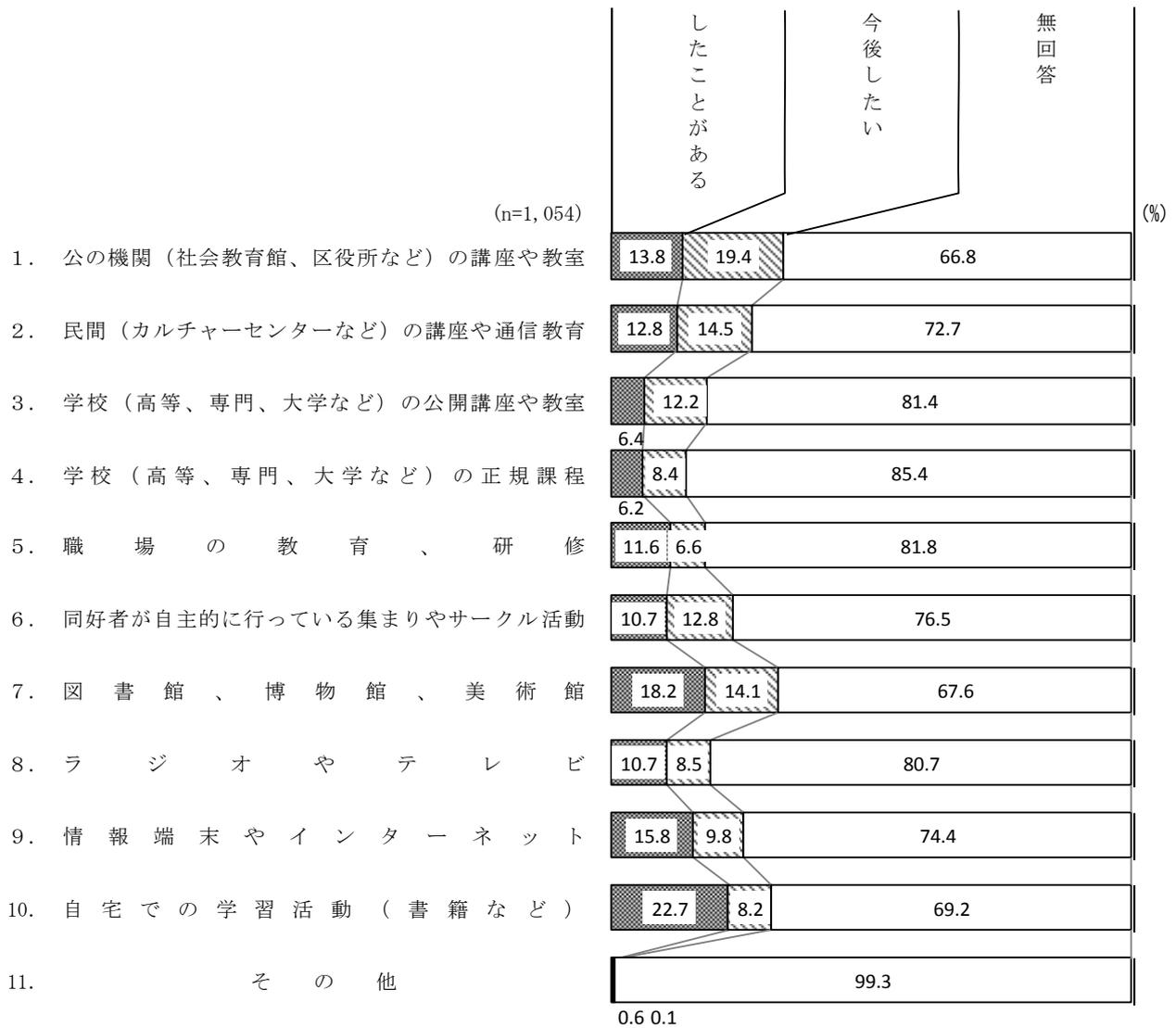


15-2 生涯学習の場所や形態

【したことがある】は「自宅での学習活動（書籍など）」が2割を超え、【今後したい】は「公の機関（社会教育館、区役所など）の講座や教室」がほぼ2割

問 38-1 どのような場所や形態で生涯学習をしたことがありますか。また、今後どのような場所や形態で学習したいですか。（○はいくつでも）

図 15-2-1

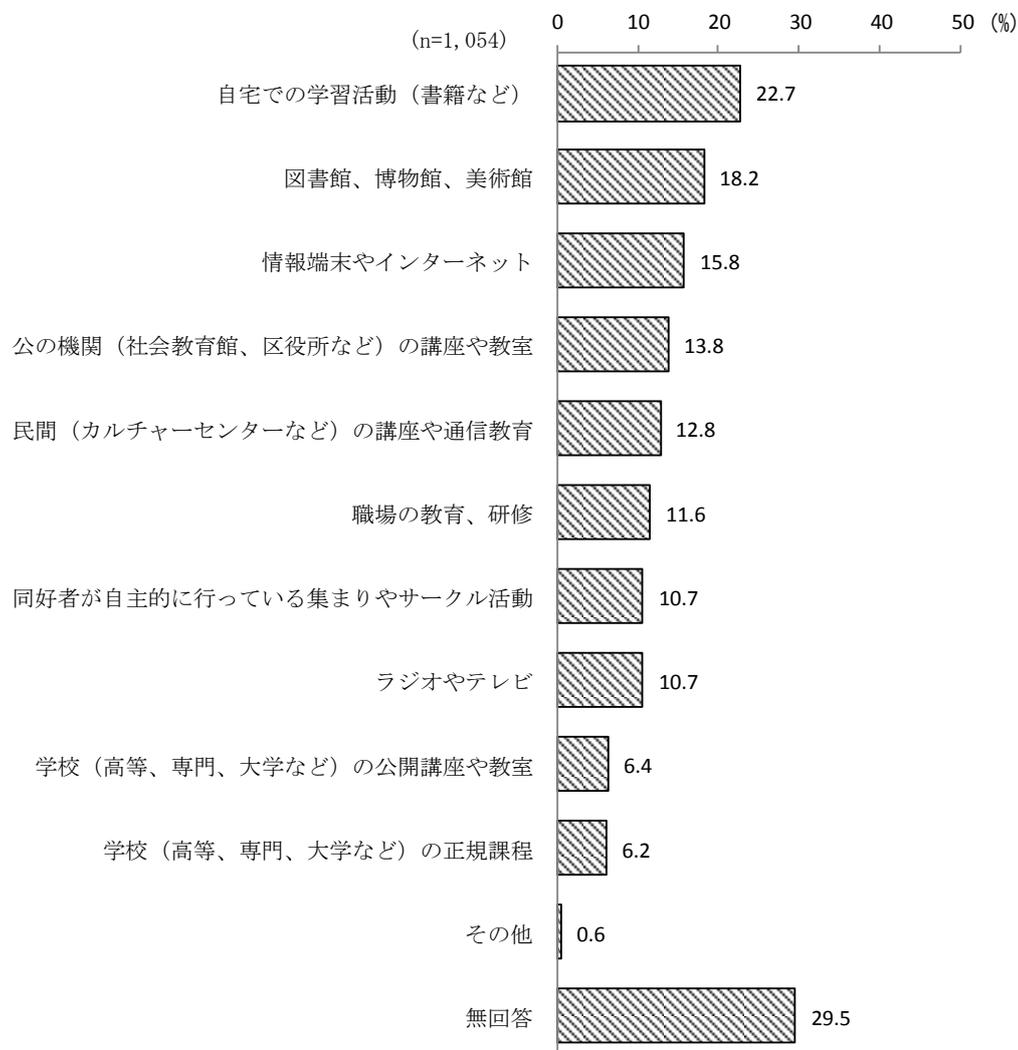


生涯学習をしたことがあるまたは今後したい場所や形態は、「公の機関（社会教育館、区役所など）の講座や教室」(33.2%)が3割を超え最も多く、次いで「図書館、博物館、美術館」(32.3%)、「民間（カルチャーセンターなど）の講座や通信教育」(27.3%)となっている。（図 15-2-1）

【したことがある】では「自宅での学習活動（書籍など）」（22.7%）が2割を超え最も多く、次いで「図書館、博物館、美術館」（18.2%）、「情報端末やインターネット」（15.8%）となっている。

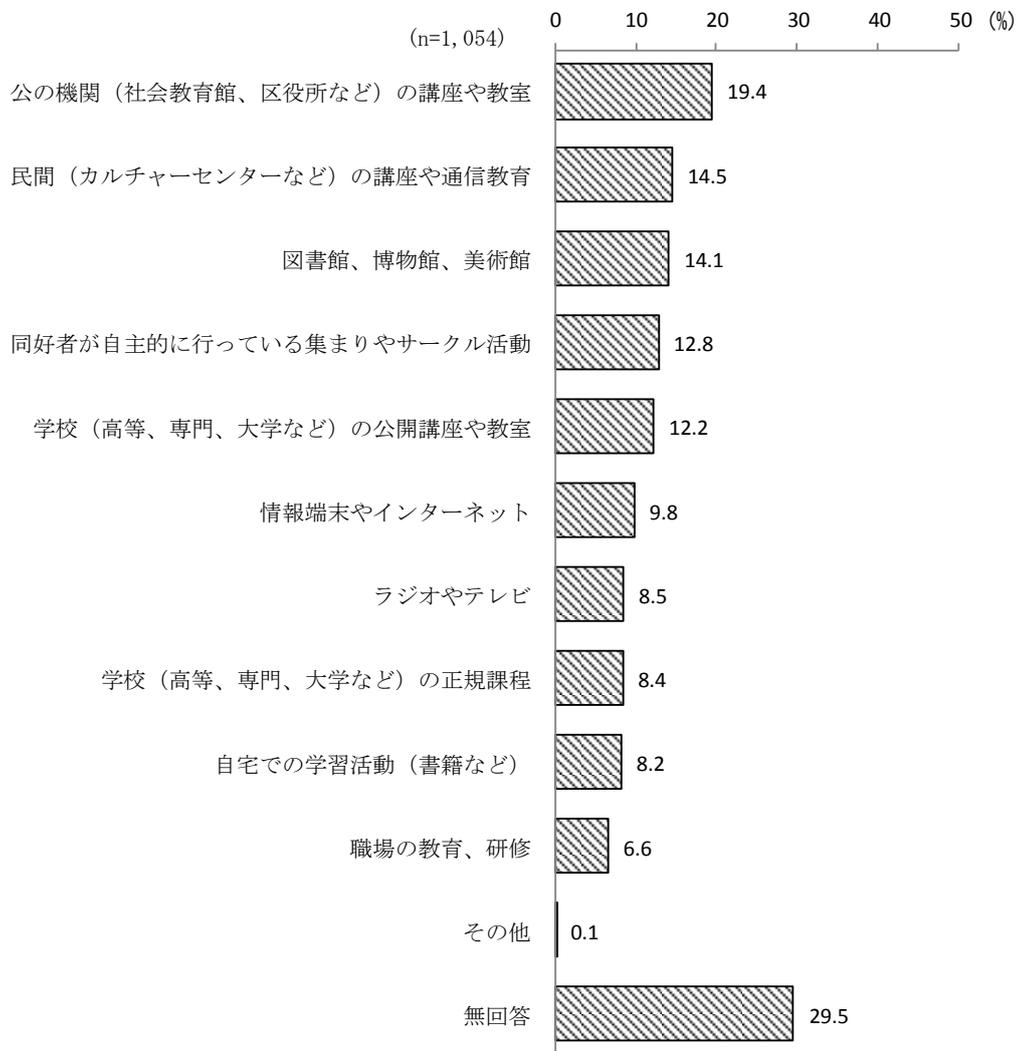
（図 15-2-2）

図 15-2-2 生涯学習の場所や形態－【したことがある】



【今後したい】では「公の機関（社会教育館、区役所など）の講座や教室」（19.4%）がほぼ2割で最も多く、次いで「民間（カルチャーセンターなど）の講座や通信教育」（14.5%）、「図書館、博物館、美術館」（14.1%）となっている。（図15-2-3）

図15-2-3 生涯学習の場所や形態－【今後したい】

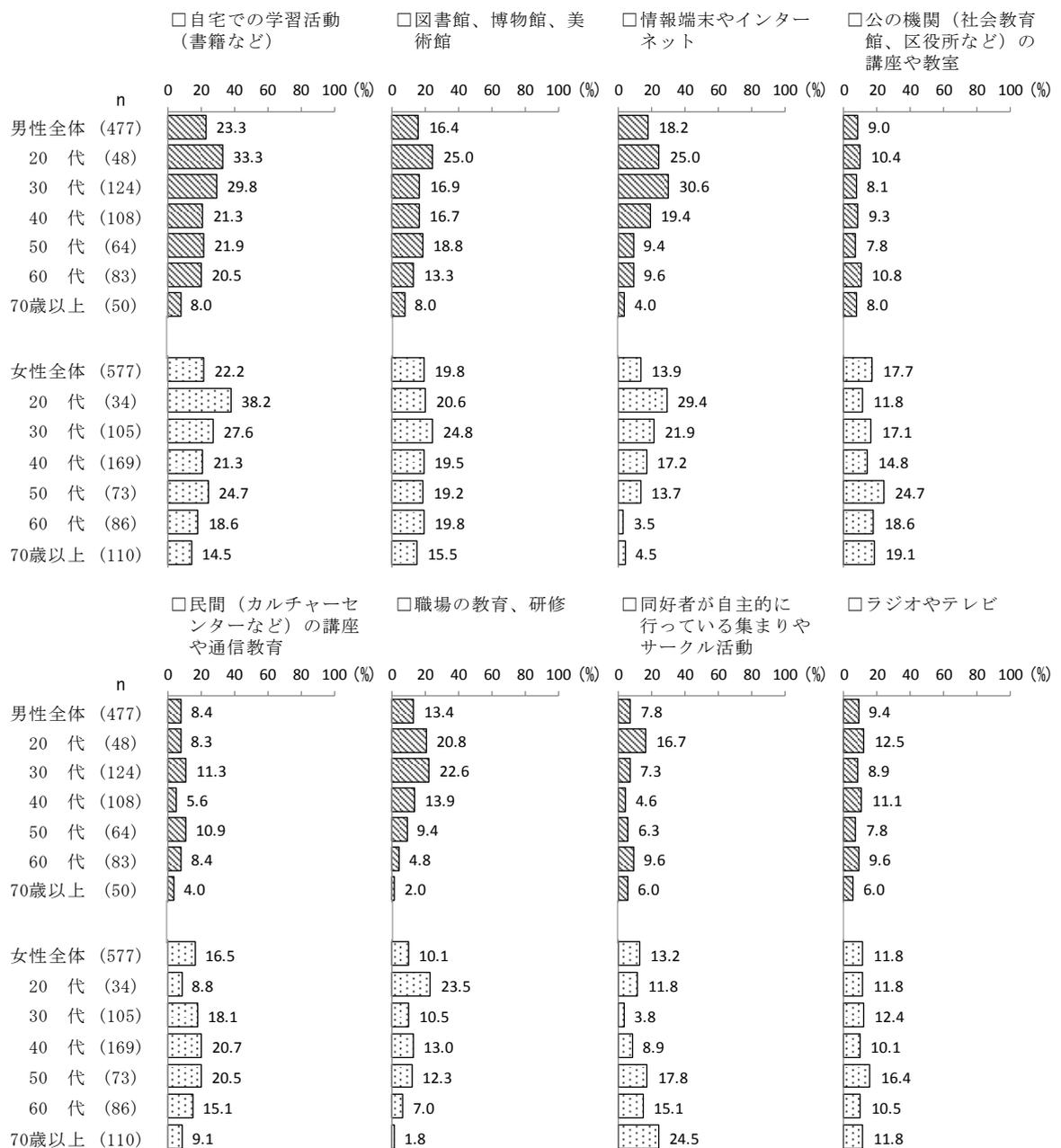


(1) 【したことがある】

性別で見ると、「公の機関（社会教育館、区役所など）の講座や教室」は女性（17.7%）が男性（9.0%）より 8.7 ポイント、「民間（カルチャーセンターなど）の講座や通信教育」は女性（16.5%）が男性（8.4%）より 8.1 ポイント、それぞれ高くなっている。「情報端末やインターネット」は男性（18.2%）が女性（13.9%）より 4.3 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「自宅での学習活動（書籍など）」は女性 20 代（38.2%）で 4 割近くと最も多く、次いで男性 20 代（33.3%）、男性 30 代（29.8%）となっている。「図書館、博物館、美術館」は男性 20 代（25.0%）で 2 割半ばと最も多くなっている。「情報端末やインターネット」は男性 30 代（30.6%）でほぼ 3 割と最も多くなっている。（図 15-2-4）

図 15-2-4 生涯学習の場所や形態－【したことがある】（上位 8 位）

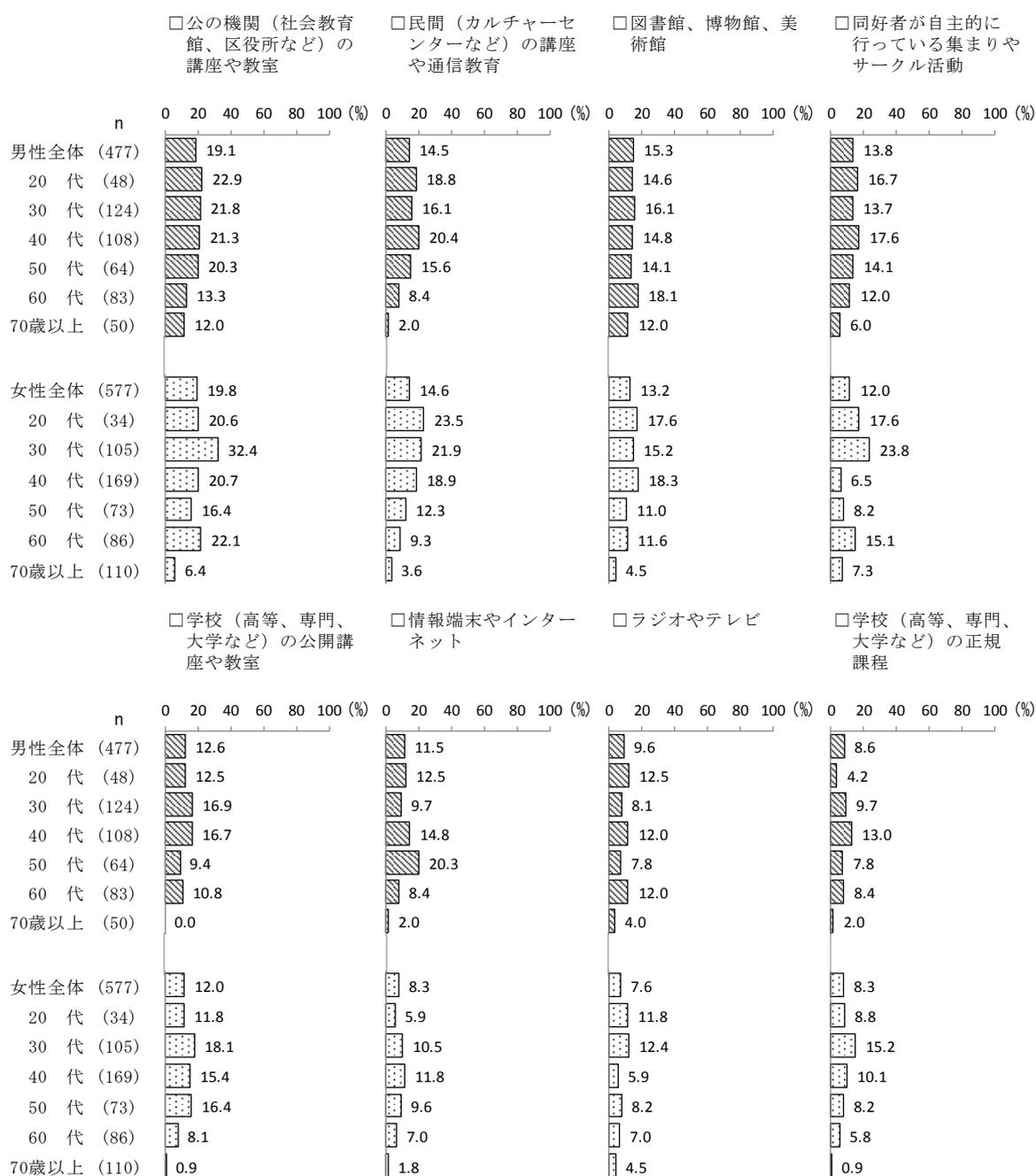


(2) 【今後したい】

性別でみると、「情報端末やインターネット」は男性（11.5%）が女性（8.3%）より3.2ポイント、「ラジオやテレビ」は男性（9.6%）が女性（7.6%）より2.0ポイント、「図書館、博物館、美術館」は男性（15.3%）が女性（13.2%）より2.1ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別でみると、「公の機関（社会教育館、区役所など）の講座や教室」は女性30代（32.4%）で3割を超え最も多く、次いで男性20代（22.9%）、女性60代（22.1%）となっている。「民間（カルチャーセンターなど）の講座や通信教育」は女性20代（23.5%）で2割を超え最も多くなっている。「同好者が自主的に行っている集まりやサークル活動」は女性30代（23.8%）で2割を超え最も多くなっている。（図15-2-5）

図15-2-5 生涯学習の場所や形態－【今後したい】（上位8位）

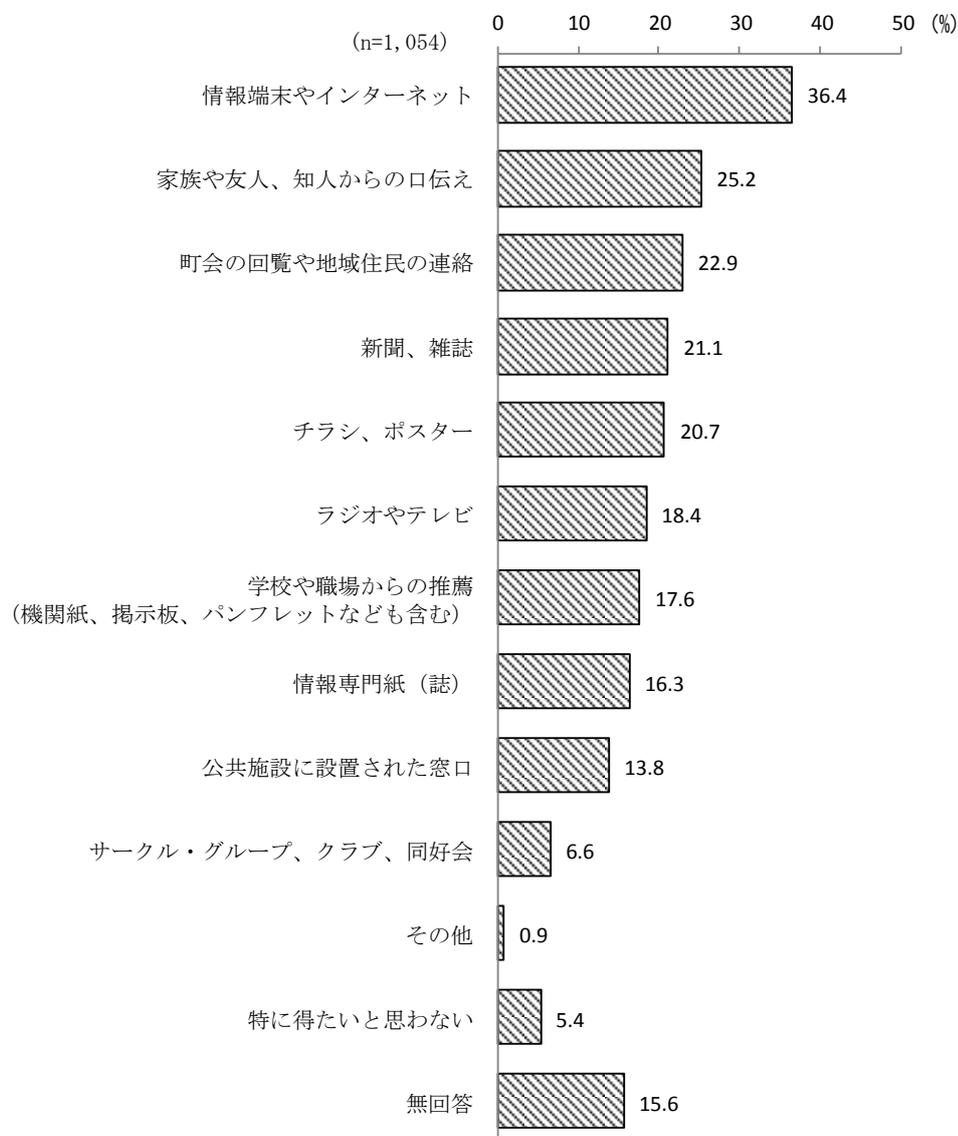


15-3 生涯学習に関する情報の入手方法

「情報端末やインターネット」が3割半ば

問 39 あなたは生涯学習に関する情報をどこから得たいと思いますか。(〇はいくつでも)

図 15-3-1



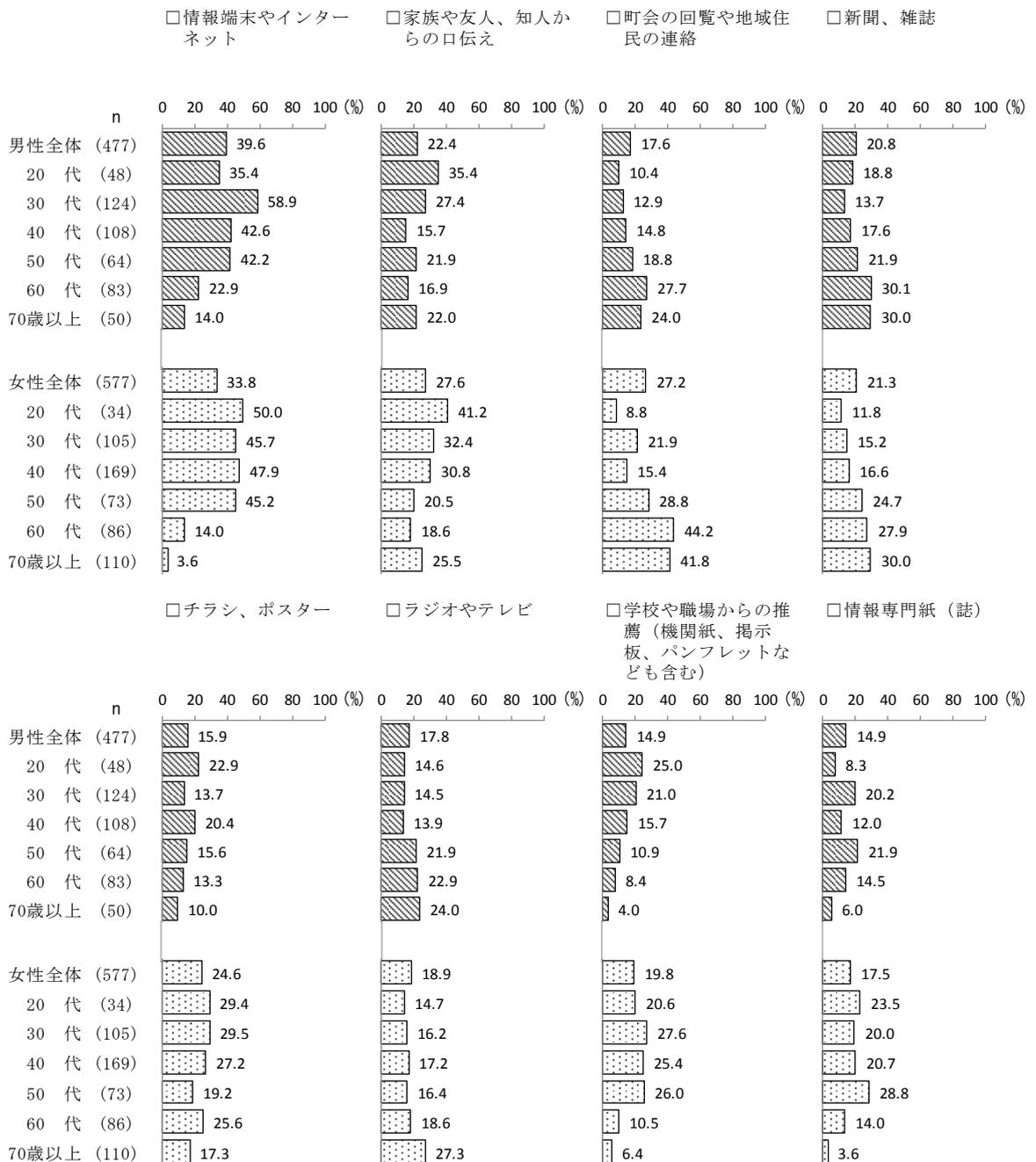
生涯学習に関する情報の入手方法は、「情報端末やインターネット」(36.4%)が3割半ばと最も多く、次いで「家族や友人、知人からの口伝え」(25.2%)、「町会の回覧や地域住民の連絡」(22.9%)、「新聞、雑誌」(21.1%)、「チラシ、ポスター」(20.7%)となっている。(図 15-3-1)

性別でみると、「町会の回覧や地域住民の連絡」は女性（27.2%）が男性（17.6%）より 9.6 ポイント、「チラシ、ポスター」は女性（24.6%）が男性（15.9%）より 8.7 ポイント、それぞれ高くなっている。「情報端末やインターネット」は男性（39.6%）が女性（33.8%）より 5.8 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「情報端末やインターネット」は男性 30 代（58.9%）で 6 割近くと最も多く、次いで女性 20 代（50.0%）、女性 40 代（47.9%）となっている。また、男性 30 代から 50 代、女性 20 代から 50 代で 4 割台から 5 割台と多くなっている。「町会の回覧や地域住民の連絡」と「新聞、雑誌」は男性、女性ともに比較的年齢が高い方が多い傾向となっている。「学校や職場からの推薦（機関紙、掲示板、パンフレットなども含む）」は男性で年齢が低くなるほど多くなっている。

（図 15-3-2）

図 15-3-2 生涯学習に関する情報の入手方法—性別、性・年代別（上位 8 位）



16. 図書館

図書館では入館者数・貸出件数とも近年減少傾向にあることから、利用状況及び充実してほしい項目についてお伺いしました。

同様の質問を行った平成19年度に比べて利用経験は微増しており、特に60代以上の方の利用が伸びています。また30代・40代の女性に関しては利用が伸びていることと、図書館で充実してほしいものに児童書と答えた方が多いことから、お子さんと一緒に図書館を利用していただいている方が多いのではないかと推測されます。

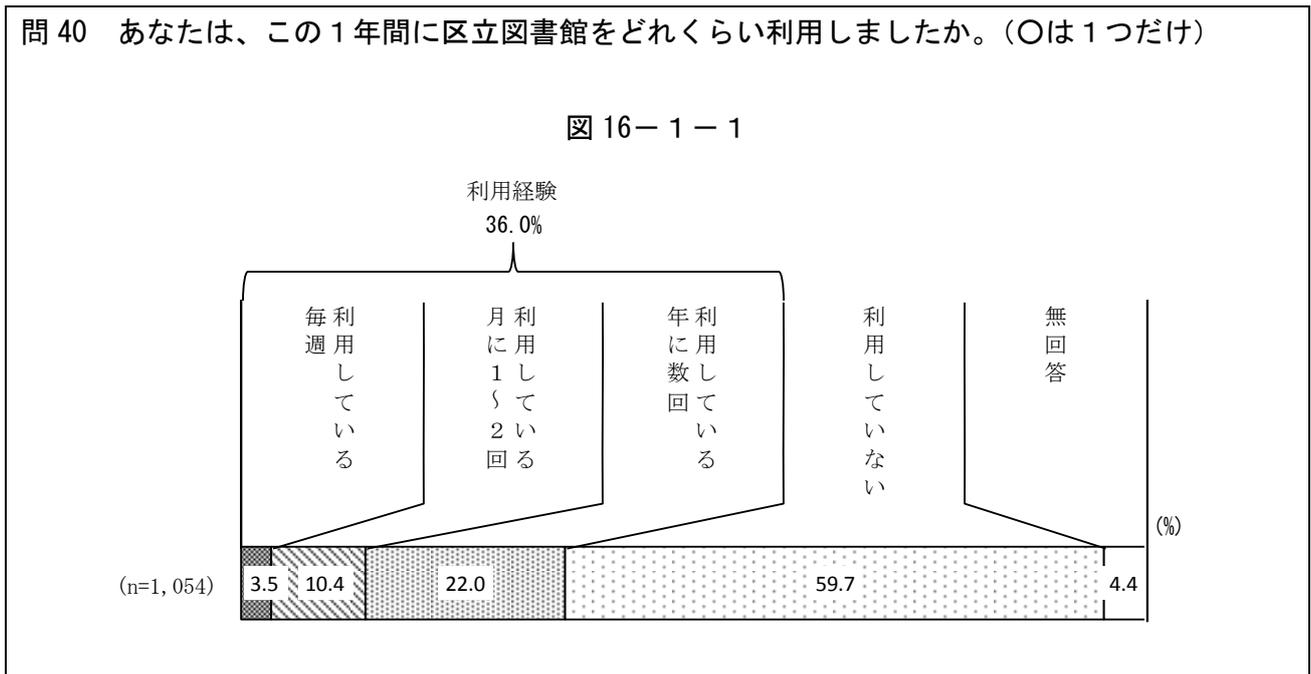
この度の調査結果を図書館の利用者増加につなげられるよう努めてまいります。

(教育委員会 中央図書館)

16-1 この1年間の図書館の利用状況

「年に数回利用している」が2割を超える一方、「利用していない」が6割

問40 あなたは、この1年間に区立図書館をどれくらい利用しましたか。(○は1つだけ)



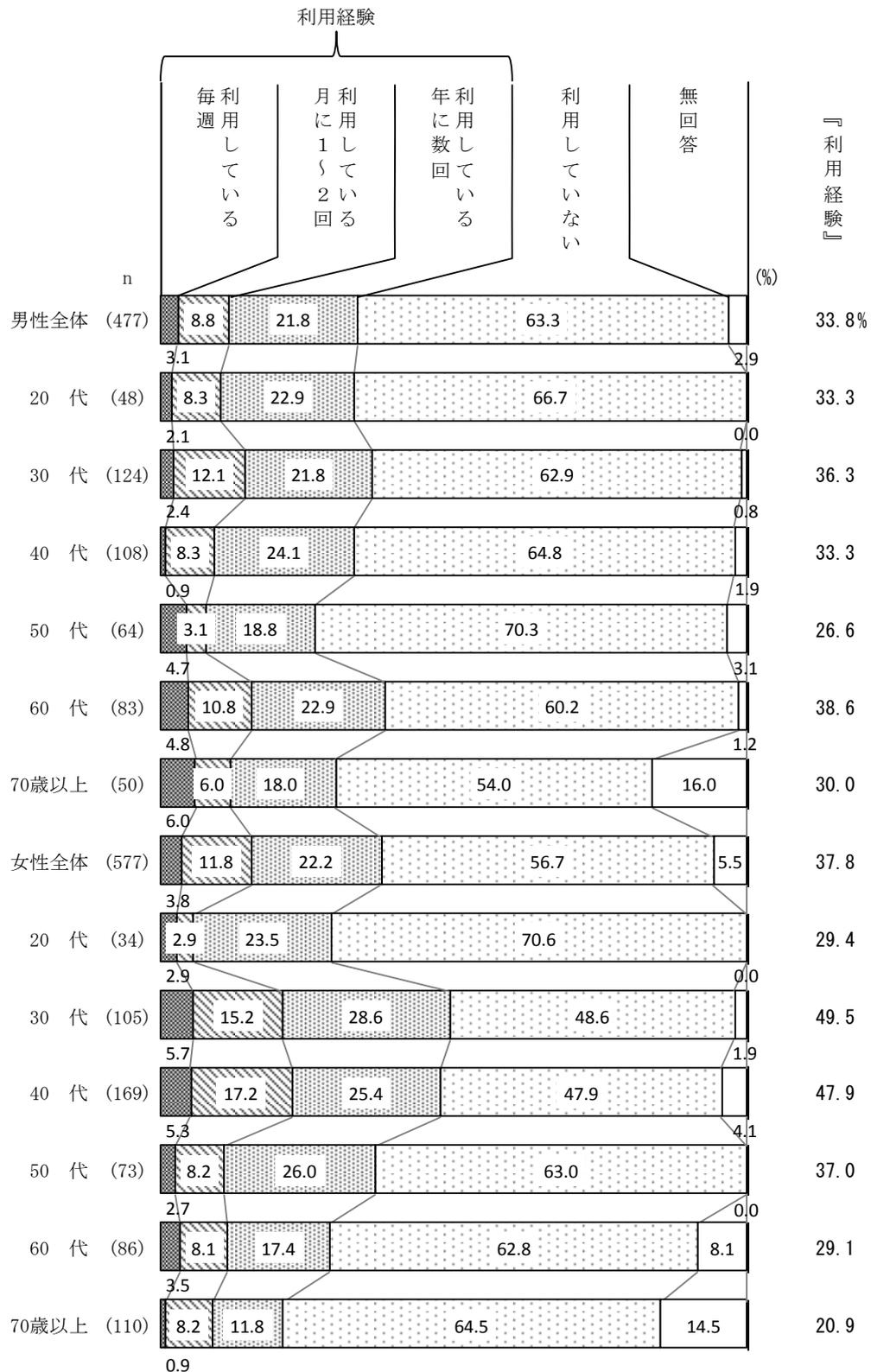
この1年間の図書館の利用状況は、「年に数回利用している」(22.0%)が2割を超え最も多く、次いで「月に1〜2回利用している」(10.4%)、「毎週利用している」(3.5%)となっている。

一方、「利用していない」(59.7%)が6割となっている。(図16-1-1)

性別でみると、『利用経験』は女性（37.8%）が男性（33.8%）より 4.0 ポイント高くなっている。一方、「利用していない」は男性（63.3%）が女性（56.7%）より 6.6 ポイント高くなっている。

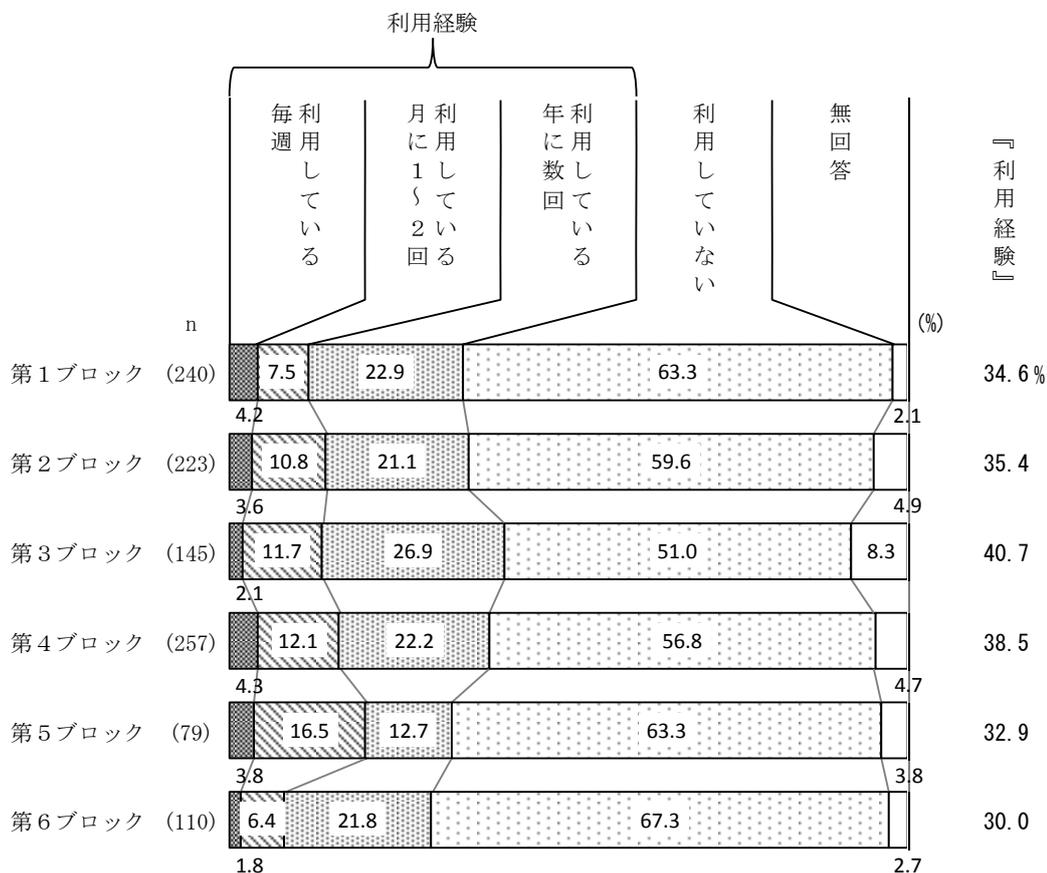
性・年代別でみると、『利用経験』は女性 30 代（49.5%）で 5 割と最も多くなっている。一方、「利用していない」は女性 20 代（70.6%）ではほぼ 7 割と最も多くなっている。（図 16-1-2）

図 16-1-2 この 1 年間の図書館の利用状況—性別、性・年代別



地区別にみると、『利用経験』は第3ブロック（40.7%）でほぼ4割と最も多く、次いで第4ブロック（38.5%）、第2ブロック（35.4%）となっている。一方、「利用していない」は第6ブロック（67.3%）で7割近くと最も多く、次いで第1ブロック及び第5ブロック（63.3%）となっている。（図16-1-3）

図16-1-3 この1年間の図書館の利用状況—地区別



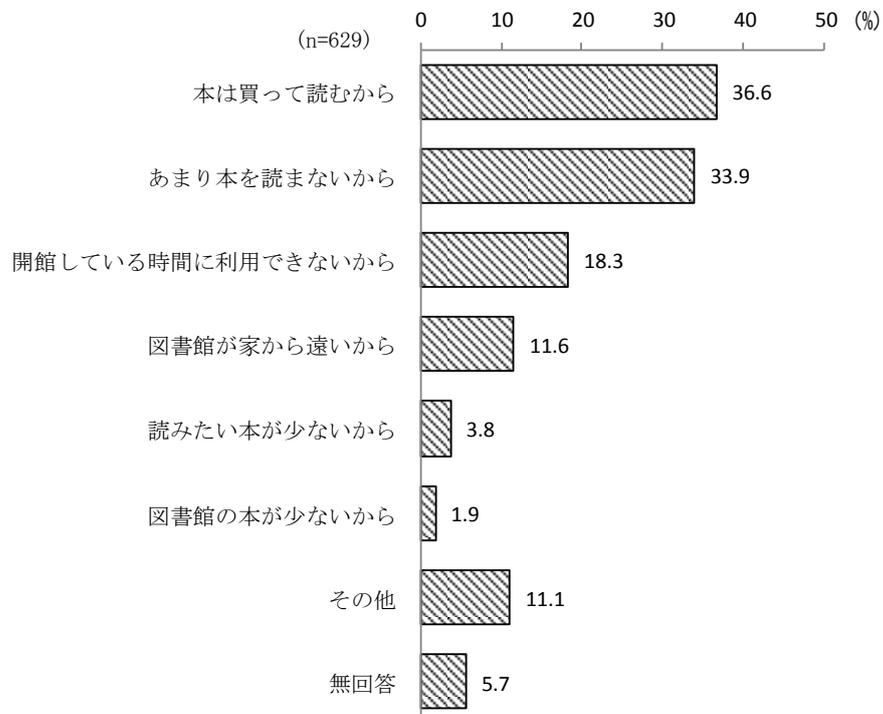
16-2 図書館を利用しない理由

「本は買って読むから」が4割近く

(問40で「4. 利用していない」とお答えの方に)

問40-1 区立図書館を利用しない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

図 16-2-1

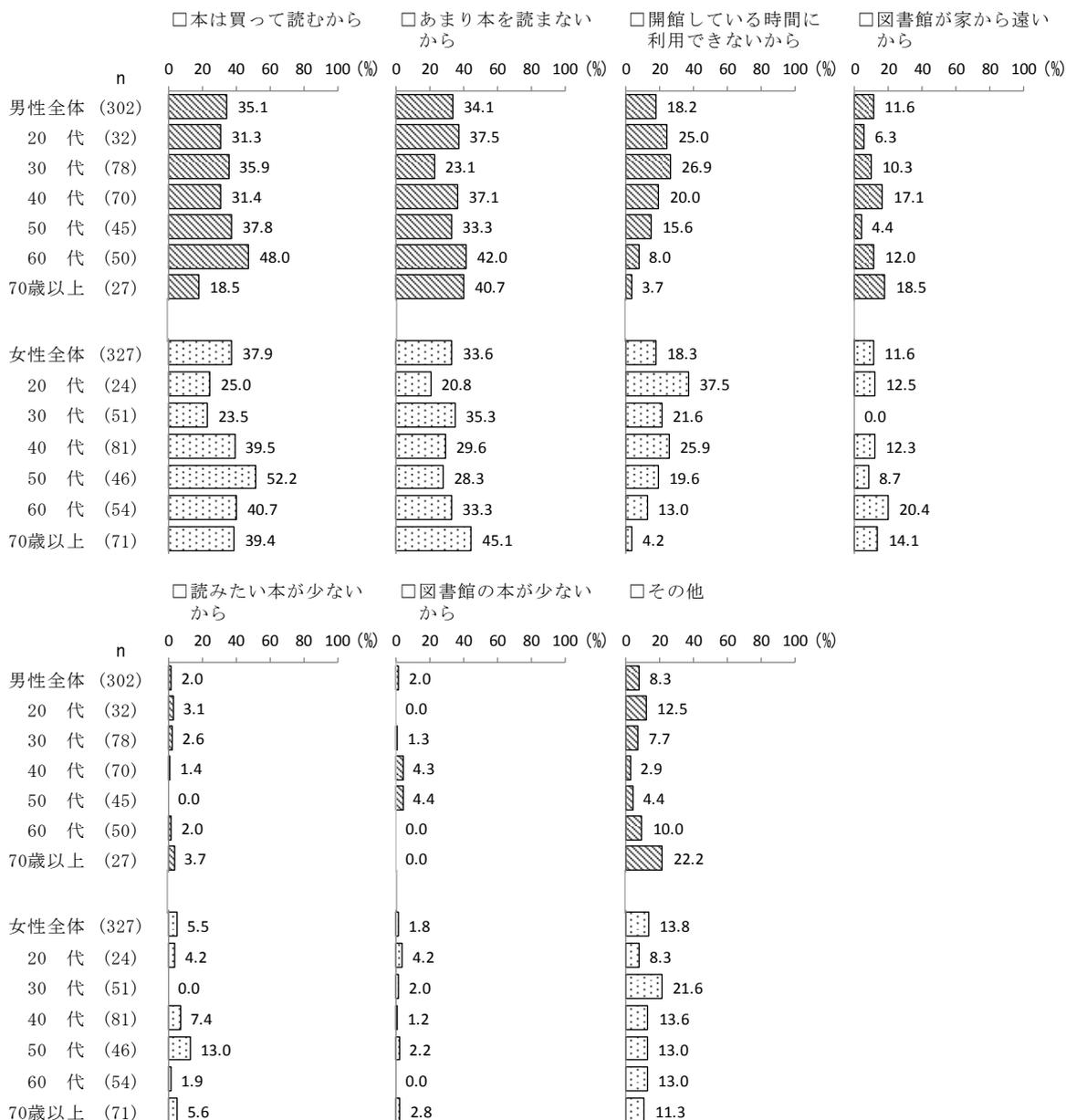


図書館を利用しない理由は、「本は買って読むから」(36.6%)が4割近くと最も多く、次いで「あまり本を読まないから」(33.9%)、「開館している時間に利用できないから」(18.3%)、「図書館が家から遠いから」(11.6%)となっている。(図 16-2-1)

性別で見ると、「本は買って読むから」は女性（37.9%）が男性（35.1%）より 2.8 ポイント高くなっている。

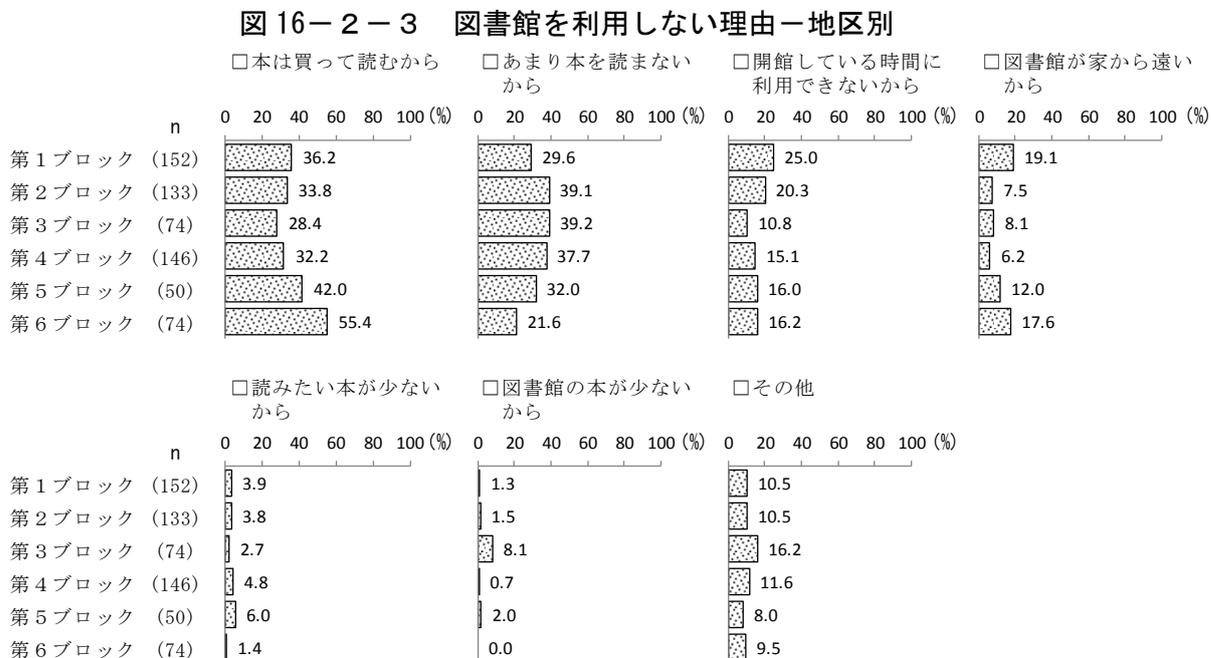
性・年代別で見ると、「本は買って読むから」は女性 50 代（52.2%）で 5 割を超え最も多く、次いで男性 60 代（48.0%）、女性 60 代（40.7%）となっている。「あまり本を読まないから」は女性 70 歳以上（45.1%）で 4 割半ばと最も多くなっている。「開館している時間に利用できないから」は女性 20 代（37.5%）で 4 割近くと最も多くなっている。（図 16-2-2）

図 16-2-2 図書館を利用しない理由—性別、性・年代別



地区別にみると、「本は買って読むから」は第6ブロック（55.4%）で5割半ばと最も多く、次いで第5ブロック（42.0%）、第1ブロック（36.2%）となっている。「あまり本を読まないから」は第3ブロック（39.2%）及び第2ブロック（39.1%）でほぼ4割と多くなっている。「開館している時間に利用できないから」は第1ブロック（25.0%）で2割半ばと最も多くなっている。

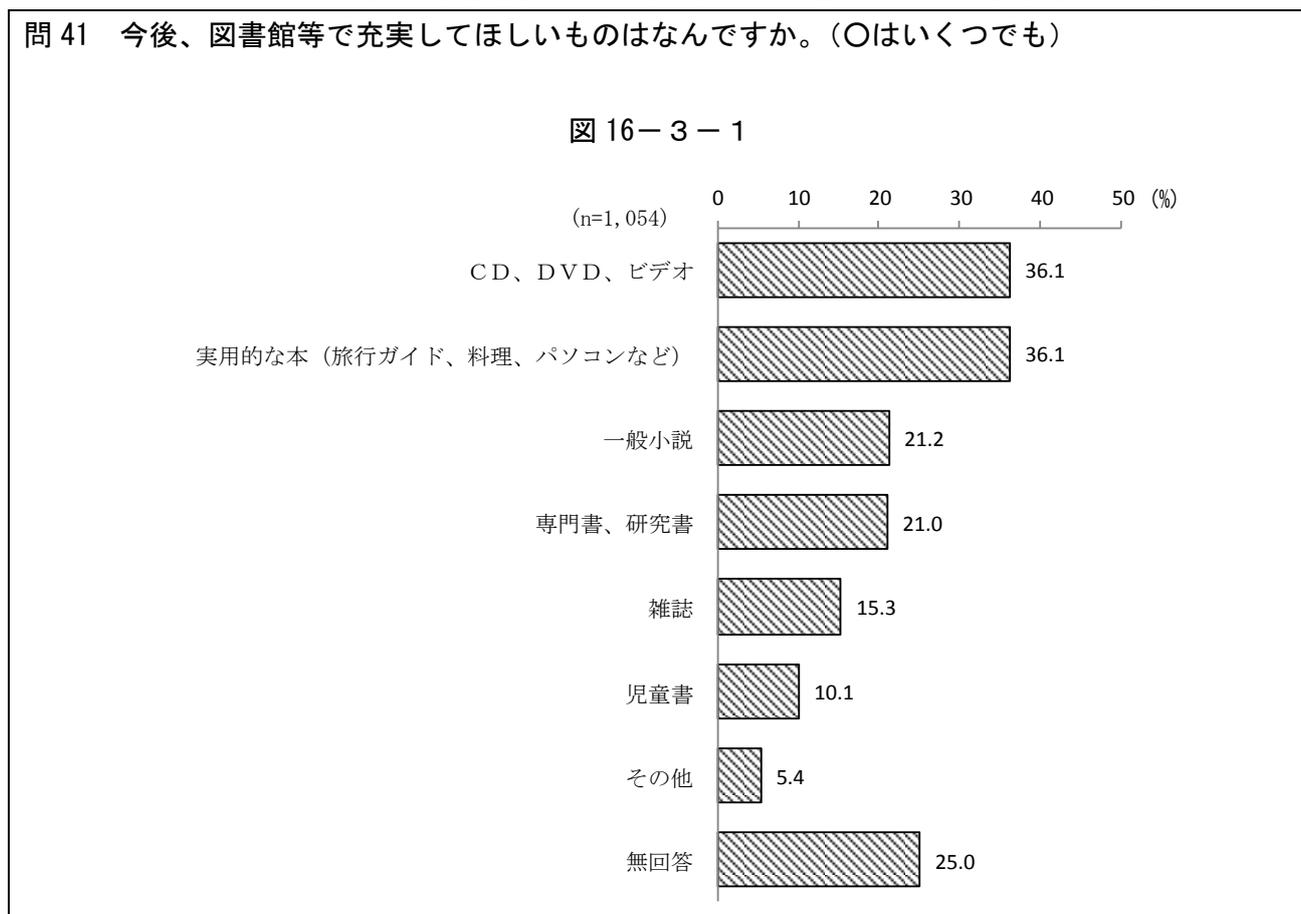
(図 16-2-3)



16-3 図書館等で充実してほしいもの

「CD、DVD、ビデオ」、「実用的な本（旅行ガイド、料理、パソコンなど）」が3割半ば

問 41 今後、図書館等で充実してほしいものはなんですか。（○はいくつでも）

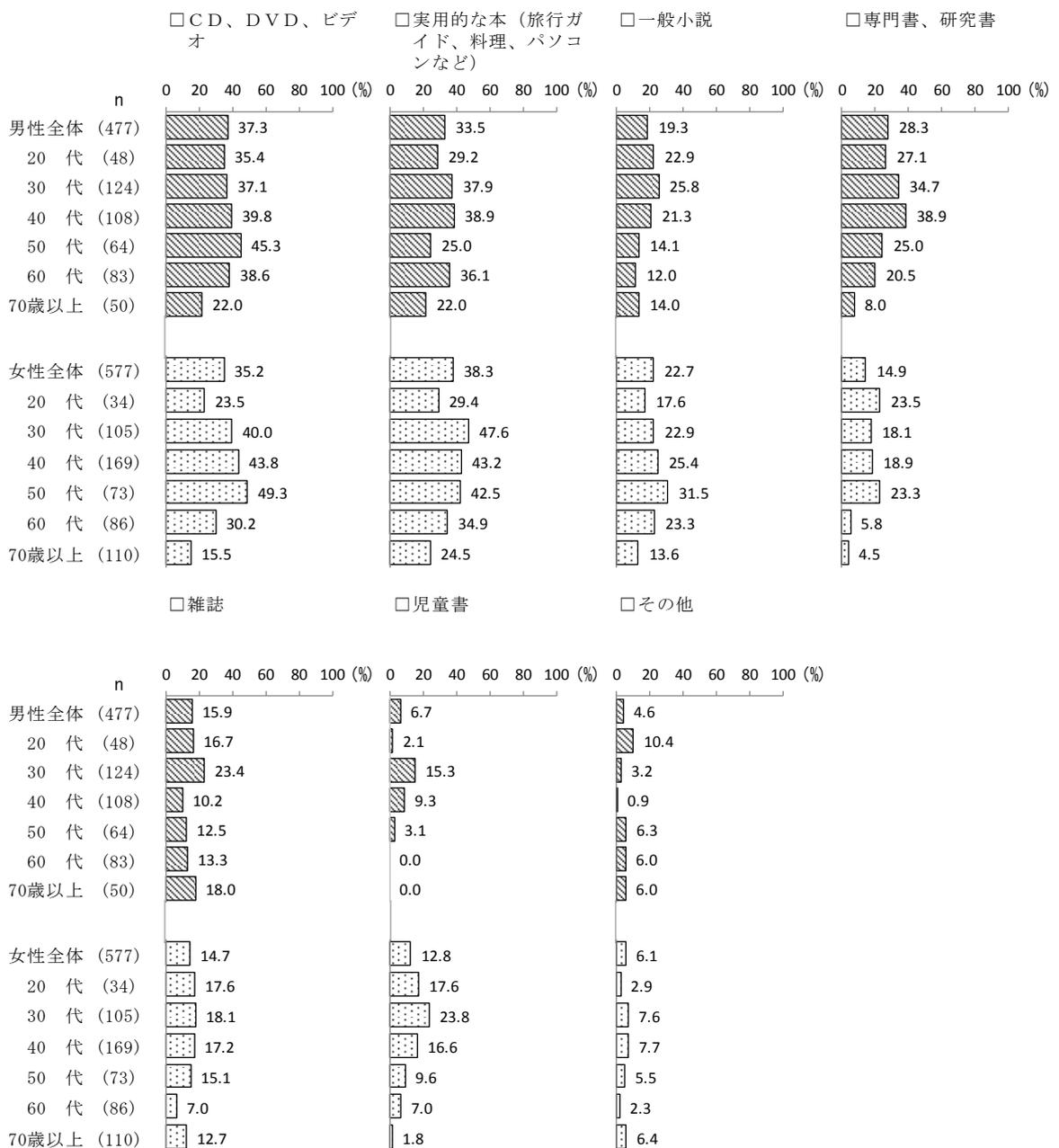


図書館で充実してほしいものは、「CD、DVD、ビデオ」（36.1%）と「実用的な本（旅行ガイド、料理、パソコンなど）」（36.1%）がともに3割半ばで最も多く、次いで「一般小説」（21.2%）、「専門書、研究書」（21.0%）、「雑誌」（15.3%）となっている。（図 16-3-1）

性別でみると、「専門書、研究書」は男性（28.3%）が女性（14.9%）より13.4ポイント高くなっている。「児童書」は女性（12.8%）が男性（6.7%）より6.1ポイント、「実用的な本（旅行ガイド、料理、パソコンなど）」は女性（38.3%）が男性（33.5%）より4.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別でみると、「CD、DVD、ビデオ」は女性50代（49.3%）でほぼ5割と最も多く、次いで男性50代（45.3%）、女性40代（43.8%）となっている。「実用的な本（旅行ガイド、料理、パソコンなど）」は女性30代（47.6%）が5割近くと最も多く、女性の30代から50代で4割台となっている。「専門書、研究書」は男性40代（38.9%）で4割近くと最も多く、男性の30代から40代で3割台となっている。（図16-3-2）

図16-3-2 図書館で充実してほしいもの—性別、性・年代別



17. 広報

広報たいとうの閲読率は 65.4%、区ホームページの閲覧率は 44.7%という結果であり、ともに減少傾向にあるという結果になりました。両媒体は、区政情報を提供する主要な媒体であり、さらなる閲読率及び閲覧率の向上が必要であると考えています。

広報たいとうについては、手に取っていただける広報紙をめざし、1面をはじめとした紙面に写真やイラストを活用した特集ページを組み、より一層魅力的な広報たいとうの発行に努めてまいります。

区ホームページについては、検索性の向上、災害対策情報の効果的な発信、ツイッターとの連携、そして、多言語対応の強化を柱とする機能強化を 12 月に実施しました。

区が発信する広報媒体には、他にもツイッター、チラシ、ポスターなど様々なものがあります。また、各媒体は、閲覧者層や情報の普及の範囲、提供の迅速性などの特性がそれぞれ異なります。そのため、各媒体の特性を生かした情報発信を行うとともに、各媒体間の連携を進め、より一層効果的かつ効果的な広報を行ってまいります。

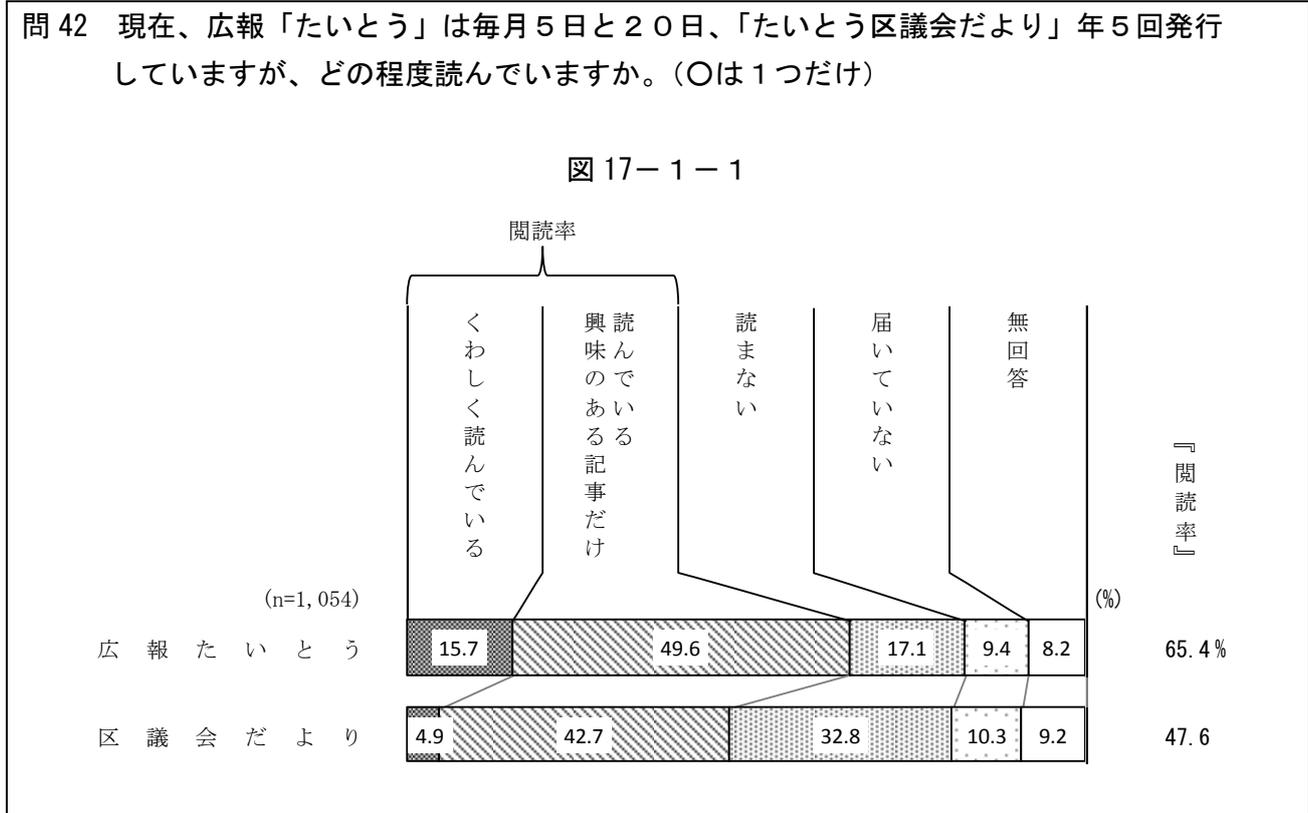
また、区議会では区議会の活動状況を広く知っていただき、関心を持っていただけるよう、たいとう区議会だよりをはじめ、様々な広報媒体を活用し、情報を発信しています。

今回の調査結果を踏まえ、区議会の情報をわかりやすく、より多くの方に情報をお届けできるよう進めてまいります。

(総務部 広報課 区議会事務局)

17-1 「広報たいとう」、「たいとう区議会だより」の閲読状況

『閲読率』は「広報たいとう」が6割半ば、「区議会だより」が5割近く



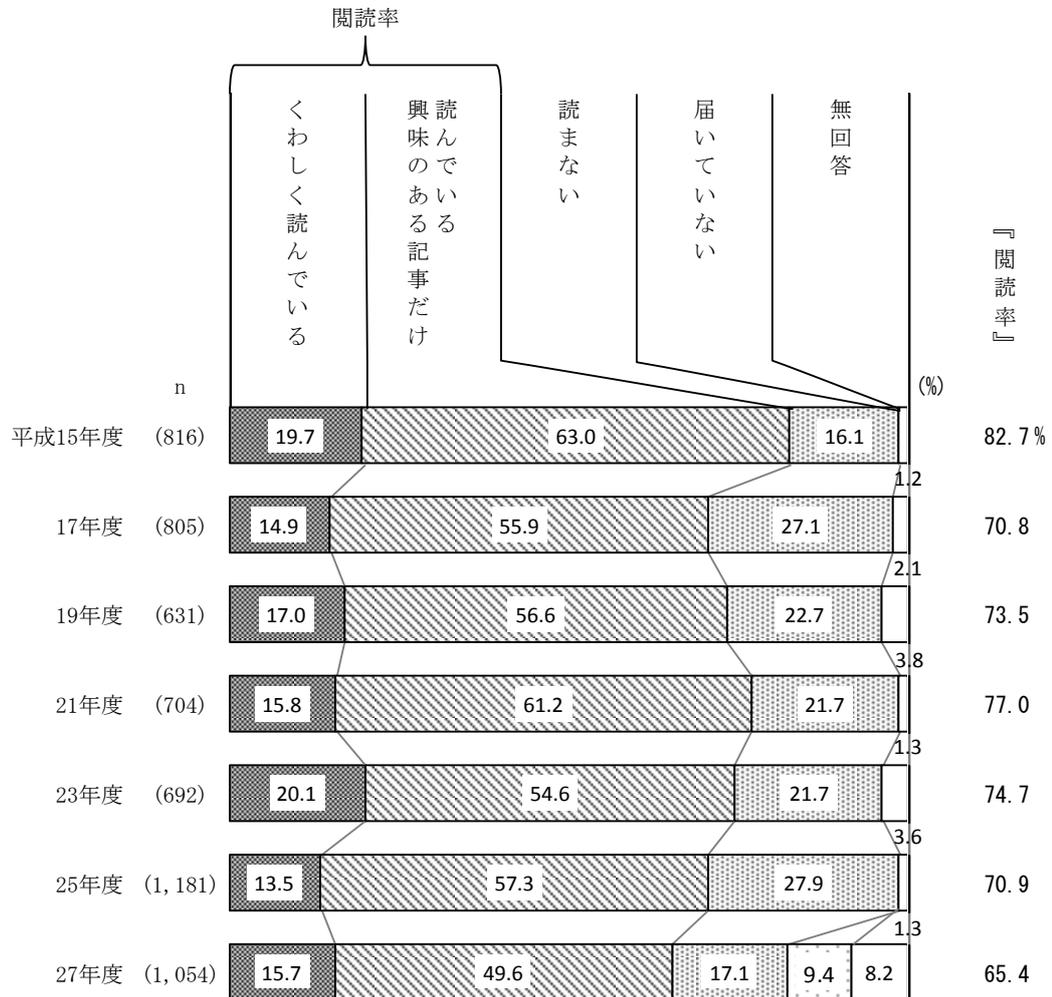
「広報たいとう」の閲読状況は、「興味のある記事だけ読んでいる」(49.6%)が5割と最も多く、「くわしく読んでいる」(15.7%)と合わせた『閲読率』(65.4%)が6割半ばとなっている。一方、「読まない」(17.1%)が2割近くとなっている。「区議会だより」の閲読状況は、「興味のある記事だけ読んでいる」(42.7%)が4割を超え最も多く、「くわしく読んでいる」(4.9%)と合わせた『閲読率』(47.6%)が5割近くとなっている。一方、「読まない」(32.8%)が3割を超えている。

(図 17-1-1)

【「広報たいとう」】

推移をみると、『閲読率』は比較的減少傾向となっている。「興味のある記事だけ読んでいる」は今回調査（49.6%）では前回調査（57.3%）から7.7ポイント低くなっている。（図17-1-2）

図17-1-2 「広報たいとう」の閲読状況—推移

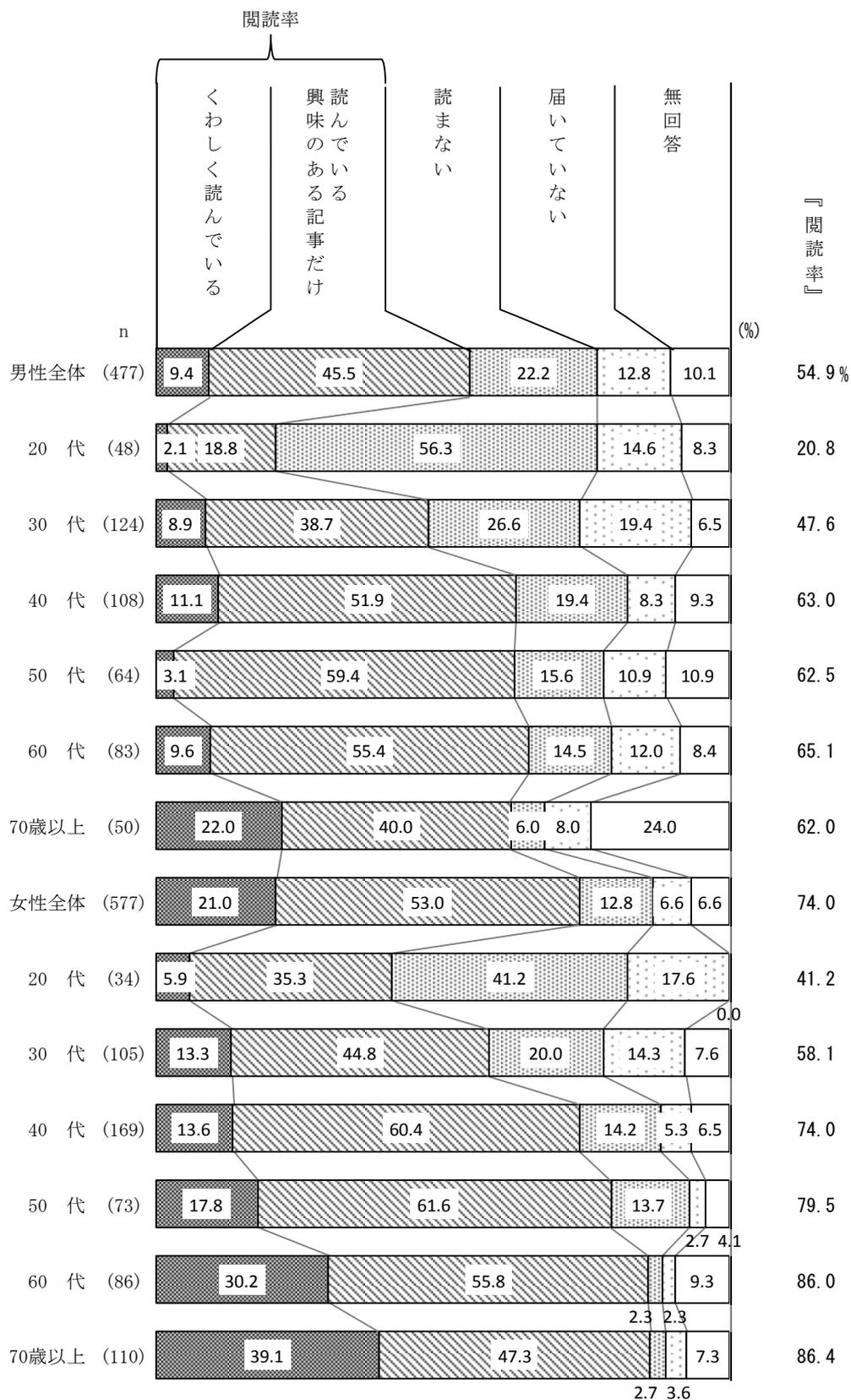


※「届いていない」は今回調査で新たに追加した項目である。

性別でみると、『閲読率』は女性（74.0%）が男性（54.9%）より 19.1 ポイント高くなっている。

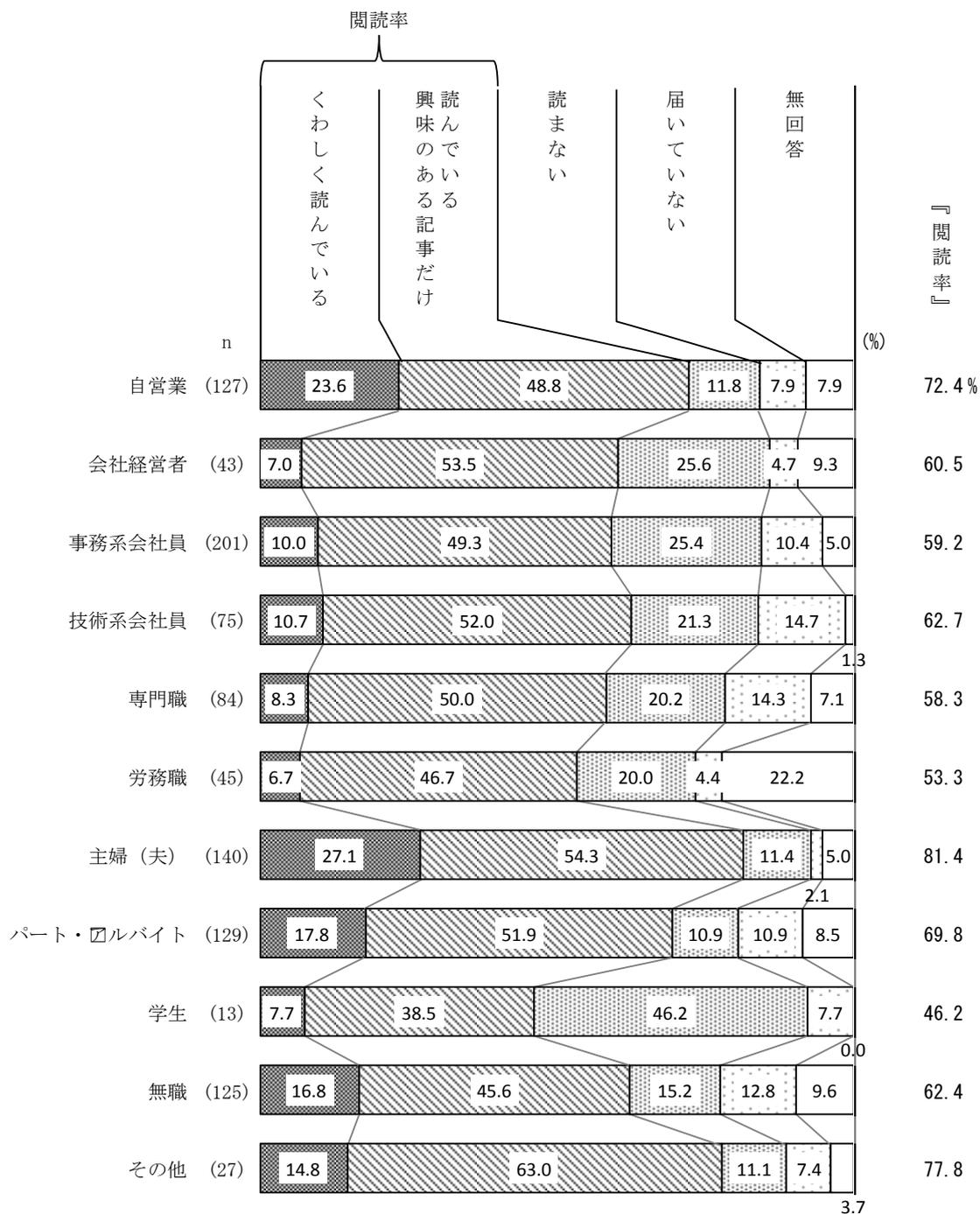
性・年代別でみると、「くわしく読んでいる」は女性 70 歳以上（39.1%）でほぼ 4 割と最も多く、次いで女性 60 代（30.2%）となっている。また、女性は年齢が高くなるほど多くなっている。「読まない」は男性 20 代（56.3%）で 5 割半ばと最も多くなっている。（図 17-1-3）

図 17-1-3 「広報たいとう」の閲読状況—性別、性・年代別



職業別でみると、『閲読率』は主婦(夫) (81.4%)で8割を超え最も多く、次いでその他(77.8%)、自営業(72.4%)となっている。「読まない」は学生(46.2%)で4割半ばと最も多く、次いで会社経営者(25.6%)、事務系会社員(25.4%)となっている。(図17-1-4)

図17-1-4 「広報たいとう」の閲読状況—職業別

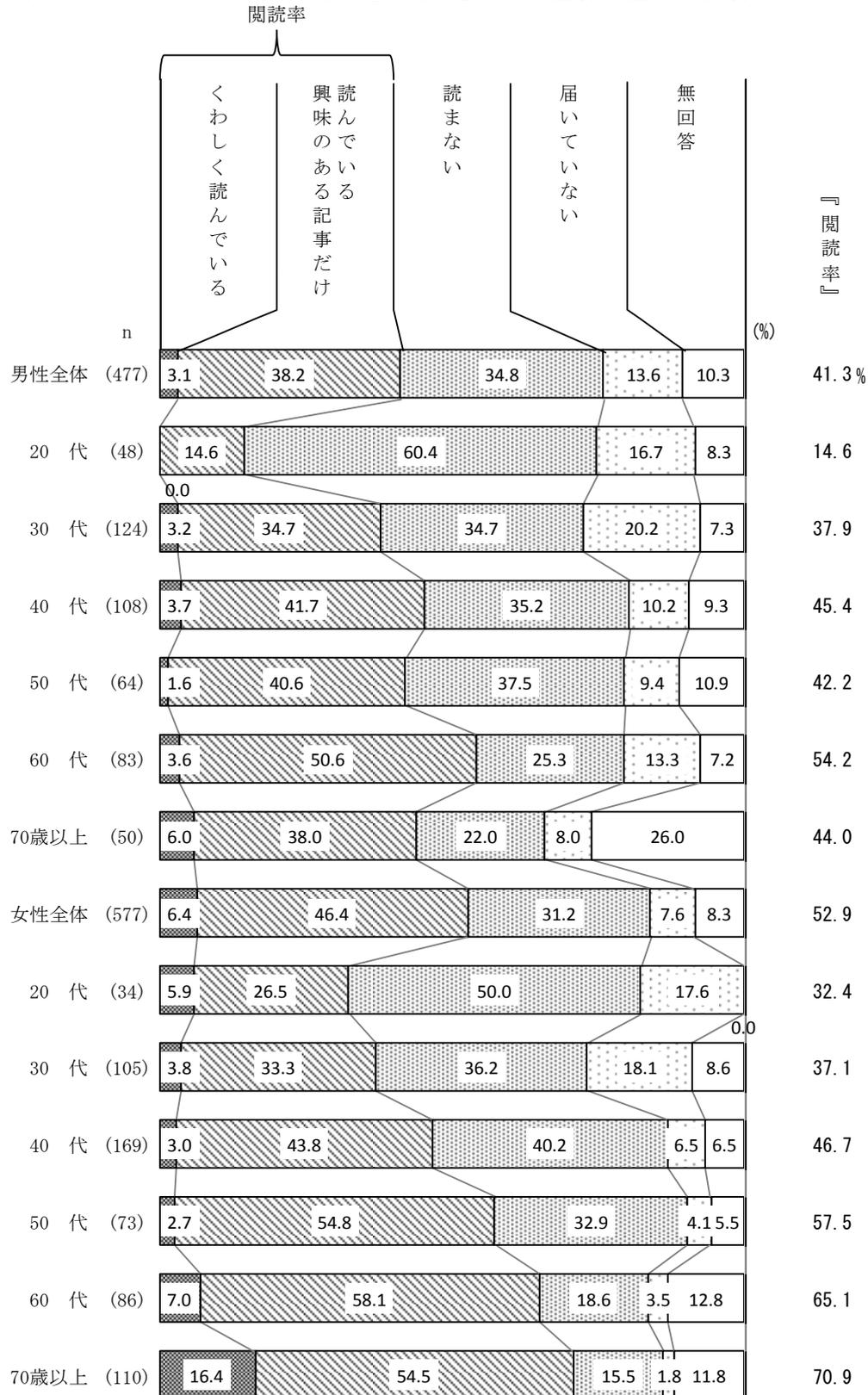


【「区議会だより」】

性別でみると、『閲読率』は女性（52.9%）が男性（41.3%）より11.6ポイント高くなっている。

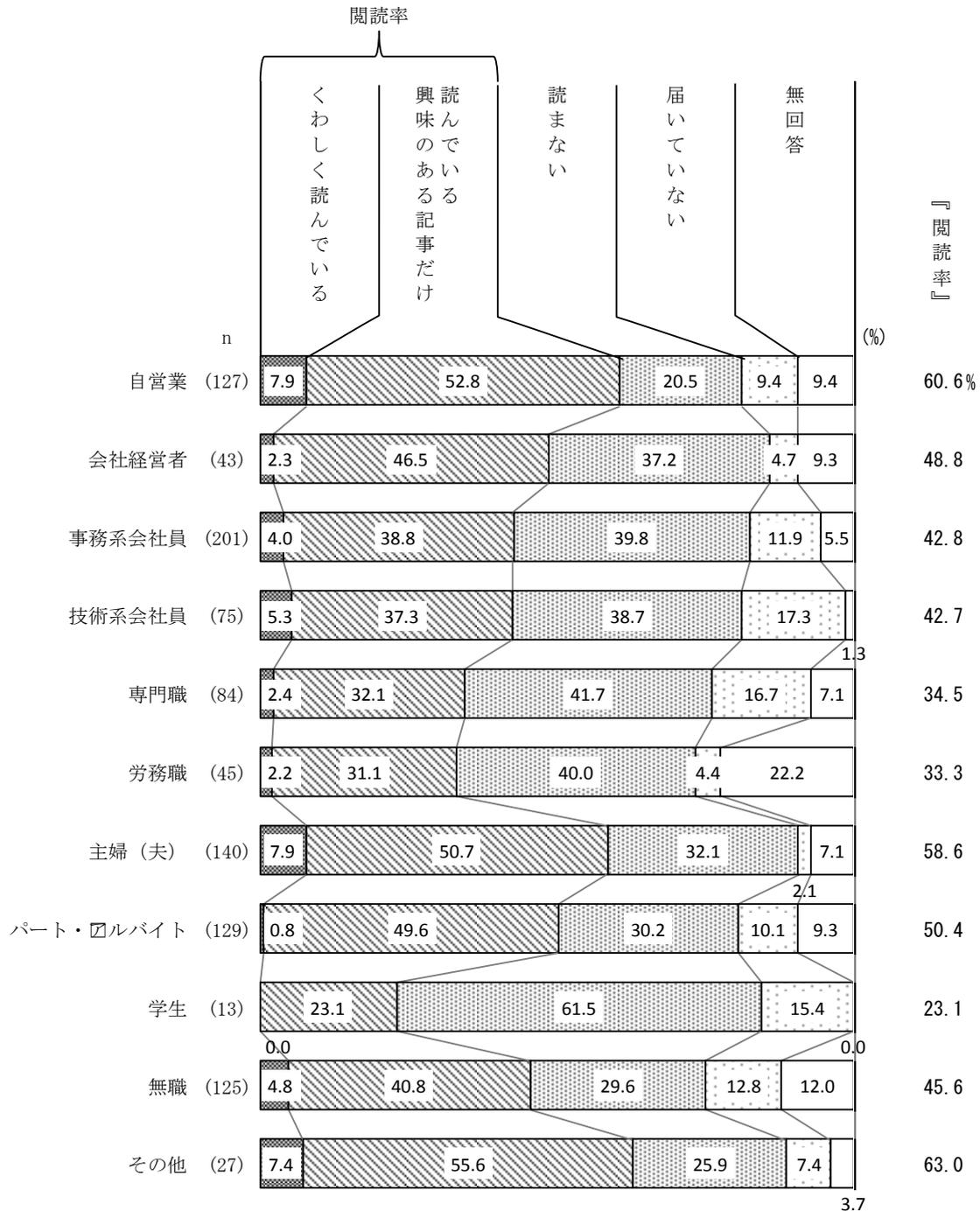
性・年代別でみると、『閲読率』は女性70歳以上（70.9%）がほぼ7割と最も多く、次いで女性60代（65.1%）となっている。また、女性は年齢が高くなるほど多くなっている。「読まない」は男性20代（60.4%）で6割と最も多くなっている。（図17-1-5）

図17-1-5 「区議会だより」の閲読状況—性別、性・年代別



職業別でみると、『閲読率』はその他（63.0%）で6割を超え最も多く、次いで自営業（60.6%）、主婦（夫）（58.6%）となっている。「読まない」は学生（61.5%）で6割を超え最も多く、次いで専門職（41.7%）、労務職（40.0%）となっている。（図17-1-6）

図17-1-6 「区議会だより」の閲読状況—職業別

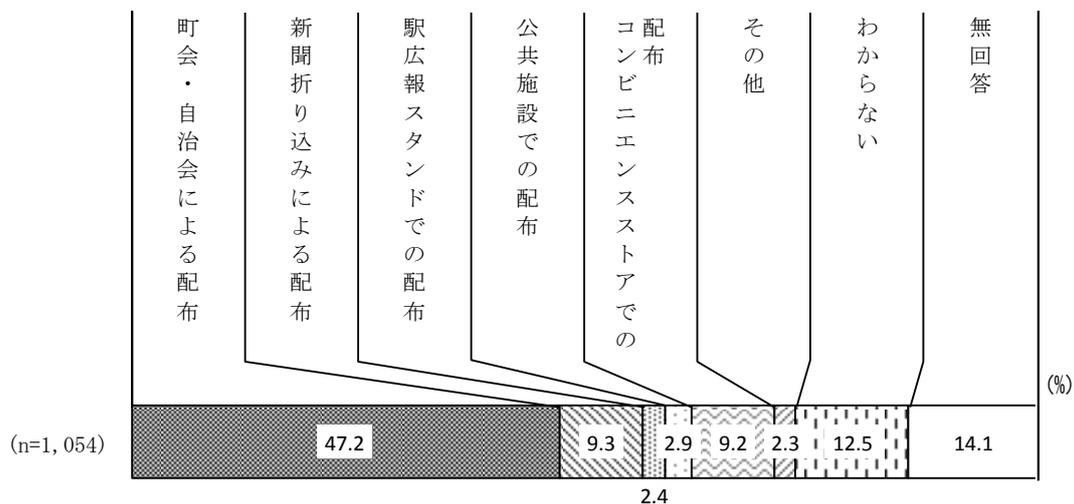


17-2 「広報たいとう」の希望する配布方法

「町会・自治会による配布」が5割近く

問 43 現在、広報「たいとう」は、町会・自治会を通じて各ご家庭に配布する方法をとっていますが、どの方法がよいと思いますか。もっとも良いと思うものを選んでください。
(○は1つだけ)

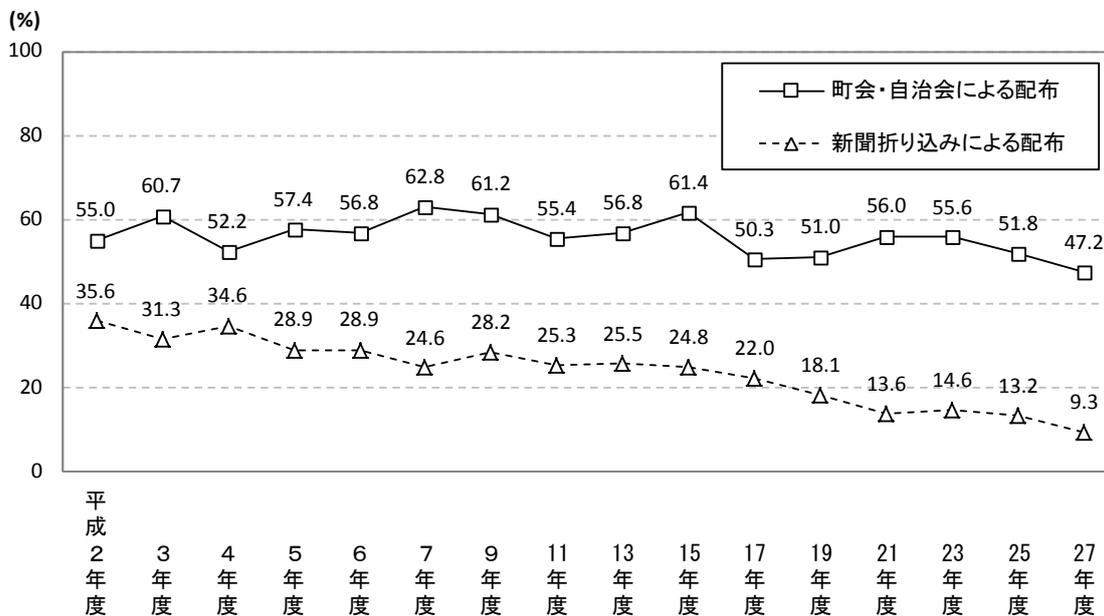
図 17-2-1



「広報たいとう」の希望する配布方法は、「町会・自治会による配布」(47.2%)が5割近くと最も多く、次いで「新聞折り込みによる配布」(9.3%)、「コンビニエンスストアでの配布」(9.2%)となっている。(図 17-2-1)

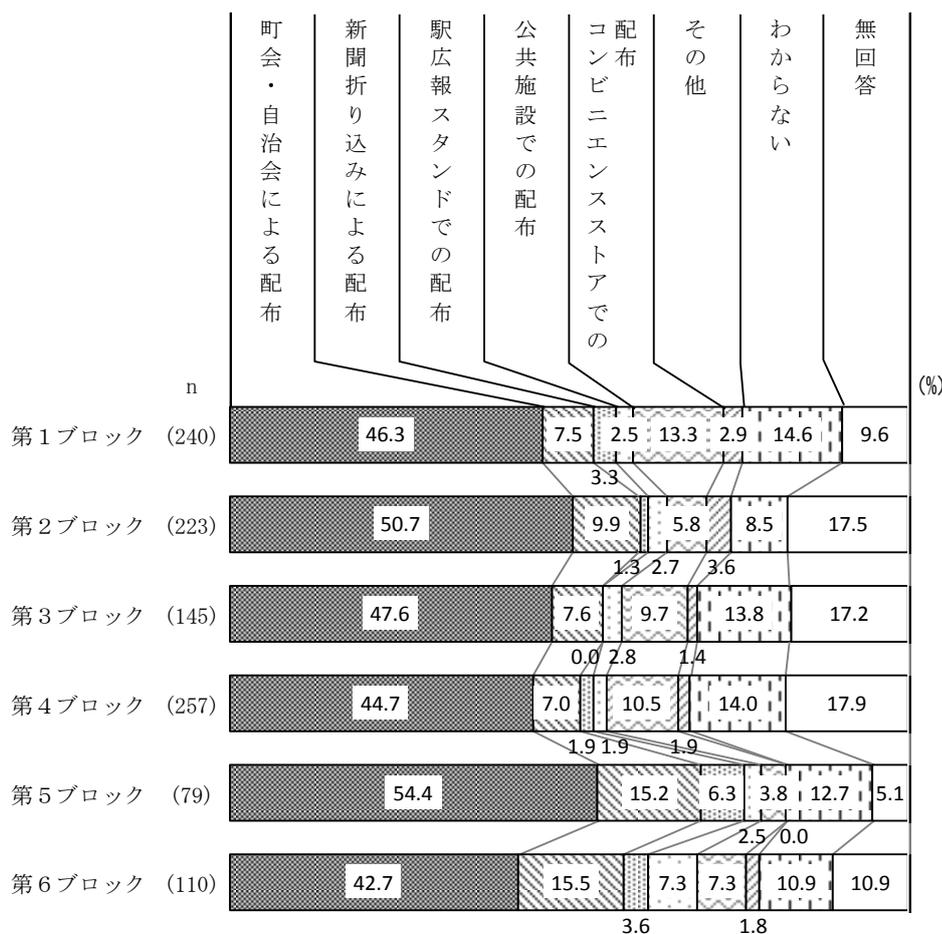
推移をみると、「新聞折り込みによる配布」は減少傾向であり、平成19年度以降、1割台以下となっている。「町会・自治会による配布」は今回調査（47.2%）では前回調査（51.8%）より4.6ポイント低くなっている。「新聞折り込みによる配布」は今回調査（9.3%）では前回調査（13.2%）より3.9ポイント低くなっている。（図17-2-2）

図17-2-2 「広報たいとう」の希望する配布方法－推移



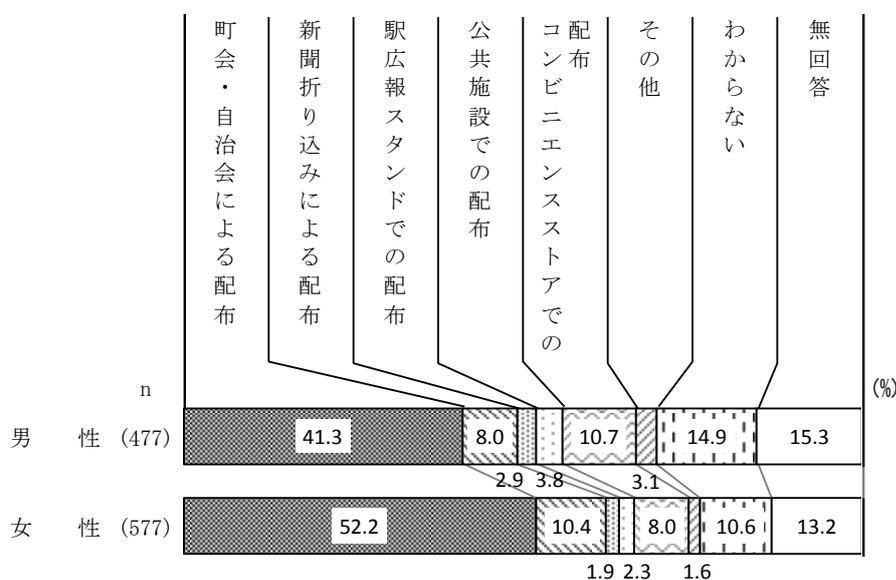
地区別でみると、「町会・自治会による配布」は第5ブロック（54.4%）で5割半ばと最も多くなっている。「新聞折り込みによる配布」は第6ブロック（15.5%）で1割半ばと最も多くなっている。（図17-2-3）

図 17-2-3 「広報たいとう」の希望する配布方法—地区別



性別でみると、「町会・自治会による配布」は女性（52.2%）が男性（41.3%）より10.9ポイント高くなっている。「新聞折り込みによる配布」は女性（10.4%）が男性（8.0%）より2.4ポイント高くなっている。（図 17-1-4）

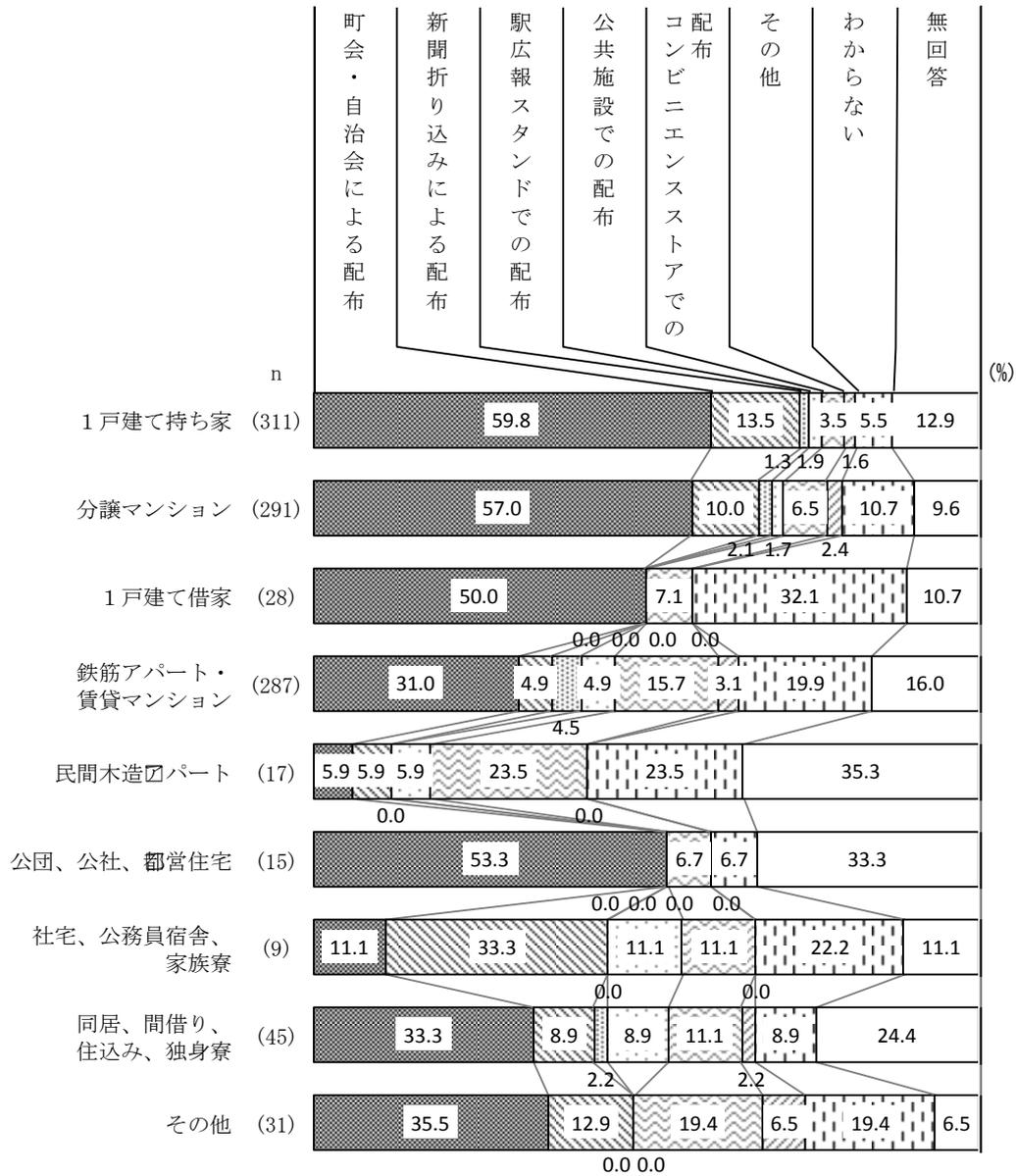
図 17-2-4 「広報たいとう」の希望する配布方法—性別



住居形態別でみると、「町会・自治会による配布」は1戸建て持ち家（59.8%）で6割と最も多く、次いで分譲マンション（57.0%）、公団、公社、都営住宅（53.3%）となっている。「新聞折り込みによる配布」は社宅、公務員宿舎、家族寮（33.3%）で3割を超え最も多くなっている。「コンビニエンスストアでの配布」は民間木造アパート（23.5%）で2割を超え最も多くなっている。

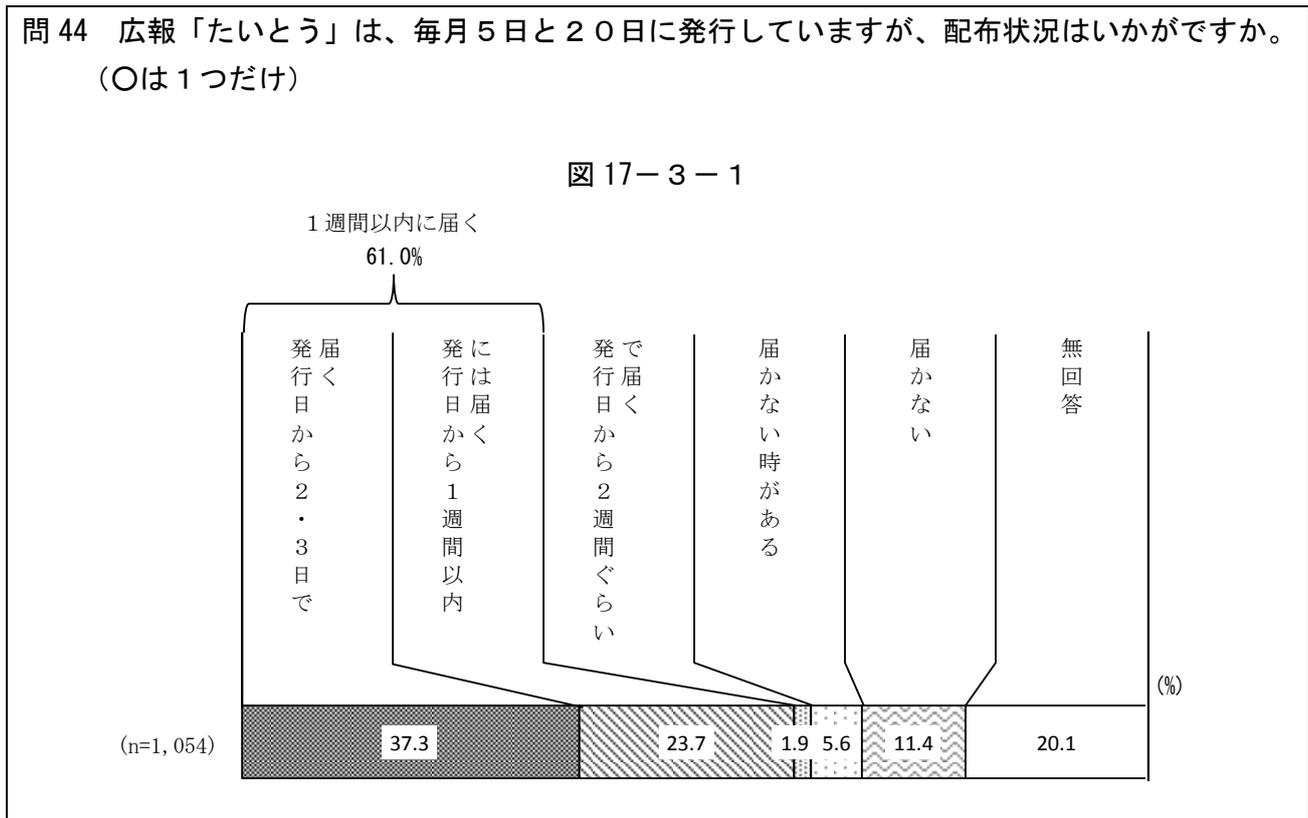
(図 17-2-5)

図 17-2-5 「広報たいとう」の希望する配布方法—住居形態別



17-3 「広報たいとう」の配布状況

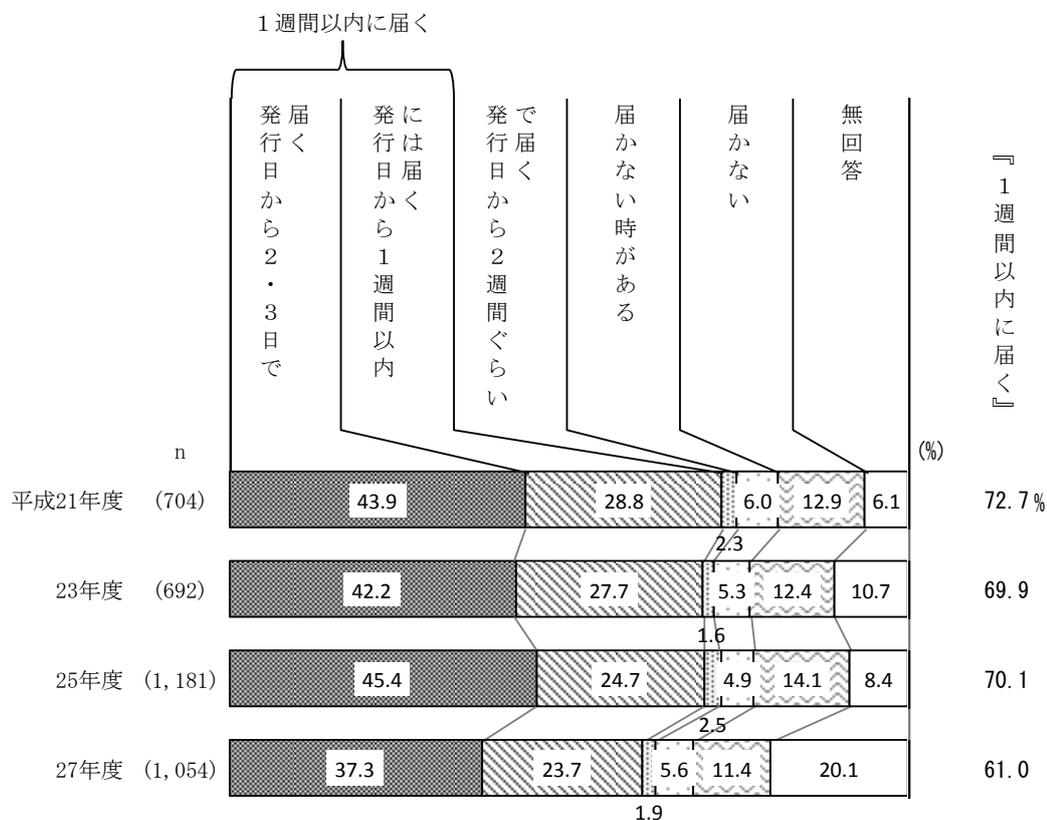
『1週間以内に届く』が6割を超える



「広報たいとう」の配布状況は、「発行日から2・3日で届く」(37.3%)が4割近くで最も多く、「発行日から1週間以内には届く」(23.7%)を合わせた『1週間以内に届く』(61.0%)が6割を超えている。(図 17-3-1)

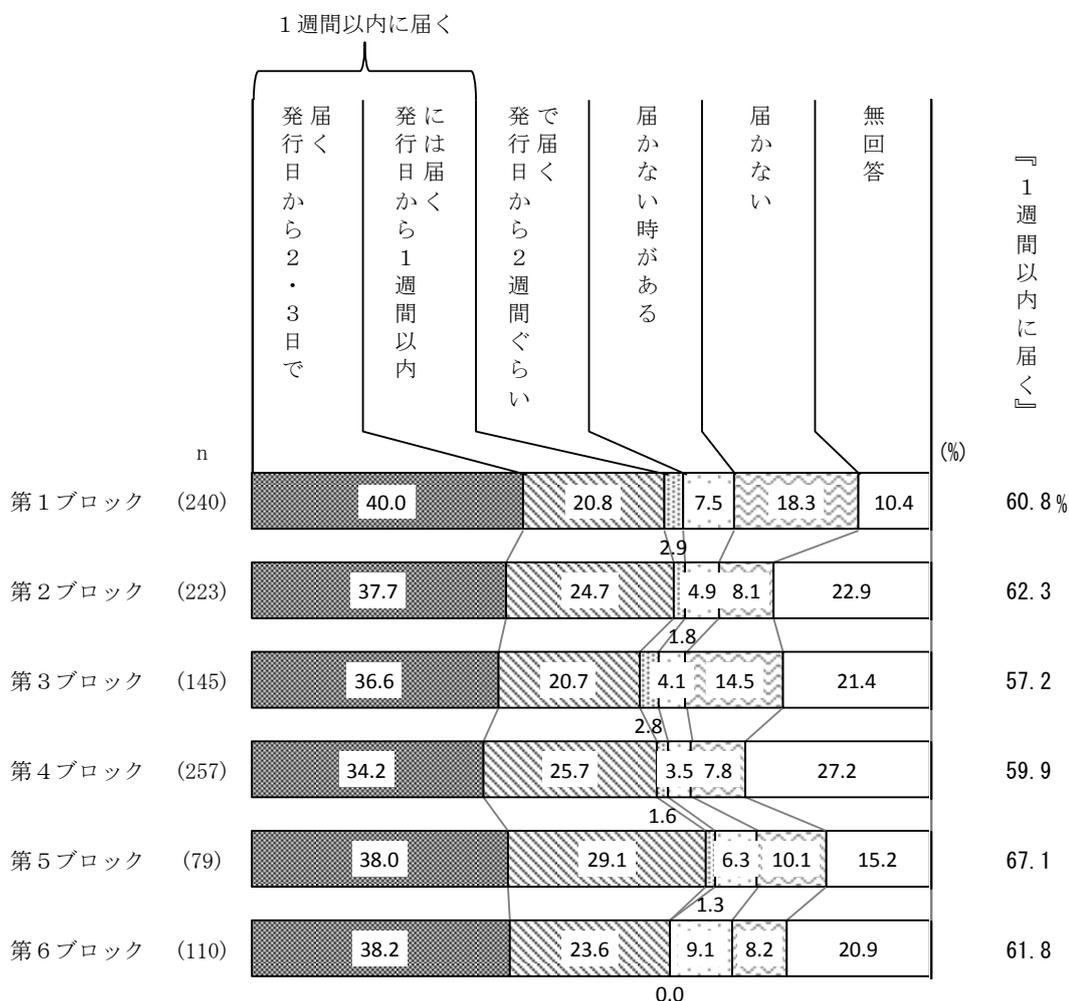
「広報たいとう」の配布状況の推移をみると、『1週間以内に届く』は減少傾向となっている。今回調査（61.0%）では前回調査（70.1%）より9.1ポイント低くなっている。今回調査では前回調査より「届かない時がある」を除きすべての項目で低くなっている。（図17-3-2）

図17-3-2 「広報たいとう」の配布状況—推移



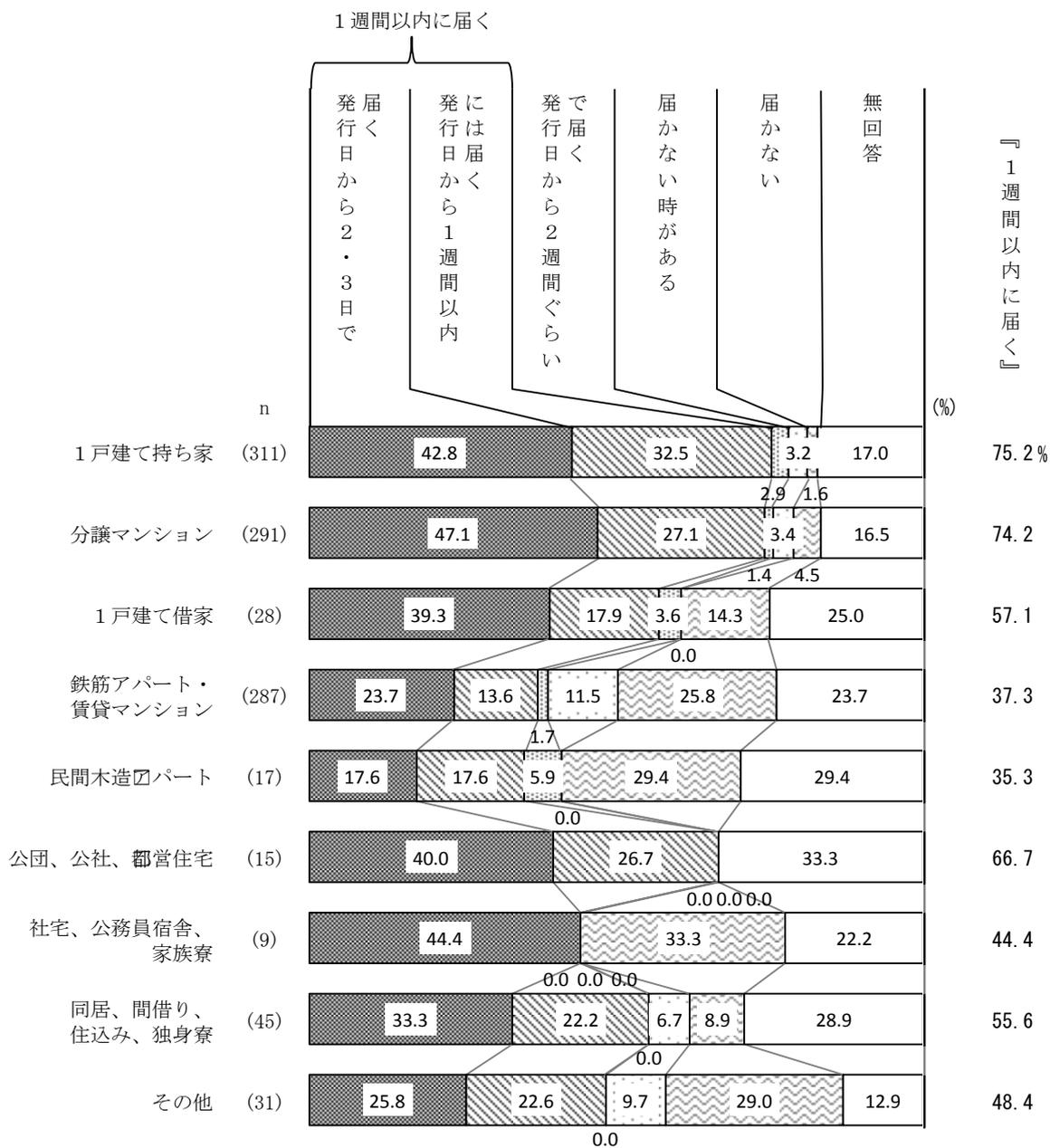
地区別でみると、『1週間以内に届く』は第5ブロック（67.1%）で7割近くと最も多く、最も少ない第3ブロック（57.2%）でも6割近くとなっている。（図17-3-3）

図17-3-3 「広報たいとう」の配布状況—地区別



住居形態別にみると、『1週間以内に届く』は1戸建て持ち家(75.2%)で7割半ばと最も多く、次いで分譲マンション(74.2%)、公団、公社、都営住宅(66.7%)となっている。一方、「届かない」は社宅、公務員宿舎、家族寮(33.3%)で3割を超え最も多く、次いで民間木造アパート(29.4%)、その他(29.0%)となっている。(図17-3-4)

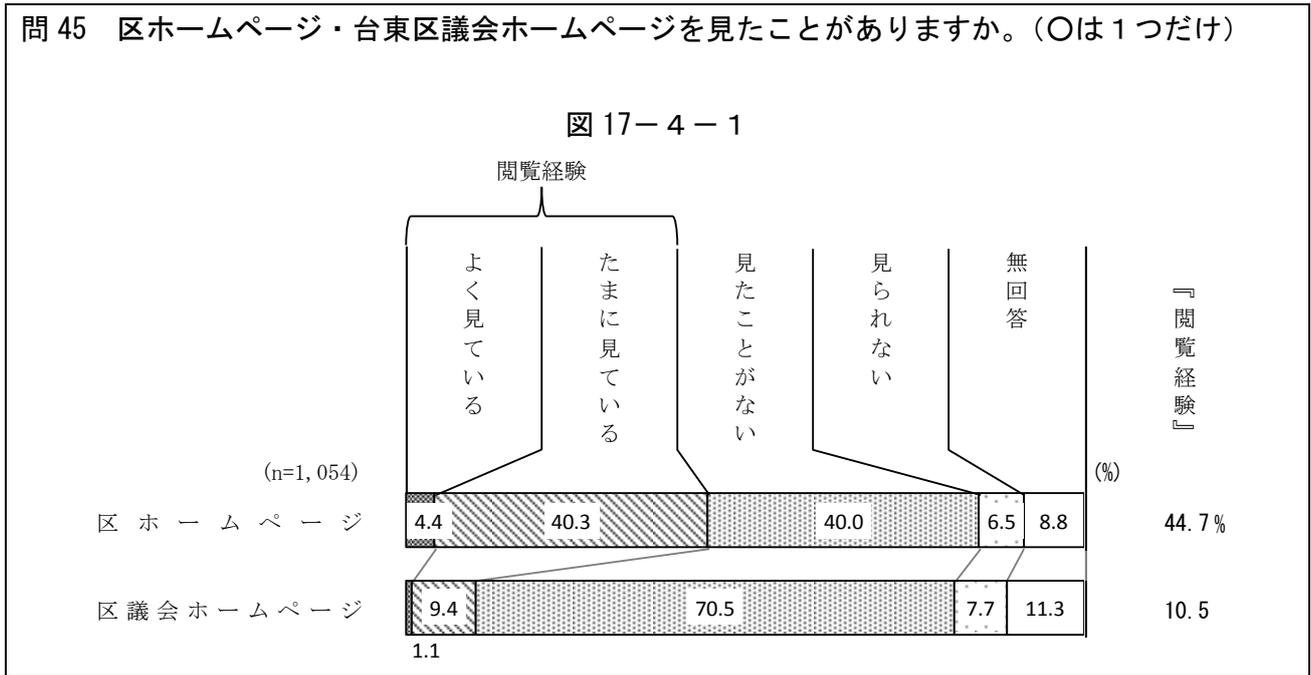
図17-3-4 「広報たいとう」の配布状況—住居形態別



17-4 「区ホームページ」、「区議会ホームページ」の閲覧状況

『閲覧経験』は「区ホームページ」が4割半ば、「区議会ホームページ」がほぼ1割

問 45 区ホームページ・台東区議会ホームページを見たことがありますか。(○は1つだけ)

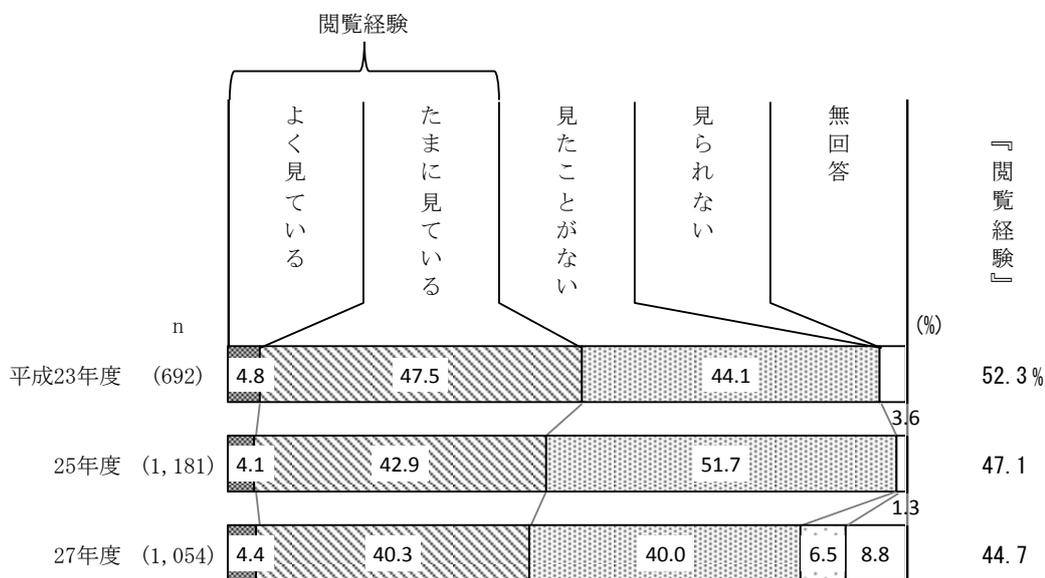


「区ホームページ」の閲覧状況は、「たまに見ている」(40.3%)が4割と最も多く、「よく見ている」(4.4%)と合わせた『閲覧経験』(44.7%)が4割半ばとなっている。一方、「見たことがない」(40.0%)が4割となっている。「区議会ホームページ」の閲覧状況は、「たまに見ている」(9.4%)が1割未満で、「よく見ている」(1.1%)と合わせた、『閲覧経験』(10.5%)がほぼ1割となっている。一方、「見たことがない」(70.5%)がほぼ7割となっている。(図 17-4-1)

【「区ホームページ」】

推移をみると、『閲覧経験』は減少傾向となっている。今回調査（44.7%）では前回調査（47.1%）より2.4ポイント低くなっている。「見たことがない」は今回調査（40.0%）では前回調査（51.7%）より11.7ポイント低くなっている。（図17-4-2）

図17-4-2 「区ホームページ」の閲覧状況—推移

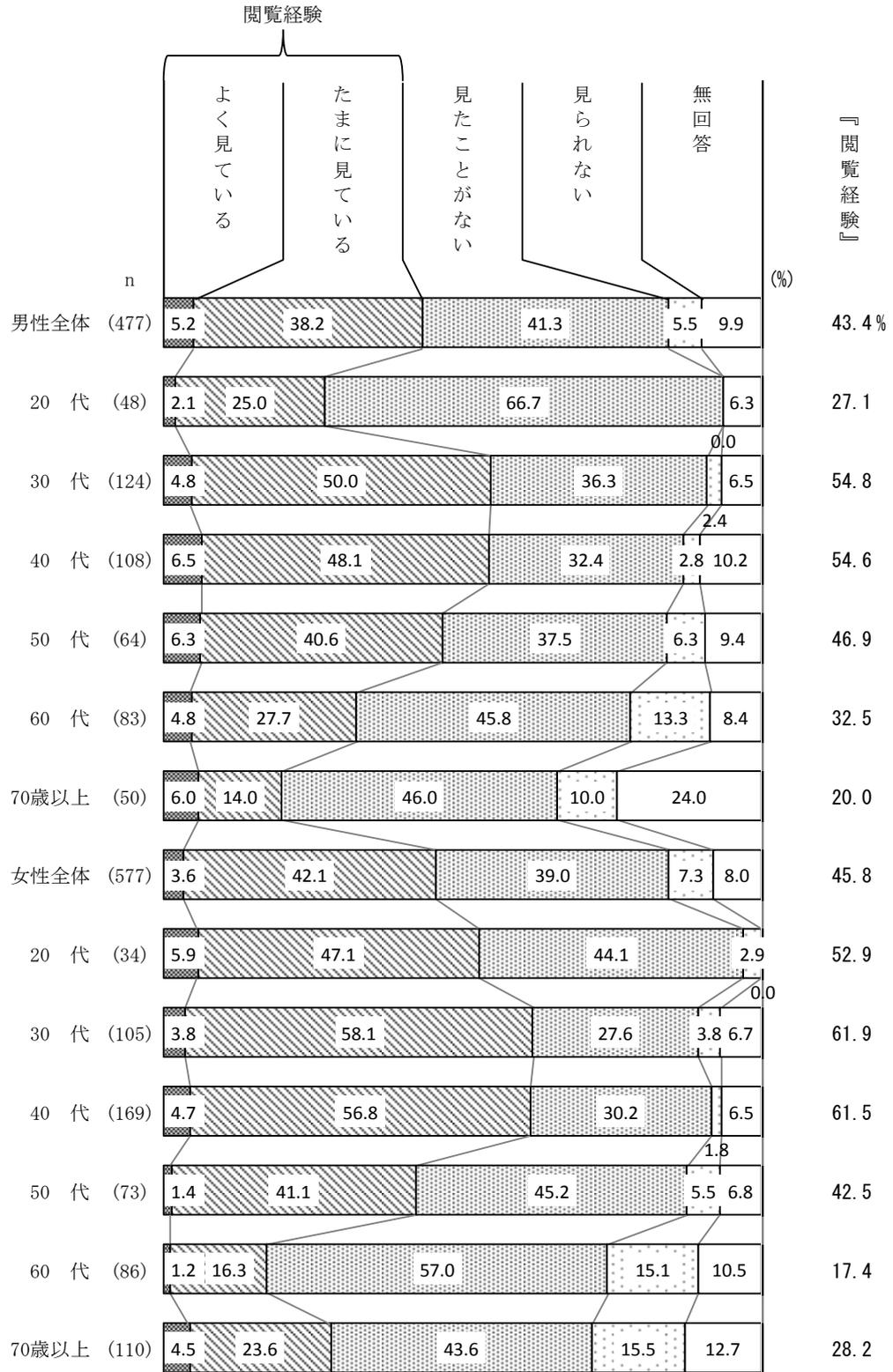


※「見られない」は今回調査で新たに加えた項目である。

性別でみると、『閲覧経験』は女性（45.8%）が男性（43.4%）より2.4ポイント高くなっている。「見たことがない」は男性（41.3%）が女性（39.0%）より2.3ポイント高くなっている。

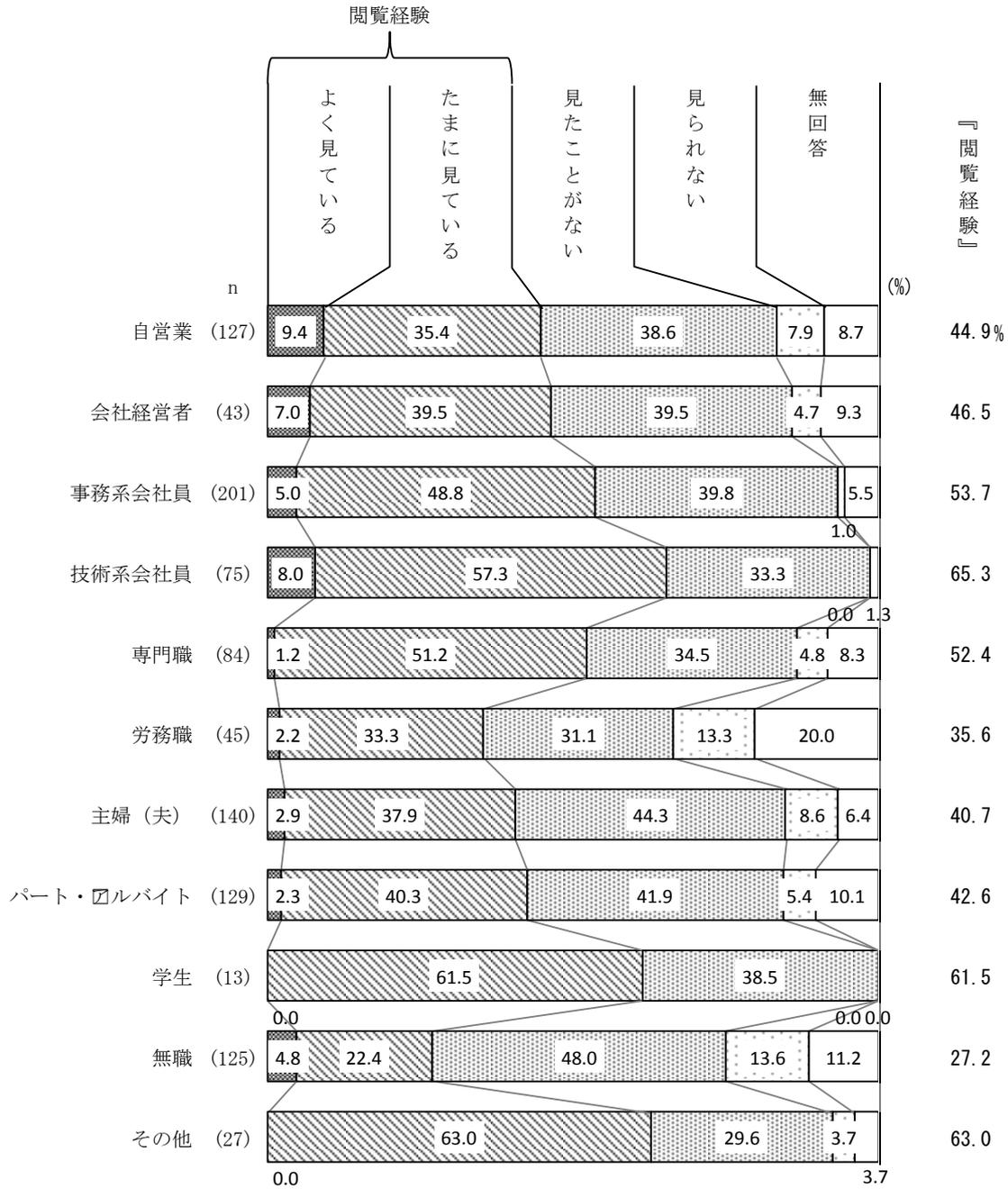
性・年代別でみると、『閲覧経験』は女性30代（61.9%）で6割を超え最も多く、次いで女性40代（61.5%）、男性30代（54.8%）となっている。一方、「見たことがない」は男性20代（66.7%）で7割近くと最も多く、「見られない」は女性60歳以上で1割半ばとなっている。（図17-4-3）

図 17-4-3 「区ホームページ」の閲覧状況—性別、性・年代別



職業別でみると、『閲覧経験』は技術系会社員（65.3%）で6割半ばと最も多く、次いでその他（63.0%）、学生（61.5%）となっている。一方、「見たことがない」は無職（48.0%）で5割近くと最も多く、「見られない」も無職（13.6%）で1割を超え最も多くなっている。（図17-4-4）

図17-4-4 「区ホームページ」の閲覧状況-職業別

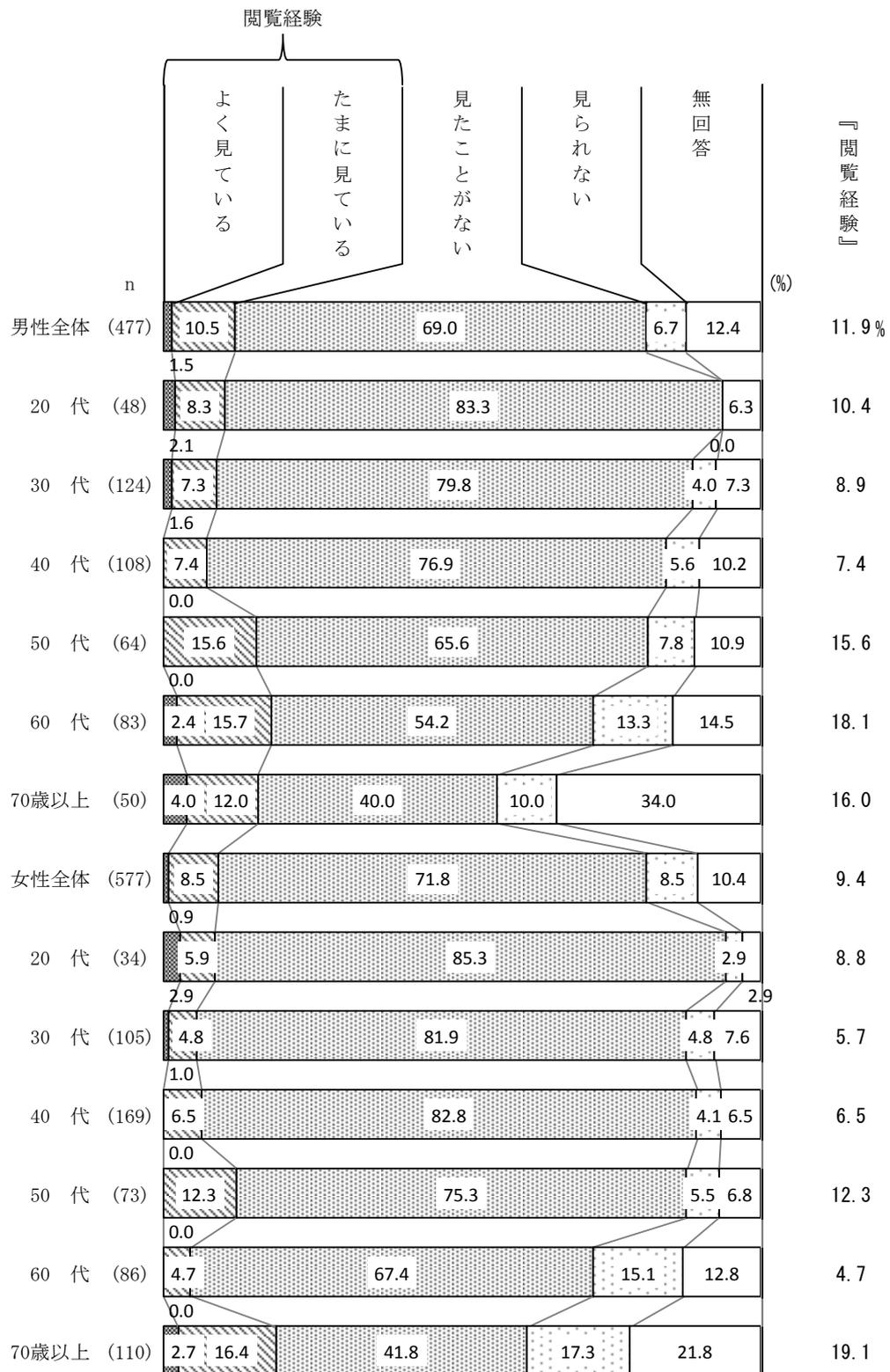


【「区議会ホームページ」】

性別でみると、『閲覧経験』は男性（11.9%）が女性（9.4%）より2.5ポイント高くなっている。一方、「見たことがない」は女性（71.8%）が男性（69.0%）より2.8ポイント高くなっている。

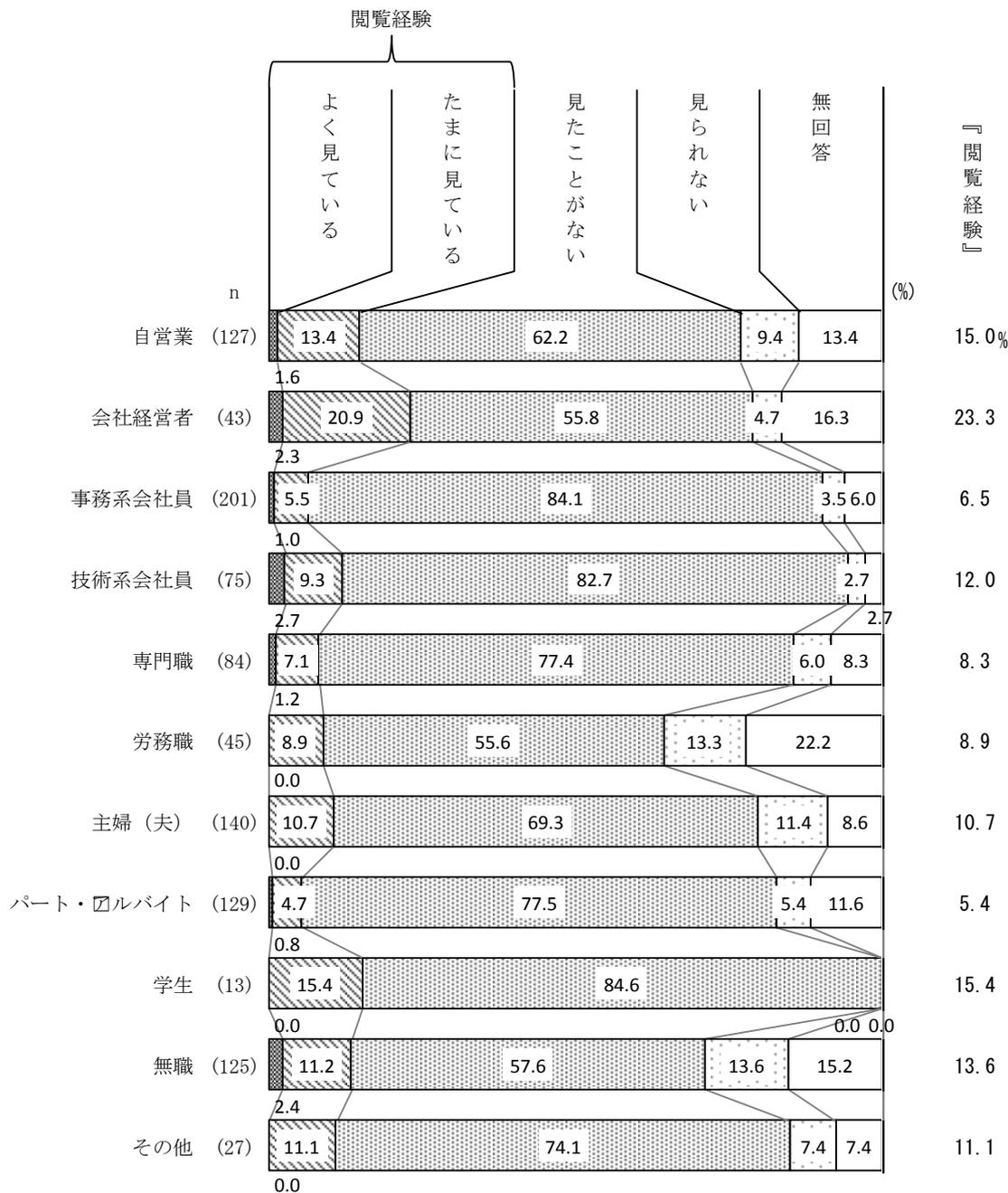
性・年代別でみると、『閲覧経験』は女性70歳以上（19.1%）でほぼ2割と最も多く、次いで男性60代（18.1%）となっている。一方、「見たことがない」は女性20代（85.3%）で8割半ばと最も多くなっている。また、男性は年齢が低くなるほど多くなっている。（図17-4-5）

図17-4-5 「区議会ホームページ」の閲覧状況－性別、性・年代別



職業別でみると、『閲覧経験』は会社経営者(23.3%)で2割を超え最も多く、次いで学生(15.4%)、自営業(15.0%)となっている。一方、「見たことがない」は学生(84.6%)で8割半ばと最も多く、「見られない」は無職(13.6%)で1割を超え最も多くなっている。(図17-4-6)

図17-4-6 「区議会ホームページ」の閲覧状況-職業別



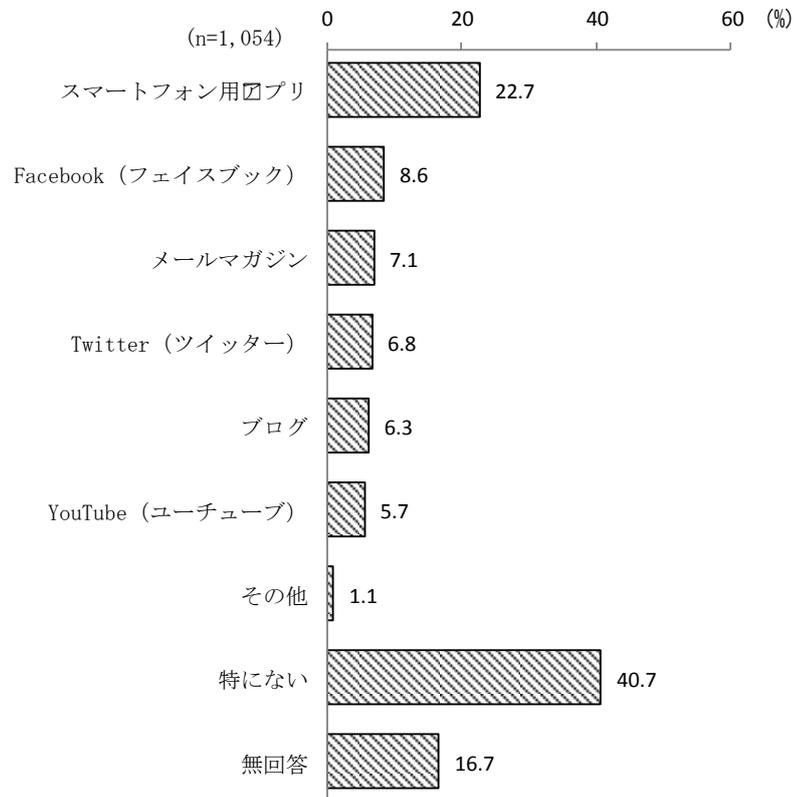
17-5 区の情報を得るために利用してみたい方法

「スマートフォン用アプリ」が2割を超える

問 46 次のうち、区の情報を得る上で利用してみたいと思うものはありますか。

(○はいくつでも)

図 17-5-1

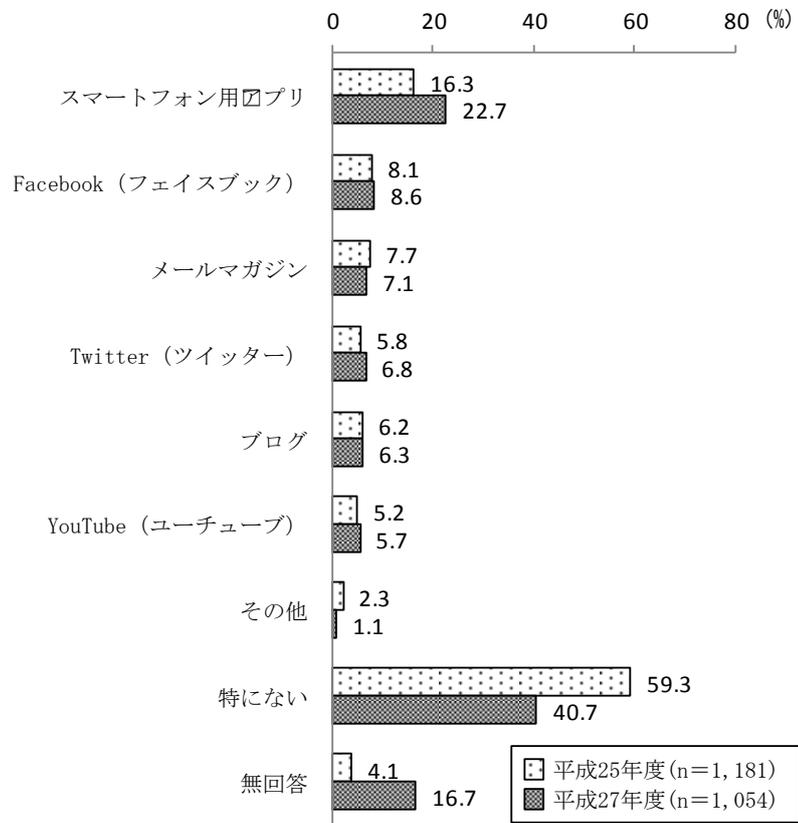


区の情報を得るために利用してみたい方法は、「スマートフォン用アプリ」(22.7%)が2割を超え最も多く、次いで「Facebook (フェイスブック)」(8.6%)、「メールマガジン」(7.1%)、「Twitter (ツイッター)」(6.8%)となっている。一方、「特にない」(40.7%)がほぼ4割となっている。

(図 17-5-1)

推移をみると、「スマートフォン用アプリ」は今回調査（22.7%）では前回調査（16.3%）より6.4ポイント高くなっている。「特にない」は今回調査（40.7%）では前回調査（59.3%）より18.6ポイント低くなっている。（図17-5-2）

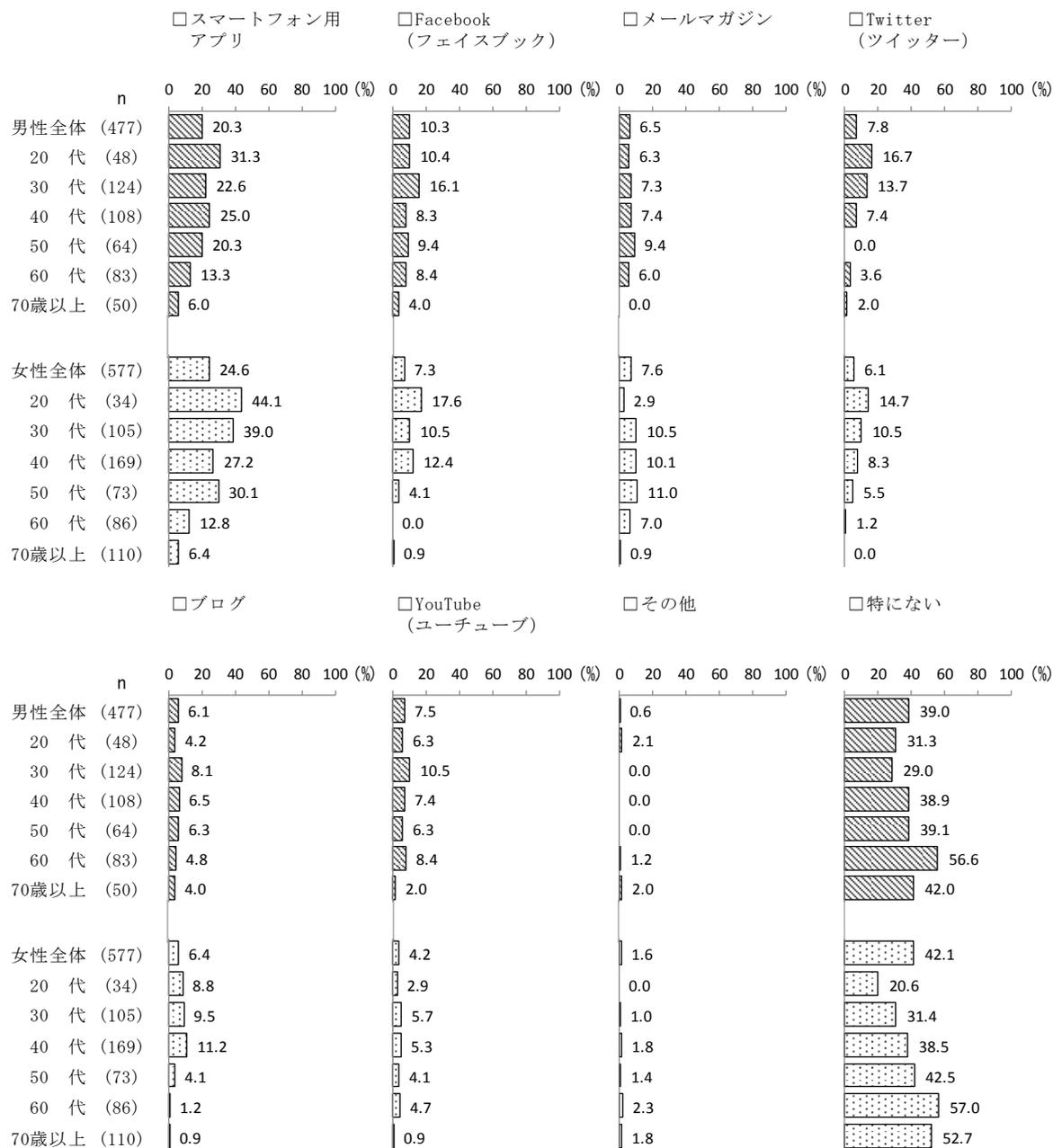
図17-5-2 区の情報を得るために利用してみたい方法－推移



性別でみると、「スマートフォン用アプリ」は女性（24.6%）が男性（20.3%）より 4.3 ポイント、「特にない」は女性（42.1%）が男性（39.0%）より 3.1 ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年代別でみると、「スマートフォン用アプリ」は女性 20 代（44.1%）で 4 割半ばと最も多く、次いで女性 30 代（39.0%）、男性 20 代（31.3%）となっている。「特にない」は女性 60 代（57.0%）で 6 割近くと最も多く、次いで男性 60 代（56.6%）、女性 70 歳以上（52.7%）となっている。ほかの 6 項目はすべて 1 割台以下となっている。（図 17-5-3）

図 17-5-3 区の情報を得るために利用してみたい方法—性別、性・年代別



18. ケーブルテレビ

ケーブルテレビによる「行政情報番組の視聴状況」についてお伺いしました。

今回の調査では、無回答が13.1%と例年より多く、『行政番組の視聴経験』が平成25年度の37.8%から3.1%減少した要因の一つになっていることがわかりました。

今後は、より多くの方にご回答いただけるような設問を心掛けてまいります。

また、『視聴状況性別年代別』では、60代・70歳以上の視聴経験が4割を超える一方で、20代男性・女性の視聴経験がそれぞれ27.1%・29.4%と全体平均を下回る結果となりました。

今回の結果を踏まえ、地域情報の発信はもとより、幅広い世代にご視聴いただけるよう、親しみや魅力ある番組づくりを進めてまいります。

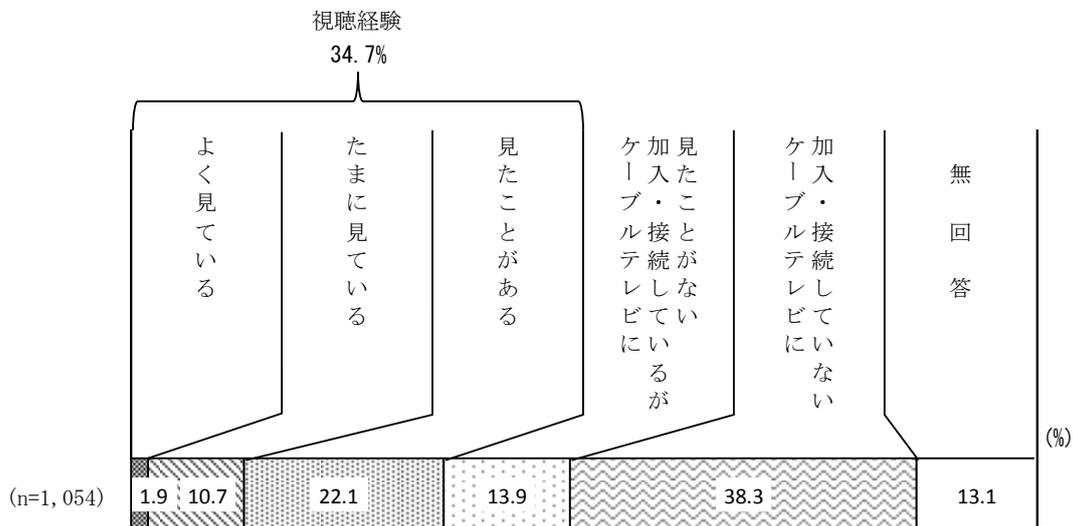
(総務部 広報課)

18-1 行政情報番組の視聴状況

『視聴経験』が3割半ば

問47 ケーブルテレビ（下町YOU-Iチャンネル）では、台東区が制作した行政情報番組を放送しています。あなたは、この番組をご自宅や職場でご覧になったことがありますか。
(○は1つだけ)

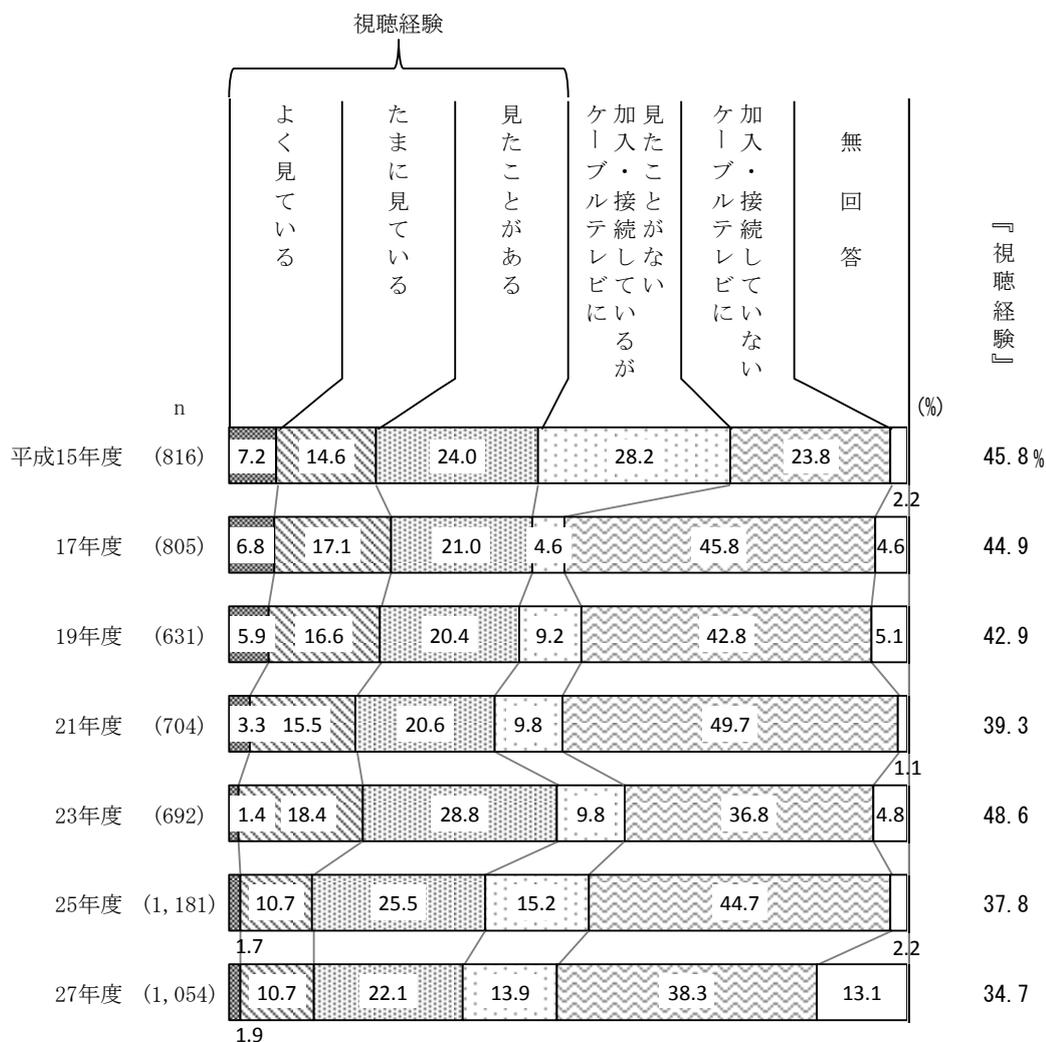
図 18-1-1



行政情報番組の視聴状況は、「ケーブルテレビに加入・接続していない」(38.3%)が4割近くと最も多く、次いで「見たことがある」(22.1%)、「ケーブルテレビに加入・接続しているが見たことがない」(13.9%)となっている。「よく見ている」、「たまに見ている」及び「見たことがある」を合わせた『視聴経験』(34.7%)が3割半ばとなっている。(図18-1-1)

推移をみると、『視聴経験』は比較的減少傾向となっている。今回調査（34.7%）では前回調査（37.8%）より3.1ポイント低くなっている。「ケーブルテレビに加入・接続しているが見たことがない」は今回調査（13.9%）では前回調査（15.2%）より1.3ポイント、「ケーブルテレビに加入・接続していない」は今回調査（38.3%）では前回調査（44.7%）より6.4ポイント、それぞれ低くなっている。（図18-1-2）

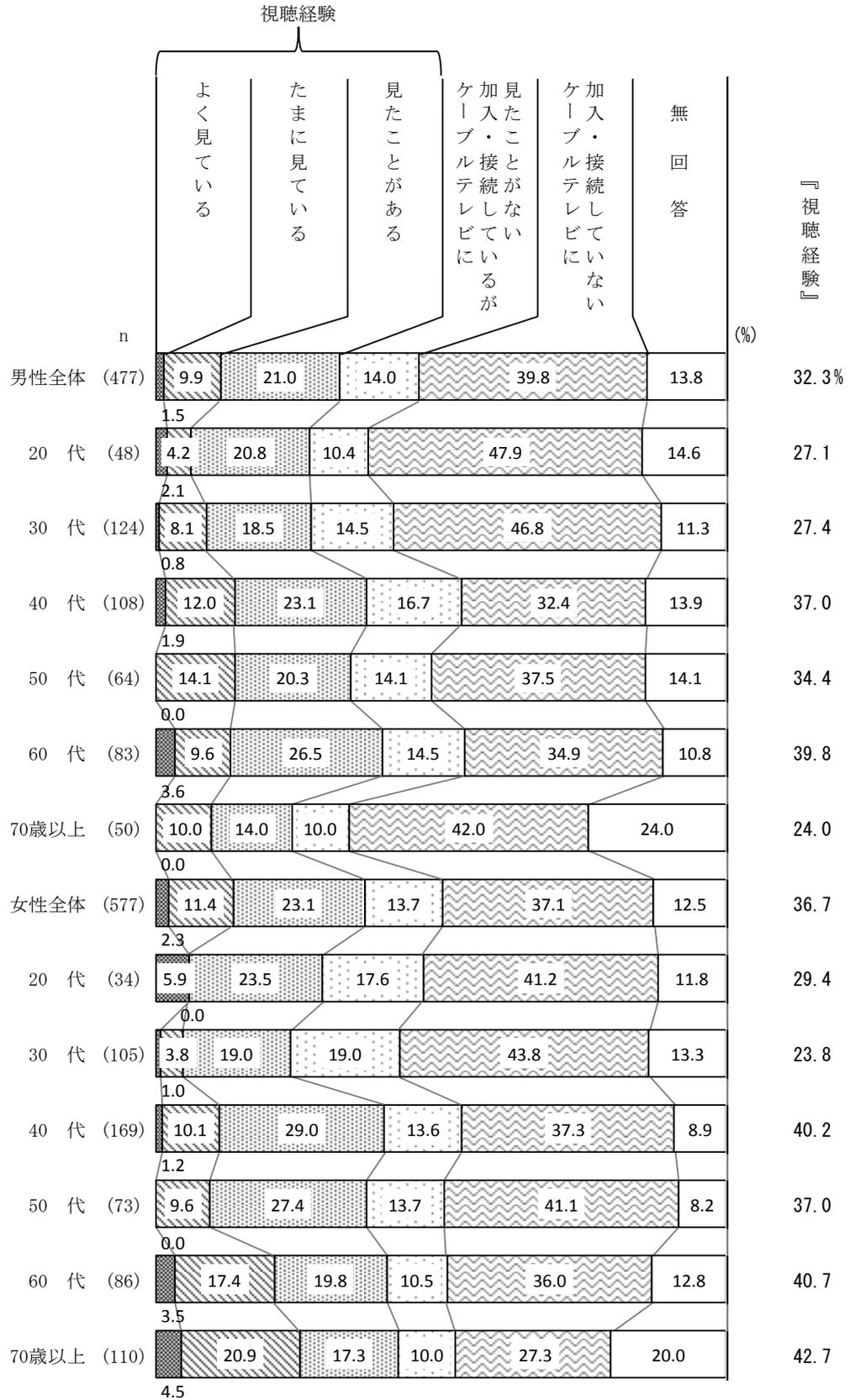
図18-1-2 行政情報番組の視聴状況—推移



性別でみると、『視聴経験』は女性（36.7%）が男性（32.3%）より4.4ポイント高くなっている。「ケーブルテレビに加入・接続していない」は男性（39.8%）が女性（37.1%）より2.7ポイント高くなっている。

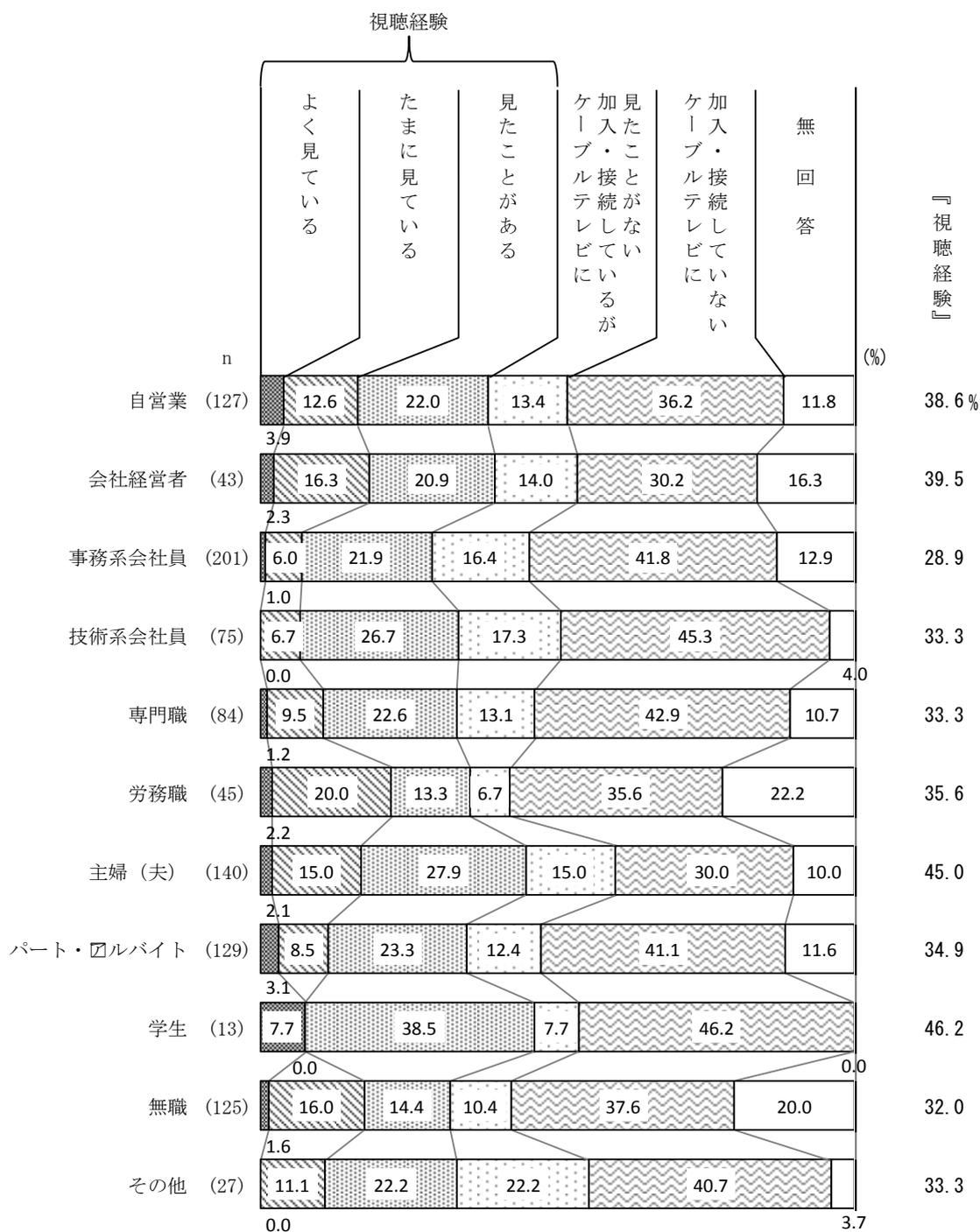
性・年代別でみると、『視聴経験』は女性70歳以上（42.7%）で4割を超え最も多く、次いで女性60代（40.7%）、女性40代（40.2%）となっている。「ケーブルテレビに加入・接続していない」は男性20代（47.9%）で5割近くと最も多く、次いで男性30代（46.8%）、女性30代（43.8%）となっている。（図18-1-3）

図 18-1-3 行政情報番組の視聴状況—性別、性・年代別



職業別でみると、『視聴経験』は学生(46.2%)で4割半ばと最も多く、次いで主婦(夫)(45.0%)、会社経営者(39.5%)となっている。「ケーブルテレビに加入・接続しているが見たことがない」はその他(22.2%)で2割を超え最も多くなっている。「ケーブルテレビに加入・接続していない」は学生(46.2%)と技術系会社員(45.3%)で4割半ばと多くなっている。(図18-1-4)

図18-1-4 行政情報番組の視聴状況—職業別

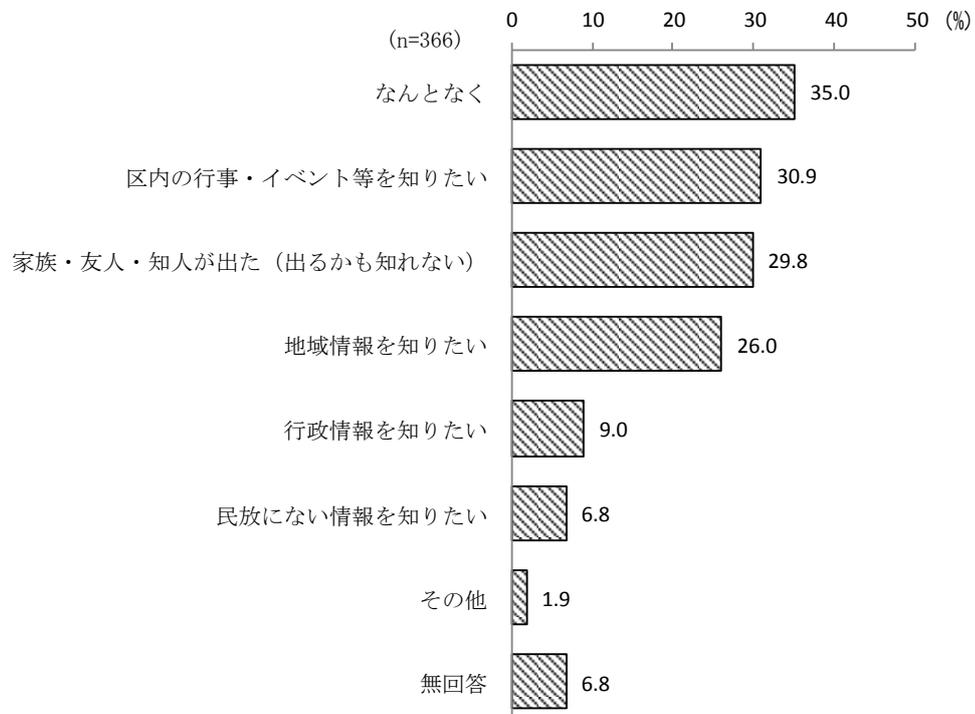


18-2 行政情報番組の視聴動機

「なんとなく」が3割半ば

(問47で「1. よく見ている」から「3. 見たことがある」のいずれかをお答えの方に)
問47-1 見ている・見たことがある動機は何ですか。(○はいくつでも)

図 18-2-1

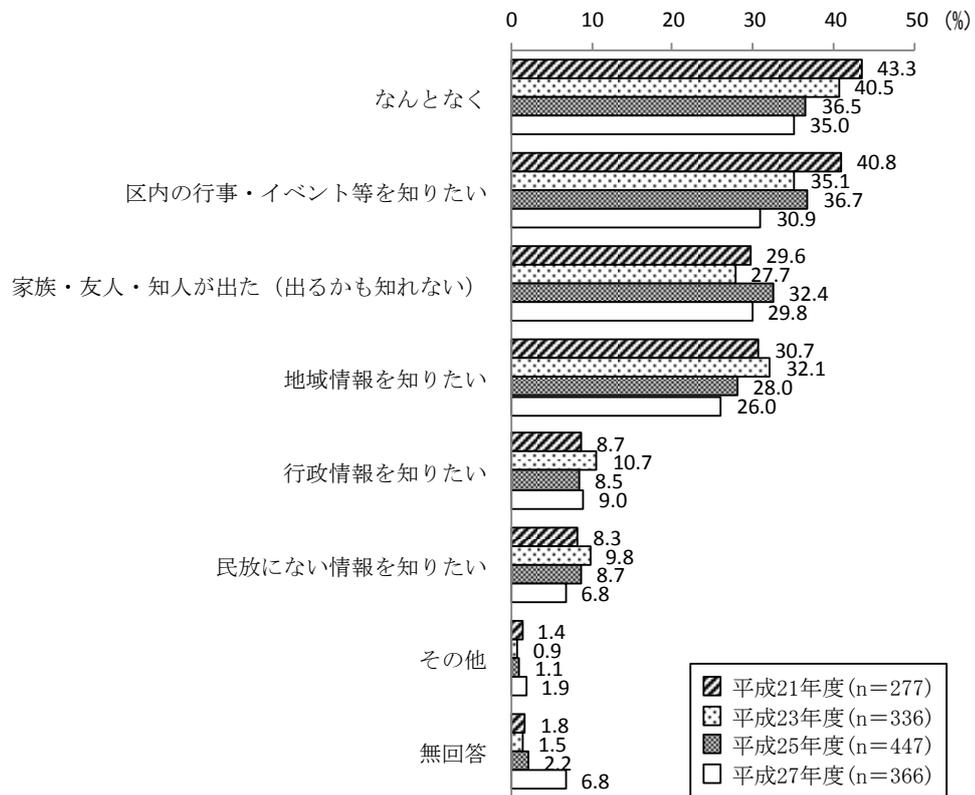


行政情報番組の視聴動機は、「なんとなく」(35.0%)が3割半ばと最も多く、次いで「区内の行事・イベント等を知りたい」(30.9%)、「家族・友人・知人が出た (出るかも知れない)」(29.8%)、「地域情報を知りたい」(26.0%)となっている。(図 18-2-1)

推移をみると、「なんとなく」は減少傾向となっており、今回調査(35.0%)では前回調査(36.5%)より1.5ポイント低くなっている。「区内の行事・イベント等を知りたい」は今回調査(30.9%)では前回調査(36.7%)より5.8ポイント低くなっている。「家族・友人・知人が出た(出るかも知れない)」は今回調査(29.8%)では前回調査(32.4%)より2.6ポイント低くなっている。

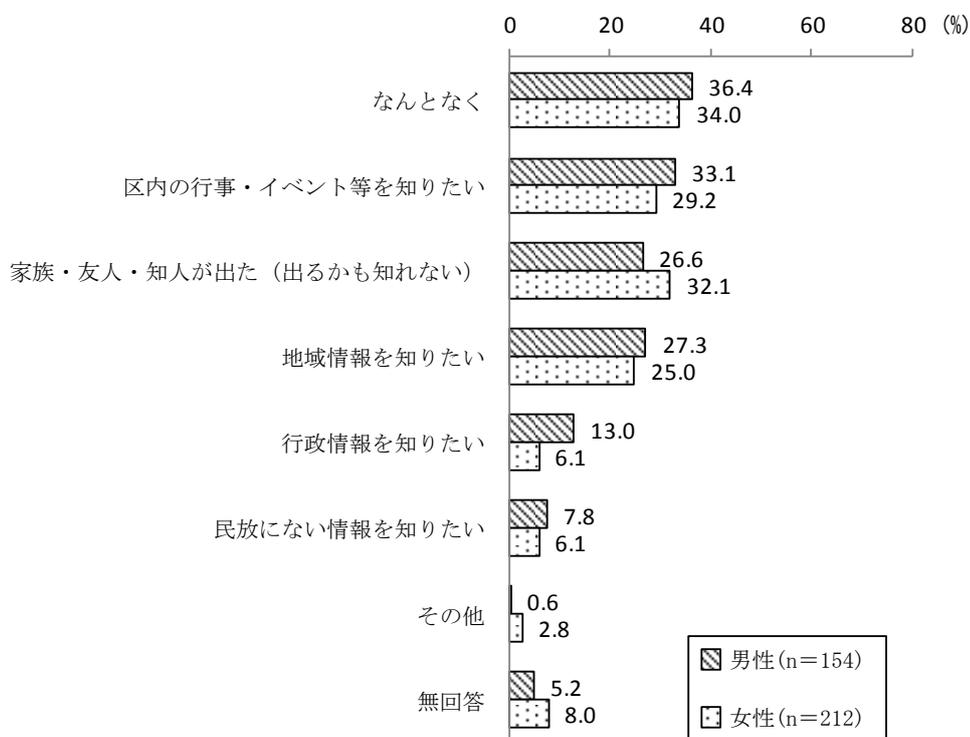
(図 18-2-2)

図 18-2-2 行政情報番組の視聴動機—推移



性別でみると、「行政情報を知りたい」は男性（13.0%）が女性（6.1%）より6.9ポイント、「区内の行事・イベント等を知りたい」は男性（33.1%）が女性（29.2%）より3.9ポイントそれぞれ高くなっている。「家族・友人・知人が出た（出るかも知れない）」は女性（32.1%）が男性（26.6%）より5.5ポイント高くなっている。（図18-2-3）

図18-2-3 行政情報番組の視聴動機—性別

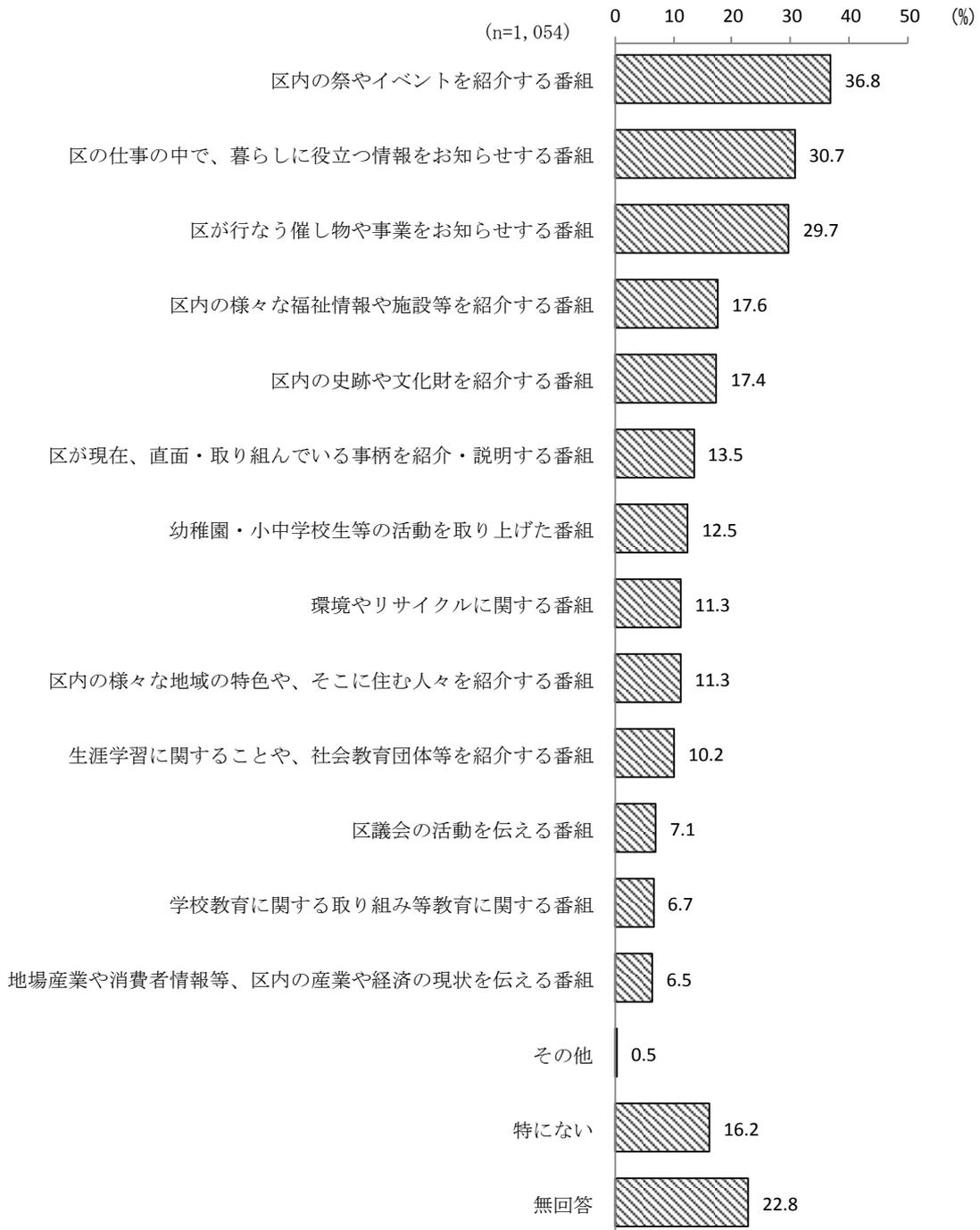


18-3 行政情報番組で見たと思うもの

「区内の祭やイベントを紹介する番組」が4割近く

問 48 台東区が制作・放送している行政情報番組で、あなたが見たと思うものはどれですか。
(○はいくつでも)

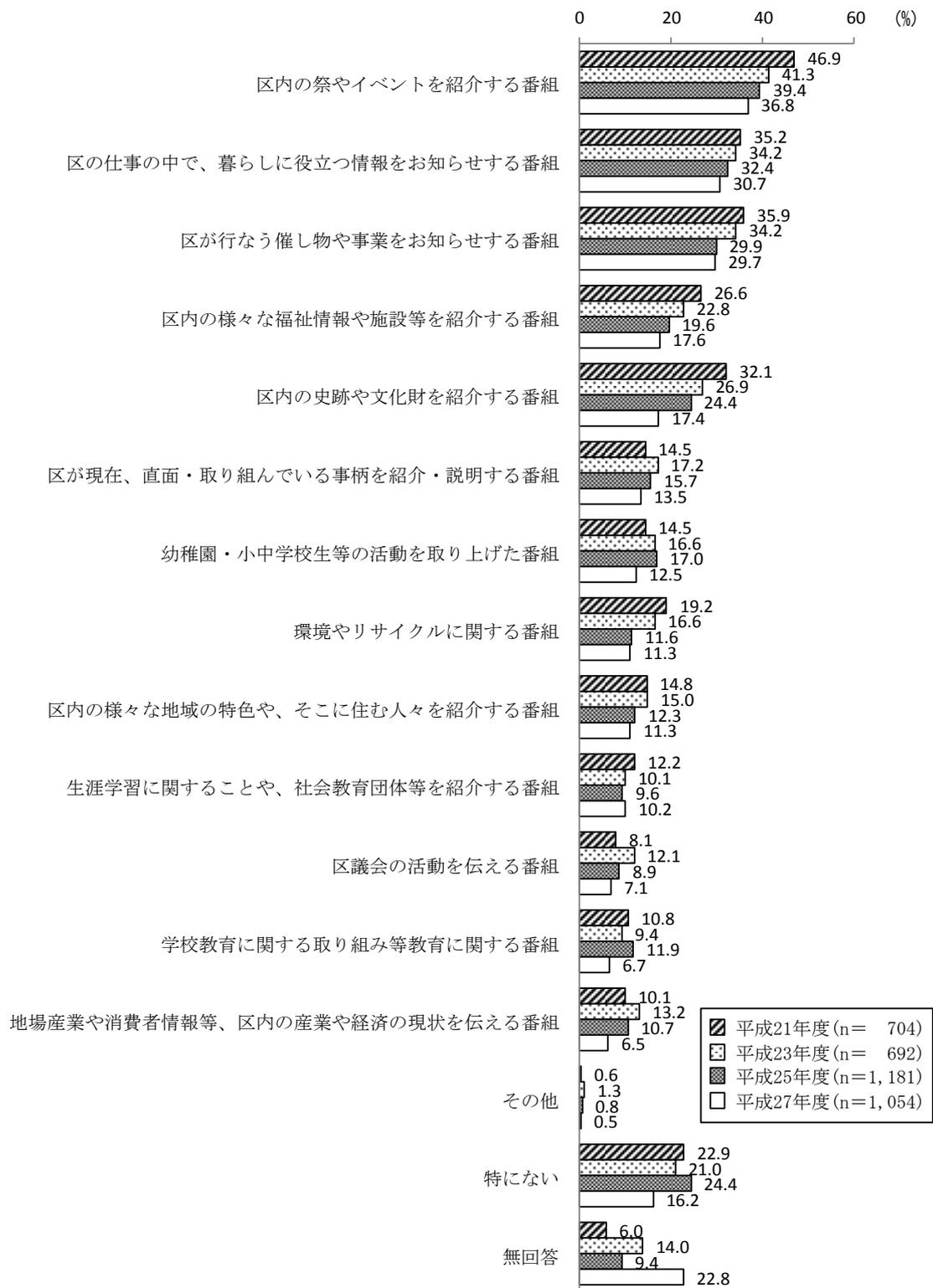
図 18-3-1



行政情報番組で見たと思うものは、「区内の祭やイベントを紹介する番組」(36.8%)が4割近くで最も多く、次いで「区の仕事の中で、暮らしに役立つ情報をお知らせする番組」(30.7%)、「区が行なう催し物や事業をお知らせする番組」(29.7%)、「区内の様々な福祉情報や施設等を紹介する番組」(17.6%)となっている。(図 18-3-1)

推移をみると、上位5項目はいずれも減少傾向となっている。(図18-3-2)

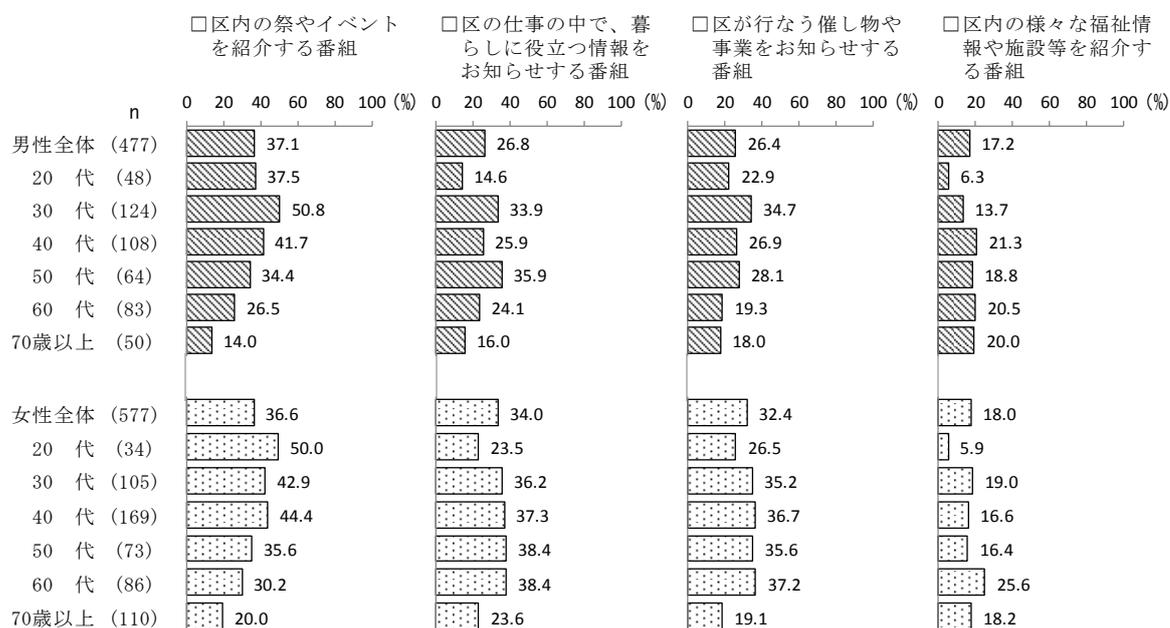
図18-3-2 行政情報番組で見たいと思うもの—推移



性別で見ると、「区の仕事の中で、暮らしに役立つ情報をお知らせする番組」は女性（34.0%）が男性（26.8%）より7.2ポイント、「区が行う催しものや事業をお知らせする番組」は女性（32.4%）が男性（26.4%）より6.0ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると「区内の祭りやイベントを紹介する番組」は男性30代（50.8%）、女性20代（50.0%）で5割台と多くなっている。次いで女性40代（44.4%）、女性30代（42.9%）となっている。「区の仕事の中で、暮らしに役立つ情報をお知らせする番組」は女性50代及び60代（38.4%）で4割近くと最も多く、「区が行う催しものや事業をお知らせする番組」は女性60代（37.2%）で4割近くと最も多くなっている。（図18-3-3）

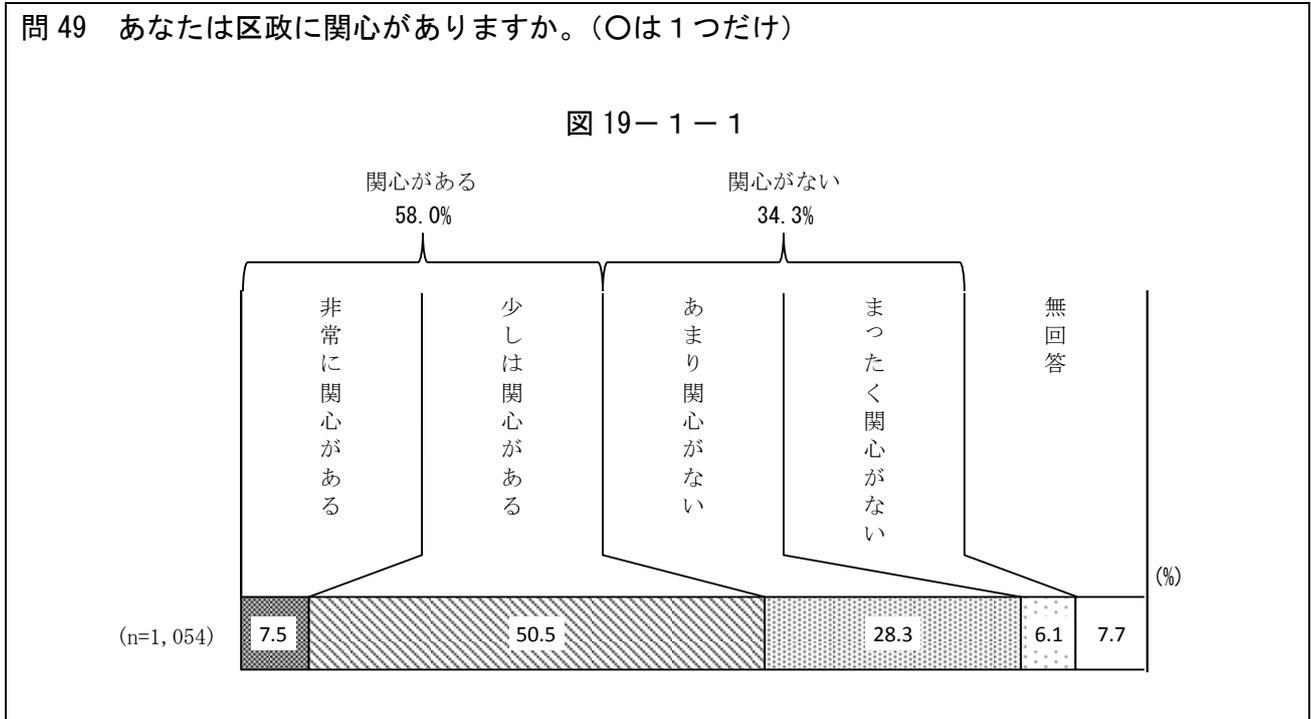
図18-3-3 行政情報番組で見たいと思うもの—性別、性・年代別（上位4位）



19. 区政への関心と要望

19-1 区政への関心度

『関心がある』が6割近く

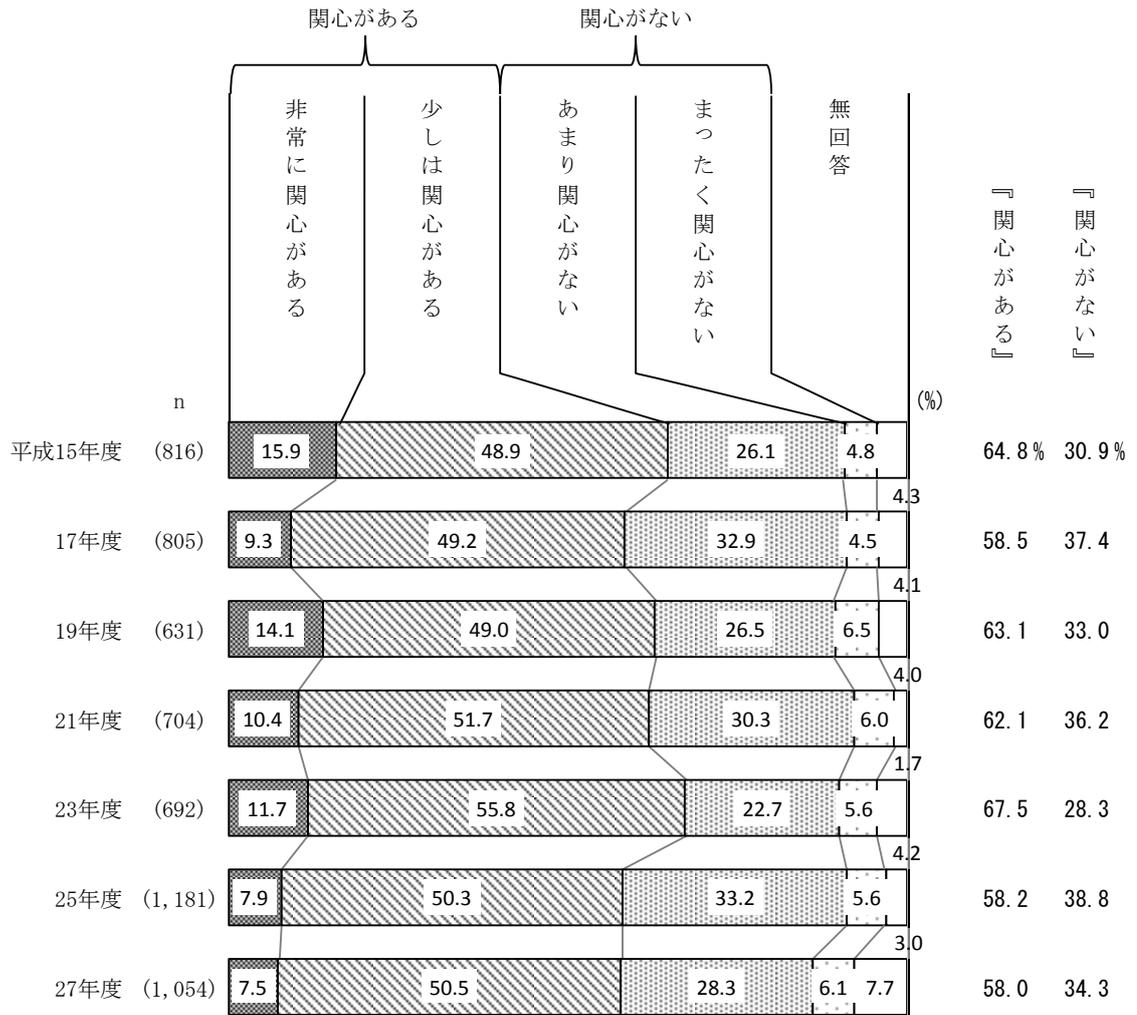


区政への関心度は、「少しは関心がある」(50.5%)と「非常に関心がある」(7.5%)を合わせた『関心がある』(58.0%)が6割近くとなっている。一方、「あまり関心がない」(28.3%)と「まったく関心がない」を合わせた『関心がない』(34.3%)が3割半ばとなっている。

(図 19-1-1)

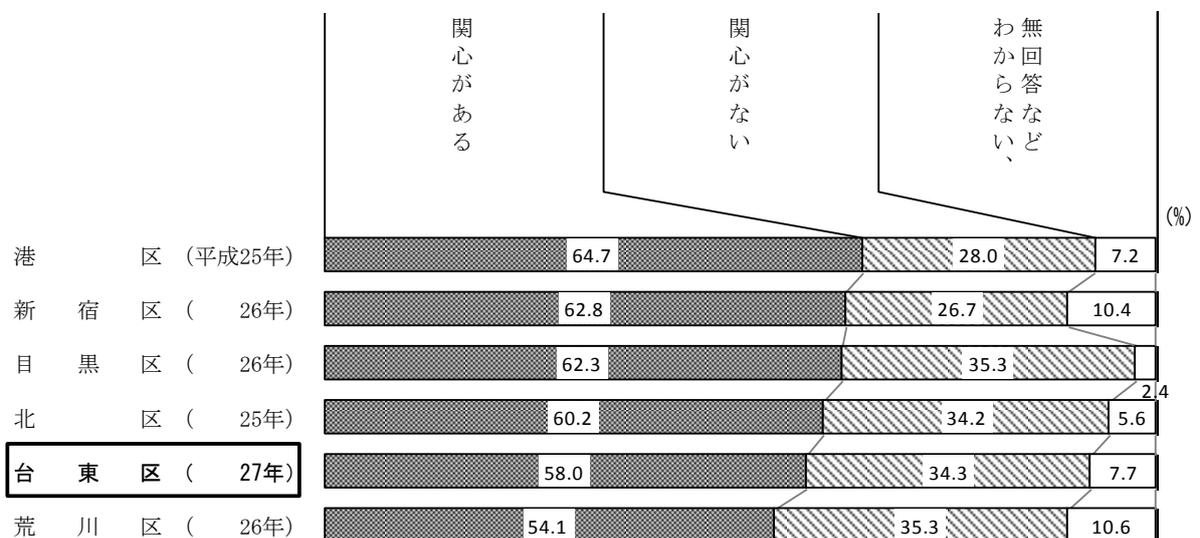
区政への関心度の推移をみると、「非常に関心がある」は比較的減少傾向となっている。『関心がある』は前回調査とほぼ変わらない割合となっているが、『関心がない』は今回調査(34.3%)では前回調査(38.8%)より4.5ポイント低くなっている。(図 19-1-2)

図 19-1-2 区政への関心度—推移



この結果を他区と比較すると、『関心がある』は、比較できる東京都の6区の中で第5位となっている。(図 19-1-3)

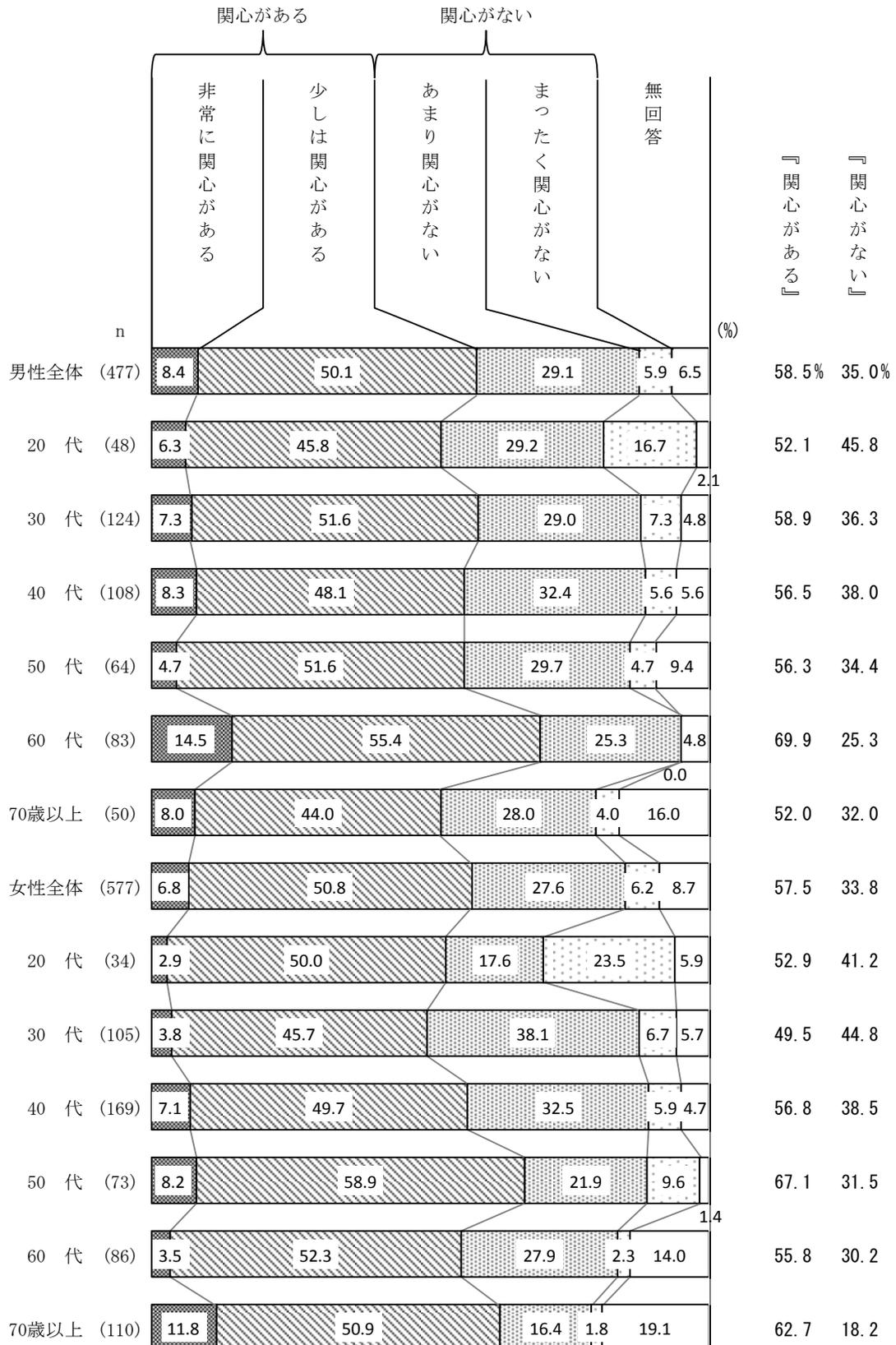
図 19-1-3 区政への関心度—他区との比較



性別でみると、『関心がある』は男性（58.5%）が女性（57.5%）より 1.0 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『関心がある』は男性 60 代（69.9%）で 7 割と最も多く、次いで女性 50 代（67.1%）で 7 割近くとなっている。一方、『関心がない』は男性 20 代（45.8%）で 4 割半ばと最も多くなっている。（図 19-1-4）

図 19-1-4 区政への関心度—性別、性・年代別

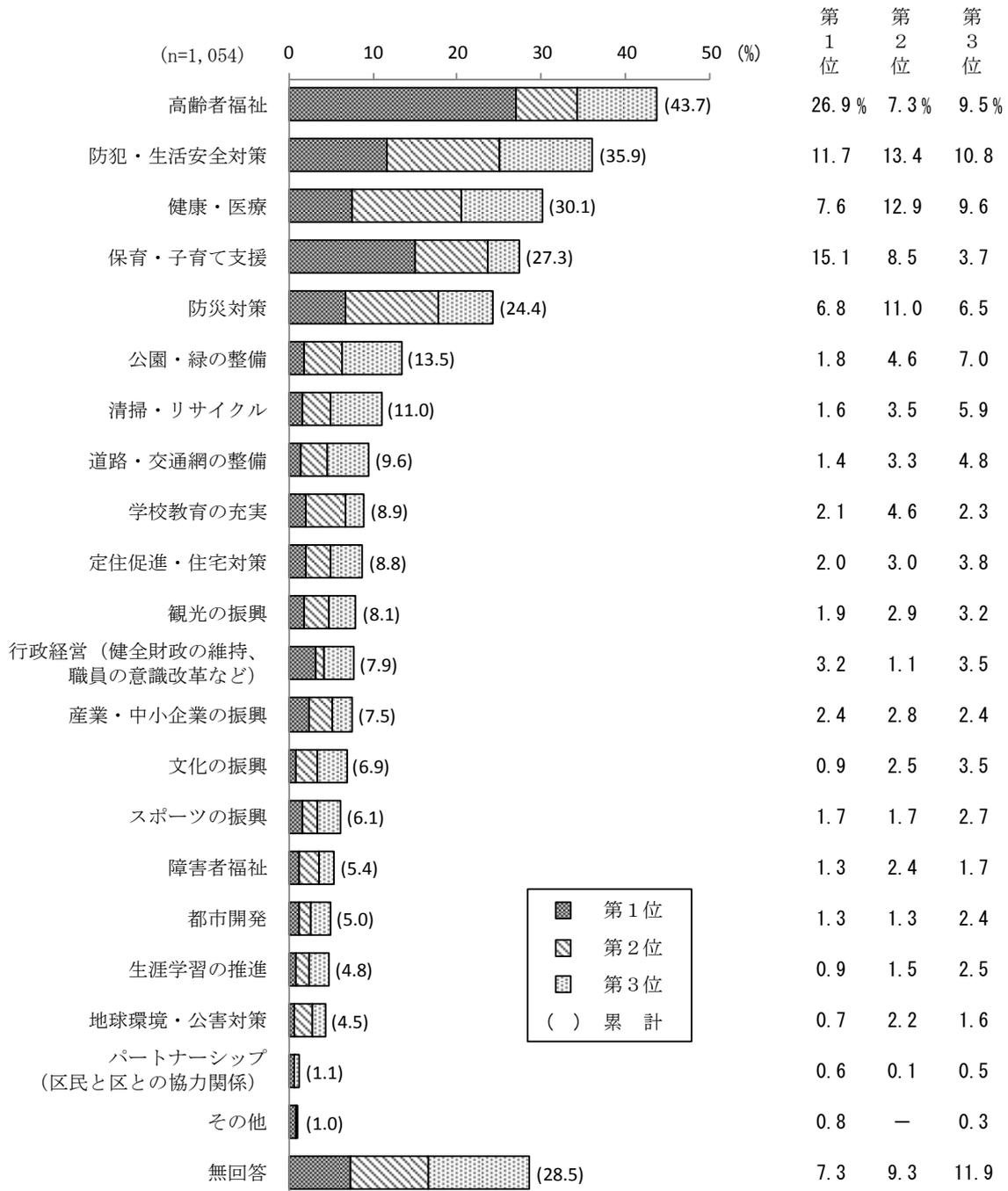


19-2 施策の要望

「高齢者福祉」、「防犯・生活安全対策」、「健康・医療」が上位3項目

問 50 今後、区に力を入れてほしい施策はどんなことですか。次の中から3つまで選び、第1位・第2位・第3位と順位をつけて、下にある口の中に番号を記入してください。

図 19-2-1



施策の要望は、第1位から第3位の総合で「高齢者福祉」(43.7%)が4割を超え最も多く、次いで「防犯・生活安全対策」(35.9%)、「健康・医療」(30.1%)、「保育・子育て支援」(27.3%)となっている。また、第1位には「高齢者福祉」(26.9%)、次いで「保育・子育て支援」(15.1%)、「防犯・生活安全対策」(11.7%)となっている。(図 19-2-1)

【施策の要望－他区との比較】

この結果を比較可能な他の 21 区と比較すると、【高齢者福祉】は江戸川区を除くいずれの区でも 3 位以内となっており、台東区のほかに 9 つの区で第 1 位となっている。【防犯・生活安全対策】は選択肢となっていない区もあるが、足立区及び豊島区では第 1 位、台東区のほかに 5 つの区で第 2 位となっている。【健康・医療】は選択肢を細分化して尋ねている区もあるが、墨田区、目黒区及び豊島区で第 5 位となっている。【保育・子育て支援】は中央区及び渋谷区で第 2 位、8 つの区で第 3 位となっている。【防災】は台東区では第 5 位であるが、9 つの区で第 1 位、3 つの区で第 2 位となっている。(表 19-2-1)

【施策の要望－推移】

施策の要望の推移をみると、昭和 62 年度から通して、「高齢者福祉」(平成 2 年度までは「老人福祉」)は第 1 位となっている。第 6 位までは前回調査と同じ順位であり、「清掃・リサイクル」は 1.3 ポイント増加し第 7 位となっている。「学校教育の充実」は 4.2 ポイント減少して第 9 位、「定住促進・住宅対策」は 1.2 ポイント減少して第 10 位となっている。平成 25 年度の「産業・中小企業の振興」は今回調査で上位 10 位から外れ、代わりに「道路・交通網の整備」が第 8 位となっている。(表 19-2-2)

【施策の要望－地区別、性別、性・年代別】

地区別でみると、全体で上位第 5 位以内の項目は、第 3 ブロックの第 5 位を除き、順位に違いがあるもののすべての地区で第 5 位以内に入っている。「高齢者福祉」は第 6 ブロックで第 2 位 (38.2%) となっているが、ほかの地区はすべて第 1 位となっている。「防犯・生活安全対策」は第 6 ブロックの第 1 位 (41.8%) となっている。

性別でみると、全体で上位第 5 位以内の項目は、順位に違いがあるものの男性、女性ともに第 5 位以内に入っている。「健康・医療」は女性 (34.5%) が男性 (24.7%) より 9.8 ポイント、「防災対策」は女性 (26.5%) が男性 (21.8%) より 4.7 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「高齢者福祉」は男性、女性ともに 50 代以上で第 1 位となっている。「防犯・生活安全対策」は男性 20 代及び 40 代、女性 40 代で第 1 位となっている。「保育・子育て支援」は男性 30 代、女性 20 代及び 30 代で第 1 位となっている。(表 19-2-3)

表 19-2-1 (1) 施策の要望—他区との比較 (上位 10 位)

(%)

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	第 6 位	第 7 位	第 8 位	第 9 位	第 10 位
台東区 平成 27 年度	高齢者福祉 43.7	防犯・生活安全対策 35.9	健康・医療 30.1	保育・子育て支援 27.3	防災対策 24.4	公園・緑の整備 13.5	清掃・リサイクル 11.0	道路・交通網の整備 9.6	学校教育の充実 8.9	定住促進・住宅対策 8.8
千代田区 平成 26 年度	高齢者施策 50.7	環境対策 49.9	防災対策 41.4	まちづくりの推進 37.5	生涯学習、文化・スポーツの振興 36.9	児童福祉 36.5	住宅対策 36.0	学校教育の充実 30.0	保健・衛生対策 29.5	商工・観光・消費生活 21.0
中央区 平成 26 年度	高齢者福祉・介護 38.2	子育て支援 37.7	防災対策 26.5	防犯対策 18.3	公園・緑地・水辺の整備 16.9	学校教育の充実 14.0	住宅対策 11.3	環境保全・公害対策/駐車場・駐輪上の整備 9.2		障害者福祉 8.8
港区 平成 21 年度	高齢者の支援 35.0	犯罪の防止対策 27.0	子育て・子どもの支援 26.9	災害に強いまちづくり 25.2	公園・緑や水辺の整備 21.1	住宅や居住環境の整備 17.5	環境保全・地球温暖化対策 17.1	地域の特性を重視したまちづくり 16.0	健康の維持・増進 12.0	学校教育の充実 11.2
新宿区 平成 26 年度	高齢者福祉の充実 36.8	防犯・地域安全対策 28.8	震災・水害対策 25.1	子育て支援(少子化対策) 20.1	低所得者への支援 12.5	学校教育の充実 11.6	環境美化対策 8.7	区民の健康増進 8.6	道路・交通対策 8.4	住宅対策 7.3
文京区 平成 24 年度	高齢者施策 29.9	防災施策 23.9	子育て支援施策 19.4	公園・緑化・景観施策 15.4	環境施策 12.9	学校教育施策 11.4	都市整備施策 11.1	清掃・リサイクル施策/住宅・定住施策 10.7		低所得者施策 8.8
墨田区 平成 26 年度	防災対策 50.1	高齢者福祉対策 35.4	子育て支援対策 26.7	防犯対策 26.1	健康・保険・医療 20.7	学校教育 15.4	低所得者対策 11.5			
江東区 平成 25 年度	高齢者対策 49.1	防災対策 45.1	児童・幼児対策 33.9	治安対策 29.8	都市景観(まちなみ美化) 15.0	緑化推進 13.8	保健・衛生 13.5	交通安全対策 11.1	道路整備 8.7	消費者保護 8.5
品川区 平成 26 年度	防災対策 35.2	安全な市街地整備 30.1	高齢者福祉 28.0	生活安全 25.0	子育て支援 20.3	保健・医療・健康 16.7	都市基盤の整備 11.5	公園整備・緑化推進 11.1	環境問題 8.7	交通安全対策 8.1
目黒区 平成 26 年度	高齢者福祉 31.0	防犯 29.2	防災 28.2	子育て支援 25.9	保健・医療 19.5	環境保全 17.0	学校教育 15.2	交通安全 13.5	公園・緑化 12.9	都市整備 12.3
大田区 平成 26 年度	防災対策 50.1	高齢者福祉 37.4	緑化推進 31.5	交通安全対策/休日診療 24.5		道路の整備 24.3	公園・児童遊園の整備 23.4	保健・健康 23.3	清掃・リサイクルの推進 21.4	公共交通網の整備/公害対策 18.9

表 19-2-1 (2) 施策の要望—他区との比較 (上位 10 位)

(%)

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	第 6 位	第 7 位	第 8 位	第 9 位	第 10 位
世田谷区 平成 26 年度	災害に強いまちづくり 46.3	防犯・地域安全の対策 37.9	高齢者福祉 29.2	児童(保育)福祉 19.3	自然環境の保護 18.0	道路の管理保全 14.9	公園・緑地の整備 12.1	消費者の支援 8.1	住宅施策 8.0	健康づくり 7.7
渋谷区 平成 21 年度	高齢者に関する施策 34.3	子育てに関する施策 23.5	まちの治安・安全対策に関する施策 22.7	清掃事業・まちの美化に関する施策 21.6	まちづくりに関する施策 19.2	交通環境の整備に関する施策 19.1	防災に関する施策 17.0	地球環境に関する施策/健康に関する施策 11.1		学校教育に関する施策 10.5
中野区 平成 26 年度	防災 31.5	高齢者福祉 27.1	防犯/子育て支援 20.7	道路・交通 19.9	みどり・公園 17.6	駅前などの重点的まちづくり 14.8	学校教育 12.6	住宅・まちづくり 10.4	産業振興 9.9	
杉並区 平成 26 年度	災害に強いまちづくり 29.2	高齢者の支援 26.2	子育て支援の充実/安全・安心の地域社会づくり 20.1		利便性の高い快適な都市基盤の整備 13.7	学校教育等の充実 12.6	地域医療体制の整備 11.8	魅力的でにぎわいのある多心型まちづくり 11.0	良好な住環境の整備 10.5	文化・芸術の振興 8.5
豊島区 平成 25 年度	治安対策 34.7	高齢者福祉の充実 34.4	防災対策 31.0	みどりや公園づくり 30.7	保健・医療の充実 28.6	モラル低下等による迷惑行為の防止対策 26.5	子育て支援の充実 23.8	再開発・街づくり・街並みの整備 17.3	子どもの健全育成 16.8	学校教育の充実 14.8
荒川区 平成 26 年度	地震などの防災対策 40.9	高齢者福祉の充実 35.7	幼児・児童の子育て支援の充実 25.3	地域防犯の取組 21.8	学校教育の充実/子どもの安全対策 18.2		公園の整備充実・緑化の推進 18.1	魅力ある景観づくり、街づくりの推進 17.7	低所得者に対する福祉の充実/健康づくりなどの保健衛生施策の充実 16.2	
板橋区 平成 25 年度	高齢者介護 40.2	防災 38.8	子育て 35.7	防犯 34.2	学校教育 32.3	緑・公園・景観 25.6	健康・衛生 23.8	環境・清掃・リサイクル・エネルギー 23.1	市街地整備・まちづくり 22.2	高齢者社会参加 19.4
練馬区 平成 26 年度	交通安全対策 23.5	高齢者福祉 20.2	子育て支援 17.3	医療体制の確立 16.8	道路や公共交通の整備 15.6	災害に強く生活しやすいまちづくり 13.6	学校教育 12.2	健康づくり/防犯・防火・防災 11.9		地域環境の保全 11.2
足立区 平成 24 年度	防犯対策 45.6	交通対策 45.4	高齢者支援 43.9	都市開発 42.7	住宅対策 38.1	自然・緑化対策 35.9	子育て支援 35.2	障がい者支援 32.9	低所得者対策 32.3	学校教育対策 32.2
葛飾区 平成 25 年度	防災対策 40.7	高齢者福祉対策 30.7	交通安全対策 21.1	健康の増進・疾病の予防 15.9	子育ての支援 15.7	交通機関の整備 14.6	低所得者福祉対策 12.9	生活環境対策 9.2	学校教育の充実 9.1	公園の整備・緑化の推進 8.3
江戸川区 平成 26 年度	震災対策 39.1	防犯対策(安全・安心まちづくり) 33.4	水害対策 25.0	子育て支援 21.2	熟年者施策 19.9	交通網整備 14.8	学校教育 11.8	都市基盤整備(道路など) 10.1	住宅対策/障害者支援 7.9	

表 19-2-2 施策の要望—推移（上位 10 位）

（%）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	第 6 位	第 7 位	第 8 位	第 9 位	第 10 位
平成 27 年度	高齢者福祉 43.7	防犯・生活安全対策 35.9	健康・医療 30.1	保育・子育て支援 27.3	防災対策 24.4	公園・緑の整備 13.5	清掃・リサイクル 11.0	道路・交通網の整備 9.6	学校教育の充実 8.9	定住促進・住宅対策 8.8
25 年度	高齢者福祉 40.3	防犯・生活安全対策 30.9	健康・医療 30.2	保育・子育て支援 29.1	防災対策 25.7	公園・緑の整備 17.1	産業・中小企業の振興 13.5	学校教育の充実 13.1	定住促進・住宅対策 10.0	清掃・リサイクル 9.7
23 年度	高齢者福祉 41.5	保育・子育て支援/ 健康・医療 29.6		防災対策 29.0	防犯・生活安全対策 27.2	公園・緑の整備 16.2	産業・中小企業の振興 13.7	清掃・リサイクル 12.1	学校教育の充実 10.7	観光の振興 10.5
21 年度	高齢者福祉 46.2	健康・医療 36.4	保育・子育て支援 29.7	防犯・生活安全対策 27.3	防災対策 15.8	定住促進・住宅対策 15.3	清掃・リサイクル/ 公園・緑の整備 14.3		地球環境・公害対策 12.6	産業・中小企業の振興 12.2
19 年度	高齢者福祉 52.5	健康・医療 31.7	防犯・生活安全 31.1	保育・子育て支援 23.6	防災 17.6	公園・緑の整備 14.1	清掃・リサイクル 13.8	地球環境・公害 13.2	定住促進・住宅 12.8	産業・中小企業の振興 9.0
17 年度	高齢者福祉 42.7	治安 31.8	防災 30.1	児童福祉・子育て支援 19.5	住宅 14.2	環境・公害 13.2	中小企業 10.9	保健・健康 10.8	清掃・リサイクル 9.7	緑化推進 9.6
15 年度	高齢者福祉 53.3	防災 21.6	清掃・リサイクル 18.5	児童福祉 16.4	中小企業 16.2	緑化推進 15.0	保健・健康 14.7	住宅 13.6	環境・公害 13.2	障害者福祉 12.3
13 年度	高齢者福祉 57.8	住宅 23.5	保健・健康 17.3	防災 17.1	清掃・リサイクル 16.4	中小企業 15.9	障害者福祉 13.8	児童福祉/緑化推進 13.4		定住促進 10.7
11 年度	高齢者福祉 47.6	環境・公害 25.9	住宅 21.4	防災 19.1	中小企業 15.3	児童福祉 15.0	緑化推進 12.4	保健・健康 12.2	障害者福祉 11.9	定住促進 11.2
9 年度	高齢者福祉 58.3	住宅 26.7	防災 22.0	環境・公害 19.9	保健・健康 17.4	緑化推進 15.3	消費者 14.6	中小企業 14.1	障害者福祉 12.3	定住促進 12.2
7 年度	高齢者福祉 54.4	防災 33.5	住宅 32.1	環境・公害 23.3	中小企業 15.8	障害者福祉 15.1	緑化推進 13.7	保健・健康 12.8	消費者 12.1	地価抑制 11.4
6 年度	高齢者福祉 54.2	住宅 32.7	環境・公害 24.0	中小企業/防災 14.7		消費者 14.4	障害者福祉/ 緑化推進 13.6		保健・健康 13.3	地価抑制 13.2
5 年度	高齢者福祉 57.2	住宅 32.8	地価抑制 22.7	環境・公害 21.9	緑化推進 17.6	防災 17.4	保健・健康 17.0	消費者 13.2	交通網整備 11.6	中小企業 10.8
4 年度	高齢者福祉 45.9	住宅 37.1	環境・公害 23.2	緑化推進 19.5	地価抑制 19.2	保健・健康 15.9	消費者 12.5	防災 12.1	中小企業 11.2	交通網整備 11.0
3 年度	高齢者福祉 55.9	住宅 37.6	環境・公害 21.9	地価抑制 21.7	緑化推進 16.6	交通網整備 12.1	中小企業 11.4	消費者/道路整備 11.2		防災 11.0
2 年度	老人福祉 49.0	住宅 37.2	地価抑制 27.2	保健・健康 16.9	防災 15.3	消費者/中小企業 14.6		緑化推進 14.3	公害 12.7	スポーツ振興 12.1
元年度	老人福祉 46.7	住宅 32.1	地価抑制 24.3	消費者 24.2	保健・健康 20.2	緑化推進 14.6	中小企業 13.5	防災 12.6	都市再開発 12.2	青少年 11.5
昭和 63 年度	老人福祉 48.4	住宅 29.5	地価抑制 23.7	緑化推進 17.0	公園児童遊園 14.3	中小企業 14.1	防災 13.9	保健・健康 13.4	都市再開発 12.0	消費者 10.9
62 年度	老人福祉 42.9	住宅 27.8	地価抑制 23.2	中小企業 13.3	都市再開発 13.0	防災 11.2	消費者 11.1	緑化 10.5	児童福祉 10.2	保健・健康 9.8

表 19-2-3 施策の要望—地区別、性別、性・年代別（上位5位）

(%)

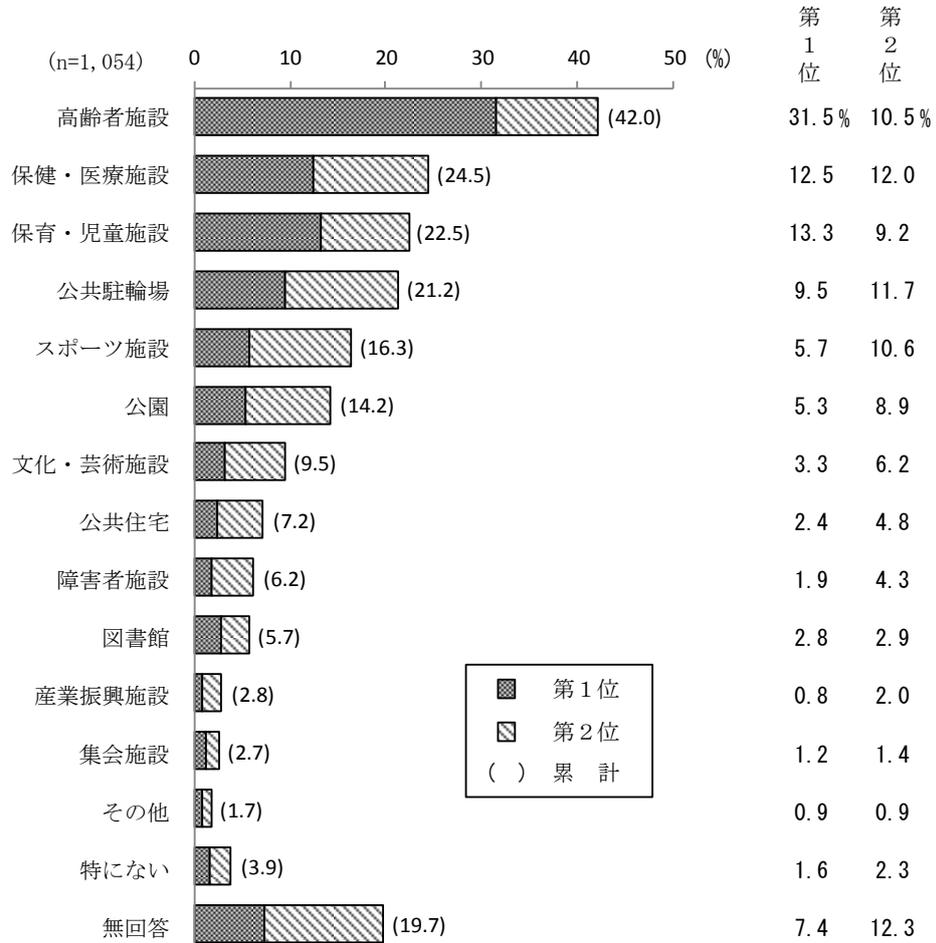
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体		高齢者福祉 43.7	防犯・生活安全対策 35.9	健康・医療 30.1	保育・子育て支援 27.3	防災対策 24.4
地区別	第1ブロック	高齢者福祉 37.9	防犯・生活安全対策 34.2	保育・子育て支援 32.9	健康・医療 29.6	防災対策 23.3
	第2ブロック	高齢者福祉 43.9	防犯・生活安全対策 38.1	健康・医療 35.0	保育・子育て支援/防災対策 26.5	
	第3ブロック	高齢者福祉 51.0	健康・医療 34.5	防犯・生活安全対策 26.2	保育・子育て支援 16.6	学校教育の充実 13.1
	第4ブロック	高齢者福祉 47.5	防犯・生活安全対策 39.7	健康・医療 28.8	保育・子育て支援 26.5	防災対策 25.3
	第5ブロック	高齢者福祉 43.0	防災対策 34.2	保育・子育て支援/防犯・生活安全対策 31.6		健康・医療 25.3
	第6ブロック	防犯・生活安全対策 41.8	高齢者福祉 38.2	保育・子育て支援 30.0	防災対策 29.1	健康・医療 21.8
性別	男 性	高齢者福祉 41.3	防犯・生活安全対策 35.4	保育・子育て支援 25.8	健康・医療 24.7	防災対策 21.8
	女 性	高齢者福祉 45.8	防犯・生活安全対策 36.2	健康・医療 34.5	保育・子育て支援 28.6	防災対策 26.5
性・年代別	男 性 20 代	防犯・生活安全対策 35.4	高齢者福祉 29.2	保育・子育て支援 27.1	道路・交通網の整備/公園・緑の整備 20.8	
	30 代	保育・子育て支援 42.7	防犯・生活安全対策 36.3	公園・緑の整備 25.0	高齢者福祉 21.8	防災対策 18.5
	40 代	防犯・生活安全対策 42.6	高齢者福祉 35.2	防災対策 29.6	保育・子育て支援 27.8	健康・医療/清掃・リサイクル 16.7
	50 代	高齢者福祉 51.6	防犯・生活安全対策 37.5	健康・医療 26.6	防災対策 25.0	公園・緑の整備 15.6
	60 代	高齢者福祉 62.7	健康・医療 34.9	防犯・生活安全対策 31.3	防災対策 20.5	定住促進・住宅対策 15.7
	70 歳以上	高齢者福祉 66.0	健康・医療 52.0	防犯・生活安全対策 22.0	防災対策 16.0	保育・子育て支援 14.0
	女 性 20 代	保育・子育て支援 61.8	高齢者福祉/防犯・生活安全対策 29.4		健康・医療 26.5	公園・緑の整備 17.6
	30 代	保育・子育て支援 57.1	防犯・生活安全対策 53.3	防災対策 26.7	高齢者福祉 25.7	健康・医療 24.8
	40 代	防犯・生活安全対策 43.2	高齢者福祉 38.5	防災対策 32.0	健康・医療 27.2	保育・子育て支援 26.6
	50 代	高齢者福祉 53.4	健康・医療 45.2	防犯・生活安全対策 32.9	防災対策 30.1	保育・子育て支援 19.2
	60 代	高齢者福祉 57.0	健康・医療 43.0	防災対策/防犯・生活安全対策 23.3		保育・子育て支援 18.6
	70 歳以上	高齢者福祉 67.3	健康・医療 43.6	防犯・生活安全対策 23.6	防災対策 22.7	定住促進・住宅対策 10.9

19-3 施設の要望

「高齢者施設」、「保健・医療施設」、「保育・児童施設」が上位3項目

問51 今後、あなたは区内にどのような施設を整備・充実すべきだと思いますか。次の中から2つまで選び、第1位・第2位と順位をつけて、下にある口の中に番号を記入してください。

図 19-3-1



施設の要望は、第1位から第3位の総合で「高齢者施設」(42.0%)が4割を超え最も多く、次いで「保健・医療施設」(24.5%)、「保育・児童施設」(22.5%)、「公共駐輪場」(21.2%)となっている。また、第1位には「高齢者施設」(31.5%)、次いで「保育・児童施設」(13.3%)、「保健・医療施設」(12.5%)となっている。(図19-3-1)

【施設の要望－推移】

推移をみると、「高齢者施設」（平成 17 年度及び平成 15 年度は「特別養護老人ホーム」、平成 13 年度までは「特養老人ホーム」）は、昭和 62 年度から今回調査まで引き続き第 1 位となっている。「保健・医療施設」は平成 4 年度及び平成 3 年度を除き、昭和 62 年度から引き続き第 2 位となっている。「保育・児童施設」は平成 21 年度から第 3 位、「公共駐輪場」は前回調査から引き続き第 4 位となっている。「スポーツ施設」は前回調査では第 5 位以内に入っていなかったが、今回調査で第 5 位となっている。（表 19-3-1）

【施設の要望－地区別、性別、性・年代別】

地区別でみると、「高齢者施設」はすべてのブロックで第 1 位、「保健・医療施設」は第 2 ブロック、第 3 ブロック、第 4 ブロック及び第 6 ブロックで第 2 位、第 5 ブロックで第 3 位、第 1 ブロックで第 4 位となっている。「保育・児童施設」は第 1 ブロック及び第 5 ブロックで第 2 位、第 6 ブロックで第 3 位、第 2 ブロック及び第 4 ブロックで第 4 位となっている。

性別でみると、全体と第 3 位までは男性、女性ともに同じ項目の順位となっている。「高齢者施設」は女性（44.9%）が男性（38.6%）より 6.3 ポイント高くなっている。「スポーツ施設」は男性（20.3%）が女性（13.0%）より 7.3 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「高齢者施設」は男性、女性ともに 40 代以上で第 1 位となっている。「保育・児童施設」は男性 30 代、女性 20 代及び 30 代で第 1 位となっている。「スポーツ施設」は男性 20 代で第 1 位となっている。（表 19-3-2）

表 19-3-1 施設の要望－推移（上位5位）

（%）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成27年度	高齢者施設 42.0	保健・医療施設 24.5	保育・児童施設 22.5	公共駐車場 21.2	スポーツ施設 16.3
25年度	高齢者施設 40.0	保健・医療施設 25.3	保育・児童施設 21.9	公共駐車場 20.0	公園 15.1
23年度	高齢者施設 38.7	保健・医療施設 26.4	保育・児童施設 22.1	公園 16.5	スポーツ施設 14.9
21年度	高齢者施設 42.2	保健・医療施設 32.2	保育・児童施設 20.6	公園 14.3	スポーツ施設 13.2
19年度	高齢者施設 49.9	保健・医療施設 29.8	公園 15.2	保育・児童施設 13.0	公共住宅 12.4
17年度	特別養護老人ホーム 34.0	保健・医療施設 26.3	スポーツ施設 16.9	区営住宅 14.2	リサイクルセンター 12.0
15年度	特別養護老人ホーム 41.4	保健・医療施設 33.3	区営住宅 12.5	リサイクルセンター 11.9	スポーツ施設 10.5
13年度	養護老人ホーム 41.7	保健・医療施設 26.2	区営住宅 19.5	リサイクルセンター 15.8	区民保養施設 11.8
11年度	養護老人ホーム 32.0	保健・医療施設 25.3	リサイクルセンター 14.7	公共駐車場 14.3	区営住宅 13.8
9年度	養護老人ホーム 37.3	保健・医療施設 30.3	区営住宅 18.2	公共駐車場 14.1	スポーツ施設 12.5
7年度	養護老人ホーム 34.7	保健・医療施設 25.0	区営住宅 22.3	公共駐車場 15.2	リサイクルセンター 14.0
6年度	養護老人ホーム 30.7	保健・医療施設 23.2	区営住宅 20.5	公共駐車場 15.9	スポーツ施設 15.1
5年度	養護老人ホーム 37.7	保健・医療施設 26.0	区営住宅 18.5	スポーツ施設 15.9	公共駐車場 15.3
4年度	養護老人ホーム 31.7	区営住宅 25.2	公共駐車場 20.3	保育・児童施設 20.1	リサイクルセンター 16.0
3年度	養護老人ホーム 40.8	区営住宅 21.6	公共駐車場 21.2	保育・児童施設 21.0	スポーツ施設 16.7
2年度	養護老人ホーム 36.4	保健・医療施設 29.5	スポーツ施設 24.9	区営住宅 23.6	区民保養施設 17.9
元年度	養護老人ホーム 39.9	保健・医療施設 26.1	スポーツ施設 22.0	区営住宅 21.7	区民保養施設 15.7
昭和63年度	養護老人ホーム 40.9	保健・医療施設 31.6	スポーツ施設 22.6	区民保養施設 15.3	公園・児童遊園 13.8
62年度	養護老人ホーム 38.4	保健・医療施設 26.3	心身障害者（児） 17.1	公園・児童遊園 14.7	区民保養施設 12.6

表 19-3-2 施設の要望—地域、性別、性・年代別（上位5位）

(%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体		高齢者施設 42.0	保健・医療施設 24.5	保育・児童施設 22.5	公共駐輪場 21.2	スポーツ施設 16.3
地区別	第1ブロック	高齢者施設 37.1	保育・児童施設 28.3	スポーツ施設 22.9	保健・医療施設 21.7	公共駐輪場 19.6
	第2ブロック	高齢者施設 42.6	保健・医療施設 25.6	公共駐輪場 22.4	保育・児童施設 20.6	公園 15.2
	第3ブロック	高齢者施設 40.7	保健・医療施設 21.4	公共駐輪場 20.7	公共住宅 15.9	公園 13.8
	第4ブロック	高齢者施設 46.3	保健・医療施設 26.5	公共駐輪場 24.5	保育・児童施設 21.8	スポーツ施設 14.4
	第5ブロック	高齢者施設 43.0	保育・児童施設 26.6	保健・医療施設 24.1	スポーツ施設 17.7	公共駐輪場 16.5
	第6ブロック	高齢者施設 42.7	保健・医療施設 28.2	保育・児童施設 25.5	スポーツ施設 18.2	公共駐輪場 18.2
性別	男 性	高齢者施設 38.6	保健・医療施設 22.4	保育・児童施設 20.5	スポーツ施設 20.3	公共駐輪場 19.3
	女 性	高齢者施設 44.9	保健・医療施設 26.2	保育・児童施設 24.1	公共駐輪場 22.7	スポーツ施設 13.0
性・年代別	男 性 20 代	スポーツ施設 37.5	公共駐輪場 35.4	高齢者施設 25.0	公園/保育・児童施設 16.7	
	30 代	保育・児童施設 37.1	スポーツ施設 25.8	公共駐輪場 23.4	公園/保健・医療施設/高齢者施設 21.8	
	40 代	高齢者施設 34.3	保健・医療施設 24.1	公共駐輪場 21.3	スポーツ施設/公園/保育・児童施設 18.5	
	50 代	高齢者施設 45.3	スポーツ施設 21.9	文化・芸術施設/公共駐輪場/保健・医療施設 20.3		
	60 代	高齢者施設 60.2	保健・医療施設 22.9	障害者施設 15.7	保育・児童施設 14.5	スポーツ施設 13.3
	70 歳以上	高齢者施設 58.0	保健・医療施設 32.0	公園 20.0	公共住宅 12.0	障害者施設 10.0
	女 性 20 代	保育・児童施設 35.3	高齢者施設 32.4	公園 29.4	公共駐輪場/保健・医療施設 17.6	
	30 代	保育・児童施設 40.0	高齢者施設 25.7	公共駐輪場 23.8	スポーツ施設/保健・医療施設 21.9	
	40 代	高齢者施設 39.6	公共駐輪場 30.8	保育・児童施設/保健・医療施設 24.9		スポーツ施設 14.8
	50 代	高齢者施設 46.6	保健・医療施設 26.0	公共駐輪場 24.7	保育・児童施設 20.5	公共住宅 /スポーツ施設 13.7
	60 代	高齢者施設 62.8	保健・医療施設 32.6	公共駐輪場/保育・児童施設 16.3		公共住宅 8.1
	70 歳以上	高齢者施設 60.0	保健・医療施設 30.0	公共駐輪場 14.5	保育・児童施設 12.7	集会施設 8.2